

## Ⅱ. 「SIH 道場～アクティブ・ラーニング 入門～」の取組



# 1. 平成 29 年度「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の実施

## 1) SIH 道場の概要

SIH 道場は、徳島大学の 1 年次学生全員が前期に受講する初年次教育科目であり、各学部・学科で設計したアクティブ・ラーニングの手法を導入した授業において、学生は (1) 専門分野の早期体験、(2) ラーニングスキルの習得、(3) 学習の振り返りを行う。教員は本授業の担当を通して、アクティブ・ラーニングの手法を学び、授業実践の省察を行う。平成 29 年度 SIH 道場においては、学部 1 年生 1330 名が受講し、233 名の教員が授業を担当した。

SIH 道場の授業設計は各学部・学科単位で行い、「授業設計コーディネーター」が責任を担う。授業設計コーディネーターは、(1) 専門分野の早期体験、(2) ラーニングスキル（文章力・プレゼンテーション力・協働力）の習得、(3) 学習の振り返りの SIH 道場の三つの必須要素を組み込んだ授業を設計する。

授業の概要

### SIH道場

～アクティブ・ラーニング型初年次科目～

SIH道場とは、**徳島大学の1年次**全員が前期に受講する初年次教育科目で、**①専門分野の早期体験、②ラーニングスキルの習得、③学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につける**ことを主な目的としています。授業内容は、各学部の事情に合わせて授業を設計し、学部教員が授業を担当します。

**キーワード：**専門分野の早期体験、アクティブ・ラーニングスキルの獲得、eポートフォリオによる学習の振り返り

**◆授業の設計手順**

授業は、**各学部・学科の事情に合わせて、個別に設計**を行います。授業設計の責任者は、「授業設計コーディネーター」であり、その選出や当該学部の状況把握等は専門委員会委員が行います。また、授業設計においては、**総合教育センター教育改革推進部門教員とコンテンツ作成ワーキンググループ**のメンバーが、**設計のための支援**を行います。

授業内容は、各学部・学科の専門に即して個別に計画されますが、上記の目的を踏まえること、学生がアクティブ・ラーニング型授業を体験し、自らの学習経験を振り返ることを通じて、学習の計画や実施をしていくための能動的学習の基礎を身につけるような要素を盛り込みます。そのために、**下記の内容を必須項目として実施します。**

- ①**専門分野の早期体験**  
→先端研究、現場体験、臨床体験、先輩からのメッセージ等
- ②**ラーニングスキルの習得（反転授業・グループワーク等の実施）**  
→文章力・プレゼンテーション力・協働力
- ③**学習の振り返り（eポートフォリオによる省察）**  
→学習内容の省察・記録、学生、教員間での共有等

※①～③をそれぞれが関連し、スキルの習得と体験が同じフィールドで習得できるように体系的に組み立てます。

**◆授業のひな形（1つの例）** ※より詳細なひな形は別紙

**(1) 導入：大学での学び・動機づけ**

①先輩の声「テーマ：○○学科における大学での学びと○○技師」（講演or映像）  
→その内容について、レポートとして文章にまとめる。  
グループでコンテンツを作り、プレゼンテーションを行う。  
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

**(2) ラーニングスキル入門：学習を行う上で共通する基本技能の習得**

①文章の書き方  
→反転授業事前学習：レポートの書き方入門  
→対面授業：(1)で作成したレポートについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、フラッシュアップ  
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

②プレゼンテーションの仕方  
→反転授業事前学習：効果的なプレゼンテーションの仕方  
→対面授業：(1)で実施したプレゼンテーションについてについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、フラッシュアップ  
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

③グループワーク（他者との協働）  
→反転授業事前学習：アイデアの発想・収束（KJ法）  
→対面授業：KJ法ワークを実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。  
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

**(3) 早期体験：○○分野の先端研究・現場体験**

①○○現場体験  
→その内容について、レポートとして文章にまとめる。  
グループでコンテンツを作り、プレゼンテーションを行う。  
ルーブリックを用いたピア評価を行う。  
→授業外：学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。

## 2) SIH 道場の各アクターの役割

SIH 道場の実施にあたっては、大学教育再生加速プログラム (AP) 実施専門委員会、各学部・学科の授業設計コーディネーター、各学部・学科の授業担当者、総合教育センター教育改革推進部門、SIH 道場コンテンツ作成ワーキンググループが、授業計画から準備、実施、振り返りまでの過程において、以下のようなそれぞれの役割を果たしている。

平成 29 年度 SIH 道場各アクターの役割

	授業計画 12月～2月	準備 1月～3月	実施 4月～9月	振り返り 10月～11月
大学教育再生 加速プログラム 実施専門委員会	◆AP事業全体像の把握 ◆コーディネーターの選出	◆SIH道場の準備状況の把握	◆SIH道場の実施状況の把握(特に自学部)	◆SIH道場の振り返り(全体運営) ◆シンポジウム開催 ◆報告書の作成
授業設計 コーディネーター	◆SIH道場の授業概要の把握 ◆授業設計(目的・目標・スケジュール・教材・評価等のシラバスの作成) <b>様式①②③提出</b>	◆授業担当者の選出 ◆SIH道場担当者FDに参加 ◆授業準備・スケジュール等の最終確認など、実施するために必要なことすべて	◆授業担当者の支援 ◆授業実施状況の把握 ◆自身の授業を振り返り、eポートフォリオを活用した省察 <b>様式④実施・回収・提出</b>	◆SIH道場の振り返り ◆自己評価シートの作成(自部局) ◆シンポジウムでの報告 <b>様式⑤提出</b>
授業担当者		◆授業準備・スケジュール等の最終確認など、授業を担当するために必要なことすべて ◆SIH道場担当者FDに参加	◆授業の実施 ◆学生のポートフォリオに対するコメント等のフィードバック ◆自身の授業を振り返り、eポートフォリオを活用した省察 <b>様式⑤回答、様式⑦作成</b>	◆SIH道場の振り返り(自クラス) ◆授業設計コーディネーターへの報告
院生 コーディネーター			◆院生コーディネーターの選出 ◆研修 ◆SIH道場に関する業務(20時間程度)	◆SIH道場に関する業務(20時間程度)
総合教育センター 教育改革推進部門	◆授業設計の支援	◆授業設計の支援 ◆FD・説明会の実施	◆随時相談対応	◆SIH道場の振り返り(全体) ◆シンポジウムでの報告 ◆報告書の作成(運営・支援)
コンテンツ作成WG	◆授業設計の支援 ◆反転授業コンテンツ、教材、ワークシート、eポートフォリオ、評価ツール等の作成	◆反転授業コンテンツ、教材、ワークシート、eポートフォリオ、評価ツール等の作成 ◆担当者へ使い方等の説明	◆随時相談対応	◆SIH道場の振り返り(コンテンツ) ◆報告書の作成(コンテンツ)

## 3) 授業設計コーディネーターの役割

各学部・学科の授業設計コーディネーターは、プログラム単位で授業設計を行い、目的・目標の設定、スケジュール、教材、評価方法の設定等を行うという中心的な役割を担う。その際には、「授業設計概要」、「授業設計詳細」をフォーマットに従い作成し提出する。加えて、授業担当者を選出し取りまとめを行いながら、連携して授業運営を行う。授業の実施後には学生アンケートを行い、教育改革推進部門による集計結果等を参考にしながら、「プログラム設計評価シート」のフォーマットに従い、実施したプログラムを振り返り自己評価を行い、課題を明確化し次年度の改善点を具体的に記述する。全プログラムの実施内容やその成果と課題については、SIH 道場の全てのプログラムが終了した 11 月中旬に開催する「SIH 道場振り返りシンポジウム」において共有を行う。



#### 4) 平成 29 年度の SIH 道場プログラム

平成 29 年度の SIH 道場については、①総合科学部（国際教養コース・心身健康コース・公共政策コース・地域創生コースの 4 コース合同）、②医学部医学科、③医学部医科栄養学科、④医学部保健学科看護学専攻、⑤医学部保健学科放射線技術科学専攻、⑥医学部保健学科検査技術科学専攻、⑦歯学部（歯学科・口腔保健学科の 2 学科合同）、⑧薬学部、⑨理工学部社会基盤デザインコース、⑩理工学部機械科学コース、⑪理工学部応用化学システムコース、⑫理工学部電気電子システムコース、⑬理工学部情報光システムコース、⑭理工学部応用理数コース、⑮生物資源産業学部（応用生命コース、食料科学コース、生物生産システムコースの 3 コース合同）の 15 プログラムが展開されると共に、⑯医療教育開発センターによる医・歯・薬学部合同の「チーム医療入門」ワークショップが実施された。このうち、各学部・学科・専攻・コースにおいて実施されたプログラムの SIH 道場必須項目の内容については、表のとおりである。

平成 29 年度 SIH 道場プログラムにおける必須項目一覧表

学部	学科	①体験学習	②ラーニングスキル			③振り返り	
			文章力	プレゼン力	協働力		
総合科学部	国際教養コース 心身健康コース 公共政策コース 地域創生コース	大塚美術館見学	・読書レポートの作成 ・体験学習レポートの作成	課題発見ゼミナールにおいて共同でプレゼン作成・実施		プロダクトへ教員がコメントし、学生が振り返りを行う	
医学部	医学科	・診療現場体験 ・振り返りWS	振り返りWS終了後にレポート作成	振り返りWSでKJ法を用いて班単位でプレゼン・討議		学生が振り返りを行い教員がコメント	
	医科栄養学科	先輩の講演の聴講（「チーム医療入門」）	WS時にKJ法で出した意見をまとめる	作成したプロダクトに基づきプレゼン	班単位でWSを行いプロダクト作成	学生が学んだことを書き、教員がコメント	
	保健学科（看護）	「先輩からのメッセージ」聴講	講義および書かせたもののピア評価	「先輩からのメッセージ」でのプレゼン	仕事に対する将来像についてKJ法ワーク	学生が振り返りを行い教員がコメント	
	保健学科（放射）	先端研究の体験	体験学習のレポート作成	報告会でのプレゼン	短期研究室配属での協働作業	学生が振り返りを行い教員がコメント	
歯学部	保健学科（検査）	「先輩からのメッセージ」聴講	レポートを書かせピア評価	「チーム医療入門」でのプレゼンのピア評価	「チーム医療入門」でのKJ法ワーク	学生が振り返りを行い教員がコメント	
	歯学科 口腔保健学科	・「気づきの体験学習」 ・「相互歯磨き学習」	・「アカデミック・ライティング入門」聴講 ・読書レポート作成	グループでのプレゼン	「新入生研修」でのコンセンサスゲーム、ワールドカフェ	学生が振り返りを行い教員がコメント	
薬学部	薬学共通	先輩の講演（「チーム医療入門」）	・WS時にKJ法で出した意見をまとめる ・最終レポート作成	作成したプロダクトに基づきプレゼン	班単位でWSを行いプロダクト作成	学生が振り返りを行い教員がコメント	
理工学部	社会基盤デザインコース	現場見学	レポートに対するコメントと学生による議論	体験学習に関するプレゼンと質疑応答	ポスター作成	学生が振り返りを行い教員がコメント	
	機械科学コース	「機械科学実験Ⅰ」での技術体験	「集中研修」での書き方指導	「集中研修」で、グループ作業でディベートを準備・実施		学生が振り返りを行い教員がコメント	
	応用化学システムコース	研修旅行	自分が興味のある科学技術について発表要旨を作成・発表				ルーブリックでの自己評価に教員がコメント
	電気電子システムコース	「STEM演習」における電気電子工学の演習	論理的文章の書き方についての講義	STEM演習におけるポスター発表	STEM演習におけるポスター発表		学生が振り返りを行い教員がコメント
	情報光システムコース	研究室見学	論理的文章の書き方についての講義	プレゼンテーションについての講義	専門分野のトピックについてのKJ法		学生が振り返りを行い教員がコメント
生物資源産業学部	応用理数コース	研究室見学	体験学習のレポート作成・ピア評価	報告会におけるプレゼンテーション	報告会にむけての資料作成	学生が振り返りを行い教員がコメント	
	応用生命コース 食料科学コース 生物生産システムコース	学外研修とレポート作成	「体験学習Ⅰ」のレポート作成・ピア評価	「体験学習Ⅱ」でのグループ製作を行い、プレゼン・ピア評価		学生が振り返りを行い教員がコメント	
医療教育開発センター		専門家の講演の聴講とグループワーク	ワークショップについての振り返りレポート	グループでの討議とプレゼンテーション		学生が振り返りを行い教員がコメント	



# 平成 29 年度 SIH 道場プログラム資料

- ◆ SIH 道場 必須項目設計表（概要）
- ◆ SIH 道場 プログラム設計評価シート
- ◆ SIH 道場 授業詳細

## プログラム実施単位

1. 総合科学部
2. 医学部医学科
3. 医学部医科栄養学科
4. 医学部保健学科看護学専攻
5. 医学部保健学科放射線技術科学専攻
6. 医学部保健学科検査技術科学専攻
7. 歯学部
8. 薬学部
9. 理工学部社会基盤デザインコース
10. 理工学部機械科学コース
11. 理工学部応用化学システムコース
12. 理工学部電気電子システムコース
13. 理工学部情報光システムコース
14. 理工学部応用理数コース
15. 生物資源産業学部
16. 医療教育開発センター

# SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

# 総合科学部社会総合科学科

## 1. 総合科学部

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	芸術作品を鑑賞し、事前に学んだデスクリプションという方法により絵画の情報を客観的に記述することができる。	レポートをチェックし、事前学習の指示に従って客観的な記述ができていないかなどについてコメントする。	美術史担当教員による絵画の基本的な見方、デスクリプションなどについての講義を聴講する。	事前学習後、大塚美術館を訪問し、作品が自分で気に入った絵画・作品を選択し、それについてデスクリプションに従ってレポートを作成する。	SIH道場
② 文章力	1. 学術的文章の基本的なルールや方法を説明することができ、2. 読書レポートの作成とそれに対する教員のコメントや評価により、レポート（論理的文章）の書き方に関する自己の現状を認識する。	担当教員は、自分が推薦した本を選んだ学生に読書レポートにコメントする。さらにループブリックに基づいて評価する。	総合科学入門講座にて学術的文章の書き方についての講義を聴講する。	1. 学術的文章の書き方についての講義を行う。2. 学生は推薦図書の中から一冊以上を選んで読み、それを踏まえて「読書レポート」を作成する。3. 提出された「読書レポート」に対して担当教員がコメントとループブリックによる評価を記入して返却する。	SIH道場（読書レポート） 総合科学入門講座
② プレゼンカ	1. プレゼンテーションの基本を踏まえ、自分の考えを伝えることができる。2. 他者による評価を通して、自己の現状を認識する。	教員はコメント等をフィードバックする。	グループワークの内容やルールに関する事前資料の内容を理解する。	担当教員は学生の事前学修の程度を確認し、必要に応じてプレゼンテーションの方法の要点を説明する。学生は一定範囲のテーマについてプレゼンテーションの資料を作成し、実践する。ループブリックを用いて評価する。	SIH道場（学友コミュニケーション） 課題発見ゼミナール（1年後期）
② 協働力	1. 協働力養成の基本的な方法を知る。2. 実践とその評価を通じて、自己の現状を認識する。（上記のプレゼン力養成プログラムをグループでおこなう。すなわち、同一の授業で二つの力を養成する。）	ループブリック評価表に基づいて評価する。	グループワークに用いる手法に関する事前資料の内容を理解する。	1. 学生は、グループ内で相互評価のテーマを選び、共同でプレゼンテーションの資料を作成し、実践する。2. または、個々にそれをおこない、グループ内でループブリックによる相互評価をおこなう。	SIH道場（学友コミュニケーション） 課題発見ゼミナール（1年後期）
③ 学習の振り返り				mahara飛ぶノートの「リフレクションシート」を用いて振り返りレポートを作成する。講義担当教員とコーディネーターはレポートをチェックし、必要に応じて文章表現などについてコメントをフィードバックする。	

# 平成29年度SIH道場 プログラム設計評価シート

総合科学部 社会総合科学科

※ 学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

要素	項目	チェック	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	デスクリアクションのガイダンスや行動指針を事前に、美術館での体験学習の意義等を伝える、また、現地で大学での友人づくりの機会になるようにグループで学習できるような状況を作った。さらに、デスクリアクションの絵画レポートの準備を「飛ぶノート」を利用して、学生へ返還した。	デスクリアクションの解説を担当する教員が出張で不在のため、事前に収録したVTRを用いて事前学習を行った。一部の教員は内容を事前確認していても、事前学習時における質疑応答が十分とは言えなかった。	デスクリアクション退出物のチャットボットの統一を図るため、担当教員が事前学習に参加することや事前内容確認などを推進していく必要がある。また、前後での滞在時間を長く設定しているため、大学の友人づくりの機会と見ると、デスクリアクションについて学生間で意見交換を行うことを検討する必要がある。
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	総合科学入門講座で、合理的な結論を出す技術を身に付けさせる「論理的思考力の養成」を目的として講義と実習練習を行った。eラーニングシステムの活用による改善点が幾つかあり、単位取得した学生の平均点が84点（昨年年度は77点）という非桁外れ高得点となった。読書レポートについては、提出、コメントの受け取り方法について、約80%の学生がMoodleの利用に肯定的だった。	総合科学入門講座で「留学説明の図を今後さらに改善し、短期長期留学へ行く場合の具体的な手続きや窓口、時期を明示する必要がある。また、身体力行の行動に結びつけられるように、「具体的に行うこと」を明確に示す必要がある。また、web上に提出された読書レポートを自動で仕分けして、担当の先生に送付するシステムがないため、手分けに時間を要するため、自動化システムが必要である。	eラーニングシステム使用時に何度かマイナートラブルが発生したため、来年度はトラブルが起きないようにスムーズな運用を行う。また、未利用の機能についても積極的に活用できるように授業を計画したい。留学説明の講義は、短期留学の手続き期間を考慮して、実施したい。さらに、他の教員の講義に参加することで、教員の連携や協力を深めていく。
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意図するものとするために効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	総合科学入門講座で、毎回授業後の課題をeラーニングシステムを利用して提出させた。また、学生へのコメントを閲覧できるようにエディタ機能を利用し、マークシートを利用した小テストを実施した。	総合科学入門講座で、合理的な結論を出す技術を身に付けさせる「論理的思考力の養成」を目的として講義と実習練習を行った。eラーニングシステムの活用による改善点が幾つかあり、単位取得した学生の平均点が84点（昨年年度は77点）という非桁外れ高得点となった。読書レポートについては、提出、コメントの受け取り方法について、約80%の学生がMoodleの利用に肯定的だった。	総合科学入門講座で「留学説明の図を今後さらに改善し、短期長期留学へ行く場合の具体的な手続きや窓口、時期を明示する必要がある。また、身体力行の行動に結びつけられるように、「具体的に行うこと」を明確に示す必要がある。また、web上に提出された読書レポートを自動で仕分けして、担当の先生に送付するシステムがないため、手分けに時間を要するため、自動化システムが必要である。
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	SIH道場の学生交流のプログラムの一つとして「プレゼンテーション」を導入した。	SIH道場の短期間で他のプログラムの関係上、総合科学部ではプレゼンテーションに関する学習の機会が少ない状態にあるため、限られた時間で効果的に学習を進めたい必要がある。	時間的には厳しいが、早期段階における学生のプレゼンテーションに関して、担当教員間で情報共有していくことの検討が望まれる。
	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	H28年度の「課題発見ゼミナール」のクラス分けの反省点を踏まえて、学生の希望重視でクラス分けを行った。	課題発見ゼミナールのクラス分けに受講生数の制約があるため、一部の教員の意向が反映できなかった。また、複数クラスを受講するシステムについて、今後検討する必要がある。	時間的には厳しいが、早期段階における学生のプレゼンテーションに関して、担当教員間で情報共有していくことの検討が望まれる。
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	授業の内容については、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。	授業の内容については、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。	授業の内容については、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。
ラーニングスキル プレゼン力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	SIH道場の短期間で他のプログラムの関係上、総合科学部ではプレゼンテーションに関する学習の機会が少ない状態にあるため、限られた時間で効果的に学習を進めたい必要がある。	課題発見ゼミナールのクラス分けに受講生数の制約があるため、一部の教員の意向が反映できなかった。また、複数クラスを受講するシステムについて、今後検討する必要がある。	時間的には厳しいが、早期段階における学生のプレゼンテーションに関して、担当教員間で情報共有していくことの検討が望まれる。
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	SIH道場の短期間で他のプログラムの関係上、総合科学部ではプレゼンテーションに関する学習の機会が少ない状態にあるため、限られた時間で効果的に学習を進めたい必要がある。	課題発見ゼミナールのクラス分けに受講生数の制約があるため、一部の教員の意向が反映できなかった。また、複数クラスを受講するシステムについて、今後検討する必要がある。	時間的には厳しいが、早期段階における学生のプレゼンテーションに関して、担当教員間で情報共有していくことの検討が望まれる。
	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	授業の内容については、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。	授業の内容については、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。	授業の内容については、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。
ラーニングスキル 協働力	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	授業の内容については、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。	授業の内容については、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。	授業の内容については、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	授業の内容については、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。	授業の内容については、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。	授業の内容については、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	SIH道場の短期間で他のプログラムの関係上、総合科学部ではプレゼンテーションに関する学習の機会が少ない状態にあるため、限られた時間で効果的に学習を進めたい必要がある。	課題発見ゼミナールのクラス分けに受講生数の制約があるため、一部の教員の意向が反映できなかった。また、複数クラスを受講するシステムについて、今後検討する必要がある。	時間的には厳しいが、早期段階における学生のプレゼンテーションに関して、担当教員間で情報共有していくことの検討が望まれる。
振り回り	⑬振りの意図や方法について、学生に説明する、またはチャットの利用などで理解を促した	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	Webを利用して、学生へのコメント等を返却したため、学生はこれまで以上に容易に学習の振り返りや質問が出来るようになった。また、総合科学入門講座では、授業受講生全員がすべてのコメントを閲覧できるようにしたため、振り返りの動機付け向上につながったと思われる。	早期に、飛ぶノート、Moodle、eラーニングシステムなどを活用して、その利便性を学生に実感してもらう一方で、その他の授業でのこれらのシステムの利用が不十分なため、運動性につける。	飛ぶノート、Moodle、eラーニングシステムなどの利便性を教員間で共有し、SIH道場関連以外の授業でも活用する必要がある。
	⑭各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	振り返りについては、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。	振り返りについては、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。	振り返りについては、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。
	⑮学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	振り返りについては、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。	振り返りについては、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。	振り返りについては、学生の授業評価アンケートの結果を基に大きな改善をしていない。
総合	⑯実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成29年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、{5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ぶつ、2.やや不十分であった、1.不十分であった}。	5 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1	現在のSIH道場期間で全ての項目に関連する有効なプログラム案を総合教育センター等から提示していただきたい。 また、本授業へのTAなどの予算配分についても検討する必要がある。	現在のSIH道場期間で全ての項目に関連する有効なプログラム案を総合教育センター等から提示していただきたい。 また、本授業へのTAなどの予算配分についても検討する必要がある。	

## 平成 29 年度 SIH 道場 総合科学部 授業詳細

## SIH 道場 (体験学習)

## 目的

西洋絵画の見方についての講義を聴いた上で大塚国際美術館を訪問し、事前に学んだ「デスクリプション」の方法によりひとつの作品を文章により記述する。この美術館は西洋の名画の模写を多数展示しているが、精確な写真撮影をもとに制作した実物大の陶板が使用され、また、作品を含む教会堂などの内部空間が再現されているのが特徴である。学生は、この美術館で数多くの作品を鑑賞することで、美的感性を触発されるだけでなく、専門家による事前指導を通じて、芸術とその背景をなす歴史、文学、宗教などの文化的諸要素との総合的関連性を知るきっかけを得る。また、デスクリプションの方法は主観的解釈あるいは予備知識を排し客観的態度で対象に向かい、視覚的イメージを文章化することを目指すものであり、学生は客観的な観察と正確な記述という汎用技能を学ぶことになる。

## 到達目標

芸術作品を鑑賞し、事前に学んだデスクリプションという方法により絵画の情報を客観的に記述することができる。

## 授業内容

- ・「SIH 道場 4-1」西洋絵画の見方についての講義 (担当：田中佳)  
絵画の鑑賞と理解のひとつの方法として、絵についての文章による客観的記述 (デスクリプション) の仕方を紹介し、資料、記入用紙を配布する。
- ・「SIH 道場 4-2」大塚国際美術館見学  
大塚国際美術館を訪れ、絵画を鑑賞し、文章による記述を行い、その後、作成した文章を提出する。

## 成績評価

レポートをチェックし、事前学習の指示に従って客観的な記述ができているかなどについてコメントし、フィードバックする。

## SIH 道場 (文章力)

## 目的

レポートの書き方、メディア・リテラシーに関する内容を「SIH 道場」および「総合科学入門講座」を通じて、授業内容のレポート、読書レポートなどの課題を課し、担当教員によるコメント、ルーブリックによる評価を行う。なお、目的は以下の4点である。

- (1) 学生の読書離れが指摘されるなか、本を手にしたリ図書館を利用したりするきっかけを与える。
- (2) 大学で必要とされるレポート、論理的な文章の書き方について概略を理解させる。
- (3) レポート課題に取り組むことで、学生に自己の能力や課題を認識させる。
- (4) 学生のレポートを添削指導する教員が、今後継続的におこなうべきアカデミック・ライティングの指導の参考にする。

## 1. 総合科学部

### 到達目標

1. 学術的文章の基本的なルールや方法を説明することができる。
2. 読書レポートの作成とそれに対する教員のコメントや評価により、レポート（論理的文章）の書き方に関する自己の現状を認識する。

### 授業内容

- ・「SIH 道場 3-1」読書レポートについての講義 (担当：矢部)

読書レポート企画の概要を説明し、推薦図書リスト、ループリックなどを学生に提供する。その後、学生は推薦図書の中から一冊を選択し、みずからテーマを決めて「読書レポート」をワードファイル (A4 で 2,3 枚) で作成し、学内システムの Moodle にて提出する。提出されたレポートは、原則として推薦図書を選んだ教員がコメントとループリックによる評価し、Moodle を通して学生に送付する。

- ・「SIH 道場 8」, 「総合科学入門講座」学術的発想と書き方についての講義 (担当：山口裕之)

SIH 道場では、レポートの書き方とメディア・リテラシーに関して講義し、それ以降は総合科学入門講座にて継続的に関連講義、他の教員によるレポート課題の出題と提出されたレポートを評価する。

### 成績評価

担当教員は、自分が推薦した本を選んだ学生の読書レポートにコメントする。さらにループリックに基づいて評価する。

## SIH 道場 (学友コミュニケーション)・課題発見ゼミナール (プレゼンテーション力・協働力)

### 目的

学友コミュニケーション (SIH 道場) においては、まず自己のプレゼンテーション力や協働力に関してアセスメントを行うことを目的とする。このアセスメント結果に基づき、個人のテーマや目標を明確にした上で「課題発見ゼミナール」に臨ませる。「課題発見ゼミナール」では、主にプレゼンテーション力と協働力の養成に関して、以下の到達目標をめざす。なお、この授業は必修であり、学生が各クラスのシラバスを読んだ上で出す希望調査にもとづいて所属クラスが決定される。各クラスの扱うテーマや具体的な内容は、担当教員の裁量により設計されるため、文章力養成、体験学習なども取り入れる場合がある。

### 授業内容

SIH 道場では、主にプレゼンテーション力や協働力のアセスメントに主眼をおき、グループとしての意思決定を行うワーク (コンセンサス・ゲーム) を実施する。自己の考えを表明したり、相手の意見を十分に聴くなどの行動に対して相互に評価を行うとともに、他者からのフィードバックに基づき、各人が自己のアセスメントを実施する。

課題発見ゼミナールでは、プレゼンテーション力と協働力の養成に主眼をおき、すべてのクラスで、少なくとも授業の一部は以下のような要素を含むこととする。学生は、授業の前に反転授業のためのビデオ、または担当教員が作成あるいは採用した教材などを用いて先行的自習をおこなう。また、それぞれのクラスのテーマ・課題の範囲内でグループ・ワーク (ディスカッション・調査・発表内容の作成など) をおこない、その結果を発表する。グループ・ワークとプレゼンテーションを別々の課題設定でおこな

## 1. 総合科学部

うこともできる。以上のプロセスの中で、ルーブリック表を用いて学生が相互評価をおこない、担当教員は全体的なチェックをおこなう。

### 到達目標

- 1) プレゼンテーション力・協働力における自己の現状を把握する。
- 2) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を身に付けることができる。
- 3) 他者と協同して課題に取り組むことができる。
- 4) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

### 成績評価

ルーブリック評価表等を用いる。





# 平成29年度 SIH道場必須項目設計表(概要のみ)

## 医学部医学科

## 2. 医学科

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠	
			事前学習	授業		
① 体験学習	医師の役割・業務内容や必要とされる能力を理解し、それらと関連づけて大学における学習について説明することができる。	病院ルールについて試験を行う。 リフレクシオンシートと振り返りレポートで評価する。	身だしなみ、診療現場でのルール、個人情報保護、感染制御等に関する資料を予習する。	1) カリキュラム、キャリア形成、診療現場でのルール、プロフェッションナリズム等に関する授業 2) 診療現場体験 3) 振り返りワークシヨップ	<b>③学習の振り返り</b> ・ワークシヨップ形式で全体振り返りを行う。 ・リフレクシオンシートと振り返りレポートに学んだことを記入し、それに対する教員コメントおよび評価をeポートフォリオでおよび評価をeポートフォリオで確認する。 ・教員はコメントをフィードバックする。	準備学習：4月4日 8:40-10:00、4月5日 13:00-16:30、4月8日 8:30-11:00 5月2日13:00-16:00。診療現場体験：4月12,19日 13:00-17:00 (9月は計画中)。振り返りWS：5月26日 13:00-16:00
文章力	自らの経験をもとにこれからの大学での学習について自分自身が考えたことを論理的文章で表現することができる。	振り返りレポートをルーブリック評価表で評価する	文章力のビデオ教材(4つの観点)「主張の根拠付け」、「構成の明快さ」、「文章表現の適切さ」、「出典表示など」の視聴	1) ライティングの授業 2) 振り返りワークシヨップとチーム医療入門ワークシヨップ終了後に自分の意見をレポートとしてまとめ、提出する。	・教員はコメントをフィードバックする。 ・レポートの評価結果と教員コメントをeポートフォリオで確認する。	準備学習：4月5日 13:00-16:30 振り返りWS:5月26日 13:00-16:00 チーム医療入門:9月29日13:00-17:00
② プレゼン力	自分自身の考えを他者が理解できるように効果的にプレゼンテーションすることができる。	ルーブリック評価表を用いて評価する(教員による班全体の評価と学生相互評価)。	プレゼンテーション力のビデオ教材(3つの観点)「内容の構成」、「姿勢」、「視覚資料」の視聴	1) プレゼンテーションの授業 2) 振り返りワークシヨップとチーム医療入門ワークシヨップで、各テーマについてKJ法で作成したプロダクトを各班が発表し討議を行う。	・リフレクシオンシートや振り返りレポートに学んだことを記載する。 ・eポートフォリオで教員と学生相互による評価を確認する。 ・教員はワードシヨップの中でフィードバックする。	振り返りWS:5月26日 13:00-16:00 チーム医療入門:9月29日13:00-17:00
協働力	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。	ルーブリック評価表を用いて評価する(教員による班全体の評価と学生相互評価)。	協働力のビデオ教材(3つの観点)「協働のためのルール」、「話し手と聞き手のスキル」、「アイディアの発想と収束」の視聴	振り返りワークシヨップとチーム医療入門ワークシヨップで、各テーマについてKJ法により班単位でプロダクトを作成する。各班の発表と討議の際には追加発現等により発表者をサポートする。	・リフレクシオンシートや振り返りレポートに学んだことを記載する。 ・eポートフォリオで教員による評価を確認する。 ・教員はワードシヨップの中でフィードバックする。	振り返りWS:5月26日 13:00-16:00 チーム医療入門:9月29日13:00-17:00

# 平成29年度SIH道場 プログラム設計評価シート

医学部 医学科 専攻: コーヌ

※学生のポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

要素	項目	チェック	平成28年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ	診療現場体験を1回から2回に増やし、学生が内科系と外科系の両方を体験できるようにした。	実施後アンケートでは学生の満足度は非常に高かった。	・希望する診療科を体験したいという学生の要望には対応できていない。 ・診療現場指導教員の負担感が強い(特にMaharaの入力が複雑と言っていることが多い)。 ・アウトカム評価ができていない。	・事前に学生の見学先希望を調査し、2回のうち1回についてはその希望に対応する。 ・Mahara入力マニュアルを改良する。 ・アウトカムについての達成度評価表を作成し、学生による自己評価を行う。
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ				
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ				
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ	科学的文章作成についての授業を実施した。	経験を振り返ることを目的とした文章の作成を行うことができた。ただ大きいという問題点が残っている。	・文章力の修得について系統的かつ具体的な教育が必要である。 ・文章力についての自己評価も必要である。	・科学的文章作成についての授業では、具体的な事例を示し、演習を行う等、双方向性の手法を取り入れる。 ・学生による自己評価を取り入れる。
	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ				
	⑥学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ				
ラーニングスキル プレゼン力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ				
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ	グループワーク作成とプレゼンテーションの各グループのメンバー構成をシミュレーションし、プロダクトを巡りながらプレゼンテーションしていくことで、全員が自分のグループが作成したプロダクトのプレゼンテーションを行うようにした。	グループワークで作成したプロダクトをもとに発表する手法を学生全員が体験できた。	担当教員が少ないため、学生個人のプレゼンテーション力を教員が評価することが困難である。	学生による自己評価と学生同士のピア評価を取り入れる。
	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ				
ラーニングスキル 協働能力	⑩学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ				
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ				
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ	グループワークの進め方についての授業を行った。	KI法を活用したグループワークの手法を学ぶことができた。	・自分たちが行ったグループワークそのものを振り返ることが必要である。 ・担当教員が少ないため、学生個人の協働力を教員が評価することが困難である。	・プレゼンテーション終了後にもう一度、プロダクト作成グループに戻り自分たちが行ったグループワークそのものを振り返り機会を設ける。 ・学生による自己評価と学生同士のピア評価を取り入れる。
振り返り	⑬振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ	振り返りの重要性・意義を含めて経験学習についての授業を行った。	振り返りワークショップおよび振り返りレポートの作成により、経験を振り返って一般化・概念化し、次の活動に活かしていくサイクルを学ぶことができた。		グループワークの手法を取り入れることにより、経験の振り返りの具体的方法を実際に体験できる授業を行う。
	⑭各授業(体験を含む)の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ				
	⑮学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ				
総合	⑯実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成29年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、{5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ぶつ、2.やや不十分であった、1.不十分であった}。 ※その他、他の授業との接続・所属内・授業運営等の課題がありましたら書きください。	5 (4) 3 2 1	文章力作成、グループワーク、経験学習(振り返り)に関する内容を準備学習に組み込み、そこで学んだ知識を実践で使うことで学びを深め、経験した。プレゼンテーションについては学生全員が経験する機会を設けた。	早期臨床体験実習とアクティビティ・ラーニングを有機的に組み合わせたプログラムをさらに充実させ、経験から学ぶ力を修得する第一歩となった。	文章力、協働能力、プレゼンテーション力の達成度評価が必要である。	文章力、協働能力、プレゼンテーション力の達成度評価については、学生の自己評価や学生相互のピア評価を行うことで、間接的に評価することを試みる。

## 2. 医学科

## 平成 29 年度 医学部医学科 SIH 道場 &lt;授業詳細&gt;

(教員版実施要項)

作成：医学部教育支援センター

## 1. 概要

オリエンテーションと連携した準備学習、診療現場体験、振り返りワークショップの3つで構成される早期臨床体験実習、ならびに蔵本地区1年次合同チーム医療入門ワークショップを行うことによって、学修の動機付けをはかりながら、医療チームの一員としての医師の役割・業務内容、必要とされる能力、およびそれらと関連づけた大学における学修の方法について学生が理解し、今後の学修に活かしていくことを目指す。ワークショップでは協働力およびプレゼンテーション力の向上、振り返りレポート作成では文章力の向上をはかり、これら一連の学習によって学修振り返りの方法を学ぶ。本科目は大学教育再生加速プログラムとして実施する。

## 2. 到達目標（アウトカム）

- 1) 医師の役割・業務内容、必要とされる能力について説明することができる。
- 2) 医学科における学修目標について説明することができる。
- 3) 大学での学修および生活におけるルールを理解し、それを遵守することができる。
- 4) グループで協働して意見をまとめ、それをプレゼンテーションすることができる。
- 5) 自らの学修経験に基づいて、自分の考えを文章にまとめることができる。
- 6) 学修経験に基づいて振り返りを行い、今後の学修計画を立てることができる。

## 3. 対象者 医学部医学科1年次 114名

## 4. 授業担当

- 1) 早期臨床体験実習準備学習のうち、4月4日、5日、8日の内容は、新入生オリエンテーションや医学部合同新入生研修と連携しながら、医学部教育支援センター教員および医学科教務委員が主に担当する。4月28日は医療教育学分野および医学部教育支援センター教員が実施する。
- 2) 5月に実施する早期臨床体験実習の診療現場体験（学内）は、臨床実習担当分野と卒後臨床研修センターが分担して担当する。実施にあたっては、各担当分野において実務担当者、診療現場体験担当者、振り返りレポート評価担当者を決め、実務担当者が第一教務係、医学部教育支援センターと相談しながら、企画・実施をコーディネートする。

**\* 下記「7. 早期臨床体験実習実施にあたり各分野の担当教員が行うこと」を参照**

- 3) 5月に実施する早期臨床体験実習振り返りワークショップは医学部教育支援センターが企画し、そのチューターは主に医学部教育支援センター、医療教育学分野、医療教育開発センター、教養教育院医療基盤教育分野の教員が担当する。
- 4) 9月末に実施予定の学外での診療現場体験は医学部教育支援センターが総合診療医学分野と相談しながら企画・実施する。

## 2. 医学科

5) 9月末に実施するチーム医療入門ワークショップ（蔵本地区1年次合同）は医療教育開発センターが企画し、そのチューターは、あらかじめ医学部教務委員会・教授会議で決定している担当順番に従って各分野から担当者を出す（第一教務係より各分野の教授・教育主任に別途依頼あり）。チーム医療入門振り返りレポートの評価は、教務委員が分担して実施する。チューターへの説明は医療教育開発センターが実施する。

### 5. 授業実施予定

日時	内容	担当
4月4日(火) 8:40~10:00	【早期臨床体験実習】準備学習 (新入生オリエンテーションと合同実施) 医学科教育課程(6年間)の概略、教養教育と専門教育との関わり、単位認定、担任制、アンケートの意義、不法行為・不正行為とは	医学部教務委員長
4月5日(木) 13:00~16:30	【早期臨床体験実習】準備学習 (新入生オリエンテーションと合同実施) 医師としてのキャリア形成、研究倫理 海外留学プログラム、Doctor plus one 学生証、出席管理システム、学内LAN ライティング&プレゼンテーション	勢井宏義教授、赤池雅史教授 三笠洋明准教授
4月8日(土) 8:30~11:00	【早期臨床体験実習】準備学習 (医学部合同新入生研修の一部として実施) 学生相談室と学生生活 違法薬物 アルコール、感染対策・病院での行動規範 禁煙	【検討中】 保健管理センター 西村明儒教授 赤池医療教育開発センター長 保健学科教員
5月2日(火) 13:00~16:00 (5月5日代替)	【早期臨床体験実習】準備学習 授業「医療プロフェSSIONナリズム」 試験&診療現場体験オリエンテーション	医療教育学分野 医学部教育支援センター
5月12日(金) 13:00~17:00	【早期臨床体験実習】診療現場体験(学内) (各班5~6名に分かれて実施)	臨床実習担当分野、卒後臨床研修センター
5月19日(金) 13:00~17:00	【早期臨床体験実習】診療現場体験(学内) (各班5~6名に分かれて実施)	臨床実習担当分野、卒後臨床研修センター
5月26日(金) 13:00~16:00	【早期臨床体験実習】振り返りワークショップ	医学部教育支援センター、医療教育開発センター、教養教育院 医療基盤教育分野
9月25~28日頃の予定	【早期臨床体験実習】診療現場体験(学外) (各班5~6名に分かれて実施)	医学部教育支援センター 総合診療医学分野
9月29日(金) 13:00~17:00	チーム医療入門ワークショップ (蔵本地区1年次合同)	医療教育開発センター(各分野教員がチューター担当)

### 6. 評価・フィードバック方法：下記6つすべて合格することを必要とする。

- 1) 診療現場体験における基本的ルールについてマークシート方式の試験を実施する。  
合格基準：正答率 80%以上
- 2) 診療現場体験すべてに出席し、診療現場において適切な態度・行動をとる。
- 3) 診療現場体験（学内）の終了後に学生が「リフレクションシート」を提出し、各分野の診療現場体験担当教員がそれにフィードバックコメントを記載して学生に返却する。  
合格基準：フィードバックコメントで合格と判定（修正再提出を指示されていない）。
- 4) 早期臨床体験実習振り返りワークショップでは、ワークショップ担当教員が、協働力、プレゼンテーションについて、所定のルーブリック評価表によりグループ単位で評価する。  
合格基準：ルーブリック評価尺度すべてが (A) あるいは (B) であること。
- 5) 早期臨床体験実習振り返りワークショップ終了後に、学生が「早期臨床体験実習振り返りレポート」を提出し、それに対して診療現場体験担当分野の振り返りレポート評価担当者が、所定のルーブリック評価表により文章力の評価を行い、フィードバックコメントを記載して学生に返却する。  
合格基準：ルーブリック評価尺度すべてが (A) あるいは (B) である。
- 6) チーム医療入門ワークショップに参加し、アンケートおよびチーム医療入門振り返りレポートを提出する。振り返りレポートについては、医学科教務委員が分担して、所定のルーブリック評価表により文章力の評価を行い、フィードバックコメントを記載して学生に返却する。  
合格基準：チーム医療入門ワークショップに参加し、アンケートに回答している。  
振り返りレポートのルーブリック評価尺度すべてが (A) あるいは (B) である。

### 7. 早期臨床体験実習（学内）実施にあたり各分野の担当教員が行うこと

早期臨床体験実習（学内）では、担当する各分野・卒後臨床研修センターにおいて、実務担当者、診療現場体験（学内）担当者、振り返りレポート評価担当者を決める。これらの担当は複数で分担、一人ですべて担当いずれも可とする。診療現場体験担当者は、大学教育再生加速プログラム「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の実践型FDへの参加実績として登録するため、前年度までに担当していない教員が含まれていることが望ましい。

#### 1) 実務担当者が行うこと

- (1) 診療現場体験（学内）担当者氏名・連絡先、振り返りレポート評価担当者氏名・連絡先、診療現場体験の内容（中央診療部門の見学が集中することを避けるため他分野との調整が必要であり、その場所・時間を必ず明記）、学生への連絡事項について、「早期臨床体験実習分野担当者・連絡事項記入ファイル（〇〇分野）」に記入し、学務課第一教務係（[isygakumulk@tokushima-u.ac.jp](mailto:isygakumulk@tokushima-u.ac.jp)）へ、電子メールで提出する（締切：4月13日）。  
\*入力用ファイルは電子メール添付で実務担当者へ送信します。
- (2) 診療現場体験担当者、振り返りレポート評価担当者に早期臨床体験実習を含めた SIH 道場の概要・実施方法を説明する。その実施報告を「SIH 道場 FD・説明会に参加できない教員の対応報告書（〇〇分野）」に記入し、学務課第一教務係（[isygakumulk@tokushima-u.ac.jp](mailto:isygakumulk@tokushima-u.ac.jp)）へ電子メールで提出する（締切：5月11日）。  
\*説明用資料、対応報告書は電子メール添付で実務担当者へ送信します。

### 2) 診療現場体験 (学内) 担当者が行うこと

- (1) 診療現場体験当日の学生指導 (当日の身だしなみや健康状態のチェックを含む)
  - \*原則として見学型実習スタイルとする。一方的なレクチャースタイルのみとしない。
  - \*学生への事前説明の内容は「病院ルール (ハンドアウト)」参照。
  - \*身だしなみをチェックし不適切な場合は実習参加不可とする。
  - \*37.5 度以上の発熱等、感染症症状がある場合は実習参加不可とする。
- (2) 学生が提出する「**診療現場体験リフレクションシート**」(紙媒体)へフィードバックコメントを記載し、学務課第一教務係に提出 (締切: 6月6日)。
  - \*学生とのシートのやり取りは学務課第一教務係が担当。
  - \*担当教員にはリフレクションシートが5月29日頃に届く予定。
- (3) eポートフォリオ (Mahara システム) に授業実践の振り返りを入力する (締切: 6月6日)。
  - \*この入力ティーチング・ポートフォリオの作成に該当し、この作成をもって大学教育再生加速プログラム「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の実践型FDへの参加・受講完了となります。
  - \*「SIH 道場担当教員用 Mahara マニュアル」、「Mahara 操作マニュアル補足資料」を参照
- (4) 早期臨床体験実習診療現場担当者対象アンケートに回答し、第一教務係へ提出する (締切: 6月6日)。
  - \*担当教員にはリフレクションシートと一緒にアンケート用紙が5月29日頃に届く予定。
- (5) SIH 道場についての教員対象アンケート (web) に回答する (総合教育センターから電子メールで依頼があります)。

### 3) 振り返りレポート評価担当者が行うこと

- (1) 学生が提出する「**診療現場体験 (学内) 振り返りレポート**」(紙媒体)に対して、「**ループブリック評価シート (文章力)**」(紙媒体)にフィードバックコメントと評価を記載し、学務課第一教務係に提出 (締切: 6月16日)。
  - \*学生とのレポートおよび評価表のやり取りは学務課第一教務係が担当。
  - \*担当教員にはレポートが6月6日頃に届く予定。

### 4) 診療現場体験 (学外) 担当者が行うこと。

詳細が決まり次第、別途連絡予定。

参考: 添付資料:

- ・早期臨床体験実習分野担当者・連絡事項記入ファイル (〇〇分野)
- ・SIH 道場FD・説明会に参加できない教員の対応報告書 (〇〇分野)
- ・病院ルール (ハンドアウト)
- ・診療現場体験リフレクションシート
- ・診療現場体験 (学内) 振り返りレポート
- ・ループブリック評価シート (文章力、プレゼンテーション力、協働力)
- ・SIH 道場担当教員用 Mahara マニュアル
- ・Mahara 操作マニュアル補足資料

平成29年度 SIH道場必須項目設計表(概要のみ)

医学部医科栄養学科

3. 医科栄養学科

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	<p>早期体験学習として医科栄養学科の8研究室のいずれかを訪問し、研究室の見学や先生・先輩の話聞く。</p> <p>SIH道場(チーム医療入門WS)における講演を聴講し、ワークショップに参加する。以上を通じて、医科栄養学科における各自の学習目標を考えることができるようになる。</p>	<p>リフレクシヨニシヨニトと振り返りレポートで評価する。</p>	<p>研究室の訪問、先生や先輩の話聞く。チーム医療入門WSの講演の聴講ならびにWSに参加する。</p>	<p>③学習の振り返り</p> <p>eポートフォリオに学んだことを記入する。教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>SIH道場「チーム医療入門WS」平成29年9月29日13:00-14:20</p>
文章力	<p>プロダクトの作成において、他の班員と協力して作成する。KJ法で出た意見をまとめて論理的に因果関係を説明することができる。</p>	<p>レポートおよびeポートフォリオ(振り返りレポート)で評価する。</p>	<p>文章力のビデオ教材(4つの観点)「主張の根拠付け」・「構成の明快さ」・「文章表現の適切さ」・「出典表示など」の視聴。</p>	<p>・WS終了後に今回のテーマについて自分の意見をレポートとしてまとめ、eポートフォリオに登録する。</p>	<p>SIH道場「チーム医療入門WS」平成29年9月29日14:30-17:00</p>
② プレゼン力	<p>効果的なプロダクトのプレゼンテーションを行うために、ツールを用いて説明することができる。また、他の班のプレゼンテーションを聞いて討議に参加することができる。</p> <p>WSを能動的に進めることができる。WSに積極的に参加できる。また、他学部・学科の学生とコミュニケーションを取ることができ、また協力してプロダクトを作成することができる。</p>	<p>グループリリック評価表を用いる(班全体の評価とする)。</p>	<p>プレゼンテーション力のビデオ教材(3つの観点)「内容の構成」・「姿勢」・「視覚資料」の視聴。</p>	<p>eポートフォリオに学んだことを記入する。教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>SIH道場「チーム医療入門WS」平成29年9月29日14:30-17:01</p>
協働力	<p>WSを能動的に進めることができる。WSに積極的に参加できる。また、他学部・学科の学生とコミュニケーションを取ることができ、また協力してプロダクトを作成することができる。</p>	<p>グループリリック評価表を用いる(班全体の評価とする)。</p>	<p>講演内容を参考にしてWSのテーマについて班単位でWSを行い、プロダクトを作成する。</p>	<p>eポートフォリオに学んだことを記入する。教員はコメントをフィードバックする。</p>	<p>SIH道場「チーム医療入門WS」平成29年9月29日14:30-17:02</p>



# 平成29年度SIH道場プログラム設計評価シート

医学部 医科栄養学科 専攻・コメ学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

要素	項目	チェック	平成28年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応	
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい ( ) どちらともいえない ( ) 設計していない ( )	実施日の前日にもじむから集合時間のアナウンスをしてもらおう。	SIH道場の「体験学習」は専門科目の学習において役立っていると感じた者の割合は、「どこからか」といえるは「はまる」が49%、「どこからか」といえないは「はまる」が42%であり、合計91%と早期体験学習が効果的であった。	特になし。	早期体験で協力するのみの教員は、授業担当者として登録しない。	
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい ( ) どちらともいえない ( ) 設計していない ( )					
	③学生に課した事前学習を、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい ( ) どちらともいえない ( ) 設計していない ( )					
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい ( ) どちらともいえない ( ) 設計していない ( )	SIH道場による学修の仕組みについての学生への説明を、事前に行う。	レポート等の学術文章を書く際に必要な準備や基本的なルールを理解した割合は、「どこでも当てはまる」および「どちらからか」といえるは「はまる」者の割合は78%、SIH道場で学修した「レポートの書き方」は役に立っていると回答した割合は、「どこでも当てはまる」および「どちらからか」といえるは「はまる」合わせて78%であり、学習効果があったと考えられる。	特になし。	特になし。	
	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい ( ) どちらともいえない ( ) 設計していない ( )					
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい ( ) どちらともいえない ( ) 設計していない ( )					
ラーニングスキル プレゼン力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい ( ) どちらともいえない ( ) 設計していない ( )					
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい ( ) どちらともいえない ( ) 設計していない ( )	特になし。	プレゼンテーションを効果的に行うために必要な準備・姿勢・資料を理解した割合は、「どこでも当てはまる」および「どちらからか」といえるは「はまる」者の割合は82%、SIH道場で学修した「プレゼンテーション」は役に立っていると回答した割合は、「どこでも当てはまる」および「どちらからか」といえるは「はまる」合わせて78%であり、学習効果があったと考えられる。	特になし。	特になし。	
	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい ( ) どちらともいえない ( ) 設計していない ( )					
ラーニングスキル 協働能力	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい ( ) どちらともいえない ( ) 設計していない ( )					
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい ( ) どちらともいえない ( ) 設計していない ( )					
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい ( ) どちらともいえない ( ) 設計していない ( )	特になし。	1つの課題に対して、他者と協力し取り組む際の留意点を理解した者の割合は、「どこでも当てはまる」、「どこからか」といえるは「はまる」を合わせて96%であり、また、SIH道場で学修した「他者との協働」は役に立っているととの間に、「どこでも当てはまる」、「どこからか」といえるは「はまる」を合わせて96%であり、学習効果があったと考えられる。	特になし。	特になし。	
振り返り	⑬振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい ( ) どちらともいえない ( ) 設計していない ( )	特になし。	日ごろから授業で学修したことについて振り返りを行っている者は、「どこでも当てはまる」および「どちらからか」といえるは「はまる」を合わせて63%であった。	特になし。	特になし。	
	⑭各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい ( ) どちらともいえない ( ) 設計していない ( )					
	⑮学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい ( ) どちらともいえない ( ) 設計していない ( )					
総合	⑯実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成29年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、{5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ふつ、2.やや不十分であった、1.不十分であった}。 ※その他、他の授業との接続・発展内容・授業運営等の課題があり見られたら書き添ってください。	5 (4) 3 2 1	学生に対する説明が不十分な点があったので、改善する。	SIH道場の満足度は、「どこでも当てはまる」と「どこからか」といえるは「はまる」を併せると91%、その後役に立っていると回答するものが合わせて89%であった。	特になし。	医科栄養学科では教授全員を授業担当者として登録したが、すべての者が印刷説明会に参加することは時間的に不可能だと思う。来年からは、担当者を1名にして、早期体験学習等の細かな点を分析してもらおう予定にした方が現実的。	

## 3. 医科栄養学科

## 平成 29 年度 医学部医科栄養学科 SIH 道場 授業詳細

- 目的：1) 医療現場で働く各専門職種を目指す学生同士の相互理解を深めることで、将来、共に円滑なチーム医療推進に必要な基盤を形成するための動機付けとする。
- 2) 医療人を目指す学生として準備すべき課題、今後の学生生活で学ぶべき課題、修得すべき課題を、他学部・他学科の学生と共に考え、お互いから学ぶことで、医療人としてのプロフェッショナルリズムの醸成を図る。

■到達目標：

- ①チーム医療の基盤を形成することができる。
- ②研究室体験やチーム医療入門ワークショップを通じて、大学における各自の学習課題を発見する。
- ③ノンテクニカルスキル（コミュニケーション力）を育成することができる。
- ④プロダクトの作成を通じて、協働力を養う。KJ法を用いて意見をまとめ、論理的に因果関係を説明することができる。
- ④効果的なプロダクトのプレゼンテーションを行うために、ツールを用いて説明することができる。  
また、他の班のプレゼンテーションを聞いて討議に参加することができる。
- ⑤ワークショップに積極的に参加し、他学部・他学科学生とコミュニケーションを取りながら、能動的に参加し、協力してプロダクトを作成することができる。
- ⑥研究室体験やチーム医療入門ワークショップで得た体験や気づきを振り返り、「SIH道場振り返りレポート」としてeポートフォリオシステムへ入力することができる。
- ⑦自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。
- ⑧将来の進路やビジョンについて考えることができる。

- 成績評価：「SIH道場最終レポート」を以下の合格基準をもとに評価する。

【SIH道場最終レポートの内容】

以下の1)～4)を含む「SIH道場最終レポート」を作成すること。

以下の1)～4)を含むこと。レポートは手書きでも構わないが、電子媒体での作成・提出を推奨する。

- 1) 研究室体験やチーム医療入門ワークショップを通じて学んだことと、大学における今後の各自の学習課題についてレポートを作成する。(文章力・早期体験の目標に対応)
  - ・体験学習で学びたいと考えていたこと(事前)、実際に学んだこと(事後)、今後の目標(大学での各自の学習課題)の3点についてA4判1枚程度のレポートを作成する。
  - ・ルーブリックの「文章力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- 2) チーム医療入門ワークショップにおけるプロダクトの作成(協働力の目標に対応)
  - ・ルーブリックの「協働力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- 3) チーム医療入門ワークショップにおける学習成果発表(プレゼン力の目標に対応)
  - ・ルーブリックの「プレゼン力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

【SIH道場レポートの合格基準】

### 3. 医科栄養学科

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・ 大学入門講座、研究室体験、チーム医療入門ワークショップの全てに出席すること。(必須)
- ・ 体験学習で学びたいと考えていたこと(事前)、実際に学んだこと(事後)、今後の目標(大学での各自の学習課題)の3点が記載されていること。(必須)
- ・ eポートフォリオにワークショップにおける学習の成果としてのプロダクトの写真が提出されていること(必須)
- ・ 「自己評価」と「チームメンバーからの評価(平均点)」が記入された「協働力」、「プレゼン力」、「文章力」のルーブリックが添付されていること。(必須)
- ・ 上記ルーブリックの「協働力」「プレゼン力」「文章力」それぞれの総合点が60以上であること。(必須)
- ・ その他、レポートに必要なだと思う内容(任意)

#### ■ 授業内容

##### (1) SIH 道場 (新入生オリエンテーション)

###### ① 学科別オリエンテーション・SIH 道場

平成29年4月4日(火) 8時30分～12時

(目的) 大学における学習・生活について学ぶ

(概要)

- ・ 学科長挨拶
- ・ 教務委員挨拶
- ・ 医科栄養学科教員挨拶
- ・ 教養教育科目の履修について
- ・ 学生生活に関する諸注意

###### ② 医学部合同オリエンテーション

平成29年4月6日(木) 13時30分～16時

(目的・概要) 大学における学習・生活について学ぶ

###### ③ 学科別オリエンテーション

平成29年4月5日(水) 13時～15時30分

(目的・概要) 大学における単位履修登録について

###### ④ 医学科・医科栄養学科合同オリエンテーション

平成29年4月7日(金) 8時45分～12時

(目的) 大学における情報・研究倫理に関する基本ルールを学ぶ

(概要)

- ・ 8時45分～9時15分 情報セキュリティについて
- ・ 9時15分～9時45分 Student Lab について
- ・ 10時～11時 動物実験講習会
- ・ 11時～12時 遺伝子操作講習会

### 3. 医科栄養学科

#### ⑤医学部合同新入生研修（SIH 道場）

平成29年4月8日（土）8時30分～13時

（目的・概要）大学生活における諸注意と医学部新入生、上級生、教員相互の親睦を図る。

#### （2） SIH 道場・早期体験学習（研究室体験）

日時：平成29年9月29日（金）9時～12時30分

場所：栄養学棟 各分野研究室

目的・概要：医科栄養学科1年次のグループ担任が所属する研究室において、研究内容の説明、卒業研究や大学院での研究室生活について卒論生・大学院生より説明を受けると共に、実際の研究現場を見学する。栄養学の最先端の研究活動に触れることで、学部の中に学ぶべきこと、自身の学習目標、将来のビジョンを考える。

##### ①事前学習

各分野のホームページで研究室の概要・活動内容などについて調べる。

##### ②研究室体験

各分野所定のプログラムによる。

- ・分野の研究概要説明
- ・卒論生・大学院生による研究生生活の説明
- ・研究室見学
- ・懇談会（振り返りワークショップ）

##### ③事後学習

振り返りレポート（SIH 道場・チーム医療入門ワークショップのレポートに含めること）

#### （3） SIH 道場・チーム医療入門ワークショップ

日時：平成29年9月29日（金）13時00分～17時

場所：蔵本キャンパス内

対象：蔵本地区1年生 約450名

目的：医療現場で働く各専門職種を目指す学生が相互理解し、将来、共に円滑なチーム医療を行うための基盤を形成する動機付けとなる。医療人を目指す学生として、今後の学生生活で学ぶこと、修得することを、他学部・学科の学生と共に考え、お互いに学ぶことで、医療人としてのプロフェッショナルリズムの醸成を図る。

概要：医療安全、コミュニケーション、災害医療などのテーマで講演を拝聴し、テーマに沿ったグループワーク（ディスカッション）を行い、プロダクトを作成・発表・討議する。

テーマ：未定

タイムスケジュール：未定

※詳細は、医療教育開発センターによる授業詳細参照すること。



# SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

## 医学部保健学科看護学専攻

### 4. 看護学専攻

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	看護学の分野で活躍する看護職の活動の現場を知るとともに、大学における学習方法について学び、専門職への意欲を持つことができ	レポートの提出	反転授業コンテンツ「SIH道場とは」の視聴	<ul style="list-style-type: none"> <li>「大学での学び（論文の書き方・プレゼンテーション）」の講義を行う。</li> <li>「先輩からのメッセージ」として、現場で活躍している看護師・保健師・助産師・養護教諭および大学院生をゲスト・チャーター生に招き、新入生に対して講演及びディスカッションを行う。</li> </ul>	保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施
文章力	大学におけるレポート作成の方法を知るとともに、論理的な文章を構成することができる	提出物は、ループリットクを用いて行う	反転授業コンテンツ「レポートの書き方入門」の視聴	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートの書き方についての講義を行う。</li> <li>ループリットクを用いたピア評価を行う。</li> </ul>	保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施
② プレゼンカ	見るものにとつてわかりやすく説得力のあるプレゼンテーションの評価ができる	プレゼンテーションに対する学生間の相互評価	反転授業コンテンツ「効果的なプレゼンテーションの仕方」の視聴	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとにテーマを設定し、コンテンツ、テクニク、ツールの3要素を活用したプレゼンテーションを実施する。また、学生同士が相互に評価を行う。</li> </ul>	保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施
協働カ	他者と共同して1つの課題に取り組みることができる	e-ポートフォリオ内容の中で、他者と共同した成果を1つ以上説明している。	反転授業コンテンツ「チーム作業の基本」の視聴	<ul style="list-style-type: none"> <li>学んだことをe-ポートフォリオに記入する。教員はコメントをフィードバックする。</li> </ul>	保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施
				<ul style="list-style-type: none"> <li>学んだことをe-ポートフォリオに記入する。教員はコメントをフィードバックする。</li> </ul>	保健学科大学入門科目群「大学入門講座」の中で実施

平成29年度SIH道場プログラム設計評価シート

医学部 保健学科 看護学専攻・コース ※学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

要素	項目	チェック	平成28年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応	
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ 設計していない	体験授業を増やしたところもあった。 ようだった。	大学で必要な基本的知識を身に付けてことができたと感じています。「医療現場を目指してモチベーションが上がり、早期という意見があったことより、早期体験が本学における学修の導入に有効であることが考えられた。	十分、達成できていると思います。	十分、達成できていると思います。	
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ 設計していない					
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ 課していない					
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ 設計していない	特記すべきことなし。	レポートの作成に良い練習の場となった。」という学生の意見があり、レポートの記述に働いていない学生の学修によって効果的であると考えられた。	特になし。	特になし。	
	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ 設計していない					
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ 課していない					
ラーニングスキル プレゼン力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ					
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ 設計していない	特記すべきことなし。	プレゼンの作り方の良い練習の場となった。」という学生の感想があり、これまで、プレゼンの経験の少ない学生にとっても、良い練習になることとともに、今後の学習活動の発展や目標を明確にしたものであると考えられた。	特になし。	特になし。	
	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ 設計していない					
ラーニングスキル 協働能力	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ 課していない					
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ					
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ 設計していない	アクティブラーニングを有効に取り入れた展開になっていた	グループで活動することで、ほかの人の意見を取り入れることができ、自分が何をすべきか考え行動する力が養われた。」という意見から交流や、意見交換により、コミュニケーション能力が培われたことに加え、自発的で深い学びが得られたと考えられた。	十分、達成できていると思います。	十分、達成できていると思います。	
振り返り	⑬設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ 設計していない					
	⑭学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ 課していない					
	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ					
振り返り	⑯振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ	グループワーク・eポートフォリオを通して、評価を前に見えるようにし、振り返りをしやすいようにしている。	ポートフォリオを使っている振り返りを通して、「事前学習の大切さ、体験後の振り返り、やりっぱなしではなく示されており、やり返すことにより、振り返ることが大事であると考えられた。	特になし。	特になし。	
	⑰各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ					
	⑱学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> どちらともいえない <input type="radio"/> いいえ	昨年の意見を踏まえ、改善している様子が見受けられる	早期体験、発表、グループによる討論等の協働学習が、大学における学修を進めるにあたり、功を奏したと考えられる。	全体的に教員の負担が大きいと見え、改善される。	特になし。	特になし。
総合	⑲実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成29年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、{5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ふつ、2.やや不十分であった、1.不十分であった}。	<input checked="" type="radio"/> 5 <input type="radio"/> 4 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 1					

※その他、他の授業との接続、所属内授業・授業運営等の課題がありましたらお書きください。

### 平成 29 年度 SIH 道場 医学部保健学科看護学専攻 授業詳細

■目的：徳島大学医学部保健学科看護学専攻の新入生が、大学における学習について理解するとともに、自身の専門分野における先輩からの仕事や研究に関する講演を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

#### ■到達目標：

- (1) 自身の専門分野における現場と大学における学習について、関連させて説明することができる。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について 1 つ以上説明することができる。
- (2-2) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を 1 つ以上説明することができる。
- (2-3) 他者と協同して 1 つの課題に取り組むことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■成績評価：「看護」を主題したテーマをグループで決定し、個人がそのテーマに沿った」レポートを以下の合格基準をもとに評価する。

レポートは原則として、電子媒体での作成を推奨する。

個人レポート（文章力の目標に対応）

- ・体験学習で学んだことを踏まえて、「看護」を主題にしてグループで「テーマ」を決定し、そのテーマについて A4 判 1 枚程度のレポートを作成する。
- ・ルーブリックの「文章力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- ・提出日は、第 1 回が 5 月 11 日 8 時 30 分、最終提出は 6 月 1 日 16 時 30 分とする。

#### ■グループ分け

4 月 27 日（木）からのグループは学生番号順で 6 名程度の人数（12G とする）。

#### ■SIH 道場 個人レポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・レポートの書き方に従い、「序論（はじめに）」「本論」「終論（終わりに）」が書かれていること。
- ・引用・参考文献の表記が適切にされていること。
- ・「自己評価」と「文章力」のルーブリックが添付されていること。（必須）
- ・上記ルーブリックの「文章力」の総合点が 6 割以上であること。（必須）
- ・提出期限の遵守（必須）
- ・その他、レポートに必要なだと考えられる内容（任意）

教員のレポート採点は 7 月 14 日（金）に南川まで提出とする



## 4. 看護学専攻

### ■授業実施方法

日時	授業名	内容	担当者
4月3日 (月) 10:00～	●学科別オリエンテーション ●専攻別オリエンテーション	大学で学ぶ意味 SIH 道場とは 学修設計とは	保健学科長 教務委員長 学生委員長 1年担当教員(森、岡久 南川、堤))
4月5日 (水) 9:00-10:00	●専攻別オリエンテーション	ラーニングスキル(文章力) レポートの書き方についての講義 反転授業(文章力、協働、プレゼン)のコンテンツの見方の説明	教務委員 1年担当教員(森、岡久 南川、堤)
4月7日 (金) 9:00-12:00	●先輩からのメッセージ 1 ～将来像のイメージ化～	体験学習 大学院に進学した先輩からのメッセージを聞いて質疑応答。 レポートを提出	教務委員(田村・安原・福岡) 1年担当教員(森、岡久 南川、堤)
13:00-17:00	●図書館ツアー	体験学習 3班に分かれて、図書館の利用の仕方について学修する。	1年担当教員(森、岡久 南川、堤)
4月9日 (土) 8:35～	●新入生研修	体験学習、ラーニングスキル(文章力、協働力、プレゼンテーション力)	教務委員 1年担当教員(森、岡久 南川、堤)
4月13日 (木) 15:30- 大講義室	●先輩からのメッセージ 2 ～将来像のイメージ化～	体験学習(4年生と合同) 看護師・保健師・助産師・養護教諭からのメッセージを聞き、 質疑応答を行う。レポートを作成する。	教務委員(田村・安原・福岡) 1年担当教員(森、岡久 南川、堤)
4月20日 (木) 15:30- 大塚講堂 小ホール	●先輩からのメッセージ 3 ～将来像のイメージ化～	体験学習(4年生と合同) 大学病院で働いている看護師や4年生からのメッセージを聞き、 質疑応答を行う。	教務委員(田村・安原・福岡) 1年担当教員(森、岡久 南川、堤)
4月27日 (金) C-23 教室	●各グループが「テーマ」を決定し担当教員に報告・提出する。	1年生担当教員は、看護に関わる「テーマ」についてアドバイスする。	1年担当教員(森、岡久 南川、堤)

#### 4. 看護学専攻

9:00-12:00			
4月27日 (木) 13:00-15:00 C-23 教室	●決定したテーマに対してA4(約800字)の1枚のレポートを作成する(個人で作成)。	テーマについての図書館などで文献検索、資料の収集を行なう。	1年担当教員(森、岡久 南川、堤)
5月11日 (木) 8:30	●講義の前の8:30までにレポートを提出する。(教室であつめる)	レポートの提出状況をチェックする。	担当:南川・堤
5月11日 (木) 15:30-16:30 C-23 教室		グループワーク① レポートを一旦返却し、レポートをもとにディスカッションし、プレゼンテーションできるようにまとめる。	1年担当教員(森、岡久 南川、堤)
5月18日 (木) 15:30-16:30 C-23 教室		グループワーク② 、レポートをもとにディスカッションし、プレゼンテーションできるようにまとめる。	1年担当教員(森、岡久 南川、堤)
5月25日 (木) 15:30-16:30 C-23 教室	●発表① 「看護」を課題に各グループで「テーマ」を決めて調査したことをまとめてプレゼンテーションを行なう。	グループワークの結果をプレゼンテーションし、質疑応答を行う。ルーブリックで相互評価を行なう。(南川・堤の担当学生が発表)	1年担当教員(森、岡久 南川、堤)
6月1日 (木) 15:30-16:30 C-23 教室	●発表② 「看護」を課題に各グループで「テーマ」を決めて調査したことをまとめてプレゼンテーションを行なう。	グループワークの結果をプレゼンテーションし、質疑応答を行う。ルーブリックで相互評価を行なう。(森・岡久の担当学生が発表) レポートの最終提出は、全員6月1日の発表終了時とする。	1年担当教員(森、岡久 南川、堤)
9月29日 (金)	●チーム医療入門	体験学習、ラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力)グループワーク	医療教育開発センター 教務委員 1年担当教員(森、岡久 南川、堤)

## 4. 看護学専攻

### ■授業実施計画

#### 1) SIH 道場とは

【概要】保健学科大学入門講座として行われている学科別ならびに専攻別オリエンテーションにおいて、SIH 道場についての概要を説明する。その際、事前学習に関する内容（反転授業コンテンツ）についても説明する。また、希望学生においては興味をもっている分野の研究室に1年生から出入りすることが可能である旨を説明する。

#### 2) ラーニングスキル（レポートの書き方）（4月5日（水）実施）

【概要】体験学習などの際に提出するレポートの書き方について早期に指導する。

【準備】ビデオ教材「文章力を身につけよう」の視聴を指示

【事前学習】ビデオ教材「文章力を身につけよう」を視聴する

【授業後】学生からのレポート提出、教員によるレポート評価、学生へのフィードバックを行う。

#### 3) 体験学習（先輩からのメッセージならびに図書館ツアー）（4月7日（金）実施）

【概要】保健学科の大学入門講座である「先輩からのメッセージ」では、卒業学生が大学生活の実態について説明する。学生は自分の今後の大学生活について具体的にイメージし、目標を考える。また、図書館ツアーでは、自分たちが学習できる環境についても学ぶ。

【準備】新入生は各自が本学看護学専攻に進学した動機を文章化しておく。

【事前学習】大学生活で自分が身につけたい能力を明らかにし、そのためにはどのような授業に最も関心を持っているか、シラバスを読み確認する。

【授業後】大学生活では何をどのように学んでいこうと考えるかについてレポートを作成し提出する。

#### 4) 新入生研修（4月8日（土）13:00～16:30 実施）

【概要】新入生研修の午後の部を利用して、ワークショップを行う。ワークショップでは、医療（SNS）・情報モラルに関する身近なテーマについてグループワークを行い、グループごとにプレゼンテーションする。他のグループのプレゼンテーションを見て、各自がグループリック表に従い評価する。本ワークショップを通して、医療に関する早期体験学習とともに、文章力、協働力、プレゼンテーション力といったラーニングスキルを獲得することを目的とする。

【準備】ビデオ教材「協働力」「プレゼンテーション力」の視聴を指示

【事前学習】ビデオ教材「協働力」「プレゼンテーション力」を視聴

【授業後】学生アンケートを実施して、来年度以降の参考とする

#### 5) 先輩からのメッセージ～将来像のイメージ化～（4月7日（金）9:00～11:00、4月13日（木）・20日（木）15:30～16:30）

【概要】保健学科の大学入門講座である「先輩からのメッセージ」では、各専攻の卒業生が後輩の新入生に対して卒業後の進路について説明する。このメッセージを通して、新入生は自分たちの将来像を描くことができるようにする。

【準備】学生にはあらかじめ、自分の希望の職種（看護師、保健師、助産師、養護教諭など）ならびに将来希望の内容（認定・高度実践看護、地域医療、国際看護など）について事前に学習しておくように指導する。

## 4. 看護学専攻

【事前学習】自分の希望の職種（看護師、保健師、助産師、養護教諭など）ならびに将来希望の内容（認定・高度実践看護、地域医療、国際看護など）について事前に学習しておく。

【授業後】「先輩のメッセージ」で得たことを、今後のプレゼンテーションに反映させるように指導する。

### 6) 「看護」を主題とした協働・プレゼンテーション能力の育成（4月27日（木）・5月日、5月日

【概要】看護職を目指す学生が、体験学習「先輩からのメッセージ」などを参考に、自らの「看護」について知りたいこと、疑問に思ったことなどにテーマを定める。そのテーマについてまず個人で文献を用いて調べた後、グループでディスカッションをすることにより、他の学生の価値観を共有しながら、自分自身の考えを深める機会とする。併せて、ディスカッションの結果を、効果的に伝えるためのプレゼンテーション能力を養う機会とする。プレゼンテーションの相互評価及び、グループワークにおける自己評価を行う。

【準備】①4月5日のSIH道場で概要、グループ分けを説明する。ビデオ教材の「文章力」「協働力」「プレゼン力」をみる。②各グループで「看護」に関連のあることでテーマ決定し、を担当の教員に提出する。テーマについては教員に相談するように伝える。③図書館ツアーでの文献の選び方を活用するように指導する。④レポートは5月11日（木）8時30分を期限とし、提出のチェック後レポートもとに各グループでのディスカッションを行う。6月1日の発表終了後にレポートを集めて、7月20日17時までにコメントを入れたレポートを「飛ぶノート」で学生のポートフォリオに返却する。

【事前学習】4月5日（水）のSIH道場で概要、グループ分けを説明する。4月27日までにビデオコンテンツの「文章力」「協働力」「プレゼン力」をみて自分の活動に生かす。「先輩からのメッセージ」を参考に看護職が行っていること、看護職に求められていることを明らかにしてプレゼンテーションに生かす。

【授業後】次年度の参考のために事後アンケートを実施する。プレゼンテーションや自己評価の結果を学生にフィードバックする。

### 7) チーム医療入門（9月29日（金）13:00～17:00 実施）

【概要】医療教育開発センターによる授業詳細参照

#### ■毎回の授業後に担当教員が行うこと

- ・担当クラスの学生が提出した「振り返りシート」へ一言コメントし、飛ぶノートでポートフォリオに飛ばす。

#### ■レポート提出終了後に担当教員が行うこと

- 1) 担当クラスの学生が提出したレポートの添削
  - ・不合格者には「再提出要求」を出す。
  - ・合格者には点数をつける。（100点満点）
- 2) 「グループディスカッション実施報告書」の提出
  - ・所定の様式に沿って作成・提出する。（様式は、Word版、eポートフォリオ版の2つがある）
  - ・提出先はeポートフォリオシステム上とする。
- 3) 他の担当教員の「実施報告書」の閲覧と相互コメント

## 4. 看護学専攻

### ■終了後にコーディネーターが行うこと

- ・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

# SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

## 医学部保健学科放射線技術科学専攻

### 5.放射線技術科学専攻

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠	
			事前学習	授業		
①	<p>診療放射線技師の各分野の専門技術者から見た教育プログラムを理理解する。専門分野における先端研究を体験し、研究内容を大衆に伝える学習と関連させることができる</p>	<p>講演プログラムを聴講しそのレポートを提出する。体験学習の報告会でのプレゼンテーションを教員が評価する</p>	<p>各分野の専門技師の専門技師の事前学習を行う。研究室で実施している先端研究の内容を調査しておく</p>	<p>各専門分野の認定技師および専門技師の方々を招き、講演を聴講し、学生と演者の先生との間で議論を交わす。研究室（または教員グループ）に複数の学生を短期間研究室配属させて体験学習を行ったのち、発表会を実施する</p>	<p>e-ポートフォリオをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする</p>	<p>担当教員の指定する時間帯に実施する</p>
文章力	<p>論理的な文章を作成する際に注意すべきことを一つ以上説明することができる</p>	<p>体験学習の内容をまとめたとしたレポートを提出させ、教員が評価する</p>	<p>反転授業コンテンツ「レポートの書き方入門」の視聴</p>	<p>短期研究室体験における指導を通して文章力向上を図る</p>	<p>e-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする</p>	<p>SIH道場の授業枠内で実施</p>
②	<p>効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な技法を一つ以上説明することができる</p>	<p>報告会でのプレゼンテーションを教員が評価する</p>	<p>反転授業コンテンツ「効果的なプレゼンテーションの仕方」の視聴</p>	<p>短期研究室体験における指導を通してプレゼンテーション能力向上を図る</p>	<p>e-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする</p>	<p>SIH道場の授業枠内で実施</p>
協働能力	<p>他者と協働して一つの課題に取り組むことができる</p>	<p>・体験学習期間中の学習状況を配属先の教員が評価する ・チーム医療入門ワークショップの取り組みに対する評価も加える（評価方法は別途）</p>	<p>反転授業コンテンツ「アイデアの発想・収束（KJ法）」の視聴</p>	<p>短期研究室配属で協働作業を体験させ、課題解決のための協働力の重要性を認識させる</p>	<p>e-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする</p>	<p>SIH道場の授業枠内およびチーム医療入門（IPE）ワークショップで実施</p>



## 平成 29 年度 SIH 道場 授業詳細

## ～放射線技術科学専攻 「短期研究室体験」～

■目的： 本学放射線技術科学専攻新入生が大学における学修について理解するとともに、自身の専門分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学修・研究に対する動機づけを行う。また、学修の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学修の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標： (1) 短期研究室体験によって専門分野における先端研究を体験し、研究内容を大学における学修と関連させて説明することができる。  
 (2) 論理的文章を作成する際に注意すべきことを一つ以上説明することができる。  
 (3) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を一つ以上説明することができる。  
 (4) 他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。

■成績評価： 文章力の評価として、研究室体験の感想を文章にまとめて提出させ、教員が評価する。プレゼン力の評価として新入生全員が参加する体験学習の報告会を開催し、プレゼンテーションを教員が評価する。ルーブリック評価表による相互評価を行う。

## ■授業実施方法：

日時	授業名	内容	担当
4月7日(金) 8:45～11:00	保健学科共通オリエンテーション	先輩からのメッセージ	保健学科教務委員長
4月7日(金) 12:50～17:00	放射線技術科学専攻 短期研究室体験オリエンテーション	SIH 道場短期研究室体験の概要説明、配属先の決定、学修の手引等の説明	授業設計コーディネーター(阪間)
4月8日(土) 8:25～	新入生研修	午前は学生生活や行動規範に関する講義、午後はグループディスカッションを中心とした研修	吉永哲哉・阪間稔・富永正英・兒島雄志 他
4月27日(木) 10:00～17:00	教育プログラム	各分野の専門技師から見た教育プログラム～将来のエキスパートを目指し“夢”をもって学ぼう～	吉永哲哉・阪間稔・富永正英・兒島雄志 他



## 5.放射線技術科学専攻

6月毎週木曜6 講時 15:30~16:30	SIH 道場	パワーポイントを用いた発表演習 (計4回)	林裕晃
4月~9月まで 1~数日程度 の短期研究室 配属	(平成29年度) 各研究室体験テーマ		
		放射線挙動解析モンテカルロシミュレーション計算の実践	阪間稔
		音楽による感情調整の神経科学的メカニズムの研究	河野 理
		細胞に生じた DNA 損傷の検出法	森田明典
		X線診断における被ばく線量の測定	林裕晃
		核磁気共鳴画像(MRI)を中心とした非侵襲的イメージング 手法と解析法の研究	金澤裕樹
		医用 CT 画像再構成法	吉永哲哉・児島雄志
		組織の X 線吸収差を利用した画像化技術	上野淳二・高尾正一郎
		心理学的測定法によるモニタ面上の明暗知覚の評価	井村裕吉
		代謝・機能の画像診断	大塚秀樹
		胸部 X 線写真の世界的な情勢と画像の形成から評価まで	西原貞光
		放射線治療計画・高精度放射線治療の品質保証・品質管理	生島仁史・富永正英
	9月27日(水) 15:00~18:00	短期研究室体験 報告会	各研究室グループでプレゼンテーショ ン
9月29日(金) 13:00~ 17:00	チーム医療入門 WS	早期体験、ラーニングスキル(協働力、 プレゼンテーション力)	医療教育開発センター

### ■授業実施計画:

1) 保健学科共通オリエンテーション (4/7 (金) 8:45~11:00 実施予定)

【概要】保健学科大学入門講座として行われている保健学科共通オリエンテーションにおいて、大学生活全般に対するメッセージを先輩学生が紹介する。

2) 短期研究室体験オリエンテーション (4/7 (金) 12:50~17:00 実施予定)

## 5.放射線技術科学専攻

【概要】専攻における SIH 道場の概要説明。新入生それぞれの配属先の決定。ルーブリック評価表の説明。学修の手引やきみの未来への資料について説明。

【事前学習】保健学科の「学修の手引」や「診療放射線技師プラス」をもとに、放射線技術科学専攻で修学後、どのような将来像が切り拓けるかを調べる。

【授業後】オリエンテーションを受講しての感想文提出。特に、将来像に繋がる有機的な学修取り組みについてレポートする。

### 3) 保健学科共通新入生研修 (4/8 (土) 8:25~ 実施予定)

【概要】午前は、医学部合同新入生研修として学生生活や行動規範に関する講義。午後は、保健学科・大学入門講座として行われている保健学科共通オリエンテーションにおいて、SIH 道場の実践として、グループディスカッションを中心とした研修を行う。

### 4) 短期研究室体験 (4月~9月まで、各研究室にて1~数日程度実施予定)

【概要】授業実施方法欄の各研究室テーマに配属学生が取り組む。短期研究室体験における指導を通して、文章力およびプレゼンテーション能力の向上を図るとともに、協働作業を体験させることで課題解決のための協働力の重要性を認識させる。

【事前学習】反転授業コンテンツ「アイデアの発想・収束 (KJ法)」の視聴。事前配布のルーブリック評価表の達成に向けた短期研究室体験の実施。

### 4) 教育プログラム (4月27日(木) 10:00~実施予定)

【概要】診療放射線技師の社会的役割や各専門分野に必須の科目群(教育プログラム)を入学当初に理解することにより、将来像の明確化を図ると共に、大学における能動的学修への動機づけを高める。

【事前学習】診療放射線技師の各専門分野の認定技師及び専門技師について事前に調べる。

【授業後】プログラム(講演の聴講)後に学生からの感想文提出、教育プログラム教員による感想文の評価、学生へのフィードバック

### 5) 6月期 SIH 道場 (6月8、15、22、29日(木)の6講時(15:30~16:30)、計4回)

【概要】短期研究室体験報告会での発表を想定し、「パワーポイント」を用いて、発表の演習を行う。発表者および聴講者の観点から、適切な発表形式についての考察も行う。

【事前学習】「情報活用演習」の講義内容と深く関連するため、当科目の復習をしっかりと行っておくこと。特に、グラフの書き方は非常に重要。

【授業後】レポート(感想文)提出。

### 6) 短期研究室体験報告会 (9/27(水) 15:00~18:00 実施予定)

【概要】各研究室の体験内容について、学生が配属グループごとにプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションは配属学生が分担して口頭発表する全員参加形式とし、発表内容の評価は担当教員中心に行う。

【事前学習】反転授業コンテンツ「効果的なプレゼンテーションの仕方」の視聴

## 5.放射線技術科学専攻

【授業後】体験内容に関する学生からの感想文提出、教員による感想文の評価、学生へのフィードバック、ポートフォリオ作成、及び、ルーブリック評価表による相互評価とその集計。

7) 蔵本地区チーム医療入門ワークショップ (9月29日(金) 13:00~17:00)  
医療教育開発センターによる授業詳細参照

平成29年度 SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

医学部保健学科検査技術科学専攻

6. 検査技術科学専攻

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	臨床検査分野における先端研究（現場）と大卒における学習について、関連させて説明することができる。	レポート提出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SIH道場の理解。「先輩からのメッセージ」「臨床検査技師の仕事（仮、準備中）」に関する発表内容の紹介。「大学院のすすめ」：HPなどで各分野の研究内容を調査しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SIH道場の目的・実施の流れとその対応、レポートの書き方、ルーブリックについての説明。</li> <li>・「先輩からのメッセージ」「臨床検査技師の仕事と医療における役割（仮、準備中）」を聞き、様々な臨床検査の分野を知り、自分の進路について考える。</li> <li>・「大学院のすすめ」において担当教員から大学院の研究概要を聞き、大学院を志す進路を考える。</li> </ul>	保健学科「SIH道場」内で実施
文章力	論理的な文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。	ルーブリック評価表を用いる	反転授業ビデオコンテンツ「文章力」の動画を視聴	「先輩からのメッセージ」で作成したレポートについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ	保健学科「SIH道場」内で実施
② プレゼン力	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。	ルーブリック評価表を用いる	反転授業ビデオコンテンツ「プレゼンテーション力」の動画を視聴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「保健学科新入生研修 ワークショップ」で実施したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いた相互評価を行う。</li> <li>・「チーム医療入門」で実施したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ</li> </ul>	保健学科「SIH道場」内で実施
協働力	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。	ルーブリック評価表を用いる	反転授業ビデオコンテンツ「協働力」の動画を視聴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「保健学科新入生研修 ワークショップ」にてKJ法ワークを用いたピア評価を行う。</li> <li>・「チーム医療入門」にてKJ法ワークを実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。</li> </ul>	保健学科「SIH道場」内で実施

# 平成29年度SIH道場プログラム設計評価シート

医学部 保健学科 検査技術科学専攻

※学生のレポート資料、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

要素	項目	チェック	平成28年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない いいえ	学修効果が上がるように、ゆとりのある時間配分に留意した。また、幅広い視野で将来の進路を考えられるようにするため、昨年度までのプログラムに加えて、「大学病院検査部の見学」や「研修生・卒業生等」に「仕事内容の紹介」も行った。	学生のアンケート結果をみると、ほとんどの学生が、授業内容に満足しており、将来の仕事内容について広がったようであり、学修効果も上がったと思う。	大学病院検査部の見学については、全員が至部門を見学する日程にしたため、あまり質問等なかったようである。	見学の時期や日程・内容について再度検討し、検査部とも相談する。
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい どちらともいえない 設計していない いいえ				
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意図するものにするために効果的だった	はい どちらともいえない 設計していない いいえ				
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない いいえ		SIH道場テキストやラーニングスキル学習用のウェブコンテンツを視聴する時間に十分に取って、早期体験学習を実施する際に学習を促した。	アンケートに回答した学生のほとんどが基本的なスキルについては理解したと答えていた。	次年度担当者に改善点を引き継ぎ
	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない いいえ				
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない いいえ				
ラーニングスキル プレゼン力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい どちらともいえない 設計していない いいえ		⑦学生の学修は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	同上	同上
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない いいえ		SIH道場テキストやラーニングスキル学習用のウェブコンテンツを視聴する時間に十分に取って、早期体験学習を実施する際に学習を促した。保健学科SIH道場の前に見ておいてほしいコンテンツについては新入生オリエンテーションの際に時間をとって視聴させた。	アンケートに回答した学生のほとんどが基本的なスキルについては理解したと答えていた。また、保健学科SIH道場での取り組みにより一定の学修効果は上がっている。	同上
	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない いいえ				
ラーニングスキル 協働能力	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない いいえ		⑩学生の学修は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	同上	同上
	⑪設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない いいえ		SIH道場テキストやラーニングスキル学習用のウェブコンテンツを視聴する時間に十分に取って、早期体験学習を実施する際に学習を促した。保健学科SIH道場の前に見ておいてほしいコンテンツについては新入生オリエンテーションの際に時間をとって視聴させた。	アンケートに回答した学生のほとんどが基本的なスキルについては理解したと答えていた。また、保健学科SIH道場での取り組みにより一定の学修効果は上がっている。	同上
	⑫設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない いいえ				
振り返り	⑬振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい どちらともいえない 設計していない いいえ		⑬振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した		
	⑭各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい どちらともいえない 設計していない いいえ		⑭各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた		
	⑮学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい どちらともいえない 設計していない いいえ		⑮学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った		
総合	⑯実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成29年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、{5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ふつ、2.やや不十分であった、1.不十分であった}。	5 4 3 2 1				
	※その他、他の授業との接続、所属内・保健学科の課題がありましたら書きください。					

## 6. 検査技術科学専攻

## 平成 29 年度 SIH 道場 医学部保健学科検査技術科学専攻 授業詳細

■目的：保健学科検査技術科学専攻新生が大学における学修について理解するとともに、自身の専門分野である臨床検査学の先端研究や現場の早期体験を通して、臨床検査学への興味関心を喚起し、大学における学修・研究に対する動機づけを行う。また、学修の基本となる文章の書き方、協働力、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、意欲、態度を身につける。

## ■到達目標

事前学習、体験授業（「先輩からのメッセージ」、「臨床検査技師の仕事と医療における役割」、「大学院のすすめ」）、振り返り学修（「将来像を描く」レポート作成）によって、臨床検査技師の役割を理解し、臨床検査学分野に対する興味関心を高め、自身の将来像について考える。またラーニングスキルを獲得（文章力：「将来像を描く」レポート作成、プレゼンテーション力：「新生研修」「チーム医療入門」での発表、協働力：「新生研修」「チーム医療入門」でのグループワーク）して、大学における学修の基本となる能動的学修の基礎を身につけ、学修を振り返る習慣をつけて、自ら学修を計画し実施できる大学生となる。

- 1) 臨床検査学の幅広い分野を知る。
- 2) 臨床検査技師の医療における役割を理解する。
- 3) 臨床検査学分野における大学院や科学的研究について知る。
- 4) 将来像について考える。
- 5) 文章力を身につけ、科学的なレポート作成ができる。
- 6) グループで協働して意見をまとめ、それをプレゼンテーションすることができる。
- 7) 学修を振り返り、学修計画を立てて実施することができる。

## ■成績評価

授業の出席、提出レポートにより評価する。レポート評価に際してはルーブリック「文章力」により行う。なおレポートは手書きでも構わないが、電子媒体での作成・提出を推奨する。

## ■授業実施方法：

日時	授業名	内容	担当
4月5日(水) 9:00~12:00	SIH 道場の理解(概略 の説明)	SIH 道場の目的・実施の流れとその対応 (事前学習:協働のルール、プレゼンのコツ、ルーブリック評価についての説明)	片岡
4月8日(土)ま でに	(事前学習)	LMS を利用してビデオ教材の視聴 (協働力、プレゼン力のビデオ教材)	片岡

## 6. 検査技術科学専攻

4月7日(金) 9:00~11:00 13:00~16:00	先輩からのメッセージ 個人面談	早期体験(1) 1年生担任との面談	保健学科教務委員、 片岡、富永(辰) (協力:大学院生 2名) 香川、富永(辰)
4月8日(土) 8:35~16:30	保健学科新入生研修 ワークショップ	ラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力)	片岡佳子、富永(辰)、遠藤逸朗(協力:総合教育センター)
4月27日(木) までに	将来像を描くために (SIHの時間他を利用した自己学習)	各自で情報収集(学修のてびき中に紹介したHPや各分野のHP等を閲覧、LMSを利用してビデオ教材の視聴(文章力、レポートの書き方のビデオ教材の視聴))	片岡佳子、富永(辰)
4月27日(木) 13:30~15:00 (検査部見学)  15:30~16:30 (講演)	臨床検査技師の仕事と医療における役割 (別紙参照)	早期体験(2) ・徳島大学病院検査部の各部門の見学  ・診断デバイスの開発研究に携わるまで(国際的な共同研究を含めて)	片岡佳子、富永(辰) 2グループに分かれて検査部11部門を見学  講師 片岡正俊先生(産総研・健康工学センター)
5月8日	臨床検査技師の仕事と医療における役割 (15:30~16:30で30分程度の講演と質疑応答)	早期体験(2)続き ・胚培養士	矢野祐也先生(徳島大産科婦人科、胚培養士)
6月8日		早期体験(2)続き ・治験コーディネーター	曾根淳美さん(検査専攻大学院生)
6月末までに		SIH道場のテキストやビデオ教材を利用した自己学習	
6月29日(木) 18:00~19:30	大学院のすすめ	早期体験(3)	細井英司、香川典子、遠藤逸朗、片岡佳子、近藤和也、安井敏之、濱野修一、富永辰也他(専攻全教員・大学院生)
~7月の木6のSIHの時間に	将来像を描く (「大学院のすすめ」の1週間後までに提出)	各自で学習した情報をもとに、自分の将来像についての考えを文章にまとめる。	片岡、富永(辰)(評価者)
9月29日(金) 13:00~17:00	チーム医療入門	早期体験、ラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力)	医療教育開発センター、片岡、大学院生1名

### ■授業実施計画

#### 1) SIH道場の理解 (4月5日(木) 9:30~12:00 実施)

【概要】検査技術科学専攻におけるSIH道場の目的・実施の流れとその対応について説明し(SIH関連ビデオを視聴)、今後の授業内容を理解させる。また、ルーブリックによる評価法について説明しておく。4月8日の新入生研修に必要なビデオコンテンツを視聴しておくよう指示。

## 6. 検査技術科学専攻

2) 医学部新入生研修・保健学科新入生研修<ワークショップ> (4月8日(土) 医学部新入生研修 8:30~12:00、保健学科新入生研修<ワークショップ> : 13:00 から 16:30 実施)

【概要】新入生研修の午後の部を利用して、総合教育センターの協力のもとワークショップを行う。ワークショップでは、医療に関する身近な話題をテーマとして、グループでワークを行い、グループごとにプレゼンテーションをする。他グループのプレゼンを見て、各自がグループワーク表に従って評価する。本ワークショップではラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力)の獲得を目標とする。

【準備】ビデオコンテンツ「プレゼンテーション力」「協働力」の視聴を指示。

【事前学習】ビデオコンテンツ「協働力」「プレゼンテーション力」の視聴。

【授業後】学生アンケート実施して、来年度以降の授業の参考とする。

### 3) 早期体験

早期体験①：先輩からのメッセージ (4/7 (金) 9:00~11:00 実施)

(各専攻の大学院学生からのメッセージ)

早期体験②：臨床検査技師の仕事と医療における役割 (4/27 (木) 午後

および 5~6月の木6講時のSIHの時間)

【概要】保健学科新入生オリエンテーション・SIH道場として行われている「先輩からのメッセージ」では保健学科各専攻の卒業生が、各専攻の概要、卒業後の進路等について説明し、後輩の新入生に向けて年齢的にも学生に近い立場からの先輩としてのエールを送る。また、「臨床検査技師の仕事と医療における役割」の授業では、徳島大学病院検査部の見学体験(検査部技師長他)および専攻外の講師による講演を通じて、病院での検査技師の役割や病院以外の場での働き方を知ってもらう。これらの授業による早期体験(疑似体験)を通じて、広い視野で自分の将来像について考える。

【準備】検査技術科学専攻卒業生の発表内容の紹介により、学生に対して事前学習を指導する。

【事前学習】Moodleによる事前学習を必須とする。

【授業後の課題】4~6月中をめどに、“自身の将来像を描く”レポートの作成を指示する。

早期体験③：大学院のすすめ (6/29 (木) 18:00~19:30 実施)

【概要】大学院担当教員による大学院の概要説明を聞き、大学院を知り、臨床検査学分野の先端研究に興味や関心を持つ。授業を通して、将来像の一つの選択肢として大学院進学を考えるきっかけとする。

【準備】保健科学教育部についてHP等を見て、本教育部にある領域を調べておくように学生に指導する。

【事前学習】HPなどの閲覧。

【授業後】学生の授業での取り組み態度や意見、リフレクションシートから、来年度以降の授業内容を考察する。



### 4) 将来像を描く

7月上旬までのSIHの時間を使ってレポートを作成（「大学院のすすめ」の1週間後までに提出）

【概要】保健学科大学入門講座として行われた「先輩からのメッセージ」を聞いて、また早期体験①～③で学んだことをもとにして、「将来像を描く」レポートを作成する。ビデオコンテンツ「文章力」で学んだスキルを活かしてレポートを作成し、文章力を身につけることも目的とする。作成したレポートをもとに、各自でルーブリック「文章力」による自己評価をして、教員に提出する。教員は提出されたレポートを評価し、学生へフィードバックする。（Mahara利用）

【準備】ビデオコンテンツ「文章力」の動画視聴を指示、「将来像を描く」レポート作成の課題を出す。

【事前学習】反転授業ビデオコンテンツ「文章力」の動画などを視聴。ビデオを参考にして「将来像を描く」レポートを作成。自分の将来を十分に考えるための時間をとることが必要である。

【授業後】学生からのレポート提出、教員によるレポート評価、学生へのフィードバックを行う。

### 5) チーム医療入門（9月29日(金) 13:00～17:00 実施）

医療教育開発センターによる授業詳細参照

\*夏期休業期間だが、出席は必須であることを全員に周知しておく

# SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

## 歯学部

## 7. 歯学部

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠	
			事前学習	授業		
① 体験学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 基本的マナーを守ることができ</li> <li>② コミュニケーション力を養うことができる</li> <li>③ ホスピタリティ・マインドをもって対応することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での取り組み姿勢を評価する</li> <li>・作成されたレポートを評価する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・術者歯磨きを行うに当たり必要な事項をキーワードとして考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「相互歯磨き学習」ではパートナーと相互の術者磨きを行い、学んだことを話し合う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 学習の振り返り</li> </ul>	1 年次前期：SIH道場「相互歯磨き学習」の中で実施
文章力	論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる	提出された「読書レポート」を評価する	与えられた資料（課題）に対する事前レポートを作成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アカデミック・ライティング入門」では、担当教員は学生から提出された事前レポートに対するフィードバックを行う。学生は重要ポイントを確認し、自身のレポートを授業中に校正し、「読書レポート」の書き方を学ぶ。</li> <li>・学生は課題図書「読書レポート」を提出する。</li> <li>・提出された「読書レポート」に対して教員がコメントを記載して返却する。</li> <li>・学生はコメントを確認、自己評価内容を再度提出する</li> </ul>	「読書レポート」の書式に従って記載して提出。教員はコメントをフィードバックする。	SIH道場「アカデミック・ライティング入門」「読書レポート」関連授業において実施
② プレゼンカ	グループで討議し、内容について整理してプレゼンテーションを行うことができる	ルーブリック評価表を用いる（班全体の評価とする）	課題に対する事前学習または発表準備を行う	グループでコンテンツを作り、プレゼンテーションを行う	学んだことは振り返りレポート用紙に記入。教員はプレゼンテーションに対するフィードバックを行う	「歯科衛生士概論」の中で実施
協働力	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる	e-ポートフォリオの内容から評価する	グループワークに関する事柄の前資料の内容を理解する	「新入生研修」では、歯科医療従事者としての心構えなどの課題について「コンセンサスマン」や「ワールドカフェ」などによるワークを実施する	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする	1 年次前期：SIH道場「新入生研修」の中で実施
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WSを能動的に進めることができる</li> <li>・WSに積極的に参加することができる</li> <li>・他学部学生とコミュニケーションが取ることができる</li> <li>・他学部学生と協力してプロダクトを作成することができる</li> </ul>	ルーブリック評価表を用いる（班全体の評価とする）	KJ法のビデオを視聴する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演内容を参考にしてWSのテーマについて班単位でWSを行い、プロダクトを作成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・e-ポートフォリオに学んだことを記入する</li> </ul>	大学入門講座「チーム医療入門」の中で実施

平成29年度SIH道場プログラム設計評価シート

歯学部 歯・口腔保健 学科 専攻コース

※学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考に記述して下さい。

要素	項目	チェック	平成28年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応					
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい	平成28年度においては、早期体験は「相互勉強会」・「シャドウイングと前後の感染対策・医療倫理・振り返り」を実施していたが、本年からはこれに加え歯学第2年次「研究室体験プログラム」を実施した。これにより学生のSIH道場参加機会が増え、歯学部におけるSIH道場担当教員を増やすことができた。学部内でのSIH道場の認知が高まった。	シャドウイングでは、病院での臨床の医学というだけでなく、担当教員にある多様な業務を認識することができ、また病院のシステムについて理解ができたようである。歯学第1年次以上の効果があったようである。歯学第2年次「研究室体験プログラム」においては①基本的な「マイ・マイド、というキーワード」・「ホスピタリティ」・「コミュニケーション」・「ホスピタリティ」の4つのポイントが認められ、こちらが期待した効果を得られていると考えられている。新プログラム「研究発表早期体験」では、最先端の医学・歯学研究に接することで生命科学の成り立ちの理解に役立ったと考えられる。	「生命科学の基礎から最先端までの理解」、「これまででの歯科臨床と最先端医療技術の理解」、「患者さんとのコミュニケーション技術の向上」が融合することで今後必要とされる「シャドウイング」や「研究紹介」における担当教員を入れ替える。	現在、歯学部では歯学科・口腔保健学科ともに編制に、SIH道場担当教員が増えているが、さらにその学部内における認知を進めるためにも、「シャドウイング」や「研究紹介」における担当教員を入れ替える。					
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい									
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい									
ラーニングスキル	④設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい		アカデミック・ライティング入門の担当が教養教育院吉川教授から南川教授に変更になった。4名で査読し問題はなかった。	一部の学生はレポート制作にネット情報を使用していた。リテラシーに関する知識を指導内容に加えていきたい。	現代社会に即応するための文書構成、文書制作基本技術の総合的な見直しを進めていきたい。					
	⑤設計したアカデミック・ライニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい									
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい									
文章力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい									
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい		今年度もワールドカフェ、PBL/LTB入門、蔵本地区IPEワークショップにて協力作業を行った。特記事項はない。	短時間で問題の把握、集約、発表までをこなす必要があるため時間が足りない。あらかじめ発表までの手順をビデオで視聴することにより、深い気づき、討議、発表の工夫が可能になると考える。	学生にブレゼンテーション関連クイズの流しを事前に伝えることで、ブレゼンテーションに割く時間を多く確保したい。					
	⑨設計したアカデミック・ライニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい									
プレゼン力	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい									
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい									
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい									
ラーニングスキル	⑬設計したアカデミック・ライニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい									
	⑭学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい									
	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい									
協働能力	⑯振りの意識や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	<input checked="" type="checkbox"/> はい									
	⑰各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	<input checked="" type="checkbox"/> はい									
	⑱学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい									
振り返り	⑲実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成29年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、(5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ふつう、2.やや不十分であった、1.不十分であった)。	<input checked="" type="checkbox"/> はい									
	※その他、他の授業との接続・発展内容・授業運営等の課題がございましたらお書きください。										
	総合	5	4	3	2	1	今年度もワールドカフェ、PBL/LTB入門、蔵本地区IPEワークショップにて協力作業を行った。特記事項はない。	「新入生研修」では、学生達は初対面の者同士が、きっかけをつかかないからコミュニケーションを取っていいことを難しうと感じながらそれを乗り越えてきた。チーム医療入門では、学部学科を超えた話合いに興味を示す学生が多かった。	「早期体験実習」、「アカデミック・ライティング入門&読書レポート」では、独立した振り返り回を設けて、ディスカッションを通して、コースの内容について理解を深めた。	最終的に提出したレポートは、多くの学生の作品において、序論、本論、結論などの文書構成が整っていた。インパクトのある文章となった。おり、効果を実感できた。	今年度と同様なシステムで対応したい。

7. 歯学部

## 平成 28 年度 SIH 道場 歯学部 授業詳細

## 「協働力：コンセンサスゲーム」 4/14（金）16:20-17:50

到達目標：他者と協働して1つの課題に取り組むことができる。

Key Points：①ラーニングスキル（協働力）の育成  
 ②自身の経験と考えに基づく意見発表と相手からのフィードバックによる気づき  
 ③振り返りの経験

## ○事前学習

本体験学習ではグループワークに用いる手法に関する事前資料の内容を理解する。

## ○授業内容（70分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆ 導入 出席確認、本日の内容の確認 ◆ グループワークの課題説明	
10分	▲アイスブレイキング（各自の自己紹介等）	
30分	▲グループワーク （与えられた課題に対し、各自の考えを話し合いながら最終的に、グループ構成メンバー全員が同意し得る、結論を導き出す。）	配布資料
20分	● 振り返り 結論、その過程について、グループごとに発表	
5分	まとめ	

## ○評価方法・基準（合格基準）

・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。

注釈：クラスサイズ：55名程度

## 「協働力：ワールドカフェ」 4/14（金）14:35-16:05

到達目標：他者と協働して1つの課題に取り組むことができる。

Key Points：①ラーニングスキル（協働力）の育成

②自身の経験と考えに基づく意見発表と相手からのフィードバックによる気づき

③振り返りの経験

## ○事前学習

本体験学習ではグループワークに用いる手法に関する事前資料の内容を理解する。

## ○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
3分	◆ 導入 出席確認、本日の内容の確認 ◆ 第1回目のグループワークの課題説明	
20分	▲グループワーク (第1の課題に題し、各自の考えを話し合いながら模造紙に記入していく。)	模造紙、マジック グループの人数は5～6人
2分	◆ 席替え ◆ 第2回目のグループワークの課題説明	
20分	▲グループワーク (第2の課題に題し、各自の考えを話し合いながら模造紙に記入していく。)	模造紙、マジック グループの人数は5～6人
2分	◆ 席替え ◆ 第3回目のグループワークの課題説明	
20分	▲グループワーク (第3の課題に題し、各自の考えを話し合いながら模造紙に記入していく。)	模造紙、マジック グループの人数は5～6人
20分	● 振り返り 授業全体を振り返り、学んだこと、グループで協働作業をすることやプレゼンテーションについて重要な点をまとめ、自己評価を行う。	
3分	まとめ	

## ○事後学習

振り返り内容をまとめ、eポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。(教員はコメントをフィードバックする)。

### ○評価方法・基準（合格基準）

- ・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。
- ・作成されたレポート内容から、到達目標に沿った学習が確認できたか、評価する。
- ・eポートフォリオシステムにて教員コメントの確認を行ったか、評価する。

注釈：クラスサイズ：55名程度

**「体験学習：研究室体験」**  
7/14（金）、7/21（金） 14:35-16:05

- 到達目標：① 研究現場の雰囲気を知る  
② 最新の研究事情を理解する。  
③ コミュニケーション力を養うことができる。

- Key Points：①学習目標の理解  
②実験を補助することで、研究について実感する

## ○事前学習

本体験学習では事前学習を行わず、授業を進める。

## ○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆導入 出席確認、本日の内容の確認	
30分	◆学生は、各科の担当教員から研究内容について説明を受け、討論する	
180分	●学生は、各科の担当教員について、研究室において現場を体験する。	
10分	●振り返り：作業を振り返り、自己評価を行う。	振り返りシートに記載する。
10分	◆まとめ：授業全体を振り返り、学んだこと、到達目標についての重要な点を学生から導く ◆eポートフォリオについての説明、レポート用紙記載の説明、次回の授業の予告等	eポートフォリオ用授業レポート用紙 SIH道場冊子（配布済み）

## ○事後学習

振り返り内容をまとめ、eポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。（教員はコメントをフィードバックする）。

## ○評価方法・基準（合格基準）

- ・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。
- ・作成されたレポート内容から、到達目標に沿った学習が確認できたか、評価する。
- ・eポートフォリオシステムにて教員コメントの確認を行ったか、評価する。

注釈：クラスサイズ：1～3名程度

## 「体験学習：相互歯磨き学習」 4/28（金）14:35-16:05

- 到達目標：① 基本的マナーを守ることができる。  
 ② コミュニケーション力を養うことができる。  
 ③ ホスピタリティ・マインドをもって対応することができる。

- Key Points：①到達目標の理解  
 ②相互の立場に立った経験と相手からのフィードバックによる気づき  
 ③e ポートフォリオシステムによる担当教員コメントへの振り返り

## ○事前学習

本体験学習では事前に相互歯磨きを行うにあたり大切と思うことをキーワードとして考えてきてもらう（課題資料を事前に配付する）。事前に想像力を喚起したうえで、授業に臨んでもらう。

## ○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆導入 出席確認、本日の内容の確認	名札、ワークシート、必要物品の配付
40分	▲ペア同士で相互歯磨きをする。 (20分程度で術者役側と患者役側の交替を促す)	基本的な説明は行うが、あくまでもお互いの思いやりでポジショニングや器具の使い方などを工夫するように促す。
10分	●個人で振り返り 相互歯磨きを振り返り、ワークシートを仕上げる。	ワークシート
10分	▲ペアでフィードバック：相互歯磨きを振り返り、お互いにどんなことを思っていたのかどんなことを気にしていたのかを相互にフィードバックする。	制限時間を設けて、お互いの気持ちを遠慮なく伝えられるような雰囲気を作る。
10分	▲全体に対するフィードバック：人の口を触ることがどんなことか、何を大切に考えないといけないか、各自の考えを発表してもらう。 ◆まとめ：人の口を触ることの意味を再確認する。	発表者が偏らないよう配慮する。 発言に対して短くコメントする。
5分	▲後片付け	
10分	●授業全体を振り返り、授業レポートを作成させる。	e ポートフォリオ用授業レポート用紙

## ○事後学習

振り返り内容をまとめ、e ポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。（教員はコメントをフィードバックする）。



### ○評価方法・基準（合格基準）

- ・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。
- ・作成されたレポート内容から、到達目標に沿った学習が確認できたか、評価する。
- ・eポートフォリオシステムにて教員コメントの確認を行ったか、評価する。

注釈：クラスサイズ：55名程度

## 「文章力：アカデミック・ライティング入門／読書レポート」

5/12（金）14:35-17:50

## 到達目標：

- ① 論理的文章やレポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。
- ② 論理的に読書レポートを作成することができる。

Key Points：①ラーニングスキル（文章力）の育成

②振り返りの経験

## ○事前学習

「アカデミック・ライティング入門」：授業前に与えられた資料（課題）に対する事前レポートを作成する。

## ○授業内容（3回の対面授業：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
1回目 4/7（木） 60分	◆導入「読書レポートについて」 本関連授業の到達目標と授業の概要について説明し、事前学習の課題を与える。	事前学習の課題に関する資料
事前学習	●「事前レポート」の作成 与えられた資料（課題）に対する事前レポートを作成する。	
2回目 5/13（金） 180分	「アカデミック・ライティング入門」 ◆担当教員は学生から提出された事前レポート内容に関するフィードバックを総括して行う。 ●学生は、重要ポイントを確認し、自身のレポートを授業中に校正して、最終的な「読書レポート」の書き方を学ぶ。	「アカデミック・ライティング入門」授業のハンドアウト
授業外学修	●「読書レポート」の作成 学生は課題図書の中から一冊を選び、事前に示した「読書レポート」の要件に従って記載して提出する。	課題図書2冊
	提出された「読書レポート」に対して教員がコメントを記載して返却する。	
3回目 30分 7/7（金）	●振り返り 学生は読書レポートに対するコメントを確認し、各自の自己評価内容を再度提出する。	読書レポート授業振り返り用紙

## ○授業外学修

課題図書2冊の中から1冊を選び、「読書レポート」を規定の要件に従って記載して提出する。

(教員はコメントをフィードバックする)。

### ○評価方法・基準（合格基準）

- ・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。
- ・作成された読書レポート内容から、到達目標に沿った学修が遂行できたか、評価する。
- ・教員コメントの確認および自己評価内容について評価する。

注釈：クラスサイズ：55名程度

## 「PBL 入門」 6/9 (金) 14:35-16:05

Key Points : ①問題解決型学習 (PBL) の経験  
②振り返りの経験

## ○事前学習

与えられたテーマ\*1について1分間プレゼンテーションの準備を行う。

## ○授業内容 (90分 ; ◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク)

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆導入 出席確認、本日の内容の確認、グループ分け	グループ (6~7名)
10分	◆臨床症例提示 質問があれば受け付ける。	
35分	▲グループディスカッション 治療に関するディスカッションを行う。	
20分	▲いくつかのグループによるプレゼンテーション グループディスカッションの内容を発表する。	
10分	●振り返り 授業全体を振り返り、学んだこと、プレゼンテーションについての重要な点をまとめ、自己評価を行う。	
5分	◆まとめ 次回の授業の予告、TBL資料配布	

## ○事後学習

振り返り内容をまとめ、eポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。(教員はコメントをフィードバックする)。

## 注釈

★\*1 テーマに体験学習、または専門分野に関連するものを取り扱う。

★クラスサイズ : 40~45名程度

## 「TBL 入門」 6/23 (金) 14:35-16:05

Key Points : ①チーム基盤型学習 (TBL) の経験  
②振り返りの経験

## ○事前学習

予習資料を学習する。

## ○授業内容 (90 分 ; ◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク)

経過時間	内容	注意点・教材
5 分	◆導入 出席確認、本日の内容の確認	
10 分	●個人テスト 予習内容に関して個人テストを実施する。	
15 分	▲グループテスト 個人テストと同じ内容の試験をグループでディスカッションして解答する。解答はスクラッチカードで行う。	グループ (6~7 名)
15 分	◆フィードバック グループテストの解答に関して教員がフィードバックする。	
20 分	▲グループ課題 臨床で遭遇することの多い症例に関する問題を与える。臨床現場で遭遇することの多い解答がない症例の方が良い。	
15 分	◆フィードバック グループ課題に関して教員がフィードバックする。	
5 分	●振り返り 授業全体を振り返り、学んだこと、プレゼンテーションについての重要な点をまとめ、自己評価を行う。	
5 分	◆まとめ	

## ○事後学習

振り返り内容をまとめ、e ポートフォリオ用授業レポート用紙に記載し、学務係を通じて担当教員に提出する。(教員はコメントをフィードバックする)。

## 注釈

★\*1 テーマに体験学習、または専門分野に関連するものを取り扱う。

★クラスサイズ : 40~45 名程度

## 7. 歯学部

### 「PBL-チュートリアル（口腔保健学科）」

6/2（金）、6/9（金）、6/16（金）、6/23（金）、11:00-12:00

**授業概要：**将来の歯科衛生士としての自覚と責任を涵養することを目的とした課題について、小人数グループの学生全員が当事者意識をもって討議し、授業の目的を明確にする。話し合ったことを整理し、発表資料としてまとめ、7分程度のプレゼンテーションを行う。

**到達目標：**提示課題についてグループで討議し、内容について整理して発表することができる。

**Key Points：**

- ①設問内容に沿った問題点を抽出する
- ②問題点について討議する
- ③グループで話し合った意見や解決方法をまとめる
- ④グループでの意見を発表する
- ⑤他のグループの意見について評価する

#### ○事前学習

2日目以降は課題に対する事前学習または発表準備を行う。

#### ○授業内容（各60分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
1日目 10分	◆導入 PBL-チュートリアルとは 本日の授業内容の確認	チュートリアル授業マニュアル 課題シート
10分	▲グループによる作業：シナリオ呈示	ホワイトボード
20分	▲問題点（疑問点,論点,キーワード）の抽出	チューター評価表
10分	▲学習方法の立案	
10分	●自学自習	
2日目 20分	▲グループ内での発表と討論	ホワイトボード
30分	▲問題点の解決,整理	パーソナルコンピューター
10分	●個人による作業	チューター評価表
3日目 10分	▲グループ内での発表と討論	ホワイトボード
10分	▲問題点の解決,整理	パーソナルコンピューター
40分	▲発表の準備	チューター評価表
4日目 40分	▲各グループによる発表と全体討議 各グループの発表時間：7分、全体討議：5分	作成 USB 媒体 パーソナルコンピューター
12分	◆シナリオ作成者によるフィードバック	チューター評価表
8分	●ふり返り用レポート用紙への記載	学生ふり返り用レポート用紙

### ○事後学習

ふり返り内容をまとめ、学生ふり返り用レポート用紙に記載し、担当教員に提出する。

### ○評価方法・基準（合格基準）

1日目～3日目のチュートリアル授業における評価は各チューターが態度、積極性、学習意欲等について評価する。4日目の発表は各チューターがルーブリック評価表を用いて、内容の構成、姿勢、質疑応答について評価する。シナリオ作成者はフィードバックを行う。

**注釈：**クラスサイズ：口腔保健学科 15名  
歯科衛生士概論授業において実施

## 「体験学習：歯科診療体験」 2 年前期

- 到達目標：①大学病院の歯科医師の仕事を述べる。  
 ②自己主導型学習（アクティブラーニング）を実践する。  
 ③ 歯科医としての基本的マナーを守る。  
 ④ 信頼関係を築くためにコミュニケーションスキルを実践する。  
 ⑤ ホスピタリティ・マインドをもって他者と接する。  
 ⑥ 個人情報保護について説明する。  
 ⑦ 研究室，大学病院における感染防御について説明する。  
 ⑧ 医療の中での歯科診療の役割を述べる。

- Key Points：①到達目標の理解  
 ②相互の立場に立った経験と相手からのフィードバックによる気づき  
 ③e ポートフォリオシステムによる自己評価と振り返り

## ○事前学習

本体験学習では、事前に臨床の現場に出るにあたり医療人としてのマナーを考える。また、個人情報保護や感染防御といった臨床の場で基本的に必要な知識を確認する。（課題資料を事前に配付する）。

## ○授業内容（3回の授業〈第2学年前期〉：◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
1 回目 60 分×1 4/8 (金)	◆導入「個人情報保護・感染防御について」 基本的な医療人としてのマナーと実習に望む心構えを説明し，個人情報保護や感染防御といった事項について講義を行い，臨床現場体験に備える。	事前学習の課題に関する資料
2 回目 60 分×1 4/15 (金)	▲「歯科診療体験の目標を考える」 歯科診療体験で何を学ぶかをグループで討議し，グループ毎に実習の目標を設定する。	
事前学習	●病院のルール、個人情報保護や感染防御といった点について再度確認を行う。	
3 回目 180 分	「歯科診療体験」 ◆学生は、各診療科の担当教員について、診療室において現場を体験する。	4/22-7/15
授業外学修	●学生は臨床現場における自分の振る舞いを振り返るとともに、実際の診療の場を通して、感じたこと、考えたことを、各自まとめる。	
4 回目 90 分	▲振り返り 学生は、診療体験における自分の反省・考察等	グループで話し合った内容は、文章にまとめ、e-ポートフォリ



## 7. 歯学部

7/22 (金)	を基に、グループで話し合いを行う。	オに記入。教員はコメントをフィードバックする
----------	-------------------	------------------------

### ○評価方法・基準（合格基準）

- ・授業での取り組み姿勢を評価する（消極的な参加ではなかったか）。
- ・e ポートフォリオシステムにて教員コメントの確認を行ったか、評価する。

注釈：クラスサイズ：歯学科 40 名程度

# SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

薬学部

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠	
			事前学習	授業		
① 体験学習	<p>早期体験学習として講演等を聴講し、自分の将来の進路や方向性を、大学における学習と関連させて説明することができる。</p>	<p>全講演の出席と受講態度を評価する。</p>	<p>・反転授業コンテンツ「SIH道場とは」を視聴する。 ・「チーム医療入門」WSテーマに関する資料を閲覧する。</p>	<p>SIH道場 ・講演「薬局で働く」 ・講演「薬害について、B型肝炎について」 ・「薬学の祖を学ぶ ～こころざし～」 チーム医療入門</p>	<p>③ 学習の振り返り 学んだことをチーム医療入門でのプロダクト作成に反映させる。 e-ポートフォリオで教員による評価を確認する。</p>	<p>SIH道場、チーム医療入門の中で実施</p>
文章力	<p>自分自身の考えを論理的に表現することができる。</p>	<p>ルーブリック評価表を用いる。</p>	<p>文章力の反転授業コンテンツを視聴する。</p>	<p>チーム医療入門 学んだこと、今後の学習に関する目標についてレポートを作成する。</p>	<p>学んだことをレポートで提出する。 e-ポートフォリオで教員による評価を確認する。</p>	<p>チーム医療入門の中で実施</p>
② プレゼンカ	<p>効果的なプレゼンテーションを行うためのツールを用いて説明することができる。 他の班のプレゼンテーションを聞いて討議に参加することができる。</p>	<p>ルーブリック評価表を用いる。</p>	<p>プレゼンカの反転授業コンテンツを視聴する。</p>	<p>チーム医療入門 ・プロダクトをもとに各班の発表と討議を行なう。</p>	<p>学んだことをリフレクションシートに記載する。 e-ポートフォリオで教員による評価を確認する。</p>	<p>チーム医療入門の中で実施</p>
協働カ	<p>WSを能動的に進めることができる。 WSに積極的に参加することができる。 他学部学生とコミュニケーションを取ることができる。 他学部学生と協働してプロダクトを作成することができる。</p>	<p>ルーブリック評価表を用いる。</p>	<p>協働力の反転授業コンテンツを視聴する。</p>	<p>チーム医療入門 ・講演内容を参考にしてWSテーマについて班単位でWSを行い、プロダクトを作成する。</p>	<p>学んだことをリフレクションシートに記載する。 e-ポートフォリオで教員による評価を確認する。</p>	<p>チーム医療入門の中で実施</p>

# 平成29年度SIH道場 プログラム設計評価シート

薬学部 共通学科 専攻: コース

※学生のレポート、アンケート結果、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

要素	項目	チェック	平成28年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応				
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない	人学後の早期体験として、講演「薬学への早期体験」を聴講すること、薬剤師としての働くこと、具体的なイメージを形づくること、授業研究として働くことへの意欲が向上した。	他の授業も早期体験に含めるような体制を整える。	他の授業も早期体験に含めるような体制を整える。				
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意欲あるものにするために効果的だった	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
	④設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
ラーニングスキル 文章力	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない	チーム医療入門のレビュー、感想問題提起、課題解決提案、まとめ等がバランス良く記載されていた。また、ルーブリック評価からも概ね目標が達成できていると、文章力の向上がうかがわれる。と74%の学生がアンケートにより、71%の学生がSIH道場で学習したことは役に立っている」と回答している。	早期体験においても、レポート課題を課すなどして、文章力を向上させる。	医歯薬合同で次年度に向けて議論する。				
	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
	⑬設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
	⑭学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
ラーニングスキル プレゼン力	⑮設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない	チーム医療入門は医歯薬合同で行われたため、個々の学生については評価は得られないが、ルーブリック評価によると概ね目標は達成できたものと思われる。81%の学生がプレゼンテーションを効果的に行うために必要な準備・姿勢・資料を理解し、78%の学生がプレゼンテーションに積極的に取り組んだと回答している。	特になし	医歯薬合同で次年度に向けて議論する。				
	⑯設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
	⑰学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
	⑱学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
	⑲設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
	⑳設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
	㉑学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
ラーニングスキル 協働能力	⑳振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない	レポート提出によりSIH道場全体の振り返りができた。また、教員の評価およびコメントを学生にフィードバックできた。88%の学生が学修を振り返ることの重要性を理解し、57%の学生が振り返りに積極的に取り組んでいると回答している。	特になし	医歯薬合同で次年度に向けて議論する。				
	㉒各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
	㉓学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	<input checked="" type="radio"/> はい	どちらともいえない 設計していない							
	㉔実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成29年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するため、{5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ふつ、2.やや不十分であった、1.不十分であった}。	5	④				3	2	1	
	※その他、他の授業との接続・所属内・授業運営等の課題がありましたら書きください。									
	総合							アンケートにおいて、SIH道場のプログラムは全体的に大学での学修において役立つと回答している学生は34%と低く、改善の余地がある。	カリキュラム編成により、早期体験の再検討が見込まれる。	

## 8. 薬学部

## 平成 29 年度 SIH 道場 薬学部 授業詳細

## ■ 目的

- 1) 徳島大学の新生が大学教育の意義を理解するとともに、自身の専門分野における先端研究を早期に体験することで、研究者・医療人としてのプロ意識を早期に構築する。
- 2) 学習の基本となる文章作成法、プレゼンテーション方法論、自己評価法を学び、それらの実践を通して大学教育に能動的に参加できる知識、技能、態度を身につける。
- 3) 医療現場で働く各専門職種を目指す学生が相互理解し、将来、ともに円滑なチーム医療を行える基盤を形成する動機付けを行う。
- 4) 医療人を目指す学生として何をすべきか、今後の学生生活で何を学び、修得していくべきかを、他学部、他学科の学生と共に考え、お互いから学ぶことを通して、チーム医療の重要性を認識する。

## ■ 到達目標

チーム医療の基盤を形成することができる

- (1) ノンテクニカルスキル（コミュニケーション力）を育成することができる。
- (2) 班員の意見をまとめて理論的に説明することができる。
- (3) チーム医療入門（蔵本地区合同ワークショップ）に積極的に参加し、他学部学生とコミュニケーションを取りながら、協力してプロダクトを作成できる協働力を養うことができる。
- (4) 将来の進路や方向性について考察し、大学における学習と関連させて説明することができる。
- (5) レポートの作成において、注意すべき点について説明することができる。
- (6) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を使うことができる。
- (7) 学習の振り返りや気づきを基に、今後の学修計画を立てることができる。

## ■ 成績評価

「チーム医療入門振り返りレポート」「ラーニングスキル・ルーブリック評価表」「プレゼンテーションプロダクト」をもとに評価する。

## ○「チーム医療入門振り返りレポート」

チーム医療入門で学んだこと、今後の学習の目標について、A4 用紙一枚（1000 字程度）にまとめる。

## ○「ラーニングスキル・ルーブリック評価表」

ラーニングスキル＜協働力＞ルーブリック評価表及び、ラーニングスキル＜プレゼンテーション力＞ルーブリック評価表については、チーム医療入門 WS でチューターから評価を受ける。

ラーニングスキル＜文章力＞ルーブリック評価表については、担当教員より評価を受ける。

## ○「プレゼンテーションプロダクト」

チーム医療入門 WS で他学部学生と協働して作成する。

## 【合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・体験学習について、すべて出席すること。（必須）
- ・「チーム医療入門振り返りレポート」について、指定項目が全て記載されていること。（必須）
- ・作成したプレゼンテーションプロダクトが添付されていること。（必須）
- ・「自分がポスター発表をしている様子」の動画へのリンクが付与されていること。（任意）
- ・その他、レポートに必要なだと思う内容。（任意）

## 8. 薬学部

### ■ 授業内容概略

早期体験学習として先輩の講演等を聴講する。また、チーム医療入門に参加し、他学部学生と協働してプレゼンテーションコンテンツを作成し、発表、討議する。

平成29年4月 4日 (火)	10:35～10:50	SIH 道場説明
平成29年4月 7日 (金)	8:40～ 9:40	講演「薬局で働く」
	13:00～15:00	講演「薬害について、B型肝炎について」
平成29年4月12日 (水)	8:30～10:45	「薬学の祖を学ぶ ～こころざし～」
平成29年9月29日 (金)	13:00～17:00	チーム医療入門ワークショップ

### ■ SIH 道場終了後に担当教員が行うこと

- 1) 担当クラスの学生が提出した「チーム医療入門振り返りレポート」「ラーニングスキル・ルーブリック評価表」「プレゼンテーションプロダクト」が合格基準を満たしているか確認する。
  - ・不合格者には「再提出要求」を出す。
  - ・合格者については、大学入門講座の単位を認定する。
- 2) 「SIH 道場実施報告書」の提出
  - ・所定の様式に沿って作成・提出する。(様式は、Word 版、e ポートフォリオ版の2つがある)
  - ・提出先は e ポートフォリオシステム上とする。
- 3) 学生の振り返りに対して、フィードバックする。

### ■ SIH 道場終了後にコーディネーターが行うこと

- ・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

## 8. 薬学部

<体験学習（SIH 道場，チーム医療入門）>

### ○ 事前学習

- ・ビデオコンテンツ「SIH 道場とは」を視聴する。

### ○ 授業内容

日 時	経過 時間	内 容	備 考
4月4日（火） 10：35 ～10：50	10分	オープニング 出席確認、薬学部 SIH 道場説明	佐藤 (授業設計コーディネーター)
4月7日（金） 8：40 ～9：40	60分	講演「薬局で働く」 (医療系)	薬学部非常勤講師
13：00 ～15：00	120分	講演「薬害について，B型肝炎について」 (薬学全般)	薬被連講師 B肝訴訟原告・弁護団講師
4月12日（水） 8：30 ～8：45	15分	薬学の祖を学ぶ～こころざし～導入 長井長義簡易説明，ミニテスト	教務委員
8：45 ～10：45	120分	薬学の祖を学ぶ～こころざし～ (創薬系)	教務委員
9月29日（金） 13：00 ～17：00	240分	チーム医療入門（蔵本地区合同ワークシ ョップ）	チーム医療入門チューター

### ○ 事後学習

1. それぞれの体験学習について，感想・学んだこと等をまとめる。
2. 自分の将来の進路や方向性について考察し，大学における学習と関連づけ，まとめる。

<ラーニングスキル（チーム医療入門ワークショップ）>

### ○事前学修

1. 動画視聴：医療安全におけるノンテクニカルスキルの重要性（約15分）
2. 補助資料確認：動画内容理解を深めるための資料
3. KJ法：ワークショップで利用するKJ法の進め方

### ○授業内容（当日スケジュール）

- 12:20 受付
- 13:00 オープニングリマーク・オリエンテーション
- 13:20 基調講演「チーム医療への人間工学からの提言」  
講師 内藤 毅 先生（徳島大学国際センター 特任教授）
- 14:10 質疑応答
- 14:20 ワーク会場へ移動
- 14:30 ワークショップ開始
- 16:00 成果発表
- 16:35 「SIH道場アンケート」記入など
- 17:00 終了・片付け

### ○事後学修

1. 「チーム医療入門振り返りレポート」の作成
2. 評価表による教員からのフィードバック

# SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

## 理工学部 理工学科社会基盤デザインコース

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	社会基盤に関する興味関心を喚起し、学習・研究に対する動機づけを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートの作成の提出</li> </ul>	現場見学のキーワードを調べ	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分野の概要の説明</li> <li>現場見学</li> </ul>	SIH道場の授業 枠内で実施
文章力	体験学習のレポートを作成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出物をループブックを用いて評価する</li> </ul>	反転授業ビデオコンテンツ「文章力」の4つの動画を視聴	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験学習をレポートで作成。</li> <li>レポートについて、ループブックを用いた評価</li> </ul>	SIH道場の授業 枠内で実施
② プレゼンカ	効果的なプレゼンテーションを行うことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションをループブック評価表を用いて評価する</li> </ul>	反転授業ビデオコンテンツ「プレゼンカ」の3つの動画を視聴	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別テーマをまとめたコンテンツ（ポスター）について、プレゼンテーションならびに教員との質疑を行う。</li> <li>プレゼンテーションについて、ループブックを用いた評価</li> </ul>	STEM演習の授業 枠内で実施
協働力	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる	上記と同じ	反転授業ビデオコンテンツ「協働力」の3つの動画を視聴	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会基盤に関する個別テーマについてグループ内で意見交換し、ポスター作成を協働で行う。</li> </ul>	STEM演習の授業 枠内で実施
			③ 学習の振り返り		
			直接的な振り返りはないが、レポートを作成することが振り返りとなる。		
			教員は提出されたレポートに対してコメントを付記し、学生へ返却することとでフィードバックする。		
			作成したポスターをコース事務室に保管し、いつでも振り返られるようにする。		
			上記と同じ		

## 9. 社会基盤デザインコース



# 平成29年度SIH道場 プログラム設計評価シート

理工学部 理工学科 社会基盤デザインコース ※学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

要素	項目	チェック	平成28年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応	
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない	現場見学において、担当者からの話を向う時間を十分にとった。	アンケートにおいて9割弱の学生が専門分野に対する興味が深まったと答えており、「とても当てはまる」と「どちらかと言えは当てはまる」の合計)一定の学修成果があったとみられる。	行程に見学ポイントが詰め込みすぎないようになりたい。	適切な見学場所の確保。	
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい どちらともいえない 設計していない					
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい どちらともいえない 設計していない					
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない	反転授業ビデオコンテンツ「文章力」の4つの動画を視聴するよう指示した。	アンケートにおいて9割の学生がレポート等の学術的文章を書く際に必要準備やルールを理解したと答えており、「とても当てはまる」と「どちらかと言えは当てはまる」の合計)一定の学修成果があったとみられる。	学修の振り返りを効果的に行えるように工夫。		
	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない					
	⑥学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない					
ラーニングスキル プレゼン力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい どちらともいえない 設計していない					
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない	反転授業ビデオコンテンツ「プレゼンテーション力」の3つの動画を視聴するよう指示した。	小グループで調査した後、ポスター発表を行っており、その評価から一定のプレゼン力の向上が見られた。	本項目はSTEM演習において実施したが、SIH道場の一端でもあることを学生らは理解していない点。	プレゼン力はSTEM演習において学修することを、学生へ周知徹底する。	
	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない					
ラーニングスキル 協働能力	⑩学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない					
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい どちらともいえない 設計していない					
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない	反転授業ビデオコンテンツ「協働能力」の3つの動画を視聴するよう指示した。	小グループで調査した後、ポスター発表を行っており、その活動から協働力の向上が見られた。	本項目はSTEM演習において実施したが、SIH道場の一端でもあることを学生らは理解していない点。	協働力はSTEM演習において学修することを、学生へ周知徹底する。	
振り返り	⑬設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない					
	⑭振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい どちらともいえない 設計していない	小グループ調査、ポスター発表による早期体験の振り返りの効果がある」と期待できる。	振り返りについては、アンケートからその重要度が認識されていると見受けられるが、実際、どの程度振り返りが行われているかは不明。	振り返りへの取り組みが不十分である点。	振り返りの時間を小グループ調査の中で設ける。	
	⑮各授業(体験を含む)の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい どちらともいえない 設計していない					
総合	⑯学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい どちらともいえない 設計していない					
	⑰実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成29年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、{5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ぶつ、2.やや不十分であった、1.不十分であった}。	5 (4) 3 2 1	反転授業ビデオコンテンツの活用	現場見学、レポート作成、小グループ調査、ポスター発表の一連の学修により、設計した到達目標はほぼ達成している。	振り返りへの取り組みが不十分である点。	振り返りの時間を小グループ調査の中で設ける。	
	※その他、他の授業との接続・所属内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。						

## 9. 社会基盤デザインコース

## 9. 社会基盤デザインコース

### 平成 29 年度 SIH 道場 工学部理工学科社会基盤デザインコース 授業詳細表

■目的：徳島大学の新生が大学における学習について理解するとともに、社会基盤に関する興味関心を喚起し、学習・研究に対する動機づけを行う。また、現状の社会基盤の課題に対する自主的な学習を通じて、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標：

- (1) 社会基盤に関する概要を理解する。
- (2) 能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身に付ける。

■成績評価：レポートによって評価する。

#### 【SIH 道場レポートの内容】

- 体験学習個人レポート（文章力の目標に対応）
  - ・体験学習で学びたいと考えていたこと（事前）、実際に学んだこと（事後）、今後の目標の 3 点について A4 判 1 枚程度のレポートを作成する。
  - ・ルーブリックの「文章力」（別紙①）に従って評価する。

#### 【SIH 道場レポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・レポートに、社会基盤に関する概要がまとめられていること（必須）
- ・SIH 道場の収穫を 1 つ以上挙げて、説明すること。収穫が全くない場合は、その理由とどうすれば収穫が得られそうかを書くこと。（必須）
- ・その他、レポートに必要なだと思う内容（任意）

#### 【STEM 演習の内容】

- ・4 から 5 人のグループ単位で社会基盤に関する個別テーマを設け、能動的に調査し、結果をポスターにまとめ、プレゼンテーションを行う。
  - ・プレゼン力と協働力の目標に対応。
  - ・プレゼンはルーブリックの「プレゼン力」（別紙①）に対応。
  - ・STEM 演習の詳細は別紙②参考のこと。

#### ■授業内容（90 分）×8 回＋体験学習（詳細は次ページ）

<大まかな流れ>

体験学習を中心に、将来の仕事について考える。

- 1～2 回目 社会基盤に関する様々な分野の概要
- 3～8 回目 社会基盤施設の現状調査・見学

## 9. 社会基盤デザインコース

■8回目の授業後（SIH 道場終了後）に担当教員が行うこと

1) 担当クラスの学生が提出した「SIH 道場レポート」の添削

・不合格者には「再提出要求」を出す。

2) 「SIH 道場実施報告書」の提出

・所定の様式に沿って作成・提出する。（様式は、Word 版、e ポートフォリオ版の 2 つがある）

・提出先は e ポートフォリオシステム上とする。

3) 他の担当教員の「SIH 道場実施報告書」の閲覧と相互コメント

■8回目の授業後（SIH 道場終了後）にコーディネーターが行うこと

・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

## 9. 社会基盤デザインコース

### 【1・2回目】

日時：平成29年4月7日（金）16：20～19：30 場所：K507

#### ○事前学習

1. ビデオコンテンツを見る（SIH 道場とは・文章の書き方の基本・プレゼンテーションの基本・チーム作業の基本（仮）。「SIH 道場とは」「チーム作業の基本（仮）」は必須。その他は2回目の開始前までに見る。

#### ○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 教員の自己紹介、出席確認、最終課題の確認、今日の課題の確認（グループ課題：理想的な仕事） 導入の最後に、事前課題をやっていない人が分かっていることを通告	授業内容ではなく、最終課題（SIH 最終レポートと合格基準）を説明する。
120分	◆教員からの各分野の概要の説明 ・土木分野の概要 ・建築分野の概要 ・質疑応答 ◆現場研修の概要，訪問先の説明，発表会の説明 ・訪問先の見どころ，見学のポイントの説明 ・見学会の内容についてのポスター発表会の概要説明	
5分	◆クロージング 次回の確認	

### 【3・4・5・6・7・8回目 現場見学の実施】

日時：平成29年4月15日（土）7：30～18：30

見学場所：竹ヶ島，海陽町文化村，大里海岸

#### ○事前学習

1. 現場見学についてのキーワードについて調べておく。

#### ○授業内容（約半日；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

時間	内容	注意点・教材
10分	◆オープニング 教員の自己紹介、出席確認、現場見学での注意点について説明	SIH 道場レポートと合格基準を説明する。
終日	●現場見学 学生は気づいたことをメモしながら現場見学を行う。	
5分	◆クロージング 点呼および諸連絡	



# SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

# 理工学部理工学科機械科学コース

# 10. 機械科学コース

	内容			授業実施枠	
	事前学習	授業	③学習の振り返り		
① 体験学習	到達目標 1. 社会生活の中で機械工学が果たしている役割の一端を理解する。 2. もの作りの基本を理解する。 3. プレゼンテーションの方法を修得する。	評価方法・基準 実習への取り組み態度を30点、レポートの提出状況と内容を70点として評価する。	事前学習 実習手順書を事前に確認し、内容を理解してから実習に臨むように指導する。	授業 安全についての考え方をまますぎ取り上げ、工作機械類を使用したもの作り、デモの分解・組立・運転を実習するとともに、性能試験や材料試験を行い、これから学ぶ機械工学・技術の具現方法の一端を体験する。	授業実施枠 機械工学科専門科目「機械科学実験」の中で実施
文章力	自らが果たした役割、反省点などを客観的に振り返る文章を書くことができる。	レポートの文章を評価する。		合宿研修時に論理的な文章の書き方に関する指導を行う。	SIH道場「集中研修」の枠内で実施
② プレゼンカ	自らの主張を論理的に分かちやすく相手に伝えることができる。	レポートでの発表技術を評価する。		大学での事前説明時にダイバートの方法や効果的なプレゼン法について指導を行う。	SIH道場「集中研修」の枠内で実施
協働力	同じグループの学生と協働して準備作業を行うことができる。	レポートの記述内容及び実際のダイバート準備作業を評価する。	大学での事前説明時にグループ内での役割を決めさせ、資料収集等の事前準備を行わせる。	集中研修時にグループ作業を行わせ、立論・反論の組み立てを共同で行わせる。	SIH道場「集中研修」の枠内で実施
				各ダイバート終了後にダイバートの内容について教員がコメントして学生にフィードバックする。	
				各ダイバート時に立論・反論の組立について教員が逐次コメントして学生にフィードバックする。	

平成29年度SIH道場 プログラム設計評価シート

理工学部 理工学科 機械科学コース ※学生のポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

要素	項目	チェック	平成28年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応			
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない	実験の説明段階で機械工学のどの分野に応用されている技術かを詳細に説明するように心がけ、動機付けの促進を図った。	機械加工、エンジン等の分解・組み立て、運転、材料試験等の実習及びレポートの作成・指導を通じて、目標とした「社会生活の中で機械工学が果たしている役割の一端を理解する。」及び「もの作りの基本を理解する。」を達成できたものと考えている。	ねじ締めなどの正しい方向やドライバーなどの基本工器具を使用することがないことなど、回数が増加している。機械に関わる学習を学ぶ上で必須の経験・知識であるため、小学生までに体験すべき事項も修得できていない前編で体験学習を行う必要があるのかもしれない。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。			
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない							
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない							
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない	文章力の向上に関しては、平成28年度と同様に、研修時に担当教員から個別指導を行った。実験レポートにおける文章力の指導においては教員からのフィードバックを実施する必要がある。	資料を用いながら論理的な文章の書き方に関する指導を行い、振り返りを含めた大学入門講座全体の振り返りを行なった。また、評価基準としてルーブリックをもとに学生の注意点を評価し、ほとんどの学生が注点を意識した文章の作成に役立った。また、振り返り内容についても到達目標である「自らが果たした役割、反省点などを客観的に振り返る文章を書くことができる。」をほとんどの学生が満足できた。	レポートの採点を1年担任4人で行ったが、ルーブリックを用いても評価にばらつきが生じる。そのため、ルーブリックの改善が必要と感じている。また、学生へのフィードバックの仕組みを構築する必要がある。	本年度の内容を同条件下で継続して行い、数年をかけて学修効果の有無について検討を行う。			
	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない							
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない							
ラーニングスキル プレゼン力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない							
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	⑩設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	⑬設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	⑭学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った
	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない							
ラーニングスキル 協働能力	⑩設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない	⑪設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	⑫設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	⑬設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	⑭学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った		
	⑪設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない							
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない							
振り返り	⑯振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはチャットの利用などで理解を促した	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない	⑰振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはチャットの利用などで理解を促した	⑱各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	⑲学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	⑳実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成29年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、{5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ぶつ、2.やや不十分であった、1.不十分であった}。	※その他、他の授業との接続、所属内・授業・運営委員の課題がありましたらお書きください。		
	⑰各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない							
	⑱学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 設計していない							
総合		5 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1	教員は同様の内容を継続実施する必要があると考えており、総合的には昨年度の実施体制と特に大きな変化は無い。	平成29年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するためにおおむね十分であったと言える。	・ルーブリックの再設計 ・オリエンテーション日程の再検討 ・レポート事前準備時間の確保 ・体験学習レベルの再検討	・ルーブリックの再設計 ・オリエンテーション日程の再検討 ・レポート事前準備時間の確保 ・体験学習レベルの再検討			

## 平成 29 年度 工学部理工学科機械科学コース

## SIH 道場 &lt;授業詳細集中講義型&gt;

■目的：徳島大学の新入生が大学における学習について、理解するとともに、自身の専門分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

## ■到達目標：

- (1) 自身の専門分野における先端研究（現場）と大学における学習について、関連させて説明することができる。
  - ・ 社会生活の中で機械工学が果たしている役割の一端を理解する。
  - ・ もの作りの基本を理解する。
  - ・ プレゼンテーションの方法を修得する。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について 1 つ以上説明することができる。
  - ・ ディベートや実習において自らが果たした役割、反省点などを客観的に振り返る文章を書くことができる。
- (2-2) 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。
  - ・ 事実に基づいて自らの主張を論理的に分かりやすく相手に伝えることができる。
- (2-3) 他者と協同して 1 つの課題に取り組むことができる。
  - ・ ディベートや実習で同じグループの学生と協働して準備作業を行うことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。
  - ・ ポートフォリオ等を利用して、振り返りを行うことができる。

■成績評価：「SIH 道場最終レポート」を以下の合格基準をもとに評価する。

## 【SIH 道場最終レポートの内容】

以下の 1) ～ 4) を含む「SIH 道場最終レポート」を作成すること。レポートは手書きで作成する。

## 1) ポスター（協働力の目標に対応）

- ・ 体験学習の成果を、期日までにチームで 1 枚のポスターにまとめて写真を撮る。
- ・ ルーブリックの「協働力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

## 2) ポスター発表（プレゼン力の目標に対応）

- ・ 1) で作成したポスターをつかって、グループ以外のメンバーにチームの成果を説明する。
- ・ ルーブリックの「プレゼン力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

## 3) 体験学習個人レポート（文章力の目標に対応）

- ・ 体験学習で学びたいと考えていたこと（事前）、実際に学んだこと（事後）、今後の目標の 3 点について A4 判 1 枚程度のレポートを作成する。



## 10. 機械科学コース

・配付したループリックの「文章力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

### 4) SIH 道場での収穫

#### ■授業内容（日帰り研修＋機械科学実験 1）

<授業スケジュール>

実施日時	内容
4月8日（土）10:00～17:00	SIH 道場の説明・授業の進め方・グループによるディベート（協働 力・プレゼンテーション力）・文章の書き方（文章力）
前期・機械科学実験 1	体験学習及び振り返り（文章力・協働力）

#### ■最終回の授業後（SIH 道場終了後）に担当教員が行うこと

##### 1) 担当クラスの学生が提出した「SIH 道場最終レポート」の添削

- ・不合格者には「再提出要求」を出す。
- ・合格者には点数をつける。（100点満点）

##### 2) 「SIH 道場実施報告書」の提出

- ・所定の様式に沿って作成・提出する。（様式は、Word 版、e ポートフォリオ版の 2 つがある）
- ・提出先は e ポートフォリオシステム上とする。

##### 3) 他の担当教員の「SIH 道場実施報告書」の閲覧と相互コメント

#### ■最終回の授業後（SIH 道場終了後）にコーディネーターが行うこと

- ・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

【4月8日】

○事前学習

1. ディベートに関する情報・資料収集

○授業内容（集中講義；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

10：00 ●▲ディベート（詳細は次ページ）

11：45 交流会 昼食

12：50 全体セミナー①

◆レポートの書き方入門

◆卒業後の進路・就職について

◆充実した学生生活を送るために

14：20-14：35 休憩

14：35 全体セミナー②

◆カルト，悪質商法，薬物に関する基礎知識

◆大学での学習方法

◆パソコンの利用方法など

○事後学習

1. 添削されたレポートが返却されるので、各人はそれを見てレポートを修正・再提出。

## 新入生日帰り研修 ディベート入門

### 1. 概要

新入生合宿研修の懇談時間を用いて「ディベート入門」を行う。学生は当日までに資料を熟読し、ディベートのテーマに関するデータ収集を行っておくこと。今回は、各自、肯定・否定の両意見を箇条書きでまとめておくこと。**ディベート立論に必要なデータ収集を行っていない学生には「SIH 道場」の単位を認定せず、別途小論文の執筆等の特別課題を設定する。**

### 2. 進め方（時系列）

#### 2.1 ディベートの概略説明（オリエンテーション時）

大学入門講座の時間に「ディベートとは何か」について説明し、ディベートのテーマについて紹介する。

#### 2.2 ディベートの準備（全学生：オリエンテーション期間中）

与えられたテーマに基づいて、「肯定側」、「否定側」両方の立論を行うためのデータ収集を、合宿研修当日までに行う。

（「肯定側」、「否定側」の組分けはディベート当日に行うので、必ず「両方の」データ収集を行うこと。）

#### 2.3 ディベートの実施（日帰り研修時）

### 4. ディベート

#### 4.1 ディベートとは

ディベートの特徴は、つぎの3点に集約される。

- ①集会や議会等の公共的(public)な議論を行う場において、何らかの論点、課題について、
- ②対立する複数の発言者によって議論がなされ、
- ③多くの場合、議論の採否が議論を聞いていた第三者による投票によって判定される。

ここから、そもそもディベートというものが、一定の場面－公共的な意志決定－で行われるものであることが分かる。また、第三者を納得させるという論述ゲームとも言える。そのため、ゲームを成立させるためには幾つかの気をつけなければならない観点がある。

#### 4.2 ディベートで必要になる技術や能力とは

ディベートに必要な(ディベートによって身に付く)能力・技術は、主に以下の4点とされている。

##### (1) 理解力

議論の大前提として、論題の背景を理解すること、相手の発言内容、意図を理解することが必要である。理解力には、相手の主張を適切に聞き取るリスニング能力、それをメモに取る技術なども必要となる。

##### (2) 分析力(批判的思考力)

まず、相手の主張内容を吟味して、その論証が十分な根拠を有しているか等を客観的・批判的に分析する能力が必要である。さらに、相手の主張と自らの主張との一致点と相違点を明確にし、相違点がなぜ生まれるのか

を分析し、自らの主張を正当化できる能力、また、これらの論理展開を可能とする知識を得るための調査能力も必要となる。

### (3) 構成力

相手の論証が十分な根拠を有しているか、双方の主張の相違点と自らの主張の優位性をわかりやすく伝えるためには、自らの発言内容をわかりやすく、説得力ある構成をする能力が必要となる。構成力には、議論の組み立て方、並べ方、表現の選択、時間配分等を適切に行う能力も含まれる。

### (4) 伝達力

どんなに優れた構成でも、早口で棒読みしたり、相手の理解を確かめもせずに一方向的にしゃべったりすると、その内容を関係者に伝えることはできない。関係者の判断を求める立場上、発言者は、自らの考えを関係者全てに効率よく判りやすく伝達するプレゼンテーション能力が求められる。

## 4.3 理想的なディベートを行うために

### (1) 議論内容と人格(発言者の属性)の分離

ディベートで正しい理性的な判断を導くには、発言者の「人格」や社会的地位、年齢等の「属性」に頼った議論(例:「こどもが偉そうなことをいうな」、「大学教授が言うのだからそうだろう」)ではなく、「発言内容」「論拠」による判断が大事である。「誰が」ではなく、「何を」議論したのかを問う。

人格や属性に関する議論は、適切な結論を導き出すのに全く役立たないばかりか、感情的な対立を生み、合理的な判断ができなくなる原因にもなる。ディベートに限らず、どのような議論形態においても避けなければならない。

### (2) 信念や思い込みによる事実誤認や偏向等の排除

公共的な問題に対しては多数の不特定第三者が関係するので、ディベートでは人格と議論の内容を分離し、客観的・論理的な根拠に基づいて議論を展開し、その根拠が覆されれば主張を撤回する論理性・客観性をトレーニングする。信念は人格を構成する大事な要素であるが、客観的な根拠や論理的な考え方によらない信念や思い込みに基づく議論は、事実認識を偏らせたり、感情的なやり取りを誘発して、適切な判断の障害となる。

## 4.4 ディベート進行表

1. (3分) 全体説明、および、肯定側チーム・否定側チームのグループ分け
2. (10分) 【作戦タイム】各グループで、各自収集したデータをどの様に使うか、どの様な順番で発表するか、立論のシナリオを検討する。
3. (5分) 肯定側チーム立論(全員が分担)
4. (3分) 否定側からの反対質問
5. (5分) 否定側チーム立論(全員が分担)
6. (3分) 肯定側からの反対質問
7. (10分) 【作戦タイム】両チームの立論、反対質問を受け、どの様に自分たちの議論を補強するのかについて検討する。
8. (4分) 否定側の最終弁論立論(代表者)

## 10. 機械科学コース

9. (4分) 肯定側の最終弁論立論 (代表者)

10. (3分) 【判決・コメント】

### 5. 平成29年度のディベートのテーマ

「学生生活にアルバイトは必要か否か？」

### 【前期：機械科学実験 1】

#### ○事前学習

1. テキストを十分に読んで、作業の流れ、学習のポイントを事前にまとめる.

#### ○授業内容（実習）

実際の各種機械に慣れ親しみ、その構成要素、機構、精度、性能などを調べることによって、機械工学や技術と機械との有機的つながりを考える。各種製品の製作を通して具現化の方法、図面の読み方などを体験学習する。これらを通じて機械工学の果たす役割を認識するとともにものづくりの素養を身につける。

安全についての考え方をまず取り上げ、工作機械類を使用したものづくり、ディーゼルエンジンとサーボモータの分解・組立・運転を実習するとともに、性能試験や材料試験を行い、これから学ぶ機械工学・技術の具現方法の一端を体験する。

1. ◆安全教育, 実習の概要
2. ▲NC プログラミング
3. ▲MC 工作機械によるマグネットチャッカーの製作
4. ●レポート作成
5. ▲八角リングを用いた荷重の測定
6. ▲溶接実習
7. ●レポート作成
8. ▲ディーゼルエンジン分解
9. ▲ディーゼルエンジン組立・運転
10. ●レポート作成
11. ▲汎用旋盤による引張り試験片の製作
12. ▲引張り試験
13. ●レポート作成
14. ▲サーボモータの分解・組立
15. ▲サーボモータの性能試験
16. ●レポート作成

◆学生は気づいたことをメモしながら体験学習を行う。

#### ○事後学習

1. 各单元ごとにレポートを作成し、担当教員の指導を受ける。



# SIH道場必須項目設計表（概要のみ）

## 理工学部理工学科応用化学システムコース

### 11. 応用化学システムコース

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① <b>体験学習</b>	話題となっていて重要な科学技術あるいは社会的に重要な技術などについて理解し、大学での学習内容との関連を説明できる。	出席状況、参加した教員との対話ができていること。	高校卒業までの経験	研究者である大学教員の研究を知る、各自の興味ある科学技術が、大学での学習内容とどのようなように関連するかを調査する。	SIH道場 (研修旅行)
<b>文章力</b>	大学4年間で取り組みたいことを文章で表現できる。	論理的、科学的な思考力で書けていること。	moodle上の自習ビデオを閲覧する。テキスト「アングテイブ」の「ラーニング入門」の記載内容を理解する。	各自の興味ある科学技術を論理的かつ科学的に整合性のある文章で表現する。	SIH道場
② <b>プレゼンカ</b>	クラスメートの前で自己紹介で語る。	誠実に分かりやすく説明できていること。	moodle上の自習ビデオを閲覧する。テキスト「アングテイブ」の「ラーニング入門」の記載内容を理解する。	自己紹介を行う。その際、各自の興味ある科学技術を口頭で論理立てて説明する。	SIH道場
<b>協働力</b>	研修旅行にて協働で清掃活動など活動を行うことができる。	グループメンバーを思いやり、活動に対して積極的な貢献ができていること。	moodle上の自習ビデオを閲覧する。テキスト「アングテイブ」の「ラーニング入門」の記載内容を理解する。	研修旅行にて清掃活動や地引き網などを行う。積極性を持って活動に参加する。	SIH道場 (研修旅行)
				③ <b>学習の振り返り</b> ルーブリック評価表で自己評価する。自己評価に対して教員がコメントを記入する。	



平成29年度SIH道場 プログラム設計評価シート

理工学部 理工学科 応用化学システム コース ※学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、アンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

要素	項目	チェック	平成28年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応	
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない	該当せず	該当せず	該当せず	該当せず	
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい どちらともいえない 設計していない					
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい どちらともいえない 設計していない					
	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない	特になし	興味を持ったテーマに関して学習した結果について、意図した構造を持った文章で伝えるための訓練ができた。	なし	本年度と同様に行う	
	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない					
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない					
	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい どちらともいえない 設計していない					
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない	特になし	自ら資料調査をして研究した内容を、パワーポイント・スライドを使って、他の人たちに伝える訓練ができた。	なし	本年度と同様に行う	
	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない					
	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない					
ラーニングスキル 文章力	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい どちらともいえない 設計していない					
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない	特になし	一つの研究テーマに対して、少人数のグループで取り組んだ。各自の役割を決めてリサーチを行い、その結果を持ち寄りまとめてまとめることで協働力を高める訓練ができた。	なし	本年度と同様に行う	
	⑬設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない					
	⑭学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない					
	⑮学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい どちらともいえない 設計していない					
	⑯振りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい どちらともいえない 設計していない	特になし	グループ協働を通して調べた内容を、さらにレポートに文章でまとめる訓練を行い、自分が以前に書いた要旨を改善することで振り返りを行うことができた。またそのレポートを教員が読んで学生にコメントを返すやり取りを行い、再度の振り返りを行うことができた。	なし	本年度と同様に行う	
	⑰各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい どちらともいえない 設計していない					
	⑱学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい どちらともいえない 設計していない					
	ラーニングスキル 協働能力	⑲実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成29年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、{5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ふつ、2.やや不十分であった、1.不十分であった}。	5 4 3 2 1				
		※その他、他の授業との接続・所属内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。					
総合							

11. 応用化学システムコース

### 平成 29 年度 SIH 道場 理工学部理工学科応用化学システムコース 授業詳細

■目的：徳島大学の新生が大学における学習について、理解するとともに、自身の専門分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標：

- (1) 話題となっている科学技術あるいは社会的に重要な技術などについて理解し、大学での学習内容との関連を説明できる。
- (2) 大学4年間で取り組みたいことを文章で表現できる。
- (3) クラスメートの前で自己紹介できる。
- (4) 研修旅行にて協働で清掃活動など活動を行うことができる。
- (5) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■成績評価：「SIH 道場最終レポート」を以下の合格基準をもとに評価する。

【SIH 道場最終レポートの内容】

以下の1)～3)を含む「SIH 道場最終レポート」を作成すること。

- 1) 研修旅行における協働作業（協働力、文章力の目標に対応）
  - ・協働作業を行い、その内容および感想を文章で表現する。
  - ・ループリックの「協働力」および「文章力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- 2) 自己紹介（プレゼン力の目標に対応）
  - ・自己紹介を行い、興味ある科学技術について説明する。
  - ・ループリックの「プレゼン力」に該当するすべての項目について、自己評価する。
- 3) SIH 道場での収穫

【SIH 道場レポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・「自己評価」が記入された「協働力」「プレゼン力」「文章力」のループリックが添付されていること。(必須)
- ・研修旅行の内容が適切に表現されていること。(必須)
- ・自己紹介および、興味ある科学技術に対する考えが適切に表現されていること。(必須)
- ・SIH 道場の収穫を1つ以上挙げて、説明すること。(必須)
- ・その他、レポートに必要なだと思う内容(任意)

## 11. 応用化学システムコース

### ■授業内容（90分）×5回＋体験学習（詳細は次ページ）

<大まかな流れ>

大学で自主的な学ぶ手段を身につけるとともに、将来の仕事について考える。

1. 大学で学ぶとはどういうことかについて考え、学ぶために必要な事柄を理解する。
2. 学習に必要な情報を検索する方法を理解する。
3. 学びのしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに学習支援室の上手な利用方法を紹介し、これからの4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。
4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを学ぶ。
5. 健康的に学生生活を送るために保健管理センターや、健康管理法などについて学ぶ。
6. コミュニケーションの取り方の向上を図り、学生と学生、学生と教員の相互理解を深める。

※各回の詳細は次ページ

### ■毎回の授業後に担当教員が行うこと

- ・担当クラスの学生が提出した「振り返りシート」の確認または一言コメント。

### ■全ての授業後（SIH 道場終了後）に担当教員が行うこと

- 1) 担当クラスの学生が提出した「SIH 道場最終レポート」の添削
  - ・不合格者には「再提出要求」を出す。
  - ・合格者には点数をつける。（10点満点）
- 2) 「SIH 道場実施報告書」の提出
  - ・所定の様式に沿って作成・提出する。（様式は、Word版、eポートフォリオ版の2つがある）
  - ・提出先はeポートフォリオシステム上とする。
- 3) 他の担当教員の「SIH 道場実施報告書」の閲覧と相互コメント

### ■全ての授業後（SIH 道場終了後）にコーディネーターが行うこと

- ・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

## 11. 応用化学システムコース

### 【1回目】

#### ○事前学習

テキスト「アクティブラーニング入門」の記載内容を理解する。

#### ○授業内容（4月4日、90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、概要説明	
15分	◆レクチャー 本コースの概要の説明を行う（15分）	
15分	◆レクチャー 教員の紹介を行う（15分）	
40分	◆レクチャー 大学で学ぶということについて説明する（40分）	
10分	●振り返り 授業全体を振り返り、一言コメントと自己評価を振り返りシートに書く（5分）	評価視点：自己理解のルーブリック評価
5分	●クロージング 振り返りシート（全員）の提出	

#### ○事後学習

1. 配付資料の復習、不明点の解明。

## 11. 応用化学システムコース

### 【2回目】

#### ○事前学習

高校時代に身につけた学習方法、知識。

#### ○授業内容（4月4日、90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、概要説明	
30分	◆レクチャー 大学で学ぶ手段（40分）	
40分	●個人ワーク 高校での学習内容の振り返り（40分）	復習テスト
10分	●振り返り 授業全体を振り返り、一言コメントと自己評価を振り返りシートに書く（5分）	評価視点：自己理解のルーブリック評価
5分	●クロージング 振り返りシート（全員）の提出	

#### ○事後学習

1. 高校で使用した教材を使用し、不明点の解明。

## 11. 応用化学システムコース

### 【3回目】

#### ○事前学習

テキスト「アクティブラーニング入門」の記載内容を理解する。

#### ○授業内容（4月6日、90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、概要説明	
30分	◆レクチャー 情報機器および情報資源とその使用方法を説明（40分）	
40分	●個人ワーク 情報機器を実際に利用してみる（15分）	
10分	●振り返り 授業全体を振り返り、一言コメントと自己評価を振り返りシートに書く（5分）	評価視点：自己理解のルーブリック評価
5分	●クロージング 振り返りシート（全員）の提出	

#### ○事後学習

1. 配付資料の復習、不明点の解明。

## 11. 応用化学システムコース

### 【4回目】

#### ○事前学習

高校までに身につけた生活習慣

#### ○授業内容（4月7日、90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、概要説明	
50分	◆レクチャー 大学での学びで重要となる教養教育院の説明（50分）	
25分	◆レクチャー 大学生活における健康管理および健康保険センターの説明（25分）	
5分	●振り返り 授業全体を振り返り、一言コメントと自己評価を振り返りシートに書く（5分）	評価視点：自己理解のルーブリック評価
5分	●クロージング 振り返りシート（全員）の提出	

#### ○事後学習

1. 配付資料。

#### 【体験学習の実施】

- ◆コース教員とともに研修旅行に参加し、清掃活動・地引き網などの協働作業を行う。学生は教員と懇談し、最先端の科学技術および研究内容について話し合う。
- ◆体験学習で学んだこと及び興味ある科学技術についての説明を含む文章を作成し、ルーブリック（文章力）で自己評価をした上で提出する。

#### ○事後学習

SIH 道場最終レポートの作成と提出。

## 11. 応用化学システムコース

### 【5回目】

#### ○事前学習

テキスト「アクティブラーニング入門」の記載内容を理解する。

#### ○授業内容（4月7日、90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、概要説明	
70分	▲グループワーク グループに分かれて大学内を回り、各種施設の場所を確認する（70分）	
10分	●振り返り 授業全体を振り返り、一言コメントと自己評価を振り返りシートに書く（5分）	評価視点：自己理解のルーブリック評価
5分	●クロージング 振り返りシート（全員）の提出	

#### ○事後学習

1. 興味ある施設を再訪問し、その内容を詳細に理解する。





平成29年度 SIH道場必須項目設計表（概要のみ） 理工学部理工学科電気電子システムコース

	到達目標	評価方法・基準	内容			授業実施枠
			事前学習	授業	③学習の振り返り	
① 体験学習	自身の専門分野における先端研究（現場）と大学における学習について、関連させて説明することができる。	レポートの提出 ・プレゼンテーションコンテンツの提出		STEM演習において電気電子工学の演習を行う	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	STEM演習の授業 枠内で実施
文章力	論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。	提出物をルーブリック評価表に基づき評価	反転授業コンテンツ<文章力>の視聴・クイズの解答	レポートの書き方についての説明を行う	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする	SIH道場の授業 枠内で実施
② プレゼンカ	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。	提出物をルーブリック評価表に基づき評価	反転授業コンテンツ<プレゼンカ>の視聴・クイズの解答	STEM演習で実施したテーマについて5人程度の班に分かれてポスター形式でプレゼンテーションを行う	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする	SIH道場の授業 枠内で実施
協働カ	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる	提出物をルーブリック評価表に基づき評価	反転授業コンテンツ<プレゼンカ>の視聴・クイズの解答	STEM演習で実施したテーマについて5人程度の班に分かれてポスター形式でプレゼンテーションを行う	学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする	SIH道場の授業 枠内で実施

# 平成29年度SIH道場 プログラム設計評価シート

理工学部 理工学科 電気電子システムコース

※ 学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

要素	項目	チェック	平成28年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	① 設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	基本的に前年度の方法を継承しているが、SIH道場で提出したレポートについて、手順等を改善した部分はある。	学生アンケートでは専門分野への興味関心が高まったとの回答が多数であった。一方で、一定の効果が見られる。	STEM演習による成果が大きいが、授業時間内で実施する課題について、より良い課題があれば課題を差し替えるなど継続的に検討したい。	動機付けという重要な項目であり、学生アンケートで、否定的な少数の回答があったが、その背景について検討する必要がある。
	② 設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい	前年度から大きな変更はないが、SIH道場で提出したレポートについて、ルーブリック評価を用いた。	学生アンケートでは特に「1-3. 重要な準備や基本的なスキルを身につける」という点で、一定の効果が得られたと見られる。	SIH道場でのレポート提出でMHARAを活用しようとしたが、コーディネーター側での習得が追いつかず、他のLMSを使用した。複数のシステムが運用されたことにより選択肢があるのは良いが、複数のシステムの習得にかかる時間が増えると思われ。	今後も、実務的なレポートを作成としてSTEM演習のレポートを利用し、その大枠としてSIH道場での講義を活用するという形で継続したい。
	③ 学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい	前年同様、STEM演習で取り上げた課題についてグループワークの一環としてボススター発表させた。また教員による評価だけでなく、学生同士での相互評価も導入した。	学生アンケートでは、SIH道場の最終レポートで評価を行った。回答などから一定の効果が得られたと思われ、ルーブリック評価は各グループで1回だけであり、実際に身についたかどうかは判断は難しいと考える。	プレゼンテーション評価について、コースの教員にも案内したが、出席者は非常に少なかった。より多くの出席者が集まるように改善するべきと考える。	プレゼンテーションを実施する日時
	④ 設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	前年同様、ボススターワークとして実施した。	どのグループも成果物としてのボスターを作成し、発表できていた。また学生アンケートでも概ね良好な回答が得られており、また最終レポートでも協同力に関して参考になった旨の回答が多く見られ、一定の効果が得られたと考えられる。	STEM演習も兼ね、他の講義でグループワークを実施するものは少ないが、十分な学習効果を得るためには、複数回の実施が望ましいと思われ。	LMSを利用したeポートフォリオなどがうまく活用できる方法があれば取り入れたい。
	⑤ 設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい	前年度同様、SIH道場の書き講義の後に振り返りのためのシートを配布し記入・提出させた。またSIH道場の最終レポートでも振り返りについて確認させた。	学生アンケートでは概ね良好な回答が得られているが、必ずしも各自がラーニングスキルを身につけているとは言い難い印象がある。SIH道場の内容は学生が必ず身につけておきたい内容であるが、それだけではラーニングスキルは半年だけでは効果を実感するのは難しく、各スキルを継続的に使っていないか、あるいは使わなければならない状況下にあるかが重要であると考え。	SIH道場の各講義ごとに提出させた振り返りシートに、フィードバックが行なわれた。またeポートフォリオを有効に活用できていない。	昨年の評価シートでは教員の作業負担を減らす取り組みへの期待が指摘されていたが、年々他の業務も増加してきており、さらなる負担軽減が望まれる。
	⑥ 学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい	前年度同様、ボススターワークとして実施した。	学生アンケートでは、SIH道場の最終レポートで評価を行った。回答などから一定の効果が得られたと思われ、ルーブリック評価は各グループで1回だけであり、実際に身についたかどうかは判断は難しいと考える。	プレゼンテーション評価について、コースの教員にも案内したが、出席者は非常に少なかった。より多くの出席者が集まるように改善するべきと考える。	プレゼンテーションを実施する日時
	⑦ 学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確に行なった	はい	前年同様、ボススターワークとして実施した。	どのグループも成果物としてのボスターを作成し、発表できていた。また学生アンケートでも概ね良好な回答が得られており、また最終レポートでも協同力に関して参考になった旨の回答が多く見られ、一定の効果が得られたと考えられる。	STEM演習も兼ね、他の講義でグループワークを実施するものは少ないが、十分な学習効果を得るためには、複数回の実施が望ましいと思われ。	LMSを利用したeポートフォリオなどがうまく活用できる方法があれば取り入れたい。
ラーニングスキル	⑧ 設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	前年度同様、ボススターワークとして実施した。	学生アンケートでは、SIH道場の最終レポートで評価を行った。回答などから一定の効果が得られたと思われ、ルーブリック評価は各グループで1回だけであり、実際に身についたかどうかは判断は難しいと考える。	プレゼンテーション評価について、コースの教員にも案内したが、出席者は非常に少なかった。より多くの出席者が集まるように改善するべきと考える。	プレゼンテーションを実施する日時
	⑨ 設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい	前年度同様、ボススターワークとして実施した。	どのグループも成果物としてのボスターを作成し、発表できていた。また学生アンケートでも概ね良好な回答が得られており、また最終レポートでも協同力に関して参考になった旨の回答が多く見られ、一定の効果が得られたと考えられる。	STEM演習も兼ね、他の講義でグループワークを実施するものは少ないが、十分な学習効果を得るためには、複数回の実施が望ましいと思われ。	LMSを利用したeポートフォリオなどがうまく活用できる方法があれば取り入れたい。
協働能力	⑩ 振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などを理解を促した	はい	前年度同様、ボススターワークとして実施した。	学生アンケートでは、SIH道場の最終レポートで評価を行った。回答などから一定の効果が得られたと思われ、ルーブリック評価は各グループで1回だけであり、実際に身についたかどうかは判断は難しいと考える。	プレゼンテーション評価について、コースの教員にも案内したが、出席者は非常に少なかった。より多くの出席者が集まるように改善するべきと考える。	プレゼンテーションを実施する日時
	⑪ 各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい	前年度同様、ボススターワークとして実施した。	どのグループも成果物としてのボスターを作成し、発表できていた。また学生アンケートでも概ね良好な回答が得られており、また最終レポートでも協同力に関して参考になった旨の回答が多く見られ、一定の効果が得られたと考えられる。	STEM演習も兼ね、他の講義でグループワークを実施するものは少ないが、十分な学習効果を得るためには、複数回の実施が望ましいと思われ。	LMSを利用したeポートフォリオなどがうまく活用できる方法があれば取り入れたい。
振り返り	⑫ 学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい	前年度同様、ボススターワークとして実施した。	学生アンケートでは、SIH道場の最終レポートで評価を行った。回答などから一定の効果が得られたと思われ、ルーブリック評価は各グループで1回だけであり、実際に身についたかどうかは判断は難しいと考える。	プレゼンテーション評価について、コースの教員にも案内したが、出席者は非常に少なかった。より多くの出席者が集まるように改善するべきと考える。	プレゼンテーションを実施する日時
	⑬ 実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成29年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、(5.十分であった、4.概ね十分であった、3.多少、2.やや不十分であった、1.不十分であった)。	5 4 3 2 1	前年度同様、ボススターワークとして実施した。	どのグループも成果物としてのボスターを作成し、発表できていた。また学生アンケートでも概ね良好な回答が得られており、また最終レポートでも協同力に関して参考になった旨の回答が多く見られ、一定の効果が得られたと考えられる。	STEM演習も兼ね、他の講義でグループワークを実施するものは少ないが、十分な学習効果を得るためには、複数回の実施が望ましいと思われ。	LMSを利用したeポートフォリオなどがうまく活用できる方法があれば取り入れたい。
総合	※その他、他の授業との接続・発展内容・授業運営等の課題が有り記入したお書きください。					

平成 29 年度 理工学部理工学科電気電子システムコース SIH 道場 <授業詳細>

■目的：徳島大学の新生が大学における学習について、理解するとともに、自身の専門分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

■到達目標：

- (1) 自身の専門分野における先端研究（現場）と大学における学習について、関連させて説明することができる。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について 1 つ以上説明することができる。
- (2-2) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を 1 つ以上説明することができる。
- (2-3) 他者と協同して 1 つの課題に取り組むことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■成績評価：「SIH 道場最終レポート」を以下の合格基準をもとに評価する。

【SIH 道場最終レポートの内容】

以下の 1) ～ 4) を含む「SIH 道場最終レポート」を作成すること。レポートは手書きでも構わないが、電子媒体での作成・提出を推奨する。

1) ポスター（協働力の目標に対応）

- ・体験学習の成果を、期日までにチームで 1 枚のポスターにまとめて写真を撮る。
- ・ルーブリックの「協働力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

2) ポスター発表（プレゼン力の目標に対応）

- ・ 1) で作成したポスターをつかって、グループ以外のメンバーにチームの成果を説明する。
- ・ルーブリックの「プレゼン力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

3) 体験学習個人レポート（文章力の目標に対応）

- ・体験学習で学びたいと考えていたこと（事前）、実際に学んだこと（事後）、今後の目標の 3 点について A4 判 1 枚程度のレポートを作成する。
- ・ルーブリックの「文章力」に該当するすべての項目について、自己評価する。

4) SIH 道場での収穫

【SIH 道場レポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・レポートに「ポスターの写真」が添付されていること。（必須）
- ・レポートの「自分がポスター発表をしている様子」の動画へのリンクが付与されていること（任意）
- ・レポートに「体験学習個人レポート」が添付されていること。（必須）

## 12. 電気電子システムコース

- ・「自己評価」と「チームメンバーからの評価（平均点）」が記入された「協働力」「プレゼン力」「文章力」のルーブリックが添付されていること。（必須）
- ・上記ルーブリックの「協働力」「プレゼン力」「文章力」それぞれの総合点が〇以上であること。（必須）
- ・SIH 道場の収穫を1つ以上挙げて、説明すること。収穫が全くない場合は、その理由とどうすれば収穫が得られそうかを書くこと。（必須）
- ・その他、レポートに必要なだと思う内容（任意）

### ■授業内容（90分・60分）×3回＋体験学習（詳細は次ページ）

<大まかな流れ>

体験学習を中心に、将来の仕事について考える。

- 1回目：導入（協働力の育成）
- 2回目：体験学習の事前学習（文章力の育成）  
～専門分野の早期体験（学部が内容を指定）
- 3回目：体験学習の事後学習（プレゼン力の育成）

※3回は別の日に行うことを想定。同日に行う場合は、事前課題のやり方を調整する必要がある。

※各回の詳細は次ページ

### ■毎回の授業後に担当教員が行うこと

- ・担当クラスの学生が提出した「振り返りシート」への一言コメント。

### ■最終回の授業後（SIH 道場終了後）に担当教員が行うこと

- 1) 担当クラスの学生が提出した「SIH 道場最終レポート」の添削
  - ・不合格者には「再提出要求」を出す。
  - ・合格者には点数をつける。（100点満点）
- 2) 「SIH 道場実施報告書」の提出
  - ・所定の様式に沿って作成・提出する。
  - ・提出先はeポートフォリオシステム上とする。
- 3) 他の担当教員の「SIH 道場実施報告書」の閲覧と相互コメント

### ■最終回の授業後（SIH 道場終了後）にコーディネーターが行うこと

- ・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

## 12. 電気電子システムコース

### ■授業内容：

<授業スケジュール>

回	実施日時	内容
1	4月上旬 90分	SIH 道場の内容説明、 Moodle 上のビデオコンテンツの使い方、講義の受け方、レポート（文書）の書き方（文章力）等について説明 ○事後学習：未視聴のビデオコンテンツを視聴
2	6月上旬 90分	○事前学習：Moodle によるビデオコンテンツ（プレゼン力、協働力、文章力）の視聴 プレゼンテーションの説明、STEM 演習（体験学習）で実施したテーマについて、班に分かれてプレゼンテーションの準備を行う ○事後学習：自宅において、未視聴のビデオコンテンツを視聴
3	6月中旬 （第2回の2週間後 を目処） 90分	STEM 演習（体験学習）で実施したテーマについて、班に分かれてプレゼンテーションを行う（プレゼン力、協働力） ○事後学習：学生は e ポートフォリオシステム上に、SIH 道場最終レポートを提出する。担当教員は SIH 道場最終レポートにコメントを付けて返却する（7月15日頃まで）。

### 【体験学習】

前期に実施されている STEM 演習で、基礎的な電気電子の基礎に関する実験を体験させ、レポートを提出させている。ここで理工系のレポートの様式、論理的な文章の書き方等について指導する。また3回目のプレゼンテーションで取り上げる実験テーマについて学習する。



# SIH道場必須項目設計表(概要のみ)

## 理工学部理工学科情報光システムコース

### 13. 情報光システムコース

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	情報光システムコースにおいて取り組んでいる最先端の研究内容について説明できる。	出席状況とレポートの内容により評価する。	情報系、光系での先端研究について調査しておく。	コース内の研究室を見学し、研究紹介を聴講する。また、ものづくり体験をする。	「情報光システムセミナー」の中で実施
文章力	論理的な文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について説明することができる。	ルーブリック評価表を用いる。	反転授業ビデオコンテンツ「文章力」の動画を視聴。	レポートの書き方についての講義を行う。ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認。	SIH道場の授業枠内で実施
② プレゼン力	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツールについて説明することができる。	ルーブリック評価表を用いる。	反転授業ビデオコンテンツ「プレゼンテーション力」の動画を視聴。	プレゼンテーションスキルについての講義を行う。ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認。	SIH道場の授業枠内で実施
協働力	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。	ルーブリック評価表を用いる。	反転授業ビデオコンテンツ「協働力」の3つの動画を視聴	専門分野のトピックスについてKJ法ワークを実施し、ルーブリックを用いたピア評価を行う。	SIH道場の授業枠内で実施
				③学習の振り返り	
					学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。
					学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。
					学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。



平成29年度SIH道場 プログラム設計評価シート

理工学部 理工学科 情報光システムコース

※学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考にして記述してください。

要素	項目	チェック	平成28年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない いいえ	「情報光システムセミナー」内で、情報系と光系の両方の研究室見学を行い、コースの専門分野が俯瞰できるようにした。	アンケートでは73%の学生が、SIH道場の早期体験は専門科目の学習に役に立っていると回答しており、一定の効果はあったと考えられる。	早期体験をより意義あるものにするために、事前学習を課することを考えたい。	平成30年度から情報系と光系が入学時点で分かれているため、実施形態を再考する必要がある。
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい どちらともいえない 設計していない いいえ				
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい どちらともいえない 設計していない いいえ				
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない いいえ	レポートの課題および提出においてWeb (Mahara) を利用することで、提出されたレポートに対する評価の効率化を行った。	アンケートでは81%の学生が、SIH道場の「文章・レポートの書き方」が役に立っていると回答している。また、提出されたレポートに対する自己評価からも、文章力の向上が伺える。	提出されたレポートに対するフィードバックの評価の方法の効率化を検討する。	大人数のレポートに対するフィードバックと評価の方法の効率化を検討する。
	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない いいえ				
	⑥学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない いいえ				
ラーニングスキル プレゼン力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい どちらともいえない いいえ	発表会のスケジューリングを調整して、準備の時間を十分とれるようにすることともに、全学生がすべてのグループの発表を聴講できるようにした。	アンケートでは75%の学生が、SIH道場の「プレゼンテーション」は役に立っていると回答している。また、自由記述欄においても、プレゼン力を養うことができたという記述が見られた。	発表練習をしていないというグループがあった。	発表練習の時間も含めた、余裕のあるスケジューリングを検討する。
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない いいえ				
	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない いいえ				
ラーニングスキル 協働能力	⑩学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい どちらともいえない 設計していない いいえ	グループ討議のテーマを具体的に与えることで、限られた時間内で議論が円滑に進むようにした。	アンケートでは80%の学生が、SIH道場の「他者との協働」が役に立っていると回答している。他者との協働における役割分担の重要性に気付く学生も多く、一定の効果はあったと考えられる。	特になし	情報系と光系の学生に対して合同で実施するため、グループ編成やテーマ設定を再考する必要がある。
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい どちらともいえない いいえ				
	⑫設計した到達目標を学生は達成することができた	はい どちらともいえない 設計していない いいえ				
振り返り	⑬振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい どちらともいえない 設計していない いいえ	一部の講義で、講義後すぐに振り返りの時間を設けた。	アンケートで「学習（体験）を振り返ることの重要性を理解した」と回答した学生は全体の84%に達し、振り返りの重要性の理解が進んだと考えられる。	eポートフォリオを利用したい	レポート提出方法を再検討する。
	⑭各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい どちらともいえない 設計していない いいえ				
	⑮学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい どちらともいえない 設計していない いいえ				
総合	⑯実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成29年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、{5. 十分であった、4. 概ね十分であった、3. ぶつ、2. やや不十分であった、1. 不十分であった}。 ※その他、他の授業との接続・発展内容・授業運営等の課題が取り見られたら書き添ってください。	5 4 3 2 1		79%の学生が、SIH道場の教育プログラムが満足できたと回答した。また、アクティブラーニングの重要性を理解したという学生も88%に達した。	入学直後で体調を崩し、欠席した学生もいた。もっと余裕のあるスケジュールが望ましいと思う。	情報系と光系が入学時点で分かれているので、それに合わせたプログラムを検討する。

## 平成 29 年度 理工学部理工学科情報光システムコース SIH 道場

## &lt;授業詳細&gt;

■目的：徳島大学の新入生が大学における学習について理解するとともに、情報工学、光工学、知能工学分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

## ■到達目標：

- (1) 情報光システムコースにおいて取り組んでいる最先端の研究内容について説明することができる。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について説明することができる。
- (2-2) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を説明することができる。
- (2-3) 他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■成績評価：プレゼン内容、最終レポートにより評価する。

## 【SIH 道場最終レポートの内容】

以下の1)～3)を含む「SIH 道場最終レポート」を作成すること。

- 1) 発表会（プレゼン力、協働力の目標に対応）
  - ・ パワーポイントを用いて作成したスライド（メールまたはUSBで提出）。
  - ・ ルーブリックの「協働力」に該当するすべての項目について自己評価する。
  - ・ ルーブリックの「プレゼン力」に該当するすべての項目について自己評価する。
- 2) 研究室見学レポート（文章力の目標に対応）
  - ・ 研究室見学報告書。
  - ・ ルーブリックの「文章力」に該当するすべての項目について自己評価する。
- 3) SIH 道場での収穫

## ■ 授業内容

新入生研修(4/8)で実施するもの
はじめに (SIH 道場の概要)、ブレインストーミングと KJ 法の講義、テクニカルライティング (またはプレゼンテーションスキル) のビデオ視聴、チーム作り・ブレインストーミングの実習、テクニカルライティング (またはプレゼンテーションスキル) の講義、グループワークのビデオ視聴、KJ 法の実習(1)

## 13. 情報光システムコース

日時・場所	内容
4月12日(水) 8:40-10:10 場所：未定	プレゼンテーションスキル講義 (またはテクニカルライティング講義)
4月19日(水) 8:40-10:10 場所：未定	KJ法の実習(2)とKJ法のまとめ
4月26日(水) 8:40-10:10 場所：未定	発表会
5月10日(水) 8:40-10:10 場所：未定	発表会

- ・ テクニカルライティング、プレゼンテーションスキルでは、事前学習としてビデオ視聴を行う。講義内で、理解度テストを行い、自己採点後に説明を行う。
- ・ブレインストーミングとKJ法では、事前学習としてビデオ視聴を行う。講義では5-7人のグループに分かれ、グループのメンバーのバックグラウンドやスキル等を紹介しあった後、リーダーと書記を決める。与えられた大枠テーマ内で具体的なテーマ設定を行い、ブレインストーミングを行う。ブレインストーミングの結果をKJ法により整理する。得られた結論に対して、プレゼンテーション用のスライドの作成を行い、プレゼンテーションを行う。

### 体験学習

受講者を2グループ(A,B)に分けて、

- 1回目 : ガイダンス (全員、K206)  
 2回目～8回目 : Aは情報系を体験、Bは光系を体験  
 9回目～15回目 : Bは情報系を体験、Aは光系を体験

### <情報系実施内容>

日付		場所 (仮)	内容 (仮)
4/18	6/13	未定	情報系の説明・ガイダンス
4/25	6/20	未定	研究室説明ダイジェスト (各研究室5分) 終了後レポート作成 (20分)
5/9	6/27	各研究室	毎週、班ごとに二つの研究室を訪問・見学する (30分 × 2回)
5/16	7/4	各研究室	
5/23	7/11	各研究室	研究室見学終了後 C10 でレポート作成 (20分)
5/30	7/18	各研究室	
6/6	7/25	各研究室	

## 13. 情報光システムコース

<光系実施内容>

B グループ			A グループ		
日付	場所 (仮)	内容 (仮)	日付	場所 (仮)	内容 (仮)
4/18	K206	光系ガイダンス もの作り体験 1	6/13	K206	光系ガイダンス もの作り体験 1
4/25	フロンティア棟 セミナールーム	体験配属 1	6/20	K206	もの作り体験 2
5/9	K206	もの作り体験 2	6/27	フロンティア棟 セミナールーム	体験配属 1
5/16	K206	もの作り体験 3	7/4	K206	もの作り体験 3
5/23	K206	もの作り体験 4	7/11	フロンティア棟 セミナールーム	体験配属 2
5/30	フロンティア棟 セミナールーム	体験配属 2	7/18	K206	もの作り体験 4
6/6	フロンティア棟 セミナールーム	体験配属 3	7/25	フロンティア棟 セミナールーム	体験配属 3

- ・ もの作り体験：いくつかの光学現象に注目し、それを用いた器具等の作製や実験を行う。
- ・ 体験配属：毎回、班ごとに二つの研究室を訪問し、見学・体験する（30分 × 2回）  
見学終了後、フロンティア棟セミナールームでレポート作成（20分）



平成29年度 SIH道場必須項目設計表(概要のみ)

理工学部理工学科応用理数コース

14. 応用理数コース

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	自分の専門分野における先端研究(現場)を体験し、大学における学習と関連させて説明することができる。	体験学習の報告会でのプレゼンテーションを教員が評価する。	研究室訪問する以前に、その分野について調べてみる。	応用理数コース教員の研究室を訪問する際の手順やマナー等を指導を行う。	SIH道場の授業実施枠内で実施
	② 文章力	論理的な文章の作成する際に注意すべきことを一つ以上説明することができる。	反転授業コンテンツ「文章力」の4つの動画を視聴する。	論理的な文章の書き方に関する指導を行う。	SIH道場の授業実施枠内で実施
③ プレゼン力	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等の一つ以上説明することができる。	報告会でのプレゼンテーションを教員が評価する。	反転授業コンテンツ「プレゼン力」の3つの動画を視聴する。	プレゼンテーションを行うにあたっての注意点を指導する。	SIH道場の授業実施枠内で実施
	④ 協働力	他者と協同して一つの課題に取り組むことができる。	反転授業ビデオコンテンツ「協働力」の3つの動画を視聴する。	グループで話し合いを行う際の注意点を指導する。	SIH道場の授業実施枠内で実施

平成29年度SIH道場 プログラム設計評価シート

理工学部 理工学科

応用理数Ⅱ ※学生のポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考にして記述してください。

要素	項目	チェック	平成28年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応		
早期体験	① 設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	はい	不明	教育・研究内容の学習のための研究室訪問に時間を割きすぎた感がある。学生への一層の目的明示。	より積極的に指導を行う。		
	② 設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい	はい	不明	特になし。	時間的・人力的に難しいが、基本的な文章力の指導。		
	③ 学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい	はい	不明	不明	時間的・人力的に難しいが、基本的な文章力の指導。		
	④ 設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	はい	不明	一定の成果は認められた。	時間的・人力的に難しいが、プレゼン方法の指導。		
	⑤ 設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい	はい	不明	不明	特になし。		
	⑥ 学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい	はい	不明	不明	特になし。		
	⑦ 学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい	はい	不明	不明	特になし。		
ラーニングスキル 文章力	⑧ 設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	はい	不明	一定の成果は認められた。	より積極的に指導を行う。		
	⑨ 設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい	はい	不明	不明	特になし。		
	⑩ 学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい	はい	不明	不明	特になし。		
	⑪ 学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい	はい	不明	不明	特になし。		
	⑫ 設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	はい	不明	不明	特になし。		
	⑬ 設計したアクティブ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい	はい	不明	不明	特になし。		
	⑭ 学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	はい	はい	不明	不明	特になし。		
ラーニングスキル 協働能力	⑮ 学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい	はい	不明	不明	特になし。		
	⑯ 振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストなどで理解を促した	はい	はい	不明	不明	特になし。		
	⑰ 各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい	はい	不明	不明	特になし。		
	⑱ 学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい	はい	不明	不明	特になし。		
	⑲ 実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成29年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、{5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ふつ、2.やや不十分であった、1.不十分であった}。	5	4	3	2	1		
	振り返り	⑲ 実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成29年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、{5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ふつ、2.やや不十分であった、1.不十分であった}。	5	4	3	2	1	
		※その他、他の授業との接続・所属内内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。						
総合								

14. 応用理数コース

## 平成 29 年度 工学部理工学科応用理数コース SIH 道場 &lt;授業詳細&gt;

■目的：徳島大学の新生が大学における学習について、理解するとともに、自身の専門分野における先端研究の体験を通して、興味関心を喚起し、徳島大学における学習・研究に対する動機づけを行う。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

## ■到達目標：

- (1) 自身の専門分野における先端研究（現場）と大学における学習について、関連させて説明することができる。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について 1 つ以上説明することができる。
- (2-2) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を 1 つ以上説明することができる。
- (2-3) 他者と協同して 1 つの課題に取り組むことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

■成績評価：「SIH 道場最終レポート」を以下の合格基準をもとに評価する。

## 【SIH 道場最終レポートの内容】

以下の 1) ～ 4) を含む「SIH 道場最終レポート」を作成すること。レポートは手書きでも構わないが、電子媒体での作成・提出を推奨する。

- 1) グループ活動について（協働力の目標に対応）
  - ・「協働力」について学んだことをまとめる。
  - ・グループ活動について振り返り自己評価する。
- 2) 成果発表について（プレゼン力の目標に対応）
  - ・「プレゼン力」について学んだことをまとめる。
  - ・成果発表会での各人の発表および他者の発表を振り返り自己評価する。
- 3) 研究室訪問個人レポート（文章力の目標に対応）
  - ・研究室訪問で学びたいと考えていたこと（事前）、実際に学んだこと（事後）、今回の成果と自身の進路や目標の 3 点についてレポートを作成する。
- 4) SIH 道場での収穫

## 【SIH 道場レポートの合格基準】

以下の評価基準のうち、「必須」と書いてある項目をすべて満たすこと。

- ・プレゼンテーション資料が提出されていること。（必須）
- ・SIH 道場最終レポートが提出されていること。（必須）
- ・「自己評価」と「グループメンバーへの評価」が記入された「協働力」「プレゼン力」のループリックが提出されていること。（必須）



## 14. 応用理数コース

・SIH 道場の収穫を1つ以上挙げて、説明すること。収穫が全くない場合は、その理由とどうすれば収穫が得られそうかを述べること。(必須)

■授業内容(約90分)×11回 (4月5日は2回に分かれている。)

<授業スケジュール> (詳細は次ページ)

実施日時	内容	会場	提出
4月4日(火) 12:50~14:10	SIH 道場の説明・担当教員の紹介	K501	○
4月5日(木) 9:20~10:10 10:55~11:55	図書館の利用方法 履修相談	創成学習スタジオ K501	
4月6日(水) 16:20~17:10	教養教育院について	創成学習スタジオ	○
4月7日(金) 10:25~11:55	図書館訪問と図書施設の利用体験	附属図書館(本館)	○
4月7日(金) 12:50~14:20	研究室訪問ガイダンス	総科3号館スタジオ	
4月13日(木) 12:50~14:20	グループによるディスカッション	総科3号館スタジオ	○
4月27日(木) 12:50~14:20	グループによる研究室訪問・調整(協働力)	総科3号館スタジオ	△
5月11日(木) 12:50~14:20	グループによる研究室訪問(協働力)	総科3号館スタジオ	△
5月18日(木) 12:50~14:20	グループによる資料作成(協働力)	総科3号館スタジオ	△
5月25日(木) 12:50~14:20	成果発表会(プレゼンテーション力)	総科3号館スタジオ	◇

提出物: ○(振り返りシート)、△(ループリック評価(協働力))、◇(ループリック評価(プレゼン力))とSIH 道場アンケート)

■授業後に担当教員が行うこと(毎回ではなく指定された回のみ)

・担当クラスの学生が提出した「振り返りシート」と「ループリック評価」の回収。

■最終回の授業後(SIH 道場終了後)に担当教員が行うこと

1) 担当クラスの学生が提出した「SIH 道場最終レポート」の添削およびコメント

・不合格者には「再提出要求」を出す。

2) 「SIH 道場実施報告書」の提出

・所定の様式に沿って作成・提出する。(様式は、Word版、eポートフォリオ版の2つがある)

■最終回の授業後(SIH 道場終了後)にコーディネーターが行うこと

・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

## 14. 応用理数コース

【4月4日（火）12：50～14：10】K501、司会：中村（浩）、全担当者参加  
 事前準備：グループ分け、振り返りシートの準備（約70部）中村（浩）  
 目標：SIH道場とは何かを理解する。

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
15分	◆オープニング SIH道場の詳細・振り返りシートの配布 教員の自己紹介、 最終課題・成績評価についての確認	各担当教員による自己紹介 授業内容ではなく、最終課題 （SIH最終レポートと合格基準） を説明する。
40分	◆SIH道場の説明 SIH道場の目的やスケジュールを説明する。事前課題やテキスト、eポートフォリオシステムの使い方、反転授業などを説明する。	SIH道場の目的とスケジュール等の説明（中村（浩）） eポートフォリオシステム、 moodleの使い方の説明（中村（浩））
20分	▲グループメンバー確認 研究室訪問のグループメンバーの確認を行い、各グループで自己紹介する。	グループと担当教員の顔合わせ
5分	◆クロージング 振り返りシートの記入と提出	振り返りシートの保管（中村（浩））

○事後学習

SIH道場の概要の理解、配布資料の復習。

【4月5日（水）9：20～10：10】創成学習スタジオ 図書館の利用法

○授業内容（40分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
40分	◆図書館の利用法	

次回の目標：4月7日の図書館体験ツアーでの実習。

【4月5日（水）10：55～11：55】K501 履修相談、教務委員

○事前学習

Web登録説明会の資料を読む。

○授業内容（60分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
60分	●履修相談	手引、時間割、シラバス

翌日は履修登録を行う。手引、時間割、シラバス全てを持って来る。

## 14. 応用理数コース

【4月6日（水）16：20～17：10】創生学習スタジオ、教養教育院について（教養教育院教員担当）

目標：教養教育院での学びのシステムを学ぶ。大学生活のための心と体の健康について学ぶ。

### ○事前学習

教養教育院の履修の手引を読む。

### ○授業内容（75分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
(15分)	情報センターから創成学習スタジオへの誘導	
50分	◆レクチャー 教養教育院について	出席確認はしない 齊藤、渡部（教養教育院）
25分	◆レクチャー 大学生活のための心と体の健康 (保健管理・総合相談センター)	

### ○事後学習

教養教育院の履修の手引および資料の復習。

【4月7日（木）12：50～14：20】中村（浩）

振り返りシートの準備（約70部）中村（浩）

目標：図書館の利用方法を学ぶ。

### ○授業内容（110分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	▲図書館訪問 導入 概要説明	出席確認はしない
45分	▲図書館施設の利用体験	3グループに分かれて実施。
10分	◆レクチャー 図書館利用のルール・マナー、学内蔵書検索(OPAC) の使い方	図書館作成資料
20分	▲実習 OPAC 検索実習	
5分	◆レクチャー 知って得するサービス等の説明	
10分	●クロージング 振り返りシートの配布・記入と提出（5日の図書館 利用法と合わせて）	振り返りシートの保管（中村 （浩））

### ○事後学習

図書館施設利用等の資料の復習。

## 14. 応用理数コース

【4月7日（金）12:50～14:20】総合科学部3号館スタジオ、司会：中村（浩）、全担当者参加  
 振り返りシートの準備（約70部）中村

目標：研究室訪問の方法について学ぶ。グループでのディスカッション方法を学ぶ。

※研究室訪問の事前指導にあたる

○事前学習

ビデオコンテンツを見る（協働力に関する3つのビデオ教材）

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、振り返りシートを配布する。 概要説明	出席確認は各クラスの担当教員 協働力のルーブリックの提示
20分	◆レクチャー 研究室訪問についてのガイダンスを行う。	本日以外での訪問、本日の訪問 についての説明（三好）
20分	◆レクチャー 「協働力」のビデオを見る。	ビデオ視聴後のクイズを実施 （中村（浩））
45分	▲グループ活動 研究室訪問についての方針のディスカッションを行 う。 グループとして訪問する4つ程度の希望研究室を決 める。	模造紙とポストイットを配布 ポストイット（数理で用意） 模造紙13枚×2（自然で用意）

【4月13日（木）12:50～14:20】総合科学部3号館スタジオ、司会：中村（浩）、全担当者参加  
 ※グループによってはディスカッションを継続

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 出席確認、概要説明	出席確認を行う。教務委員 14:10に集合を告知
75分	▲グループ活動 ・研究室訪問についての方針のディスカッション 前回決定できなかったグループについて、再度ディ スカッションして、訪問研究室を決定する。 ・すでに訪問する研究室が決まっている場合、研究 室訪問を実施する。	
5分	●振り返り グループでの活動を振り返る。	
5分	◆クロージング 振り返りシートの提出、次回の授業の予告を行う。	振り返りシートの保管（中村 （浩））

## 14. 応用理数コース

### ○事後学習

研究室訪問で得た情報をまとめる。

【4月27日（木）12:50～14:20】総合科学部3号館スタジオ、司会：中村（浩）、全担当者参加

振り返りシートの準備（約70部）中村（浩）

目標：研究室訪問による学んだことは何かをまとめる。

※研究室訪問

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 振り返りシートの配布 概要説明	14:10に集合を告知
75分	▲グループ活動 研究室訪問、および訪問研究室の再調整を行う。 ・研究室訪問が決定しているグループは引き続き研究室を訪問する。 ・グループとして希望研究室の訪問ができていない場合、他グループから希望者を募り、別に訪問グループを作って訪問する。 (担当者のアドバイスが必要⇒)	できる限り学生全員が希望する分野・研究室を訪問できるように配慮する。  担当者が訪問希望研究室のアドバイスを行なう。 (希望学生がいるグループ担当者) ○希望分野・研究内容の抽出 ○他グループの希望者への声掛け。 ○訪問グループの結成（グループ内での連絡体制決める） ○訪問研究室の推薦
5分	●振り返り グループでの活動を振り返る	
5分	◆クロージング 振り返りシートの提出、次回までの課題の発表	課題：「プレゼンテーション力」のビデオを見て、クイズに答える

### ○事後学習

研究室訪問で得た情報をまとめる。

【5月11日（木）12:50～14:20】総合科学部3号館スタジオ、司会：中村（浩）、全担当者参加

振り返りシートの準備（約70部）中村（浩）

## 14. 応用理数コース

目標：研究室訪問による学んだことは何かをまとめる。

※研究室訪問

○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 振り返りシートの配布 概要説明	14:10に集合を告知
75分	▲グループ活動 研究室訪問	
5分	●振り返り グループでの活動を振り返る	
5分	◆クロージング 振り返りシートの提出、次回までの課題の発表	課題：「プレゼンテーション力」 のビデオを見て、クイズに答える

○事後学習

研究室訪問で得た情報をまとめる。

## 14. 応用理数コース

【5月18日（木）12:50～14:20】総合科学部3号館スタジオ、司会：中村（浩）、全担当者参加

### ○事前学習

ビデオコンテンツを見る（プレゼンテーション力に関する3つのビデオ教材）

### ○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング 協働力のルーブリック評価の配布、 概要説明	14:10に集合を告知 プレゼンテーションのルーブリックの提示
75分	▲グループ活動 プレゼンテーション資料作成（手書き） A4版2枚まで	教員は適宜アドバイスを行う。
5分	●振り返り グループ活動を振り返る	協働力のルーブリック評価
5分	◆クロージング 協働力のルーブリック評価の提出、 次回の授業の予告等	

### ○事後学習

プレゼンテーション資料の作成および見直し。

情報科学入門でWordの使用方法を学習し、4月28日に作成した手書きのプレゼンテーション資料をWordで作成する。ただし、必ずしもプレゼンテーション資料はWordで作成しなければならないわけではない。

次のような点からも自身の考え方を整理してみる。

- ・自身の希望研究分野・研究室を訪問し、話を聞いて得た知識や感想。
- ・希望研究分野のイメージが訪問前後でどのように変化したか、しなかったか。
- ・自身の希望する研究方向が訪問前後でどのように変化したか、しなかったか。
- ・今回の成果と自身の希望する研究、進路、目標などとの関連。
- ・希望外の研究室を訪問して新たな発見があったか。
- ・新たに希望する研究分野などが見つかったか。

## 14. 応用理数コース

【5月25日（木）12:50～14:20】総合科学部3号館スタジオ、司会：中村（浩）

### ○事前学習

グループでプレゼンテーション資料を完成させ、発表の準備をする。

### ○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点・教材
5分	◆オープニング プレゼンテーション力のルーブリック評価の配布 概要説明	
70分	▲、●成果発表	30分で前半、後半に分割 発表グループを入れ替える 評価視点：プレゼン力のルーブリック評価
10分	●振り返り 成果発表会の振り返り アンケートの記入	
5分	◆クロージング 最終課題（SHI道場最終レポート）の確認 終わりの挨拶 プレゼンテーション力のルーブリック評価の提出 アンケートの提出	最終レポートは6月2日（木） まで提出 提出先は教養教育院のレポート ボックス

### ○事後学習

1. ビデオコンテンツを見る（文章力に関する4つのビデオ教材）
2. SIH道場最終レポートの作成と提出。





平成29年度 SIH道場必須項目設計表(概要のみ)

生物資源産業学部生物資源産業学科

15. 生物資源産業学部

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	自身の専門分野に関連した社会現場と大学における学習について、関連させて説明することができる。	作成レポートの提出	学外研修で体験した社会現場についてインターネットを利用して自主的に調べ	1. 学外研修→研修した内容について調査し、レポートとして文章にまとめる。 2. 学外研修→研修した内容についてプレゼンテーションとKJ法ワークショップを行う。	SIH道場の授業 枠内で実施
文章力	論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について1つ以上説明することができる。	提出物にルーブリック評価表を用いる	反転授業コンテンツ「レポートの書き方入門」の視聴	体験学習1の内容に対して作成したレポートについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ	SIH道場の授業 枠内で実施
② プレゼン力	効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を1つ以上説明することができる。	ルーブリック評価表を用いる	反転授業コンテンツ「効果的なプレゼンテーションの仕方」の視聴	体験学習2の内容に対して作成したプレゼンテーションについて、ルーブリックを用いたピア評価、ポイント確認、ブラッシュアップ	SIH道場の授業 枠内で実施
協働力	他者と協同して1つの課題に取り組むことができる。	ルーブリック評価表を用いる	反転授業コンテンツ「アイデアの発想・収束(KJ法)」の視聴	体験学習2の内容に対してKJ法ワークショップを用いたピア評価を行う。	SIH道場の授業 枠内で実施
				③学習の振り返り 学んだことをe-ポートフォリオに記入。教員はコメントをフィードバックする。	

平成29年度SIH道場 プログラム設計評価シート

生物資源産産学部

生物資源産産学学科

※学生のアンケートから、成績簿、アンケート結果、教員のアンケート結果を参考に記述してください。

要素	項目	チェック	平成28年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善した点	次年度に向けた対応
早期体験	①設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	平成28年度は藍染体験を入れたが、時間が要するため、お酒と醤油の醸造に関して見学を実施した。生物資源産産学部においては、早期体験(学外研修)をSIH道場の主軸として居え、ラーニングスキルの向上に繋げて実施し、その振り返りを行った。	専門分野に関連した社会現場の学外研修(醸造所、製菓工場)および種苗企業の見学を通して、専門分野における興味関心の喚起、今後の学習・研究に対する動機づけができた。アンケートでは、参加学生の9割以上から専門分野の関心が高まったとの回答を得た。	事前に研修場所の説明があまりしつかりとはできなかった。Maharaの説明に時間を取られてしまったことと、一因でもあるが、改善すべき点である。	学外研究は好評であり、より理解度を深めるために、実施前に研修場所について説明を行う時間を設けて、事前に基礎知識を入れておくべきである。
	②設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	はい				
	③学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	はい				
ラーニングスキル 文章力	④設計した到達目標を学生は達成することができた	はい	昨年度と同様に、今年度もSIH道場の終了後に、学外研修を通して、学びたいと考えること(事前)、実際に現場で学んだこと(事後)、今後の目標などについて、SIH道場を総括した課題レポートとして実施した。	「体験学習個人レポート」として、各人のSIH道場での振り返りを見ている学生も多かった。最終コメントを確認するまでも、この授業の一貫であることを強調すべきである。また、振り返りコメントの評価や内容に教員間で差があったようなので、コメント欄に書くべき内容を例として幾つか挙げておくのがよい。	文章力は、SIH道場実施後に「体験学習個人レポート」としてまとめさせた文書で評価した。時間が許容されるならば、講義内でもっと絞りこんだ題材についても可能であるので、今後は、比較、検討してみたい。	
	⑤設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい				
	⑥学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい				
ラーニングスキル プレゼン力	⑦学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい		学生を3班に分割し、その班内において1名ずつのプレゼンテーションを実施した。人前において他者に自分の意見を明確に述べる必要であるためには準備や予行が必要であること、また、他者の主張を聞いて自分の意見との類似点や相違点を考えることと言ったプレゼンテーションにおける基本項目が修得できた。	「プレゼンテーションの前」に自分の考えをまとめる時間を取ったが、言いにくい内容を取りまくとめられない学生も見られた。小グループによってまとめる点に差があった。事前にプレゼン力についておいたが、視聴した学生は推薦しておいたようである。時間が許容されなかつたようである。時間が許容される場合は、大事なプレゼンテーションを設けたい。	今年、講義中にビデオコンテンツを利用して時間をとることができた。また、めづる例を紹介し、スムーズに議論できるような進め方と、理解度が深まると考えられた。
	⑧設計した到達目標を学生は達成することができた	はい				
	⑨設計したアクティビティ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	はい				
ラーニングスキル 協働能力	⑩学生に課した授業外学修(事前、または事後)は、学生の学修にとって効果的であった	はい	今年度も、昨年と同様に、学外研修の体験学習を通して学んだことについて、各自が事前に立てさせた約1、2分間のプレゼンテーションを行った。	3班に分けた班内において、5〜6名のグループを作成して、最初はその班内で行った。グループ内で話し合った上で、各グループの代表者が発表を行った。意見を集約して発表を行った。	講義の最初におけるKJ法に対する説明に時間がかかった。今年度は、事前学習する時間を設定しては、事前学習は有効であると考えられる。	KJ法が初めての場合、理解するのに少し時間がかかる。今年度は、事前に学習する時間を設定しては、事前学習は有効であると考えられる。
	⑪学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	はい				
	⑫振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	はい				
振り返り	⑬各授業(体験を含む)の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	はい	今年度も、各要素のやり取りをe-ポートフォリオシステムである「Mahara」を用いて行なった。	各要素についての振り返りは全て、「Mahara」を使用した。マニエラにもあり、戸惑いも見られなかった。レポート提出時にはその操作をばほ理解していた。情報処理の基礎学習にも役立つように思われる。	各要素について「Mahara」を用いた振り返りを構築した。マニエラに各グループの作成などは細かい所までは述べられていなかったが、今年度屋試行錯誤しながら行った。結構時間が取られた。SIH道場に合ったグループ作成の例示などがあれば便利と思われる。	毎年、コーディネーターが変わるので、「Mahara」の使い方を理解するのに時間がかかる。ワーキンググループにもっとサポートしたい。
	⑭学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	はい				
	⑮実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成29年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、{5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ぶつ、2.やや不十分であった、1.不十分であった}。	4				
総合	※その他、他の授業との接続、所属内・授業運営等の課題がありましたらお書きください。			SIH道場後の学生アンケートの結果を総括して、ここで学んだ学習スキルが今後の学びに役立ちたいと答えた学生が約7〜8割程度であり、役立った点の個別意見も数多く出された。したがって、新学部として新たに取組んだ今年度の成果として概ね満足できる。	本学部では、SIH道場を大学入門講座として実施する場合には、時間配分を考慮して、今年度の内容をブラッシュアップして行うとよい。別個に行う場合には、時間的な配分に余裕を持たせて行うのがよい。	次年度も大学入門講座内に組み入れて実施する場合には、時間配分を考慮して、今年度の内容をブラッシュアップして行うとよい。別個に行う場合には、時間的な配分に余裕を持たせて行うのがよい。

## 平成 29 年度 SIH 道場 生物資源産業学部 授業詳細

## ■目的：

生物資源産業学部の新入生に対する教育と研究に関する導入教育を行う。大学における学習の意義を理解し、自身の専門分野に関連した社会現場の学外研修（藍染体験、畜産研究所および種苗企業の見学）を通して、専門分野における興味関心を喚起し、生物資源産業学部の学習・研究に対する動機づけを行う。また、大学における学習・研究に対して学生が能動的に取り組むことができるように、能動的学習の基盤となる学習技術（文章力、プレゼンテーション力、協働力、振り返り力）習得のため、レポート作成、個人・グループ単位でのプレゼンテーションおよびKJ法を用いたワークショップを実施する。

## ■到達目標：

- (1) 自身の専門分野に関連がある社会現場と大学における学習について、関連させて説明することができる。
- (2-1) 論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について 1 つ以上説明することができる。
- (2-1) 効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な手法・ツール等を 1 つ以上説明することができる。
- (2-3) 他者と協同して 1 つの課題に取り組むことができる。
- (3) 自身の学習活動を振り返る習慣を身につけることができる。

## ■成績評価：以下の各項目について合格基準をもとに評価する。

- 1) 体験学習プレゼンテーション（プレゼン力の目標に対応）
  - ・学外研修の体験学習を通して学んだこと、得たことおよび感じたことなどについて発表を行う。
  - ・評価は、担当教員がルーブリック評価表（「プレゼン力」）で採点する。
- 2) 体験学習ポスター発表（協働力の目標に対応）
  - ・学外研修の体験学習を今後の学びにどう活かすのか、どう役立てるのかについてグループで議論し意見を集約して発表を行う。
  - ・評価は、担当教員がルーブリック評価表（「協働力」）で採点する。
- 3) 体験学習個人レポート（文章力の目標に対応）
  - ・学外研修の体験学習で学びたいと考えていたこと（事前）、実際に現場で学んだこと（事後）、今後の目標などについて A4 判 1 枚程度（約 1000 字）のレポートを作成する。
  - ・評価は、担当教員がレポート内容をルーブリック評価表（「文章力」）で採点する。

## 【SIH 道場の合格基準】

以下の評価基準についての必須項目をすべて満たしていること。

- ・「体験学習プレゼンテーション」を行っていること。
- ・「体験学習ポスター発表」に参画し、討論および発表を行っていること。
- ・「体験学習個人レポート」を提出していること。

### ■授業内容（90分）×4回＋体験学習（詳細は次ページ）

<大まかな流れ>

学外研修を中心に実施し、専門分野についての理解を深める。

- 1回目：導入（SIH 道場関連資料の使用法の会得）
  - 2回目：反転授業（ビデオコンテンツ）による事前学習  
～専門分野の早期体験（学外研修：醸造企業、製菓企業および種苗企業の見学）
  - 3回目：学外研修の事後学習（個人プレゼンテーション：プレゼン力の育成）
  - 4回目：学外研修の事後学習（KJ法とポスター発表：協働力の育成）
- 終了後：学外研修の課題提出（個人レポート作成：文章力の育成）

※3回目と4回目は同じ日に行う。

※各回の詳細は次ページ

### ■毎回の授業後に担当教員が行うこと

- ・eポートフォリオシステムを利用し、担当クラスの学生が提出した「振り返りシート」への一言コメント。コメントは、学外研修終了時、個人プレゼン終了時、ポスター発表終了時、課題レポート終了時の計4回。

### ■4回目の授業後（SIH 道場終了後）に担当教員が行うこと

- 1) 担当クラスの学生が提出した「SIH 道場最終レポート（体験学習個人レポート）」の添削
  - ・不合格者には「再提出要求」を出す。
  - ・合格者は「認定」の評価をつける。
- 2) 「SIH 道場実施報告書」の提出
  - ・eポートフォリオ版の書式に沿って作成し、eポートフォリオシステム上に提出する。
- 3) 他の担当教員の「SIH 道場実施報告書」の閲覧と相互コメント

### ■4回目の授業後（SIH 道場終了後）にコーディネーターが行うこと

- ・授業担当教員の「SIH 道場実施報告書」の提出状況のチェック。未提出者への催促。

## 15. 生物資源産業学部

【1回目】（4月4日（火）8:40～10:10）

### ○導入、学外研修の事前学習

SIH 道場についての内容説明、情報機器と情報資源の使用法説明、Moodle 上のビデオコンテンツ（SIH 道場とは、e ポートフォリオ Mahara の使い方、プレゼンテーション力、協働力）の視聴。「SIH 道場とは」と「e ポートフォリオ Mahara の使い方」は必須。

### ○事後学習

学外研修実施場所（施設・研究所・企業）の事前調査、学外研修で学びたいと思うこと、などについて事前に考えておくように連絡する。自宅から未視聴のビデオコンテンツを視聴。

【2回目】（4月4日（火）10:25～11:55）

### ○学外研修の事前学習

情報機器の操作および関連する情報の登録、ビデオコンテンツ（プレゼンテーション力、協働力、文章力）を見る。「プレゼンテーション力」と「協働力」は必須。「文章力」は課題レポートの作成前までに見ておくように連絡する。

### ○事後学習

学外研修実施場所（施設・研究所・企業）の事前調査、学外研修で学びたいと思うこと、などについて事前に考えておくように連絡する。自宅から未視聴のビデオコンテンツを視聴。

### 【学外研修の実施】

#### ○学外研修内容（4月5日（水）8:40～17:00）

研修場所：松浦酒造と福寿醤油  
          有限会社 竹内園芸  
          市岡製菓  
          あすたむらんど徳島（昼食場所）

学部定員を約35名弱ずつ3班（1、2、3）に分割し、バスで各施設を見学および体験  
学生は気づいたことをメモしながら学外研修を行う。

研修行程計画表（統括責任者：櫻谷英治、副責任者：松木 均）

1班（担当：刑部祐里子、岡 直宏）

工学部発 → 市岡製菓 → 昼食 → 松浦酒造・福寿醤油 → 竹内園芸 → 工学部着

2班（担当：山本 圭、阪本鷹行）

工学部発 → 竹内園芸 → 昼食 → 市岡製菓 → 松浦酒造・福寿醤油 → 工学部着

3班（担当：友安俊文、白井昭博）

工学部発 → 松浦酒造・福寿醤油 → 昼食 → 竹内園芸 → 市岡製菓 → 工学部着

### ○事後学習

学生はeポートフォリオシステム上に、振り返りレポートを提出。担当教員は振り返りレポートにコメントを付けて返却する。

## 15. 生物資源産業学部

### 【3回目】（4月7日（金）8:40～10:10）

学外研修と同じ班に分かれ、3教室にて実施。班内の各個人がビデオコンテンツ（プレゼン力）を参考にして、体験学習を通して学んだことや感じたことなどについて班全員の前で1名ずつ1～2分間のプレゼンを行う。各班の担当教員がルーブリック評価表により採点する。

#### ○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点
5分	◆オープニング（内容説明）	
25分	●プレゼンテーション内容の検討	下書き用紙に記載
65分	●プレゼンテーション（1～2分間）	プレゼン力のルーブリック評価
5分	◆クロージング（総評）	

#### ○事後学習

学生はeポートフォリオシステム上に、振り返りレポートを提出。担当教員は振り返りレポートにコメントを付けて返却する。

### 【4回目】（4月7日（金）10:25～11:55）

学外研修と同じ班に分かれ、3教室にて実施。班内を4～5名ずつの7～8班に分けて、ビデオコンテンツ（協働力）を参考にして、体験学習を今後の学びにどう活かすのかについてKJ法による集団討議を行う。討議結果についてのポスターを製作し、各班の代表者が議論内容をまとめて2～3分間で発表する。各班の担当教員がルーブリック評価表により採点する。

#### ○授業内容（90分；◆レクチャー、●個人ワーク、▲グループワーク）

経過時間	内容	注意点
5分	◆オープニング（KJ法の説明）	
15分	●カードの作成	各自最低3～4枚に記入
15分	▲カードの島作りと自由討論	同意見、異意見の分類
15分	▲カードの島のまとめと名称付け	意見間の関連性チェック
10分	▲発表のためのまとめ	発表者の決定
25分	▲発表（2～3分＋若干の討論）	協働力のルーブリック評価
5分	◆クロージング（総評） 体験学習個人レポートの作成と提出について	レポート締切日等の諸連絡

#### ○事後学習

学生はeポートフォリオシステム上に、振り返りレポートを提出。担当教員は振り返りレポートにコメントを付けて返却する。

### 【SIH道場終了後の課題】

学生はeポートフォリオシステム上に、SIH道場を総括した内容の課題レポート（体験学習個人レポート）を締切日までに提出。担当教員は課題レポートにコメントを付けて返却する。

平成29年度 SIH道場必須項目設計表(概要のみ)

医歯薬学研究部医療教育開発センター

	到達目標	評価方法・基準	内容		授業実施枠
			事前学習	授業	
① 体験学習	医療現場で活躍している専門家の講演の聴講やグループワークを通して自分自身の振り返り、今後の自分の学習のあり方について説明することができるとができる。	他学部・学科学学生との合同ワークショップでのグループワークの状況や振り返りレポートで評価する。	ワークショップテーマに関する資料を閲覧する。	ワークショップのテーマに沿った専門家の講演を聴講し、その次に他学部・学科学学生と合同でグループワークを行い、テーマに沿ったプロダクトを作成する。	SIH道場「チーム医療入門」平成29年9月29日13:00-17:00
② 文章力	今後の自分の学習のあり方について文章にまとめることができる。	振り返りレポートで評価する。	反転授業ビデオコンテンツ「文章力」の動画を視聴。	ワークショップ終了後に今回のテーマについて自分の意見を振り返りレポートとしてまとめ、提出する。	SIH道場「チーム医療入門」平成29年9月29日13:00-17:00
② プレゼン力	グループで討議した結果を他のグループにプレゼンテーションできる。	ルーブリック評価表を用いる(班全体の評価とする)。	反転授業ビデオコンテンツ「プレゼンテーション力」の動画を視聴	3~4班合同でプロダクトをもとに各班の発表と討議を行う。	SIH道場「チーム医療入門」平成29年9月29日13:00-17:00
② 協働力	他者と協力して、テーマについて討議(意見交換)し、プロダクトを作成できる。	ルーブリック評価表を用いる(班全体の評価とする)。	反転授業ビデオコンテンツ「協働力」の動画やKJ法の動画を視聴する。	班単位でKJ法を用いてワークショップテーマについてのプロダクトを作成する。	SIH道場「チーム医療入門」平成29年9月29日13:00-17:00
				③ 学習の振り返り	
				・リフレクションシート、振り返りレポートに学んだことを記入する。 ・教員は振り返りレポートを評価し、コメントをフィードバックする。	
				・教員は振り返りレポートを評価し、コメントをフィードバックする。	
				・リフレクションシートを作成する。 ・教員からのルーブリック評価結果をeポートフォリオで確認する。	
				・リフレクションシートを作成する。 ・教員からのルーブリック評価結果をeポートフォリオで確認する。	

16. 医療教育開発センター



平成29年度SIH道場 プログラム設計評価シート

医・歯・薬学研究部医療教育開発センター

※学生のeポートフォリオ、成果物、アンケート結果、教員のアンケート結果、eポートフォリオを参考に記述してください。

要素	項目	チェック	平成28年度からの改善点	学生の学修効果・成果	改善したい点	次年度に向けた対応
早期体験	① 設計した到達目標を学生は達成することができた	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	参加した学部・学科と講演内容との関連の強さが少しあったという意見があり、講師に対する事前説明が不十分であったと考えている。	基調講演の講師に、講演の対象となる学生についての事前説明を十分に行う。
	② 設計した内容は、専門分野の学修に対して学生を動機づけるという点で効果的だった	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない			
	③ 学生に課した事前学習は、学生の体験学習を意義あるものにするために効果的だった	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない			
	④ 設計した到達目標を学生は達成することができた	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない			
ラーニングスキル 文章力	⑤ 設計したアクティヴ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	特に無い	変更は予定してしていない。
	⑥ 学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない			
	⑦ 学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない			
	⑧ 設計した到達目標を学生は達成することができた	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない			
ラーニングスキル プレゼン力	⑨ 設計したアクティヴ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	特に無い	変更は予定してしていない。
	⑩ 学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない			
	⑪ 学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない			
	⑫ 設計した到達目標を学生は達成することができた	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない			
ラーニングスキル 協働能力	⑬ 設計したアクティヴ・ラーニング型授業は、学生の学修にとって効果的であった	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	特に無い	変更は予定してしていない。
	⑭ 学生に課した授業外学修（事前、または事後）は、学生の学修にとって効果的であった	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない			
	⑮ 学生の評価は、ルーブリック等で基準を明確にして行った	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない			
	⑯ 振り返りの意義や方法について、学生に説明する、またはテキストの利用などで理解を促した	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない			
振り返り	⑰ 各授業（体験を含む）の最後やSIH道場の終了時に学生が振り返る時間を設けた	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	特に無い	変更は予定してしていない。
	⑱ 学生が振り返った内容について教員がフィードバックを行った	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> いいえ	変更は特にしていない			
	⑲ 実施したSIH道場プログラムを総合的に見て、平成29年度の授業設計は、学生が到達目標を達成するために、{5.十分であった、4.概ね十分であった、3.ふつ、2.やや不十分であった、1.不十分であった}。	5 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1	変更は特にしていない	概ね効果がでていいると考えている。	特に無い	本年と同様に医・歯・薬学部合同で行う。中学年、高学年で、より実践的なチーム医療についての実習が実質化しつつあることを伝え、本ワークショップの目的や位置づけが明確に伝わるよう事前説明についての見直しを行う。
総合	※その他、他の授業との接続・所属内容・授業運営等の課題がありましたらお書きください。					

平成 29 年度 SIH 道場 医療教育開発センター 授業詳細  
「医・歯・薬学部合同 チーム医療入門ワークショップ」

■目的：

- 1) 医療現場で働く各専門職種を目指す学生が相互に理解し、将来、ともに円滑なチーム医療を実践できる基盤を形成する動機付けをはかる。
- 2) 医療人を目指す学生として、今後の学生生活で何を学び、習得していくべきかを、他学部、他学科の学生と共に考え、お互いから学ぶことを通して、医療人としてのプロフェッショナルリズムの醸成をはかる。

■到達目標：

- 1) 他者と協力して、テーマについて討議（意見交換）し、プロダクトを作成できる。
- 2) 「なぜ、国際医療協力をするのか」について討議することができる。
- 3) 今、自分達ができること、今後の学習のあり方について討議することができる。
- 4) グループで討議した結果をほかのグループにプレゼンテーションできる。

Key words

チーム医療、Inter-professional education (IPE；専門職連携教育)、コミュニケーション、協働力

■成績評価：

以下の1)～3)に基づいて、グループワークにおける協働力およびプレゼンテーション力のルーブリック評価、振り返りレポートによる文章力のルーブリック評価を行う。

1) チーム医療入門ワークショップへの参加

医療現場で活躍している専門家の講演を聴講した後に、他学部・学科学生との混合グループで協働してテーマに沿ってプロダクトを作成する。さらにして、そのプロダクトについてグループ間でプレゼンテーションと討議を行う。

2) 「リフレクションシート」の作成

チーム医療入門ワークショップへの参加について、自らを振り返り、今後の学習について考える。

3) 「振り返りレポート」の作成

「チーム医療入門」に参加して、学生自身が学んだこと、また今後の学習に関する目標について、A4用紙1枚（約1000文字）にまとめる。

【SIH道場レポートの合格基準】

以下の3つの評価基準をすべて満たすこと。

- 1) チーム医療入門ワークショップに参加すること。
- 2) リフレクションシートを提出すること。
- 3) グループワークにおける協働力とプレゼンテーション力のルーブリック評価で合格すること。
- 4) 振り返りレポートを提出し、そのルーブリック評価で合格すること。

\*ルーブリック評価での合格基準は、各観点での評価尺度で（c）がひとつまでとする。

## 16. 医療教育開発センター

### ■ワークショップ概要

**開催日時：**平成 29 年 9 月 29 日 13:00～17:00

**会場：**大塚講堂（1F 大ホール、2F 小ホール）、保健学科 C 棟、総合研究棟

**対象：**蔵本地区（医学部、歯学部、薬学部）1 年生 429 名

**方法：**国際医療に造詣の深い内藤 毅先生（徳島大学国際センター国際協力部門特任教授）の講演「国際医療協力：私の経験から」を聴講し、国際医療について学修する。それに続いてテーマ「なぜ、国際医療協力をするのか」に沿ってグループワーク（ディスカッション）を行い、プロダクト作成・発表・討議する。

### タイムスケジュール：

12:30 受付

13:00 全体オリエンテーション

- ・挨拶 徳島大学大学院医歯薬学研究部薬学部長 佐野茂樹先生
- ・ワークショップ・スケジュール説明

13:20 講演「国際医療協力：私の経験から」

講師：内藤 毅先生（徳島大学国際センター国際協力部門特任教授）

14:20 各ワーキング会場に移動

14:30 グループワーク開始

- ・アイスブレイキング（自己紹介）
- ・役割（司会、時計、発表）分担を学生で決める。
- ・ワークショップ作業開始：KJ法により、模造紙1枚にプロダクトを作成。

16:00 小グループ発表

- ・1会場3班でグループ発表（発表5分＋質疑3分）
- ・全体討論5分（学生が司会）
- ・チューターのコメント、振り返り・フィードバックを行う

16:45 まとめ

- ・学生はSIH道場アンケート記入
- ・チューターはアンケート記入

17:00 学生作業 終了 解散

17:10 チューター反省会（スキルスラボ5、6）

\*チューターはティーチングポートフォリオ入力（10月6日まで）

### 事前学習

- 1) KJ法:ワークショップで利用するKJ法の進め方
- 2) アフリカ眼科医療を支援する会(AOSA)ホームページ (<http://aosa-eye.org>) の閲覧

### 事後学習

- 1) 振り返りレポートの作成・提出
- 2) eポートフォリオシステムで、ルーブリック評価（協働力、プレゼン力）の確認。

## 2. 平成 29 年度 SIH 道場振り返りシンポジウム実施報告

### 1) 開催趣旨

各学部・学科での「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」を振り返り、取組内容および成果と課題を共有し、次年度のプログラム改善に繋げる。

### 2) 実施概要

日時：平成 29 年 11 月 17 日（金）16：30～19：00（16：00 受付開始）

場所：南常三島キャンパス 総合科学部地域連携プラザ 2 階地域連携大ホール（けやきホール）

参加対象：大学、短大、高等専門学校、高校の教職員及び学生

【平成 29 年度 SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門振り返りシンポジウムポスター】

Strike while the Iron is Hot. 「鉄は熱いうちに打て」

## 平成29年度 SIH道場振り返りシンポジウム

各学部・学科でのSIH道場を振り返り、成果と課題を共有し、次年度の改善に繋げるためのシンポジウムを開催します。

日時：平成29年11月17日（金）16：30～19：00（16:00受付開始）  
場所：南常三島キャンパス 総合科学部地域連携プラザ2階  
地域連携大ホール（けやきホール）  
対象：大学、短大、高等専門学校、高校の教員及び学生

プログラム：

16:30-16:35 開会の挨拶	赤池雅史/AP実施専門委員会副委員長
16:35-16:55 平成29年度SIH道場総括	上田勇仁/総合教育センター
16:55-17:15 授業設計コーディネーター による授業実践報告	芥川正武/工学部理工学科 阪間 稔/医学部保健学科
17:15-17:45 ポスター発表	各プログラム担当者
17:45-18:00 SIH道場受講生からの報告	学生/SIH道場評価・改善WG
18:00-18:45 ディスカッション	新原符義/総合教育センター
18:45-18:55 外部評価委員会からのコメント	
18:55-19:00 閉会の挨拶	川野卓二/（総合教育センター）

【問合せ先】 学務部教育支援課教育企画室 電話:088-656-7679(内線:81-7115)  
メールアドレス:kyj@kakuk@tokushima-u.ac.jp

徳島大学大学教育再生加速プログラムの詳細については、大学ウェブサイトをご覧ください。  
<http://www.tokushima-u.ac.jp/campus/education/acceleration.html>

主催:徳島大学大学教育再生加速プログラム実施専門委員会

### 3) 開催報告

最初に、赤池雅史大学教育再生加速プログラム実施専門委員会副委員長が開会の挨拶を行った。次に「平成 29 年度 SIH 道場の総括」として、上田勇仁特任助教が SIH 道場の目的および平成 29 年度の各プログラムの取組み概要について紹介すると共に、学生対象アンケート結果について説明を行った。その後、「SIH 道場授業設計コーディネーターによる実施報告」として、芥川正武講師（理工学部理工学科）と阪間稔教授（医学部保健学科）が報告を行った（詳細については、資料の報告スライドを参照）。さらに「ポスター発表」として、各 15 プログラムの担当者と医療教育開発センターの担当者がそれぞれの SIH 道場の取組について報告を行い、参加者の質問に答えた。

「SIH 道場受講生からの報告」においては、SIH 道場評価・改善ワーキンググループの学生委員が報告を行った。SIH 道場が役に立った点としては、以下が挙げられた（一部抜粋）。

*「出会ったことのない他学科の方々と知り合える機会になったのは、非常に良い点であると思う。教養科目の履修中はどうしても専門知識が少なくなるが、少ないからこそ見える新鮮なものがあつたように思われる。数年後に同じメンバーで同様の活動を行った場合、どのように変化しているのか知ってみたい。」*

*「私たちがこれから学ぶであろうことを、一足先に学ぶことができ、これからの勉学への意識も高まり、目標を持って大学生活を送ることができるようになったと思います。良かったこととして、私たちが知らなかった医学的な知識を学べたことはもちろんですが、スライドの作り方や発表の仕方も学べて、自分が今できることが広がりました。」*

ディスカッションについては、総合教育センター教育改革推進部門の新原将義助教が司会を務め、パネリストとして、赤池雅史大学教育再生加速プログラム実施専門委員会副委員長、芥川正武講師、上田勇仁特任助教、山本秀樹、宮田晃志 SIH 道場評価・改善ワーキンググループ学生委員が壇上で質疑応答を行った（ディスカッションの詳細については、「4」ディスカッションのまとめ）を参照）。

本シンポジウムには、学内教職員、学生および外部評価委員の 68 名が参加し、今年度の SIH 道場の課題を踏まえ、次年度に向けた改善点を考えるための機会となった。

### 4) ディスカッションのまとめ

ディスカッションは、シンポジウムで共有されてきた SIH 道場の実施報告やアンケート結果、学生からの意見などを踏まえて、さまざまな立場の参加者間で議論を行い、次年度以降のプログラム改善に繋げることが目的である。登壇者は、大学教育再生加速プログラム実施専門委員会より赤池雅史副委員長、授業設計コーディネーターより理工学部電気電子システムコース芥川正武講師、各プログラムの実施支援の立場より総合教育センター教育改革推進部門の上田勇仁特任助教、受講者の立場より医学部医学科 1 年山本秀樹さん、宮田晃志さんの 5 名であり、司会は総合教育センター教育改革推進部門の新原将義助教が務めた。

ディスカッションでは、はじめに、学外の参加者から寄せられた「全学的な取組を実施するにあたっての工夫と今後の課題」についての質問に対し、赤池副委員長より「取組を続けていくう

ちに賛同者が増えてきている感覚があるため、各学部の先生方に協力をお願いし、感謝を述べ続けていく」ことの重要性を指摘する回答が為された。また授業実施者としての負担について、芥川先生より「コーディネーターの負担は大きいですが、内容的には学生にとって必要なものなので、通常授業とバランスをとりながら進めていくことが大事」であるという意見が述べられた。また、今後の課題について、上田特任助教より「支援の取組の一環として今年度より院生コーディネーター制度を設けており、こうした制度をより活用してもらうことが必要ではないか」との発言が為された。

続いて、学内の教員より寄せられた「SIH 道場での学びが他の授業に活かされていないのではないか」という意見が紹介され、議論が為された。この点について、芥川講師より「SIH 道場では例えば文章力についての課題を繰り返し行うことが難しいため、SIH 道場で実施した課題に、他の科目でも取り組む機会が増えていくと、現状は変わり得るのではないか」との意見が述べられた。またフロアからは「協働力のような学びの姿勢についても他の授業で活かされている実感がない。SIH 道場では大学での学びの楽しい部分のみが強調されている気がするが、大学では同時に学びの厳しい部分についても伝えていく必要があるのではないか」という見解が述べられた。この点について、赤池副委員長より「学びのトランスファーはなかなか起こりにくいものであり、学んだことを深掘りし、何ができ、何ができないかをしっかり考えていくような機会を設けないと、その後の学びに結びつかないのではないか」と、今後の課題についての見解が為された。さらに上田特任助教より、外部評価委員からも、SIH 道場の成果の他授業への波及について課題が指摘されていることが紹介され、今後どのような取組が考えられるのかについて検討が必要であるという議論が行われた。学生の視点からは、「例えば生物学と生理学の授業内容についても、個々の授業として受け止めてしまっており、それを結び付けて考えるという姿勢はないように感じる」「どのように結びつけていくべきなのかの方向性が分からず、その方向性を示してもらえると学生としては助かるのではないか」との見解が述べられた。

次年度以降の SIH 道場では、ディスカッションにおいて共有された課題の解決が重要になる。特に専門教育課程や他の授業への効果の波及については多くの議論が費やされており、こうした議論を基に、次年度以降の取組について更なる検討が必要である。

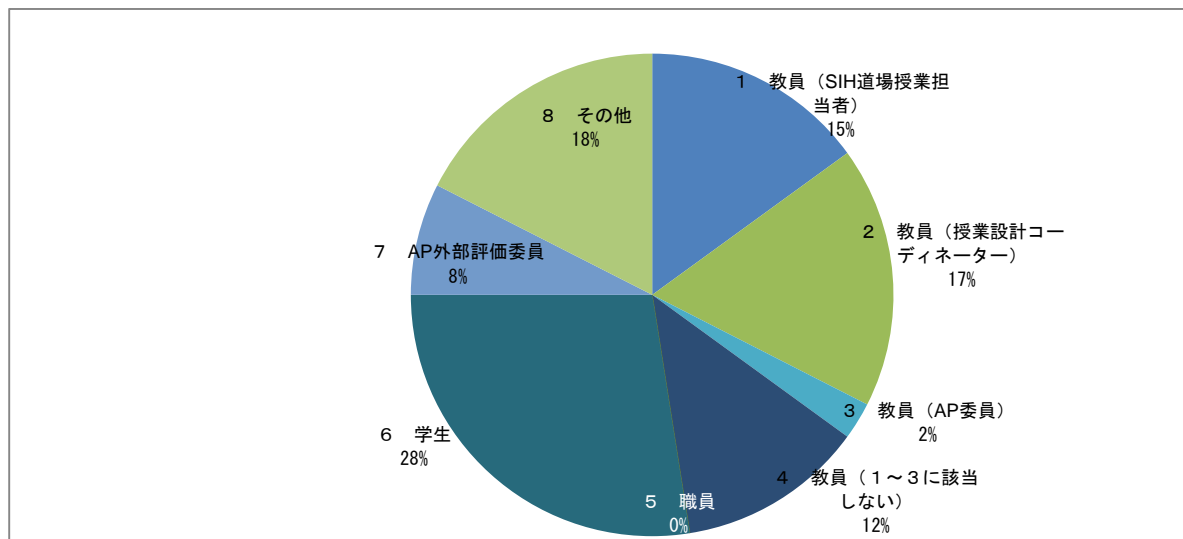
## 5) 平成 29 年度 SIH 道場振り返りシンポジウム 参加者アンケート集計結果

開催日時：平成 29 年 11 月 17 日（金）

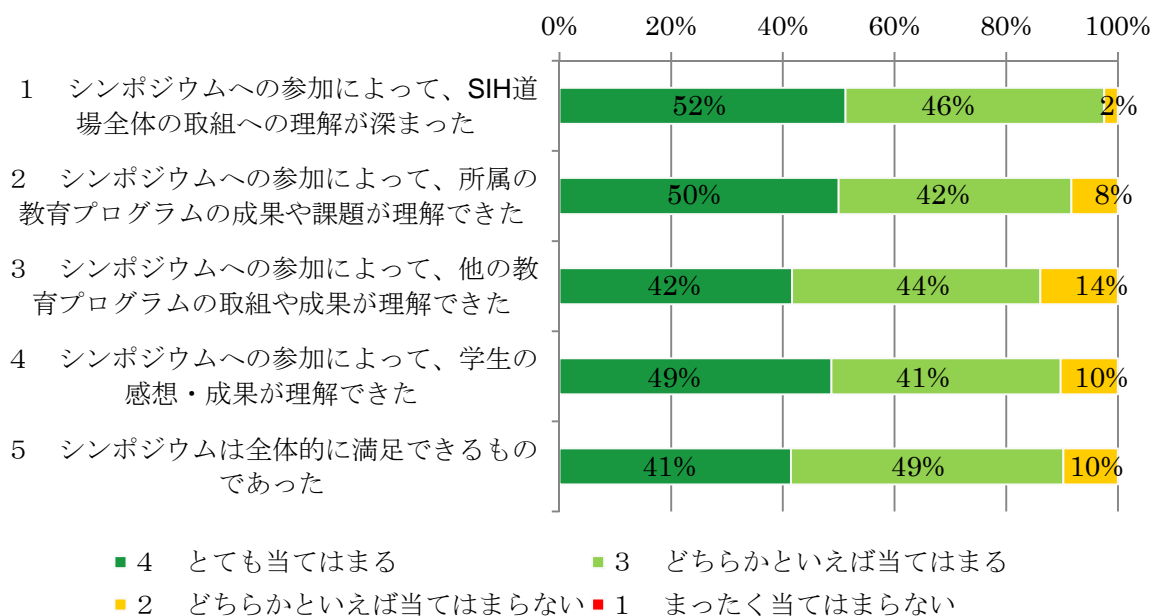
参加者数：68 名

アンケート回答数者数：43 名（回収率：63.2%）

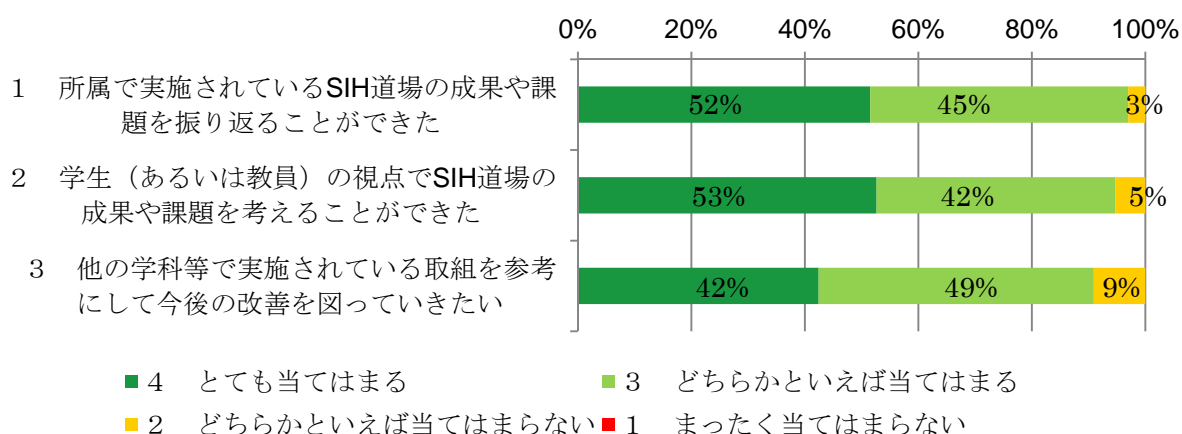
### 問 1. 回答者の所属について



### 問 2. 振り返りシンポジウムについて



### 問3. 振り返りシンポジウムに参加した感想



### 問4. 参加してよかった点、今後の改善点（自由記述）

- ・大変有意義でした。討論の際、逃げずに「最もクリティカルな意見」から取り上げていたのが、非常に良かったと思います。
- ・各学科で独自の取組をされていることを視聴。
- ・学生さんの意見が聞けたこと。
- ・医学部の意見や、発言を聞いても、理工には応用できないのでは？偏差値をごぞんじですか？両方のクラスを持っていますが然全ちがいますよ。医学部以外の学生が一番参考になる。
- ・ポスター発表はルーブリックを貼るより、授業風景などの写真をはった方がイメージがわかりやすいと思う。
- ・他学部、他学科の取組みについて知れるのは良い機会だった。
- ・「総括」（上田先生）がお終わった時点、芥川先生、阪間先生の発表もお終わった時点で質問を受けつけるべき。
- ・学生への質問（？）が冗長なので、整理しては？
- ・会場からの意見や学生の言葉も聞いて良かったです。
- ・他のプログラムでの実施内容について担当者から話を。
- ・ポスターの文字を大きくして下さい!!
- ・学科全体で取り組んでいるところもあり、自分の学科とのちがいを感じた。
- ・学生の意見をきけてよかった。
- ・学生さんの率直な意見が聞け、大変興味深く参加させていただきました。ありがとうございました。SIHに取り組んでいただいている先生方も大変苦勞されつつも、前向きに尽力されていることがうらやましく思います。ただ前提となるSIHの具体的な取組（対象科目やボリューム等）の情報を共有できていない学外者としては、ねらいや目的、効果はわかったものの、それぞれが何をされているのかがややわかりにくいと思いました。（ただそれは本イベントの内容上当然であり、貴学のAP事業や取組内容を批判するものではありません。）




- ・ 学生さんからの要望をうまく引き出していらっしゃって、参考になりました。彼らの本音を次年度のプログラムに反映させる仕組みをどう構築されているのか、興味を持ちました。様々な課題（未解決）を率直にお話くださったことから多くのヒントをいただきました。ありがとうございました。
- ・ 他のプログラムの内容がわかりました。
- ・ 学生側の意見が聞けたのはよかった。色々な学部の取組を一度に知れてお得。
- ・ 学生とのWSを主として、フィードバックを共有できるようにしたい。
- ・ 学部（コース）間の内容に差があるのをどうするか。
- ・ 他の学科の取組を教員の側からと受講した学生さんの側から知ることができた。
- ・ 他学部の状況が明確になり、たいへん参考になりました。
- ・ 他の学部でどんなことがあったのかが知れてよかったです。
- ・ 授業設計コーディネーターによる授業実践報告によって取組み状況が良く理解できた。この授業内容が学科・コースで十分に共有されていれば、次年度への改善につながっていき、良いプログラムになっていくと思われる。
- ・ SIH道場についてふり返ることができた。
- ・ ポスター発表の時間に発表している方のかたよりがあったように思います。また学生は必要であったでしょうか。
- ・ 他の教養教育科目や専門科目とどのように連携していくのが重要であることを再認識した。
- ・ ポスター発表が発表というよりおしゃべりをしているようで、僕ら学生はなかなか中に入りにくい雰囲気だったのであまり話を聞くことができなかった。
- ・ 他の学部でも行っていることや、達成させたいと教員側が考えていることを知ることができたこと。本来そのような場ではないのかもしれないが、教員がどう思っているのか、どのように力を付けてほしいのかを知ることができたところ。全学的な取組であるということが言われていたが、医歯薬学部のように常三島の学部でも合同で取組を行ってほしい。生物資源産業学部ではあまりそのようなことは感じられなかった。シンポジウムを記憶が鮮明なうちに開催してほしい。又はこのようなシンポジウムの存在を早期に知らせておいてほしい。
- ・ 他のコースの実施内容を知ることができ、自身の受講内容との比較ができてよかったと思う。個別にヒアリングを行う時期は前期のうちに行うことができたらいいのではないかと思われる。また各コースの内容の裏の話であったり、授授の方々の様々な話を聞くことのできる良い機会であったと思う。またディスカッションについては他学部の学生も参加させるべきではないですか？
- ・ あまり思っていなかった意見、例えば、SIHで学んだことが普通の授業で生きているのかということに気づけたことがシンポジウムに参加してよかった点です。今後のための改善点として、教員側にもっと余裕を持っていただきたいなと感じました。
- ・ ポスター見学の際、学生が立ちつくしてしまっている状況があったので、もう少し、参加できればよかった。

- ・大学側の講義の意図を知れるいい機会であった。

問5. 所属のSIH道場を体験しての感想及び意見（自由記述）

- ・実施単位毎の個別プログラムも含め、学生には効果が現れていることは体感できるが、評価として定量的な指標が未開発である。他も同様と予想されるので共有した検討が必要であろう。
- ・もう M2 ですが、低学年のうちにもっと文章力、プレゼン力向上させるプログラムあったらよかったなと思います。レポートなどをふやすのではなく、「フィードバック」（どこがダメなのか、どう改善すればいいのか。）が欲しいと思いました。
- ・SIHの意義は全体としてわかるが今の大学教育にとって、最も重要なことがすっかりぬけ落ちている。学問には厳しさを伴うものなのに、「楽しい」ことやプレゼンなど上っ面が多い。手をぬくとすぐにおちこぼれるという大学の厳しさも伝えていくようなプログラム構成が必要なのではないか？
- ・もう少し参加者が多い方がいいと思います。全学的な会議なのに少ないと思います。文章力、プレゼン力など、もう少し身につくような取組を入れても良かったかなと思った。（具体的な指導になると、教員の負担がふえるので、大変かもしれないけれど…）最後のディスカッションは、充実（多様な意見を知ることができた）していた。
- ・授業担当者が少ない状態での取組みが理解できたので、今後に反映できれば良い。飛ぶノートがうまく運用できなかつたので、より良く運用できるシステム構築をお願いできたらと思います。
- ・総科だけ入学前に SIH 道場の日程が長すぎる。学校に慣れていない上に本格的に授業が始まる前に疲労がたまり、授業が始まって体調をくずす。
- ・学部によって内容が異なっているのである程度の基準をもうけてそれによる発表を行うべきではないかと思います。
- ・省察・振り返りの充実が不可欠である。それができないと他科目との連携は実現しないと思う。
- ・生徒自身に積極性があればとても貴重な経験ができたと思う。
- ・SIH道場が結局のところ何を意味し、何を意図しているのかがあまり理解できず、話にもあったが、SIH道場の授業以降あまり SIH道場のことについて考えて何かをすることが無かつた。
- ・他学部と共にグループワークを行うのは非常に有意義だったと思います。
- ・医学科における早期体験実習において、体験できる科がランダムに決められてしまっていたため望む科に見学に行けなかつた学生が一定数いた。2ヶ所見学できるうちの一方を希望制、もう一方をランダムといった形式で行ってみるのはどうか。



## 平成29年度SIH道場総括

-社会から求められる初年次教育・SIH道場3年間の取組-

総合教育センター 教育改革推進部門  
特任助教 上田勇仁

1

## 自己紹介

総合教育センター・教育改革推進部門  
特任助教 上田勇仁 (ウエダハヤト)

【経歴】

- ・愛媛大学法文学卒業 (SPOD研修生)
- ・熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻修士課程修了 (修士：教授システム)
- ・大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程 (在籍)
- ・大学院修士課程修了後、eラーニング制作会社 私立大学専門職職員を経て現職

2

## 報告の概要


- ・ **社会から求められる大学の初年次教育**
  - 高校生の学習経験は、今後変化するか？
  - 大学生の学修経験・大学教育に対する価値観の変化
  - 企業から求められる大学生の要素
- ・ **徳島大学の基礎情報**
  - 大学教育再生加速プログラム採択前後の比較
- ・ **SIH道場の概要・3年間の取り組み**
  - SIH道場の概要
  - 3年間の取組を検証 (学生アンケートの結果から)
  - 外部評価委員会からのコメント・今後の取組

3

## 社会から求められる大学の初年次教育

4

## 社会から求められる大学の初年次教育



高校生 → 大学生 → 社会人

**社会からのニーズに対応した大学の初年次教育はいかにあるべきか？**  
近年実施された調査結果から考察

5

### 全国の校長への調査「現在の参加型学習への取り組みについて」

項目	件数	パーセント
学年間として参加型学習に取り組んでいる学年がある	377	16.2
教科として参加型学習に取り組んでいる教科がある	1,756	75.5
学校全体として参加型学習に関する目標を掲げている	530	22.8
参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している	312	13.4
参加型学習の内容を含む校内研修を行っている	681	29.3
教員に対し、参加型学習に関する校外研修や勉強会への参加を推奨している	1,073	46.1
参加型学習の実施について、校内の会議などで積極的な呼びかけを行っている	694	29.8
有熟員数	2,327	100.0
無熟員	44	
合計	2,371	

**アクティブ・ラーニングの視点に立った参加型授業に取り組んでいる**

# 75%以上

校長調査の結果による (N=2371) 複数選択。  
本件は、山辺啓介、中島孝(2015)、東京大学・日本教育研究センター・国際教育研究センターが実施した「アクティブ・ラーニングの推進に関する校長調査 2015」の一部内容也。http://manabikyo.jp/wp/wp-content/uploads/2015/12/14report.pdf

6

全国の校長への調査「アクティブ・ラーニングの視点に立った参加型授業への今後の取り組み状況」

項目	度数	パーセント
今後取り組み見込みはない	22	0.9
ここ数年間で取り組み予定はない	172	7.4
ここ数年間で取り組みことを検討している	697	30.1
ここ数年間で取り組み具体的な計画が進行中である	114	4.9
すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である	1	0.0
すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である	427	18.4
すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である	883	38.1
有効回答数	2,316	100.0
無効回答	13	
無回答	42	
合計	2,371	

「ここ数年間で取り組みことを検討」  
+  
「すでに取り組んでおり、今後も維持orより充実」

**86%**  
以上

校長調査の結果による (N=2371) 単一選択。

本村, 山田(2015), 東京大学・日本教育研究イノベーションセンター・教育政策研究  
高等学域におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する調査報告 2015 第1次報告書, <http://manabiab.jp/wp/wp-content/uploads/2015/12/1streport.pdf>  
平成29年11月17日(金) 平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

大学に入学してくる高校生の学習経験は、今後変化するか？

- ・ 校長への調査：
  - 多くの高校でアクティブ・ラーニングが導入
  - 今後もアクティブ・ラーニングの取組が充実
- ・ 2020年～：
  - 大学入学共通テストの導入
  - 「新学習指導要領」の導入
  - (小学校 2020年; 中学校2021年; 高校2022年)

今後の教育改革に合わせて  
小学校から高校までの学修経験に変化



平成29年11月17日(金) 平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

大学生はどのような授業を経験しているのか？



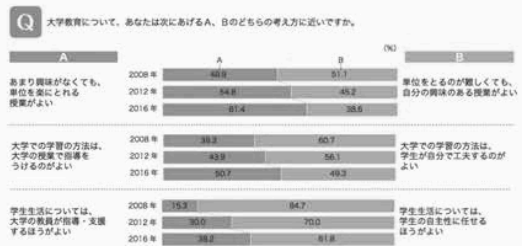
4) 注: 「よく+ある程度あった%」※一部抜粋  
第1回 大学の授業・教員と協働作業に関する調査報告書 タイムシート 第1部 ページ27の協働作業授業(2016年)  
[http://ford.soken.ac.jp/koshu/research/2016/11\\_1p27-5169](http://ford.soken.ac.jp/koshu/research/2016/11_1p27-5169)  
全国の大学1年～4年生: 2008年 (N=4070) 2012年 (N=4911) 2016年 (N=4948) 調査方法: インターネット調査 実施時期: 10月-12月

2008年からアクティブ・ラーニングの授業を経験する学生は増えている

平成29年11月17日(金) 平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

9

大学生は大学教育に対して何を求めているのか？



第1回 大学の授業・教員と協働作業に関する調査報告書 タイムシート 第1部 ページ27の協働作業授業(2016年)  
[http://ford.soken.ac.jp/koshu/research/2016/11\\_1p27-5169](http://ford.soken.ac.jp/koshu/research/2016/11_1p27-5169)  
全国の大学1年～4年生: 2008年 (N=4070) 2012年 (N=4911) 2016年 (N=4948) 調査方法: インターネット調査 実施時期: 10月-12月

2008年から大学生の大学教育に対する価値観に変化

平成29年11月17日(金) 平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

10

2008年から大学生の学修経験・大学教育に対する価値観に変化はあるか？

- ・ アクティブ・ラーニングの経験：
  - グループワーク・プレゼン・ディスカッション上昇
  - 大学での学習経験に変化 (FD推進の成果?)
- ・ 大学教育に対する価値観：
  - 「あまり興味がなくとも単位をとれる授業がよい」 12%増加
  - 「学習の方法は、大学で指導を受けるのがよい」 11%増加
  - 学生生活について「教員が指導・支援するほうがよい」 22%増加
  - 単位に対する考え方の変化
  - 大学に対する学習・生活支援に対する要望の増加



平成29年11月17日(金) 平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

11

新卒採用選考にあたって特に重視した点

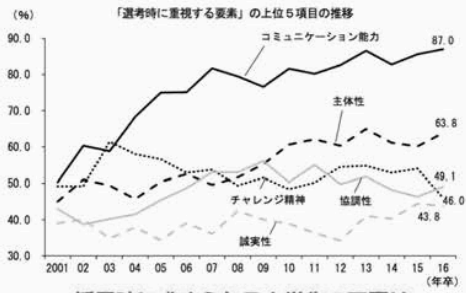
一般社団法人日本経済団体連合会 (2016)

- ・ コミュニケーション能力
- ・ 柔軟性
- ・ 主体性
- ・ 潜在的可能性
- ・ 協調性
- ・ 信頼性
- ・ チャレンジ精神
- ・ 創造性
- ・ 誠実性
- ・ 専門性
- ・ ストレス耐性
- ・ 一般常識
- ・ 責任感
- ・ 学業成績
- ・ 論理性
- ・ 語学力
- ・ 課題解決能力
- ・ 留学経験
- ・ リーダーシップ
- ・ その他

平成29年11月17日(金) 平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

12

### 新卒採用選考にあたって特に重視した点



採用時に求められる大学生の要素は  
2001年から大幅な変動はしていない

2016年調査：回答した会社（N=709）20項目から5項目を選択  
一般社団法人日本経済団体連合会（2016）2016年度「新卒採用に関するアンケート調査」報告書 [https://www.keidanren.or.jp/policy/2016/108\\_gaiyo.pdf](https://www.keidanren.or.jp/policy/2016/108_gaiyo.pdf)  
平成29年11月17日(金) 平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

13

### 社会から求められる大学の初年次教育

- 高校：
  - 今後もアクティブ・ラーニングの取組が充実・学習指導要領の改定に伴いアクティブ・ラーニングの推進はより強化
  - 高校でのカリキュラム・教授法を踏まえて、初年次教育におけるアクティブ・ラーニングの推進を再考していく必要がある
- 大学生：
  - 8年前と比べて大学生の学習経験や大学教育に対する考え方に变化
  - 徳大生の学習経験や大学教育に対する考え方を調査し、初年次教育における学習支援を再検討
- 企業：
  - 一方、企業が求めている大学生の要素に大きな変化はない
  - 社会から求められる能力については、普遍的な要素とは何か初年次教育において、どのような学習の機会が必要か議論

平成29年11月17日(金)

平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

14

### 徳島大学基礎情報

-大学教育再生加速プログラム採択前後の比較

平成29年11月17日(金)

平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

15

### 大学教育再生加速プログラム採択前後の アクティブ・ラーニング導入

表1 アクティブ・ラーニングを導入した授業科目数の割合の経年変化

年度	(A)総科目数	(B)アクティブ・ラーニング導入科目数	アクティブ・ラーニング導入の割合(%) (B)/(A)
平成25年度	1552	731	47%
平成26年度	1609	811	50%
平成27年度	1600	933	58%
平成28年度	1692	1103	65%

【採択前】 H25年47%

【採択年度】 H26年50%

【SIH道場開始～】 H27年58.3% H28年65.2%

平成29年11月17日(金)

平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

16

### 大学教育再生加速プログラム採択前後の FDに参加した割合

表2 専任教員が教育力向上を目的とした研修（FD）に参加した割合の経年変化

年度	(A)教員数	(B)FD参加者数 (実数)	FD参加率(B)/(A)
平成25年度	701	351	50%
平成26年度	668	389	58%
平成27年度	691	582	84%
平成28年度	667	602	90%

【採択前】 H25年50%

【採択年度】 H26年58%

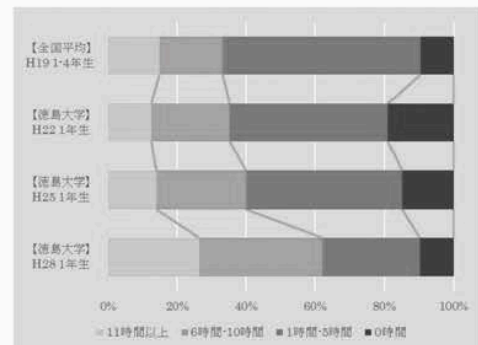
【SIH道場開始～】 H27年84% H28年90%

平成29年11月17日(金)

平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

17

### 全国平均VS大学教育再生加速プログラム採択前後の1年次の授業時間外学習 図：本学1年次の1週間の授業時間外学習経年変化と平成19年全国平均



【参考文献】  
2007年全国大学生調査（東京大学経済学・政策センター）[http://www.p.u-tokyo.ac.jp/oramp/resource/kiso2008\\_01.pdf](http://www.p.u-tokyo.ac.jp/oramp/resource/kiso2008_01.pdf)  
学生の学習に関する実態調査[http://www.tokushima-u.ac.jp/opus/11/fe\\_sureny/gakushu/itai/ohoss.html](http://www.tokushima-u.ac.jp/opus/11/fe_sureny/gakushu/itai/ohoss.html)

平成29年11月17日(金)

平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

18

## SIH道場の概要・3年間の取り組み

平成29年11月17日(金)      平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

19

### 平成26年度「大学教育再生加速プログラム」満足度調査

大学等名：徳島大学  
テーマ：テーマI（アクティブ・ラーニング）

本事業は、「熱は熱いうちに打て」(Hot: Strike while the Iron is Hot)の精神に則り、「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門」を初年次に導入し、教員研修、グループワーク、学修ポートフォリオ、専門領域早期体験等によりアクティブ・ラーニングの基礎を定着し、学生と教員が共に学び成長することで、アクティブ・ラーニングを学生と教員双方に浸透させていく取組である。

#### 学生の取組

- 初年次学修と目指す専門性との関連付けができていない
- 大学での学修に必要なラーニングスキルが不十分
- 高学年に於いて能動的学修を実践できていない

#### 教員の取組

- アクティブ・ラーニングが教員だけのことであり、効果が低い
- 教員間の協力が十分でない
- 自らの授業を振り返り、改善を検討する機会を作れない

学生と教員が共に成長

Strike while the Iron is Hot. 「熱は熱いうちに打て」

### SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～

ラーニングスキルを向上

#### 学生 (能動的に学ぶ)

- ① 専門領域早期体験による学修の定着化
- ② 文書力・プレゼン力・協働力を早期に獲得
- ③ 能動的学修の定着化

#### 教員 (教員教育方法を学ぶ)

- ① 実践を通じたアクティブ・ラーニングの実践化
- ② ルーブリック評価、反転授業等の修得
- ③ 教育経験を振り返る機会

学習者中心の授業

アクティブ・ラーニングの活用

	25年度	26年度	27年度
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	100%	100%	100%
アクティブ・ラーニングを導入した授業科目数の割合	47%	60%	80%
平成29年11月17日(金)アクティブ・ラーニングを行う専任教員の割合	52%	65%	77%

●本事業を実施することにより、学生のラーニングスキル、教員のティーチングスキルが向上し、学生は能動的に学修し、教員は能動的に教育改善に取り組むことで、これまでの教育改革で増加した専門科目におけるアクティブ・ラーニングの効果をより実質化する事ができる。

●事業実施により、学生、教員の双方が実践を通して能動的学修のスキルを磨き、ポートフォリオを活用し学修内容を整理し、その内容に基づいて大学全体にアクティブ・ラーニングを浸透させることが出来る。

20

## SIH道場の目的 学生と教員が共に学び成長する場

- ◆**学生**（ラーニングスキルの修得）
  - ▶ 専門分野の早期体験により学修・研究への動機づけを行う。
  - ▶ 大学での学修に必要なラーニングスキルの基礎を修得する。
  - ▶ 能動的学修に繋がる振り返り（省察）を行うための基礎と習慣を身につける。
- ◆**教員**（ティーチングスキルの修得；OJT型FD）
  - ▶ 実践を通じてアクティブ・ラーニング型授業を実質化する。
  - ▶ ルーブリック評価、反転授業等の新しい教育方法の修得する。
  - ▶ 自らの教育経験を振り返り、改善に繋げる。

平成29年11月17日(金)      平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

21

## SIH道場

徳島大学の1年次全員が受講する  
初年次教育プログラム(15教育プログラム)  
【設計必須項目】

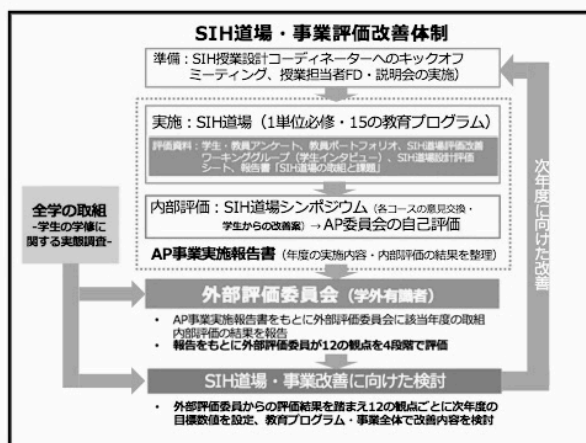
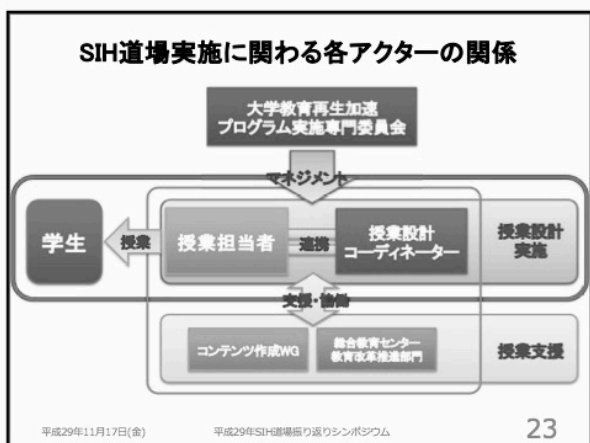
- ① 専門分野の早期体験、
- ② ラーニングスキルの修得、
- ③ 学修の振り返りを行う

授業内容: 学科・専攻単位で設計  
担当教員: 学部・学科教員  
授業支援: 教育改革推進部門・コンテンツ作成WG

キーワード: 専門分野の早期体験、アクティブ・ラーニングスキルの獲得、eポートフォリオによる学習の振り返り

平成29年11月17日(金)      平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

22





## SIH道場3年間の取り組みの検証

### ● SIH道場終了後の学生アンケート（3年間）の分析

- 「1.体験学習で専門分野に対する興味関心が高まった。」
  - 「2.レポート等の学術的文章を書く際に必要な準備や基本的なルールを理解した。」
  - 「3.プレゼンテーションを効果的に行うために必要な準備・姿勢・資料を理解した。」
  - 「4.1つの課題に対して、他者と協力して取組際の留意点を理解した。」
  - 「5.学修（体験）を振り返ることの重要性を理解した。」
- 必須設計項目と関連する上記の5項目（4件法）を対象

平成29年11月17日(金)

平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

25

## SIH道場必須整形項目に関連した学生アンケートの結果（複数年度の集計）

教育プログラム	1.専門関心			2.レポートの書き方			3.プレゼン			4.他者との協力			5.振り返り		
	n	M	SD	n	M	SD	n	M	SD	n	M	SD	n	M	SD
① 総合科学	427	3.04	0.74	421	3.36	0.58	293	3.11	0.71	301	3.11	0.75	422	3.15	0.65
② 医学科	286	3.41	0.69	286	3.23	0.68	286	3.37	0.64	286	3.56	0.55	286	3.32	0.66
③ 医科栄養	140	3.46	0.68	140	2.81	0.68	140	3.10	0.60	140	3.49	0.59	140	3.31	0.62
④ 看護	172	3.35	0.58	172	3.30	0.56	172	3.33	0.53	172	3.55	0.54	172	3.45	0.59
⑤ 放射	40	3.50	0.64	40	3.33	0.57	40	3.23	0.62	40	3.60	0.55	40	3.30	0.56
⑥ 検査	101	3.38	0.63	101	3.17	0.65	101	3.25	0.59	101	3.40	0.58	101	3.25	0.61
⑦ 歯学	137	3.41	0.66	137	3.26	0.67	137	3.29	0.65	137	3.45	0.64	137	3.28	0.72
⑧ 薬学	245	3.38	0.62	245	2.88	0.73	245	3.19	0.66	245	3.49	0.59	245	3.20	0.65
⑨ 社会基礎	264	3.34	0.69	264	3.26	0.68	262	3.19	0.75	264	3.34	0.74	263	3.30	0.76
⑩ 機械科学	323	2.96	0.85	321	3.26	0.64	322	2.83	0.77	322	3.14	0.70	321	3.02	0.78
⑪ 応用科学	254	3.36	0.71	252	3.14	0.69	252	3.09	0.77	252	3.45	0.65	252	3.40	0.67
⑫ 電気電子	303	3.00	0.74	301	3.25	0.63	303	3.28	0.64	303	3.32	0.68	303	3.20	0.76
⑬ 情報光	271	3.03	0.84	271	3.10	0.73	271	3.18	0.67	271	3.24	0.68	271	2.99	0.77
⑭ 応用理数	128	3.53	0.66	128	3.23	0.69	127	3.31	0.71	128	3.45	0.66	128	3.47	0.60
⑮ 生物資源	191	3.38	0.61	190	2.87	0.70	191	3.02	0.66	191	3.29	0.62	191	3.38	0.61
総計	3282	3.24	0.74	3269	3.18	0.68	3142	3.17	0.70	3153	3.36	0.67	3272	3.24	0.70

4.補足情報:  
 ① 本アンケートは、2015年から2017年までの集計結果を基に、2018年度から2019年度までのデータは、2018年度から2019年度までのデータを集計した結果を示しています。  
 ② 本アンケートは、2015年から2017年までの集計結果を基に、2018年度から2019年度までのデータは、2018年度から2019年度までのデータを集計した結果を示しています。  
 ③ 2017年度から2018年度までの集計結果を基に、2018年度から2019年度までのデータは、2018年度から2019年度までのデータを集計した結果を示しています。  
 平成29年11月17日(金) 平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

26

## 考察

- 多くの教育プログラムで高い平均点  
「4.他者との協力」
- ①総合科学部：「2.レポート書き方」  
他の必須設計項目よりも高い値
- 「3.プレゼン」：高い値を示している  
教育プログラムなし
- 全ての学生がプレゼンテーションに関する講義や  
ビデオ教材を受講しているが、  
授業時間の関係で、一部の学生だけがグループを代表  
してプレゼンテーションを実施している可能性

平成29年11月17日(金)

平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

27

## SIH道場外部評価委員からのコメントと今後の取組

平成28年度の外部評価委員からのコメント

：学生の目標達成については、プログラムの内容に対する理解や満足感以外に本プログラムによって学生のラーニングスキルがいかに身に付いたかの観点で満足度を測ることが重要  
(外部評価委員様評)



受講前・受講後に学生アンケートを実施し、共通質問項目について学生の回答の結果に変化がないか検証→SIH道場を通じて学習に関する考え方の変容に着目

平成29年11月17日(金)

平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

28

## 平成30年度SIH道場学生アンケート事前-事後の設問概要 (案)

### 【事前アンケート (設問数:21)】

- 1.所属(1)
- 2.大学教育観(14)
- 3.自身の学習(6)

### 【事後アンケート (設問数:40)】

- 1.所属(1)
- 2.大学教育観(14)
- 3.自身の学習(6)
- 4.SIH道場プログラムについて(10)
- 5.SIH道場授業以外の学習(6)
- 6.授業時間外学習(1)
- 7.SIH道場のプログラムについて 自由記述(2)

※赤字は別添1：【新しい質問項目】にて詳細を記す  
 黒字は別添2：【継続】にて詳細を記す

平成29年11月17日(金)

平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

29

## SIH道場学生アンケート事前-事後の設問概要 (案)

H30-新規設問項目：ベネッセ教育総合研究所「大学生の学習・生活実態調査」を参照  
 (ベネッセからの使用許可確認済) 2008年-12年-16年に実施 (N=4千-5千)  
 【大学教育観 (新規設問数:14) の一例】

	A	B	(%)	目
あまり興味がなくとも、 関心を覚えるようになる 授業がよい	2008年 48.9	2012年 54.8	2016年 51.4	単位をとるのが難しくても、 自分の興味のある授業がよい
教員が知識・技能を教える 講義形式の授業が多いほうがよい	2008年 69.2	2012年 63.3	2016年 58.7	学生が自分で調べて発表する 演習形式の授業が多いほうがよい
あまり自由に選択できる でも、柔軟に選べるほうがよい	2008年 36.7	2012年 33.2	2016年 30.8	あまり柔軟に選んで学ばなくても、 自由に選択できるほうがよい
大学での学習の方法は、 大学の授業で指導を受けるほうがよい	2008年 39.3	2012年 44.8	2016年 50.7	大学での学習の方法は、 学生が自分で工夫するのがよい
学生は授業やりたいことを 決めて、授業をうけるほうがよい	2008年 43.0	2012年 44.2	2016年 48.9	学生は授業を通じて、 授業やりたいことを みつけるほうがよい

公開されているアンケート結果と比較して徳生生の現状を把握

平成29年11月17日(金)

30

## 総括

- 社会から求められる大学の初年次教育  
-高校・大学生・企業等、様々なニーズを調査し  
初年次教育における学習目標・教授法  
(アクティブ・ラーニング)を随時検討
- 徳島大学の基礎情報  
-大学教育再生加速プログラム採択前後の比較
- SIH道場の概要・3年間の取り組み  
-3年間の取組を検証(学生アンケートの結果から)  
-外部評価委員会からのコメント・今後の取組

平成29年11月17日(金)

平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

31

## 資料

平成29年11月17日(金)

平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

32

### ◆徳島大学におけるアクティブ・ラーニングの定義

教員による一方向的な知識伝達とは異なり、課題演習、質疑応答、振り返り、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れることにより、学生自らが考え抜くことを教員が促し、学生の能動的な学習を促進させる双方向の教授・学修のこと。

2014年5月21日大学教育委員会承認

平成29年11月17日(金)

平成29年SIH道場振り返りシンポジウム

33



## 資料②

平成29年度 SIH道場振り返りシンポジウム

### 授業実践報告

理工学部 理工学科 電気電子システムコース  
授業設計コーディネータ  
芥川 正武

## 理工学部理工学科電気電子システムコース SIH道場

対象	理工学部 理工学科 電気電子システムコース 1年 112名 (昼間コース：100名, 夜間主コース：12名)
教員	コーディネータ1名, 担当教員3名, TA2名

#### 1. 専門分野の早期体験

##### STEM演習

#### 2. ラーニングスキルの習得

- 文章力
- プレゼンテーション力
- 協働力

▶ STEM演習のレポート  
▶ SIH道場の最終レポート

▶ ポスター発表

▶ SIH道場の最終レポート

#### 3. 自らの学修の振り返り

▶ 各授業の振り返り

## 理工学部理工学科電気電子システムコース SIH道場

### 実施日程

体験学習	4/10から「STEM演習」(前期 演習1単位)
SIH道場	1)[4/13] SIH道場の内容説明 レポートの書き方(文章力)
	2)[6/1] プレゼンテーションの作り方(プレゼン力) グループワーク(協働力)
	3)[6/15] ポスタープレゼンテーション(プレゼン力)
	6/30×切 最終レポート

## H29のSTEM演習とSIH道場のスケジュール

	STEM演習	SIH道場
4月	4/10 (1) オリエンテーション	4/13 (1) 概略・文章力
	4/17 (2) 実験1回目	
	4/24 (3) 実験2回目(レポート×切)	
5月	5/1 (4) :	
	5/8 (5) :	
	5/15 (6) :	
	5/22 (7) :	
	5/29 (8) :	
6月	6/5 (9) :	6/1 (2) プレゼンテーション, 協働力 STEM演習のテーマを1つ選び発表 6/15 (3) プレゼンテーション 6/30 最終レポート締め切り
	6/12 (10)	
	6/19 (11)	
	6/26 (12)	
7月	7/3 (13)	
	7/10 (14)	
	7/24 (15)	
	7/31 (16)	

☑ STEM演習の実験レポートは毎週提出

☑ 次週, 添削して返却, 再レポートあり

## STEM演習

選択必修区分等	必修 1年 前期 単位数1
担当	教員 4人, TA 4人

### 授業の目的 (一部略)

電気電子工学を本学科で本格的に学習し始める前に, 電気電子工学を学習し, 上記の能力を身につける上で最低限必要な基礎力(知識, スキル)を演習・討論を通して身につける。

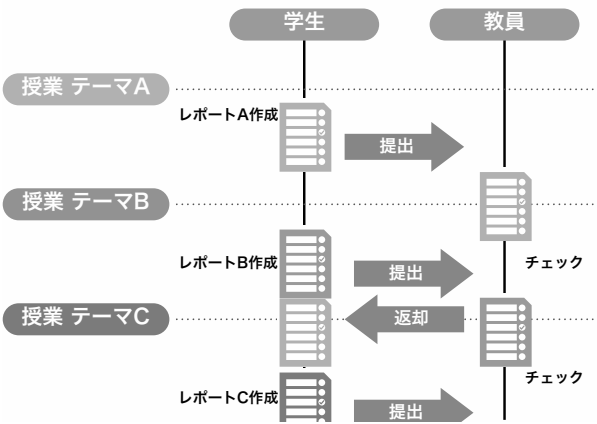
### 授業計画

- |                             |                    |
|-----------------------------|--------------------|
| 1. 電気電子工学とは?                | 9. 電気回路工作と電気計測     |
| 2. 物理の原理を使った発電と電気力の発生       | 10. 電気回路の基本法則      |
| 3. 空間を伝わる電気力とその応用           | 11. ブリッジを用いた電気計測   |
| 4. 化学の原理を使った発電とテストによる電力量の測定 | 12. コンデンサの働き       |
| 5. 電流による磁界の発生               | 13. CR積分回路の動作      |
| 6. 磁界による発電                  | 14. 交流信号に対するコイルの働き |
| 7. 磁界による電気力の発生              | 15. 共振回路とその応用      |
| 8. 電気の誘導現象を利用した発電           | 16. レポートの講評と総括     |

## STEM演習の内容

演習番号	分野	題 目	もの作りの内容	キーワード	
		オリエンテーション		授業概要, レポートの書き方, Moodle	
1	電気回路学	摩擦による発電と電気力の発生	画紙の振り子	摩擦電気, クーロンの法則	
2		空間を伝わる電気力とその応用	フランクリンモータ	クーロンの法則	
3		化学の原理を使った発電とテストによる計測	ボルタの電池, コイン電池	電池, テスタ, 抵抗・電圧計測	
4		電流による磁界の発生	電磁石と磁化	磁化, 右ねじの法則	
5		磁界による発電	ふりふり発電によるLED点灯	電磁誘導, レンツの法則, 抵抗測定	
6		電流による電気力の発生	フラフデーモーター	フレミングの左手の法則	
7		磁界の誘導現象を利用した発電	直流モータによる発電	フレミングの右手の法則, 電圧計測, 半固定抵抗	
8		電気回路の電圧と電流間の関係	乾電池と抵抗から作製する回路	オームの法則	
9		電気回路における基本法則	抵抗の直並列回路	キルヒホッフの法則, 重ね合わせの理, 電気計測(有効値)	
10		ブリッジ回路による抵抗測定	ホイーストブリッジ	ブリッジ回路	
11		電気回路理論	コンデンサの働き	コンデンサの充放電回路	充電, 放電, EXCELグラフ, 電圧電流特性, スイッチ
12		コンデンサに抵抗を加えた回路の働き	コンデンサ, LEDとトランジスタで作製する回路	積分回路, トランジスタ回路	
13		交流に対するコイルの働き	共振回路を用いた交流信号発生回路	共振回路, インピーダンス	
14		コイルとコンデンサからなる共振回路とその応用 (AMラジオ)	ガルマニウムラジオ	AM復調回路	

STEM演習：



第1回目 (4/13木 16:20-17:50 実施)

SIH道場の内容説明

- ・概要
- ・ラーニングスキルの習得
- ・学修の振り返り

レポートの書き方

- ・文章力
- ・実験レポートの書き方

課題

- ・ビデオコンテンツの視聴
- ・SIH道場について
- ・文章力 (STEM演習レポートまでに)

SIH道場：第1回

**目標**

- ・ SIH道場の概要と趣旨を述べることができる
- ・ 学修の方法を理解する
- ・ 実験レポートの書き方を理解する

第1回 SIH道場の内容説明 (文庫力) レポートの書き方 (文庫力) 4/13 9-10

第2回 プレゼンテーションの作り方 (プレゼン力) グループワーク (図解力) 5/19 9-10

第3回 ポスタープレゼンテーション (プレゼン力) (STEM 演習：専門分野) 6/15 9-10

入子で求めたい「子修」

高校までの「学習」と大学で求められる「学修」は異なる。

第2回目 (6/1木 16:20-17:50 実施)

プレゼンテーションについて

- ・ 課題設定
- ・ 実施方法
- ・ 内容構成
- ・ 視覚資料

協働力について

- ・ 協働のためのルール
- ・ 話し手と聞き手のスキル
- ・ アイディアの発想と収束

グループワーク

- ・ 班分け
- ・ プレゼンテーションテーマをSTEM演習のテーマから選定
- ・ ポスター構成

SIH道場：第2回

**目標**

- ・ 「プレゼンテーション」について、内容構成・視覚資料作り方の方針について理解する。
- ・ 「協働力」について理解する。

について

- ・ 各班で一つのプレゼンテーション資料(ポスター)を作成
- ・ パワーポイントでスライド(A4)8~10枚相当
  - ・ 印刷しても書きやすいように印刷して印刷可能
  - ・ 電気電子種コンピュータ実習室で印刷可能
  - ・ 印刷したものを貼り合わせ、1枚にしておくこと

第2回目 (6/1木 16:20-17:50 実施)

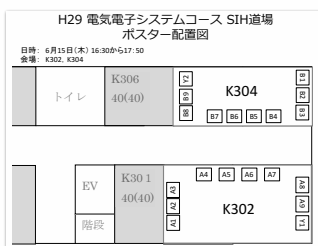
提示したポスターの雛形

<p><b>課題6：磁界による電気力の発生</b></p> <p>担当：EV、K301、K302</p>	<p><b>実践方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トリニティラボ実習室</li> <li>・ 電気電子種実習室</li> <li>・ 電気電子種コンピュータ実習室</li> <li>・ 印刷実習室</li> </ul>
<p><b>演習内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トリニティラボ実習室</li> <li>・ エレクトロニクス実習室</li> </ul>	<p><b>実践結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トリニティラボ実習室</li> <li>・ 電気電子種実習室</li> <li>・ 印刷実習室</li> </ul>
<p><b>目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トリニティラボ実習室実習結果</li> </ul>	<p><b>考察</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トリニティラボ実習室実習結果</li> <li>・ 電気電子種実習室実習結果について</li> <li>・ より実践に即した結果を出すために</li> <li>・ 印刷実習室に即した結果を出すために</li> </ul>
<p><b>演習方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トリニティラボ実習室</li> </ul>	<p><b>参考文献</b></p>

第3回目 (6/15木 16:20-17:50 実施)

プレゼンテーション

- ・ 発表
- ・ 相互評価



出席者名		氏名	
席	出席 (A, B, C)	席	氏名
AA		AA	
AB		AB	
AC		AC	
AD		AD	
AE		AE	
AF		AF	
AG		AG	
AH		AH	
AI		AI	
AJ		AJ	
AK		AK	
AL		AL	
AM		AM	
AN		AN	
AO		AO	
AP		AP	
AQ		AQ	
AR		AR	
AS		AS	
AT		AT	
AV		AV	
AW		AW	
AX		AX	
AY		AY	
AZ		AZ	

■：発表者「STEM演習」において申込されたテーマを提示して、ポスタープレゼンテーションを行って下さい。

発表者	発表テーマ	発表時間
発表者	(A) 発表テーマ	16:20-17:00
発表者	(B) 発表テーマ	17:00-17:40
発表者	(C) 発表テーマ	17:40-18:20

第3回目 (6/15木 16:20-17:50 実施)

第3回目 (6/15木 16:20-17:50 実施)

ポスタープレゼンテーション相互評価集計結果

2017/6/15 実施  
電気電子システムコース

表: プレゼンテーションカルーブリックによる相互評価の回答割合

No.	観点1			観点2			回答数		
	A	B	C	ポイント	A	B		C	ポイント
A1	0.52	0.41	0.08	2.44	0.13	0.54	0.13	2.61	31
A2	0.72	0.28	0.00	2.72	0.39	0.35	0.07	2.52	38
A3	0.57	0.38	0.05	2.52	0.77	0.21	0.01	2.76	34
A4	0.47	0.49	0.04	2.43	0.36	0.59	0.05	2.31	31
A5	0.85	0.13	0.02	2.83	0.90	0.09	0.01	2.89	39
A6	0.57	0.42	0.01	2.55	0.47	0.45	0.08	2.39	33
A7	0.77	0.22	0.01	2.75	0.75	0.21	0.04	2.71	37
A8	0.66	0.33	0.01	2.65	0.29	0.59	0.13	2.14	33
A9	0.35	0.44	0.20	2.15	0.33	0.43	0.24	2.09	38
B1	0.83	0.35	0.01	2.82	0.66	0.30	0.04	2.62	39
B2	0.65	0.34	0.01	2.44	0.31	0.45	0.24	2.03	39
B3	0.70	0.27	0.03	2.67	0.59	0.41	0.00	2.59	33
B4	0.84	0.29	0.07	2.58	0.36	0.53	0.12	2.24	36
B5	0.71	0.25	0.03	2.70	0.74	0.25	0.01	2.73	39
B6	0.28	0.59	0.13	2.15	0.27	0.52	0.21	2.06	32
B7	0.85	0.30	0.05	2.80	0.64	0.35	0.01	2.62	37
B8	0.63	0.35	0.01	2.62	0.44	0.49	0.07	2.37	31
B9	0.54	0.43	0.03	2.51	0.72	0.25	0.03	2.69	38
Y1	0.72	0.27	0.01	2.70	0.39	0.51	0.09	2.30	34
Y2	0.70	0.27	0.03	2.67	0.30	0.63	0.08	2.22	34

※ ポイント欄A, B, Cの各尺度(C3, 2, 1を割当てた場合の加重平均)

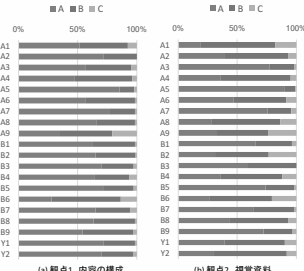


図: 各観点の回答割合の積み上げグラフ

総括

☐ ラーニングスキルの習得

- 文章力: SIH道場で理論 ⇒ STEM演習で実践
  - 一定の効果はあると期待。内容の重複あり、STEM演習でかなり細かな添削を毎週実施しており、そちらの効果が大きい
- プレゼンテーション力: STEM演習のテーマをSIH道場で発表
  - 発表テーマがSTEM演習で既習得であるため、内容理解した上での発表が実現。
- 協働力: SIH道場のGW, STEM演習でのGW
- 振り返り: SIH道場の最終レポート、各授業での振り返りシート
  - SIH道場の最終レポートのコメントフィードバックが大幅に遅れた。
  - eポートフォリオの活用がそれほど進んでいない。

最終レポート (6/30〆切)

**レポートの雛形**

SIH道場 体験学習個人レポート


姓名: \_\_\_\_\_ 学号: \_\_\_\_\_  
プレゼンテーションNo. \_\_\_\_\_

- 体験学習 (STEM演習) で学んだこと
  - STEM演習の授業は非常に勉強になりました。特に学習方法・振り返りについて学ぶことが多くありました。体験学習のグループ長や副長の働きかけにより、積極的に発言することができました。
  - ※ 具体的な事例を記入してください。必ずしも1項目です。
- SIH道場で学んだこと
  - 体験学習にない、フィールドワーク、最終的に学習に関心を持ち、振り返りの授業を身につけることができました。どのようにして身につけることができましたか? どのような工夫が関係しているか、記載してください。
- 今後の目標について
  - 特に、今後につなげる必要のあるスキルやテーマについて記載してください。
- ルーブリック自己評価
 

項目	観点	自己評価	備考
体験学習 (STEM演習)	授業内容の理解		
	体験学習後の気づき		
	授業内容への理解		
プレゼンテーション力	プレゼン内容		
	発表態度		
協働力	授業参加の積極性		
	グループワークの参加状況		

自己評価欄は最終のグループ発表を参考に「A」「B」「C」を記入してください。


- ・プレゼンテーション回から最終レポート締め切りまでは2週間
- ・提出はmanabaを利用
- ・授業担当教員
  - ・ルーブリックを用いて採点
  - ・コメントを返す


**SIH道場：授業実践報告**  
 平成29年度SIH道場  
**「アクティブ・ラーニング入門」**  
**振り返りシンポジウム**  
 医学部保健学科放射線技術科学専攻（放射線理工学）  
 阪間稔（本年度授業設計コーディネーター）

Tohoku University  
 1  
 けやきホール@常三島キャンパス 2017/11/17

**医学部保健学科の構成**


- 社会に貢献できる医療専門職や研究者を養成：看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術学専攻
- 教員配置：56名（2017年4月）うち、放射線技術科学専攻14名
- 学部定員（一学年）：三専攻総計140名、放射線技術科学専攻40名
- グローバルな視野から保健医療を探求し、多様な価値観を養う
- 放射線技術科学専攻：高度化・専門化する医療を支え、優秀な診療放射線技師を養成するとともに、高度な専門性（研究力）を身に付けて、垣根を越えた広い世界で活躍できる人材を育成する。



Tohoku University  
 2

**放射線技術科学専攻の専門性：教育背景**

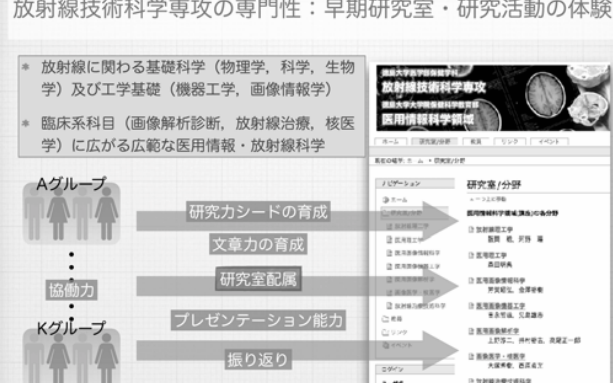
専門性の高い教育プログラムを有す。



Tohoku University  
 3

**放射線技術科学専攻の専門性：早期研究室・研究活動の体験**

- 放射線に関わる基礎科学（物理学、科学、生物学）及び工学基礎（機器工学、画像情報学）
- 臨床系科目（画像解析診断、放射線治療、核医学）に広がる広範な医用情報・放射線科学



Tohoku University  
 4

**実施内容**

- 【目的】 新生（放射線技術科学専攻）が放射線科学分野への専門的な志向を、配属先の研究室での先端研究に触れることでより明確な将来への動機付けを育み、さらに医療現場の最前線に立つ専門技師の講演を聴講することで、自らの将来が、その専門性を活かし非常に幅広く活躍できることを認識する。また、短期研究室体験の総括を通じて、文章の書き方、文献調査と整理の仕方、プレゼンテーション能力の向上、グループで取りまとめる協働力などの能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身に付ける。
- 【実施形態】
  - 教育講演プログラム：新生全員が聴講し、専門技師への質疑や議論を交わす。
  - 新生研修：学生生活や行動規範の講義と目標課題を設定しグループディスカッション
  - 短期研究室体験：4月～9月にかけての短期研究室配属での早期研究室活動体験、6月にプレゼンテーション発表演習、9月末の短期研究室体験報告会
  - チーム医療入門：9月末、早期体験、ラーニングスキルの向上

Tohoku University  
 5

**実施予定表**

■授業実施方法	日時	授業名	内容
4月7日(金)	8:45~11:00	保健学科共通オリエンテーション	先輩からのメッセージ
4月7日(金)	12:30~17:00	放射線技術科学専攻 短期研究室体験オリエンテーション	SIH道場短期研究室体験の概要説明、配属先の決定、学修の手引等の説明
4月8日(土)	8:25~	新生研修	平常は学生生活や行動規範に関する講義、午後はグループディスカッションを中心とした研修
4月27日(木)	10:00~17:00	教育プログラム	各分野の専門技師から見た教育プログラム-将来のエキスパートを目指し「夢をもって学ぼう」-
6月第3回(木)	10:30~18:30	SIH道場	パワーポイントを用いた発表演習(計4回)
9月27日(水)	15:00~18:00	短期研究室体験報告会	各研究室グループプレゼンテーション
9月29日(金)	13:00~17:00	チーム医療入門WS	早期体験、ラーニングスキル(協働力、プレゼンテーション力)

＊ 各研究室における研究体験テーマ

4月～9月まで1～数日程度の短期研究室配属	(平成29年度) 各研究室体験テーマ
	放射線移動診断セパラルモニタリング計算の実験
	音楽による感情認識の神経科学的メカニズムの研究
	細胞に生じたDNA損傷の検出法
	X線診断における軟ばり量の測定
	経眼X線照射によるMPOを中心とした非侵襲的イメージング手法と解析法の研究
	医用CT画像再構成法
	組織のX線吸収率を利用した画像化技術
	心理学的測定法によるモニタリング上の明確化の研究
	代謝-機能の画像診断
	胸部X線写真の世界的な特徴と画像の形成から評価まで
	放射線治療計画-高精度放射線治療の品質保証-品質管理

Tohoku University  
 6

## 教育講演プログラム (4月27日)

各分野の専門技師から見た教育プログラム  
(将来のエキスパートを目指し「夢」をもって学ぼう)

講演者

- 診断：松本高子先生 (診断マンモグラフィ撮影認定放射線技師)
- 診断：山下栄二郎先生 (日本超気共鳴専門技術者認定機構MRI専門技術者)
- 診断：大塚弘樹先生 (日本放射線治療専門放射線技師認定機構放射線治療専門放射線技師)
- 検査学：船田幸人先生 (検査学専門技師)

【目的】診療放射線技師の社会的役割や各専門分野に必須の科目群(教育プログラム)を入学当初に理解することにより、将来像の明確化を図ると共に、大学における能動的学習への動機づけを高める。  
【方法】各専門分野の認定技師および専門技師の方々に、40分程度の講演(患者の現場での役割や仕事に対する魅力・やりがいについて)を収録した後、学生と演者の先生で約20分の討論を行う。

診療放射線技師

Step Up!

- 診断 (MMG) 検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師 (日本医療画像情報専門技師共同認定機構)
- 診断 (CT) 放射線CT専門技師 (日本放射線CT専門技師認定機構)
- 診断 (MRI) 超気共鳴専門技術者 (日本超気共鳴専門技術者認定機構)
- 放射線治療 放射線治療専門放射線技師 (日本放射線治療専門放射線技師認定機構)
- 検査学 検査学専門技師 (日本放射線治療専門放射線技師認定機構)

卒業後、自身の将来像が明確になった。これからの講義や実習で一生涯に取り組まなければならないとやる気が湧いてきた。

7

## 短期研究室体験報告会 (9月27日15~18時)

- 開催場所の設営や準備：今年度からの院生コーディネーター制度により円滑な準備・進行が可能となった。
- 発表形式と順番：各グループ(研究室単位)の発表時間は10分、質疑応答3分、ルーブリック評価2分、グループAからKの順で行った。
- ルーブリック評価(オンライン)：各グループ間の相互評価を、スマートフォンを活用して、オンラインで行った。




8

## ルーブリック評価表

短期研究室体験 発表会ルーブリック評価表(見本)

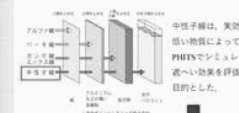
観 点	評価項目および観念以上上記と同一観念	評 価		
		5(非常に満足)	4(満足)	3(やや満足)
内容の構成	観念以上上記と同一観念	非常に満足です	満足です	やや満足です
発表者の姿勢	観念以上上記と同一観念	非常に満足です	満足です	やや満足です
質疑応答	観念以上上記と同一観念	非常に満足です	満足です	やや満足です
発表資料	観念以上上記と同一観念	非常に満足です	満足です	やや満足です
発表の準備	観念以上上記と同一観念	非常に満足です	満足です	やや満足です

9

## プレゼンテーションスライドの一例 (Aグループ)

### 【研究実験の目的設定や背景】

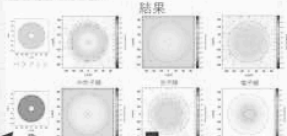
実験目的



中性子線は、実効原子番号の低い物質によって遅へいできる。PHFIVでシミュレーションして、遅へい効果を検証することを実験目的とした。

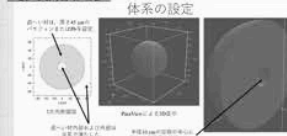
### 【実験結果】

結果



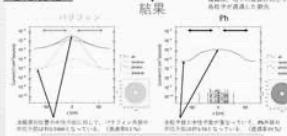
### 【実験設定】

体系の設定



### 【考察】

結果

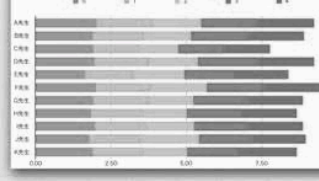


10



## ルーブリック評価の総括

発表者	G4			
	1 (1) 発表内容	2 (2) 発表内容	3 (3) 発表内容	4 (4) 発表内容
A先生	2.14	1.88	2.41	1.88
B先生	2.32	1.88	2.42	1.88
C先生	2.53	1.47	2.67	1.33
D先生	1.18	1.82	2.36	1.62
E先生	2.35	1.88	2.36	1.88
F先生	2.18	1.88	2.15	1.88
G先生	2.14	1.88	2.36	1.44
H先生	2.29	1.71	2.35	1.48
I先生	2.27	1.72	2.46	1.34
K先生	2.33	1.78	2.13	1.88
K先生	2.33	1.82	2.53	1.43



- オンラインでのルーブリック評価なので、報告会終了後のデータ整理や解析など、スムーズに行うことができた
- 配属先の研究室間で、それぞれ評価が分かれたが、この結果が研究室の優劣を識別するものではない。
- 新入生が率直に感じた他のグループや教員への関心事項の数値化として捉え、今後の学修指導の参考となる

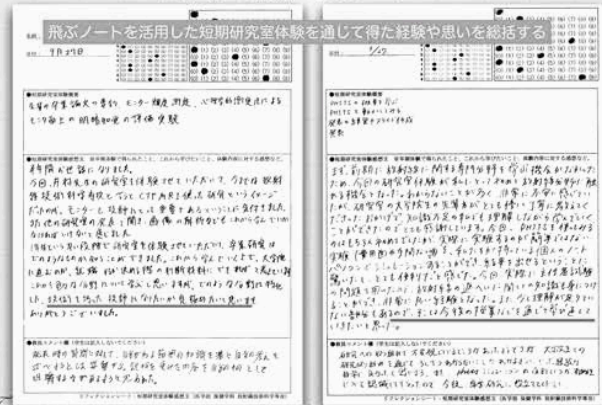
12



## ループリック評価（オンライン中）でのコメント 一例（学生からの声）

- アニメーションがあり、わかりやすかった（内容の構成）
- 目線が低かった（発表の姿勢）
- 最後のお礼らない（発表内容）
- しっかりと意思疎通が図れていることが感じ取れました（指導の状況）
- 文字の段落が改行されたりと見にくい箇所がいくつかありました（内容の構成）
- 身近な音楽についての話で頭に入って気分良かったです（内容の構成）
- 一つ一つまとまっていた見易かったです（視覚資料）
- 説明の仕方がよかったです。分かり易く見習いたいと思った（内容の構成）
- 感想がしっかりしていて伝わりやすかった（発表内容）
- 積極的に前を向いて発表することが出来ていなかったように感じた（発表の姿勢）
- スライドの文字が多いうように感じた。今後、一枚のスライドに多くの情報が入っているのを理解していかないといけないと思うので努力したいと思いました（視覚資料）
- 声が少し小さいと感じた（発表の姿勢）

## 文章力の訓練：簡易レポート



## 院生コーディネーターからのコメント

- 大学生の早い段階から研究に触れる機会があるというのは、一年生にとっても**有意義なものであった**と思います。報酬については今年度から始まった制度であり、**上限額が少なく**、この仕事をこなすには時間的に少し不十分だったと感じました。（大学院生保健科学教育部M1 I君コメント）
- SIH道場は、自分の学科がどのような将来性があるのか知ることができる良いキッカゲになると思います。卒業して臨床で働く以外の道というのは、高校ではなかなか思い描くことができないものだと思います。院生コーディネーターの制動は続けてもよいが、仕事内容によっては給与の**上限額を超える可能性**が出てくると思うので、そこも考慮していただければ幸いです。（大学院生保健科学教育部M1 I君コメント）

この制度の有効性を認識し、大学院生の立場からSIH道場へ参加できたことで良い経験が得られたのではないかと推察する。しかし、若干、報酬面で不十分さを感じている。

## 総括：本年度SIH道場における成果（医学部保健放射線）

- 早期体験：学生自身の卒後の将来像を描き、専門性志向の動機付け、さらには診療放射線技師プラスαの可能性（専門技師、大学院、医学物理士など）を明確化
- ラーニングスキル：プレゼンテーション能力を養うある一定期間の講義時間を設け、それと同時に短期研究室での研究活動で、その学修を活かし、本番のプレゼンテーションを実行する
- ラーニングスキル：文章力として、振り返りフィードバックによる短期研究室活動で得た経験や興味事項、及び今後すべきことをまとめることで訓練する
- ラーニングスキル：協働力として、グループメンバーで研究活動発表という一つの目標に向かって、互いに議論していく。その議論から、様々な見識を他者の立場から解釈し、新しい視点を身に付け、協働力を養う。
- 振り返りフィードバック：Maharaを通じてのe-ポートフォリオの作成と整理

## 今後の課題と改善点など、

- 授業設計コーディネーターを経験して、SIH道場の三年目が終了するところに差し掛かり、担当部局での授業担当者（部局の教員メンバー）の取りまとめに、苦勞と同時に難儀した。
- 通常の卒業研究（四年生）活動、大学院生の研究活動があり、それに加えて早期の研究室体験を行わなければならない、教員によっては設計したプログラムの意義に不明瞭に感じる。
- 三年目ということで、昨年度と同様に行えばというかたちで進み、情性感が生じてきている。
- キックオフミーティングなど参加が望まれる機会になかなか出席できないなど
- このようなシンポジウムを通じて、他部局のプログラムを参照する機会を得て、参考となる題材から、次期の授業設計コーディネーターをサポートできればと考える。

### 3. 平成 29 年度 SIH 道場の成果と課題

#### 3-1. 学生・教員対象 SIH 道場アンケート結果

##### 1) SIH 道場の成果検証

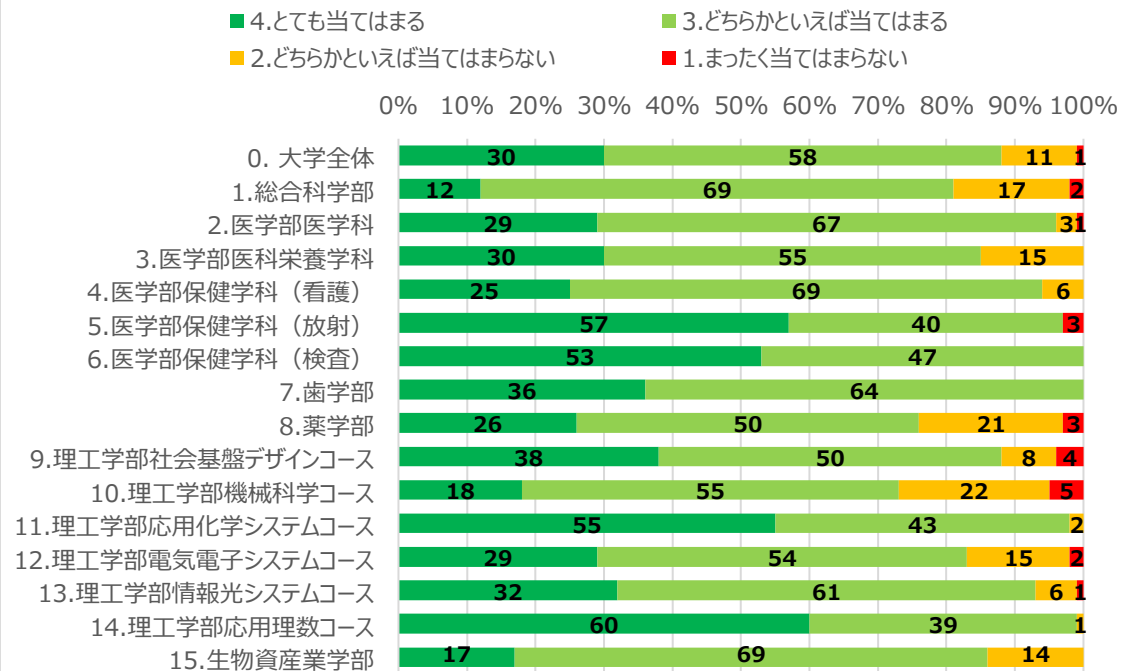
大学教育再生加速プログラム事業全体としては、各部局からの委員で構成される AP 実施専門委員会（委員長は教育担当理事）が事業計画に基づき運営を統括し事業を推進している。SIH 道場については、プログラム改善につなげるための評価指標を策定し、これに沿ってアンケート調査等の効果検証を行っている。SIH 道場において学生は、①専門分野の早期体験により学修や研究への意欲を高め、②ラーニングスキル（文章力・プレゼンテーション力・協働力）の修得により大学での学びの基礎固めを行い、③学修の振り返りにより主体的に計画を立て学び続ける習慣を身につける。他方教員にとって SIH 道場は OJT 型の FD としての機能を持ち、①アクティブ・ラーニングの実質化、②反転授業、ルーブリックによる評価法の修得、③教育経験の省察を行うなどのティーチングスキルをつける場となる。

SIH 道場では、「学生と教員が共に学び合う」ため、SIH 道場の成果検証においては、学生と教員がそれぞれの目標に到達したかを把握することが必要となる。そのため、各学部の SIH 道場の終了後には学生および教員対象のアンケートをそれぞれ実施している。これらのアンケートの結果については、SIH 道場の実施支援を担当している総合教育センター教育改革推進部門が集計およびとりまとめを行い、結果を各プログラムに返却している。これらの結果や学生の学修成果を踏まえて、各プログラムの SIH 道場授業設計コーディネーターは、「プログラム設計評価シート」のフォーマットに従い、必須項目の到達度チェックをするとともに、学生の学修成果や改善点、次年度に向けた対応を記述する。次年度の授業設計コーディネーターは、これに基づきプログラム改善を行うことができる。

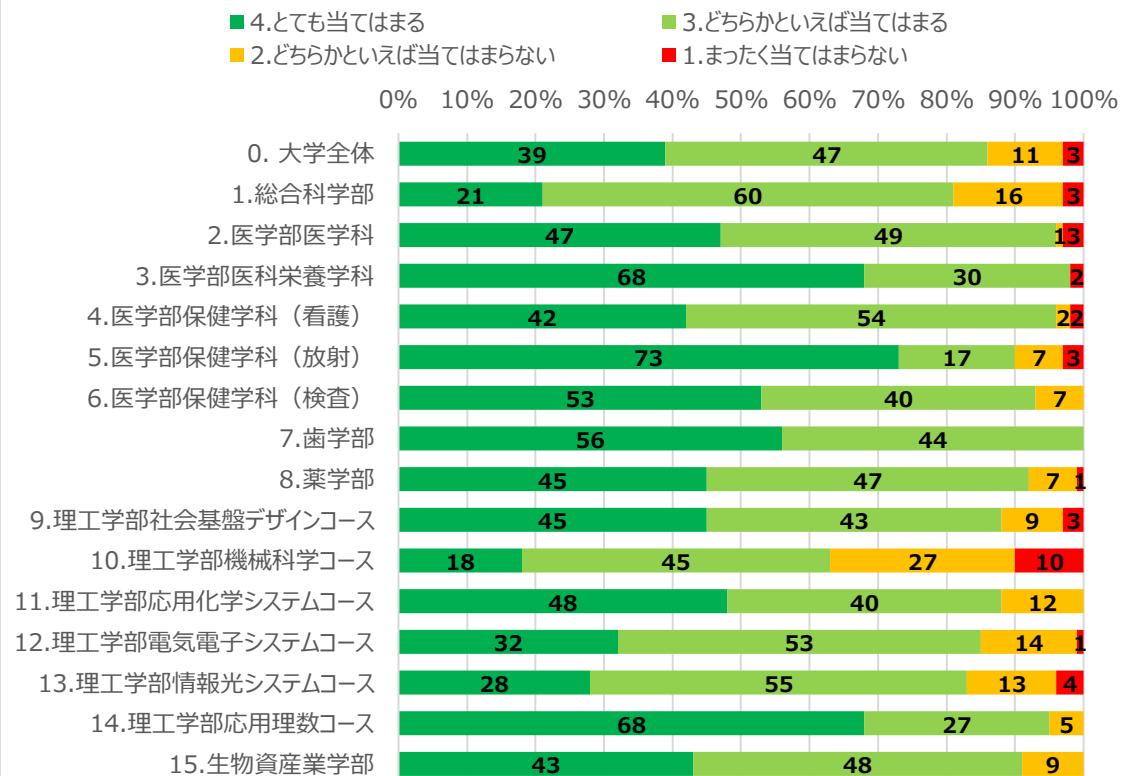
##### 2) SIH 道場学生アンケート結果概要

学生アンケートは、各学部・学科の SIH 道場終了時に実施している。平成 29 年度のアンケート回答者数は 1181 名で全体の 89%であった。「1-8.授業外（事前または、事後）において学習を行った」については、「とても当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択した学生が、一番低いプログラムにおいて 58%であり、最も高い数値のプログラムにおいては、97%であった。平成 28 年度の結果では同じ設問で「とても当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択した学生が、最も低いプログラムにおいて 57%、最も高いプログラムで 89%という結果になっており、全体として学生の授業外学修が、徐々にではあるが広がってきていると推測できる。また、「10.SIH 道場の満足度」に関する設問については、実施プログラム全体でみると 84%の学生が「とても当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択したという結果となった。

1-1. SIH道場の目標を理解して学修を行った



1-2. 体験学習で専門分野(学科での学修・研究)に対する興味関心が高まった

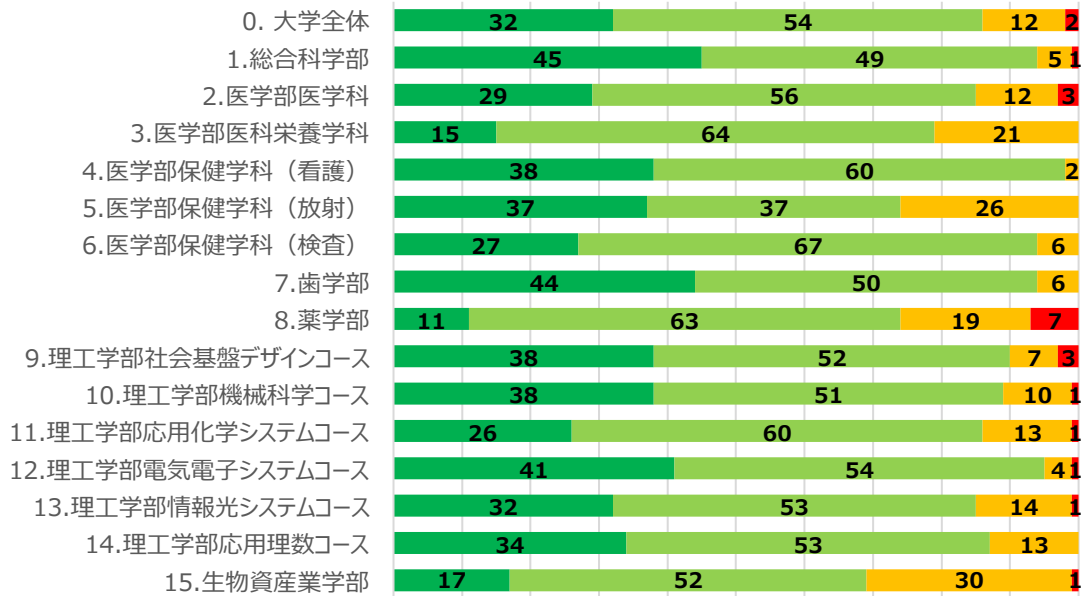




1-3. レポート等の学術的文章を書く際に必要な準備や基本的なルールを理解した

■ 4.とても当てはまる                      ■ 3.どちらかといえば当てはまる  
 ■ 2.どちらかといえば当てはまらない                      ■ 1.まったく当てはまらない

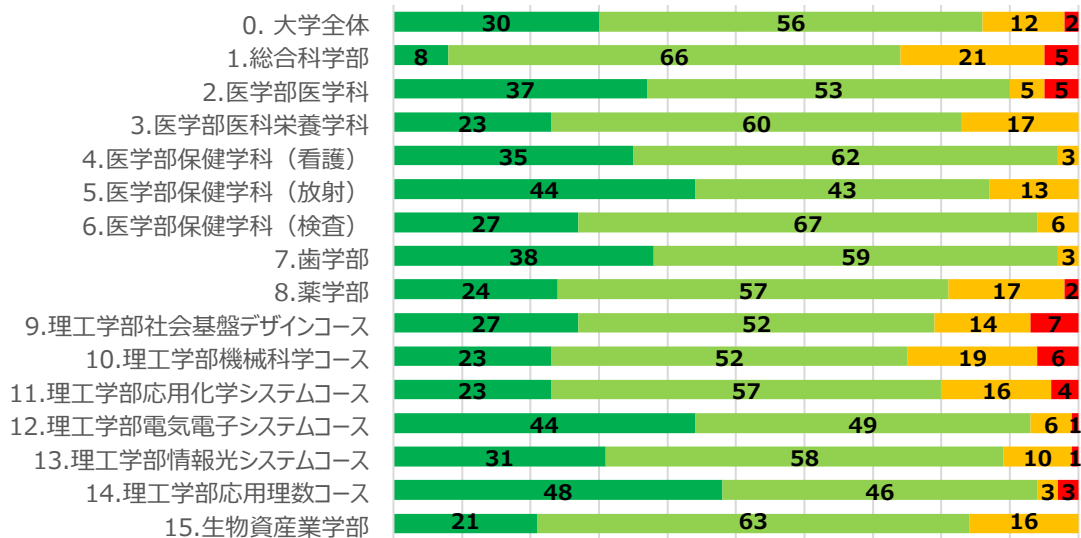
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



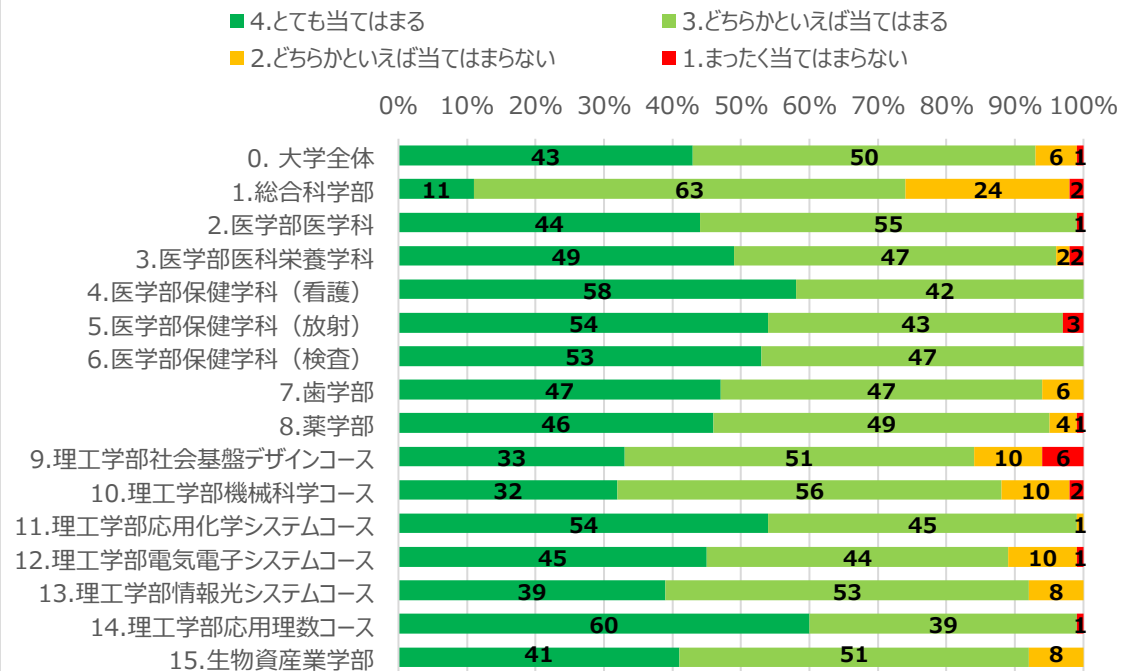
1-4. プレゼンテーションを効果的に行うために必要な準備・姿勢・資料を

■ 4.とても当てはまる                      ■ 3.どちらかといえば当てはまる  
 ■ 2.どちらかといえば当てはまらない                      ■ 1.まったく当てはまらない

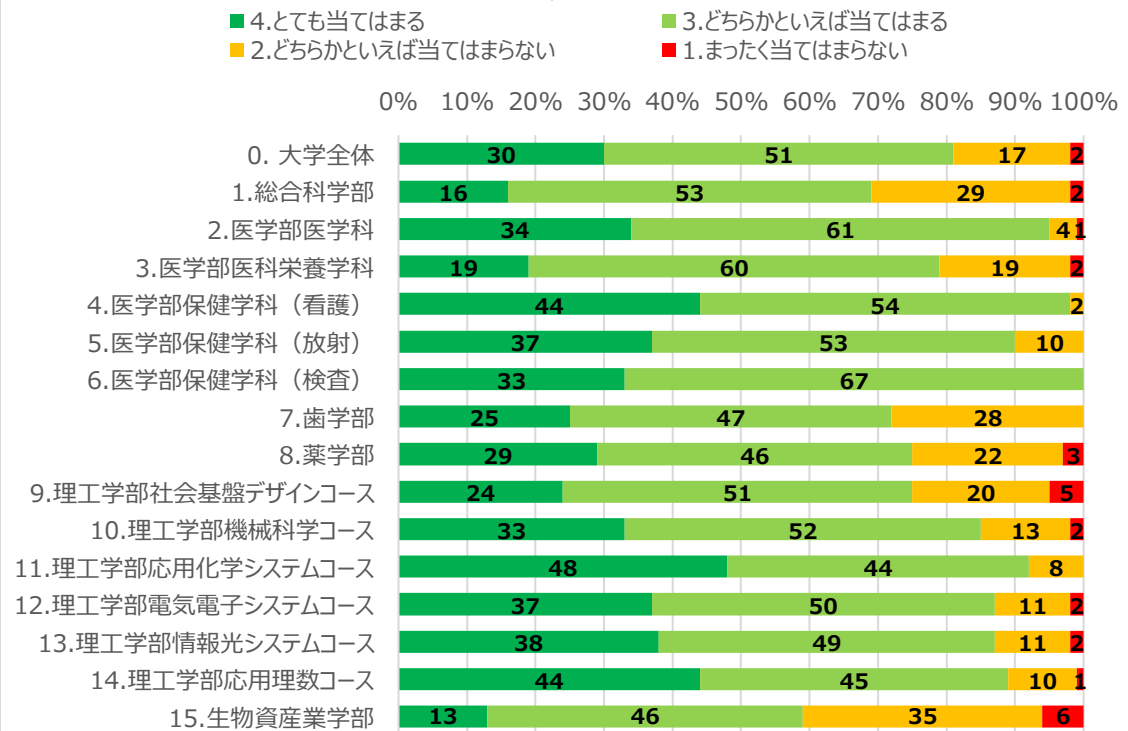
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



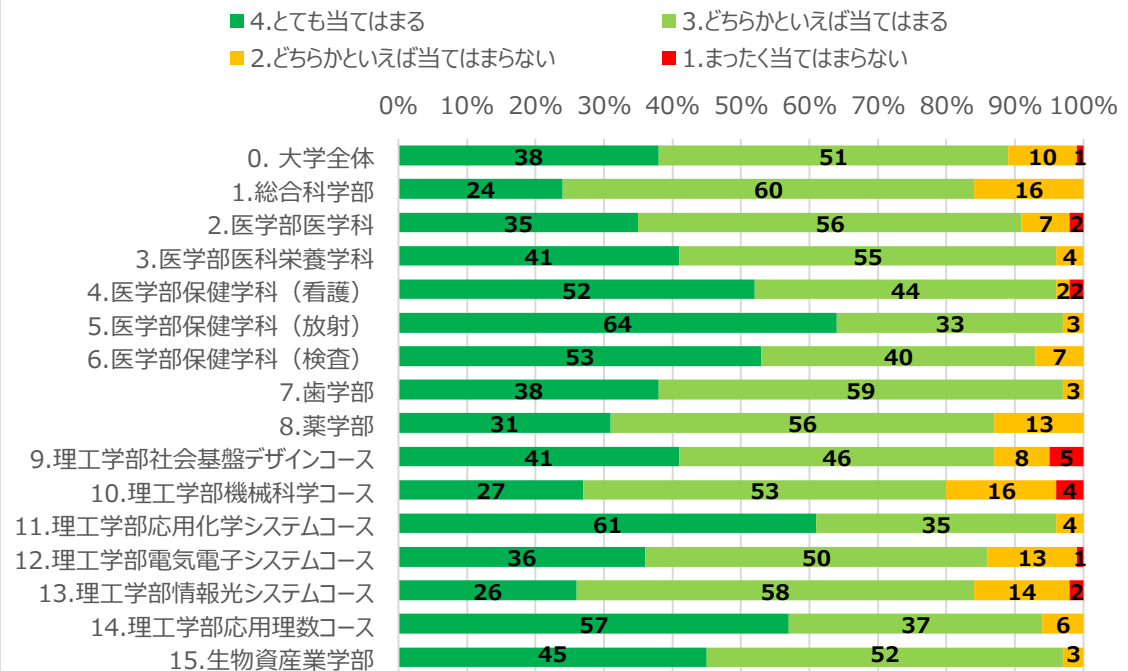
1-5. 1つの課題に対して、他者と協力して取り組む際の留意点を理解した



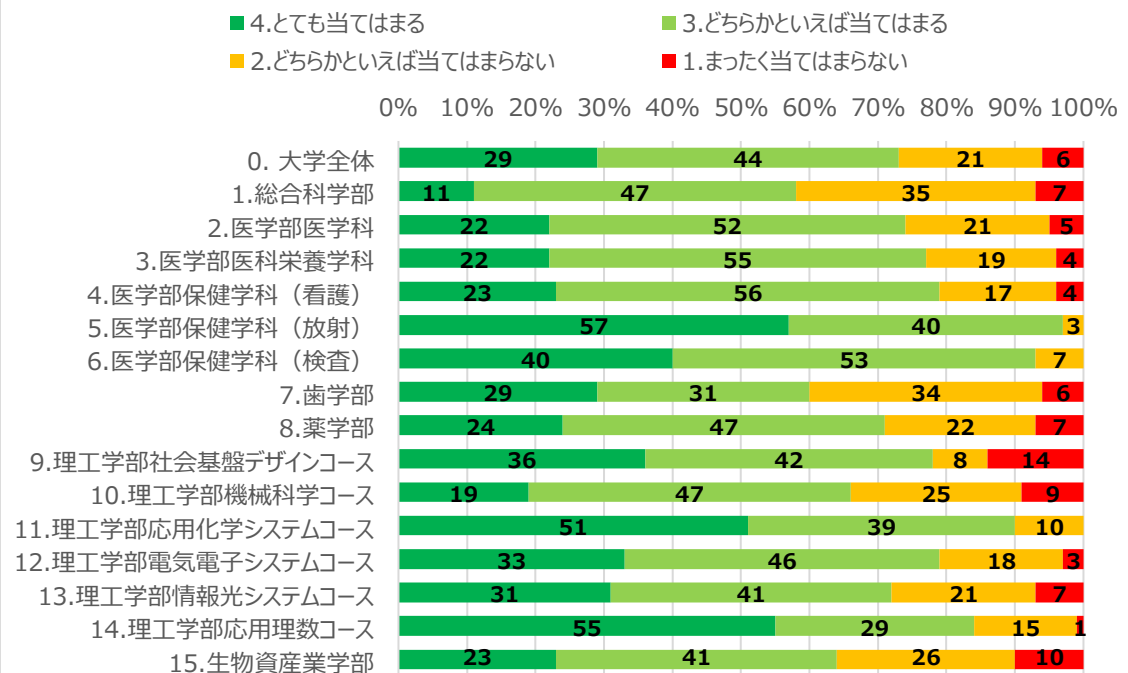
1-6. 課題等の評価の基準がわかった(ルーブリック・チェックリストなどが示されていた)



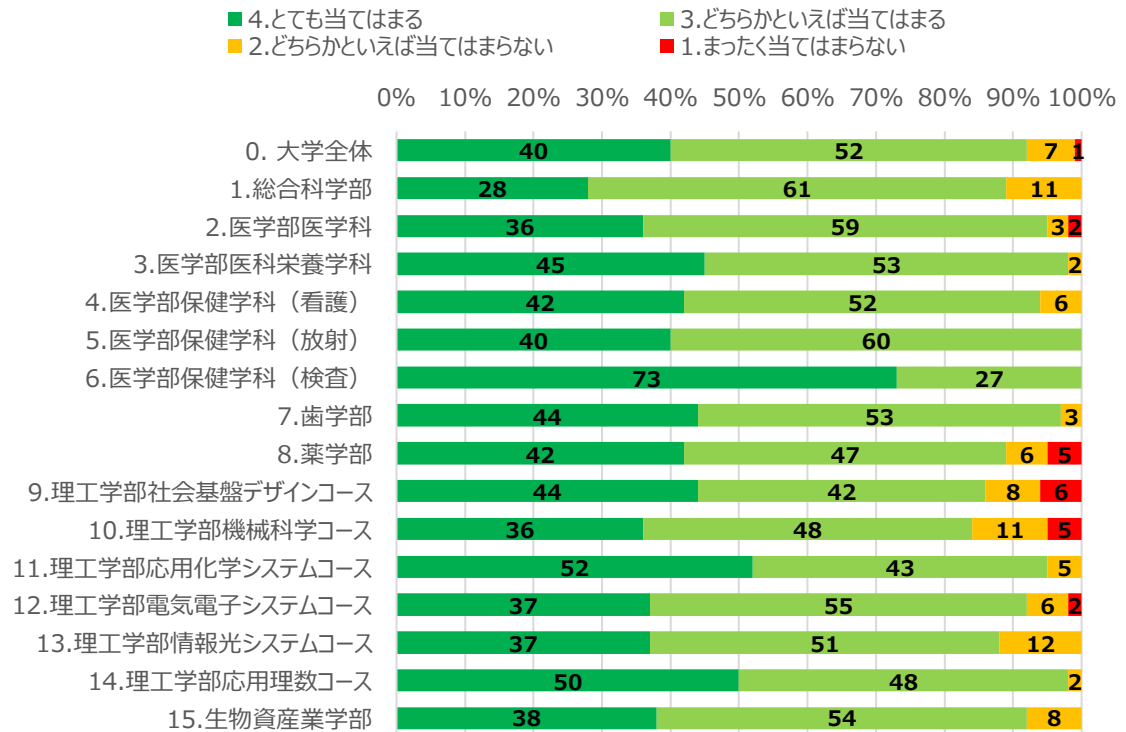
1-7. 学修(体験)を振り返ることの重要性を理解した



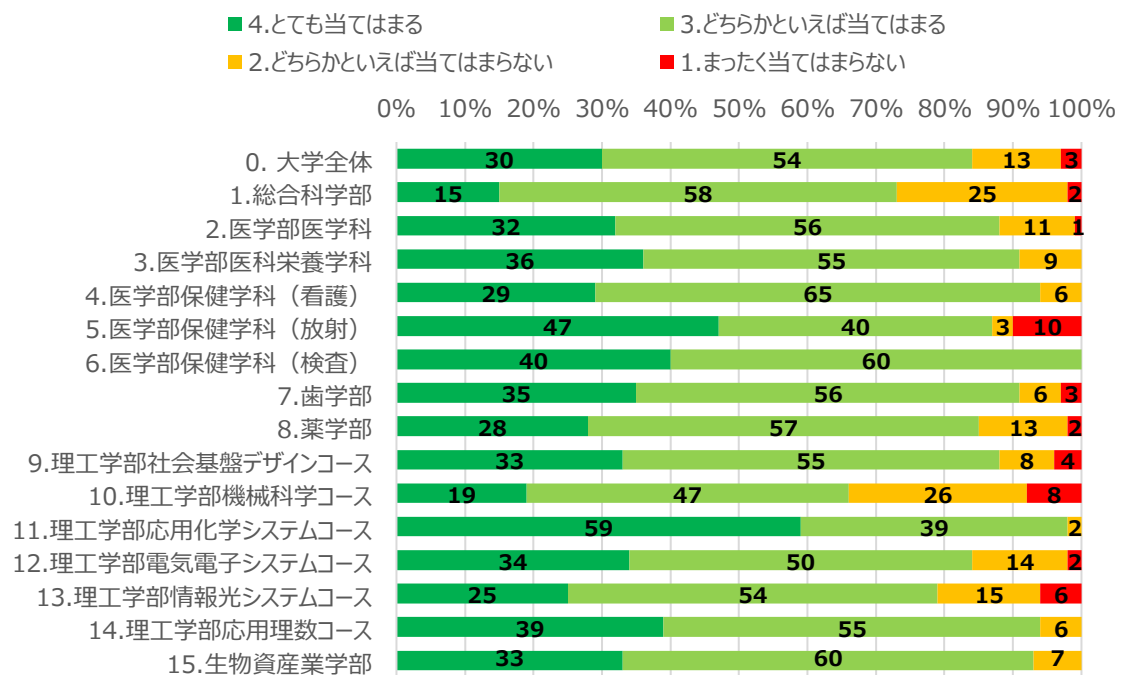
1-8. 授業外(事前または、事後)において学修を行った



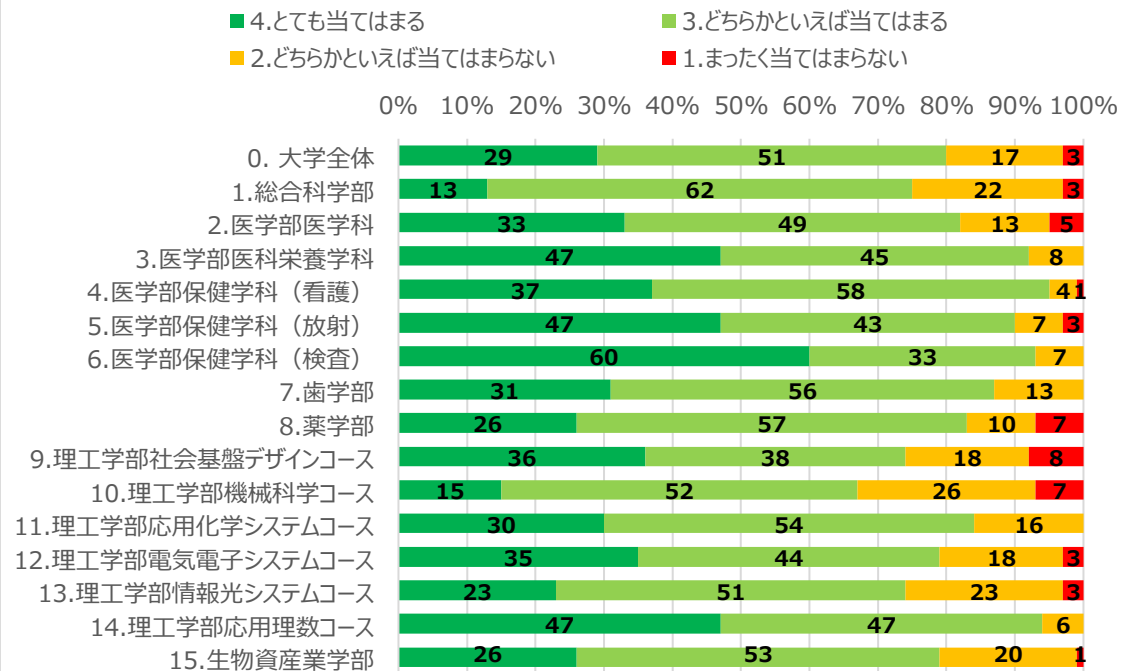
1-9. 自ら考え抜く能動的学修(アクティブ・ラーニング)の重要性を理解した



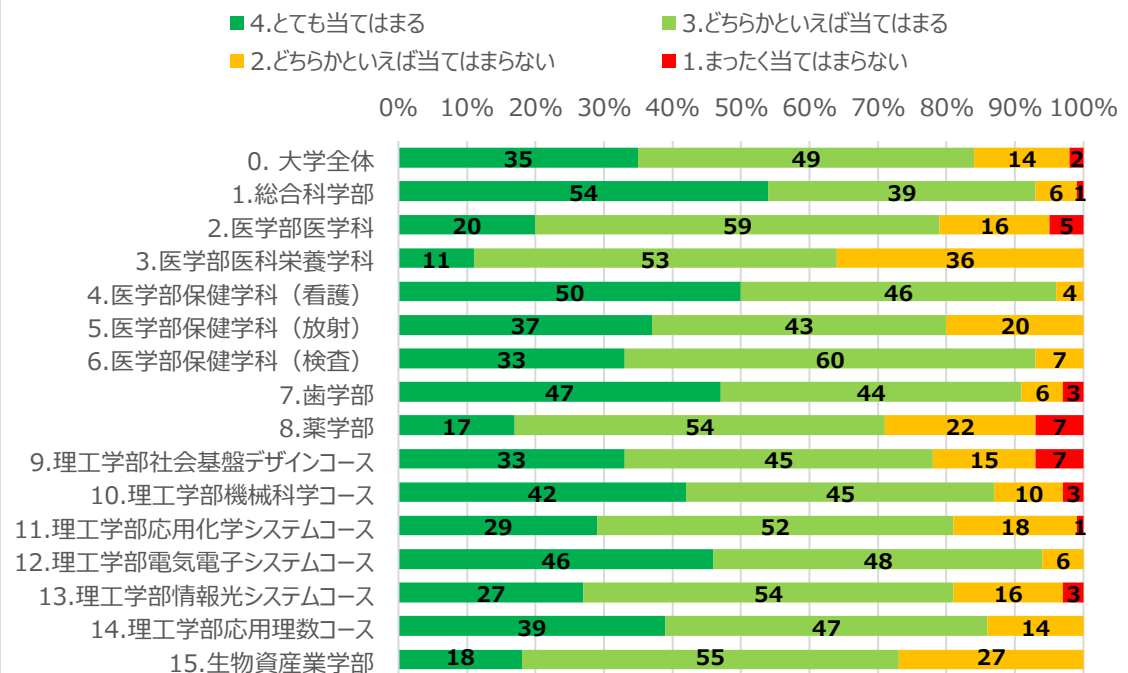
1-10. SIH道場の教育プログラムは全体的に満足できるものであった



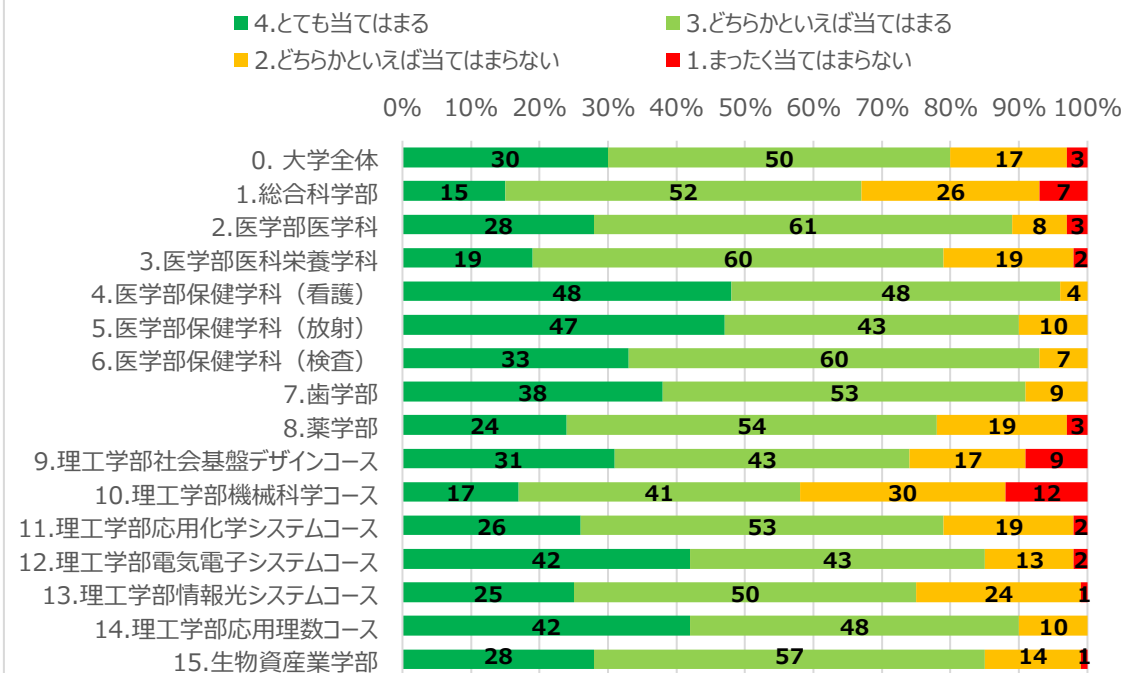
2-1. SIH道場の「体験学習」は専門科目の学修において役に立っている



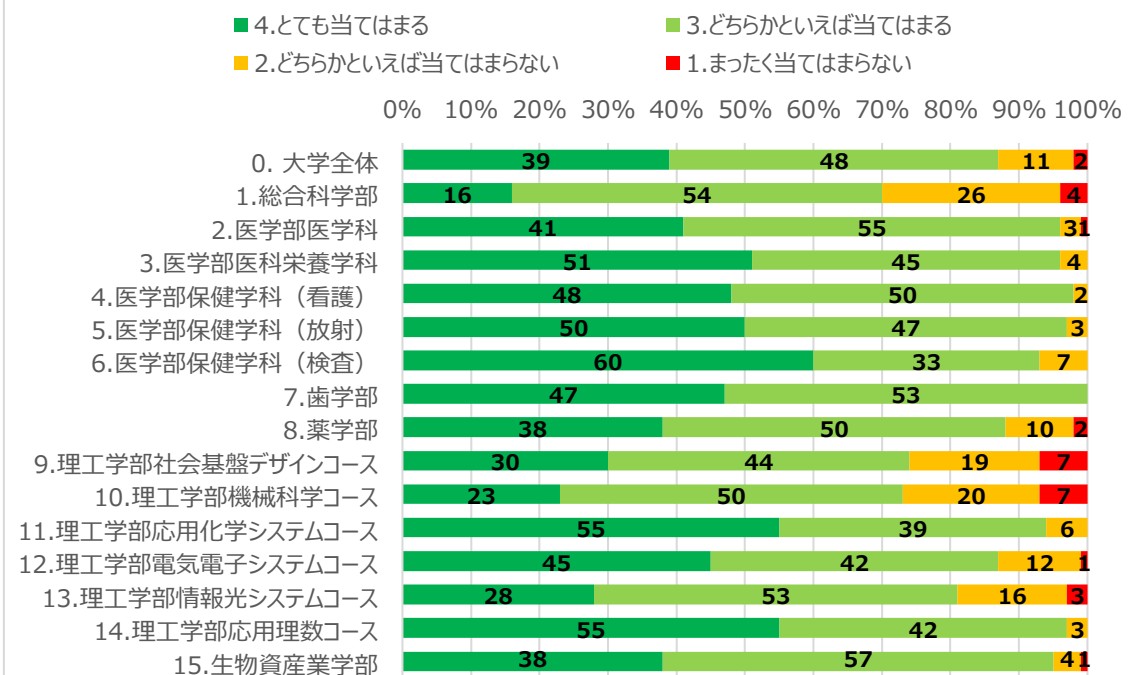
2-2. SIH道場で学修した「文章・レポートの書き方」は役に立っている



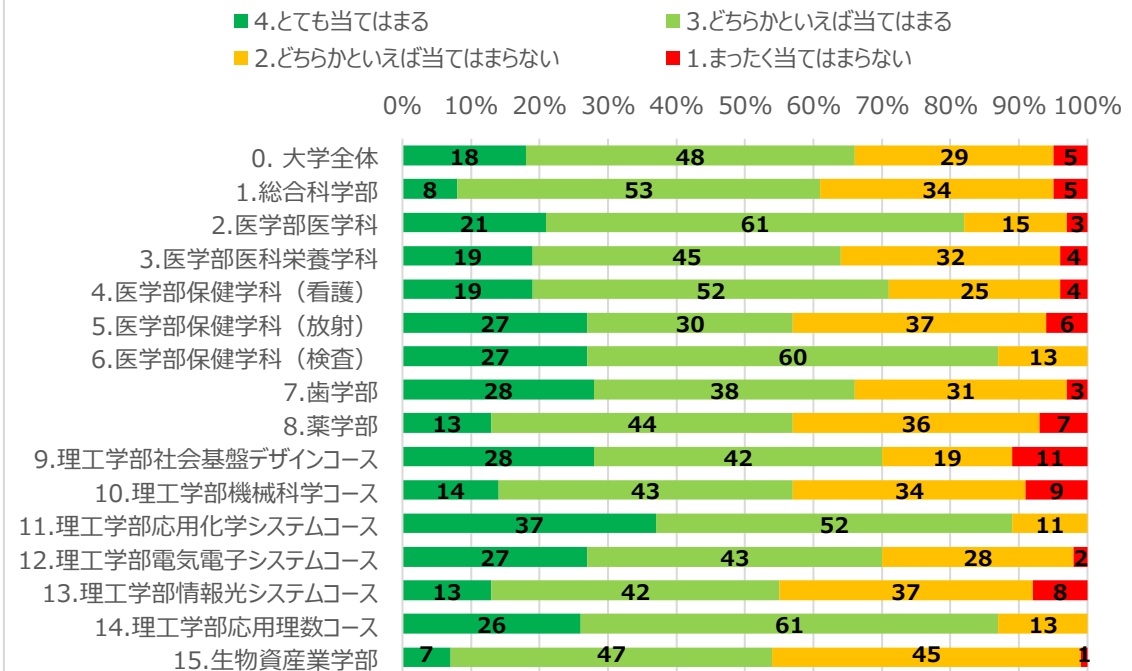
2-3. SIH道場で学修した「プレゼンテーション」は役に立っている



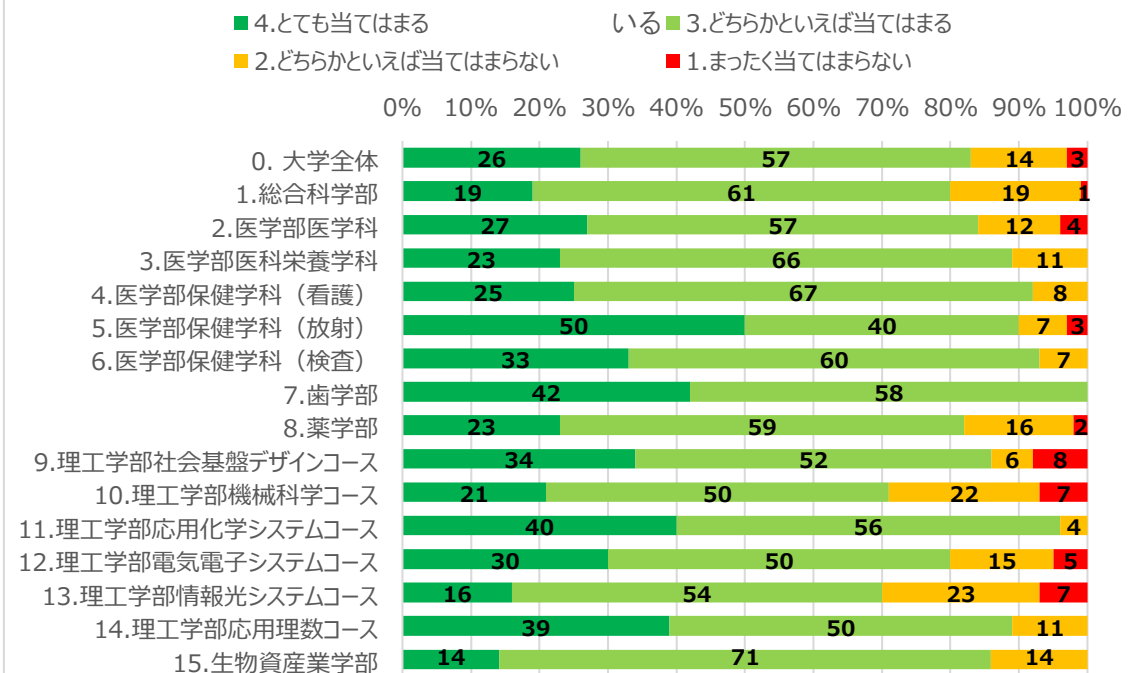
2-4. SIH道場で学修した「他者との協働」は役に立っている



2-5. 日ごろから授業で学修したことについて振り返りを行っている



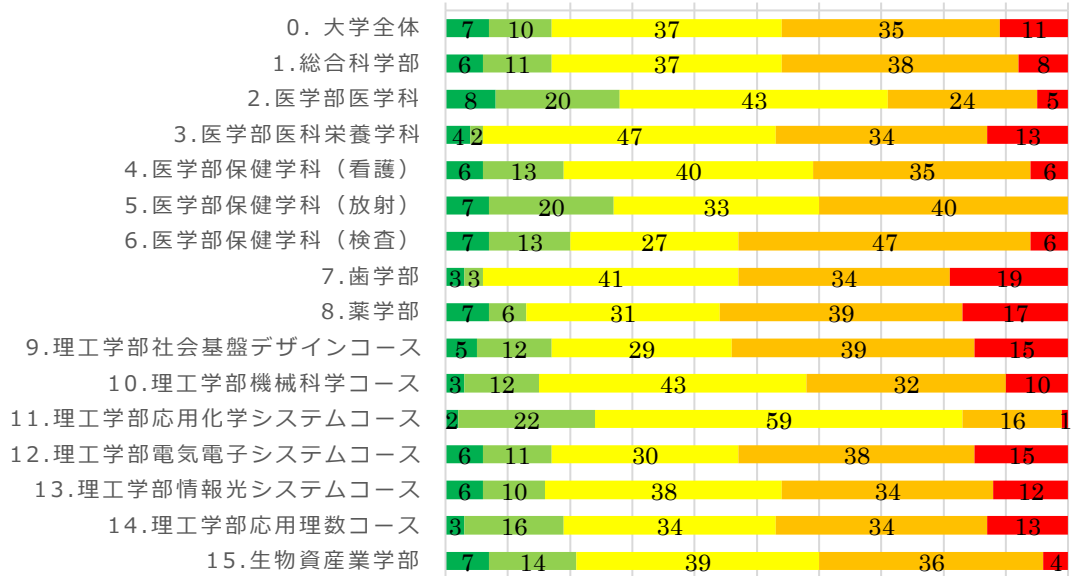
2-6. SIH道場のプログラムは全体的に大学での学修において役に立っている



### 3.1 日あたりの授業時間外学習時間

■ 3時間以上 ■ 2時間～3時間未満 ■ 1時間～2時間未満 ■ 1時間より短い ■ 全くしていない

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%





### 3) SIH 道場教員アンケート結果概要

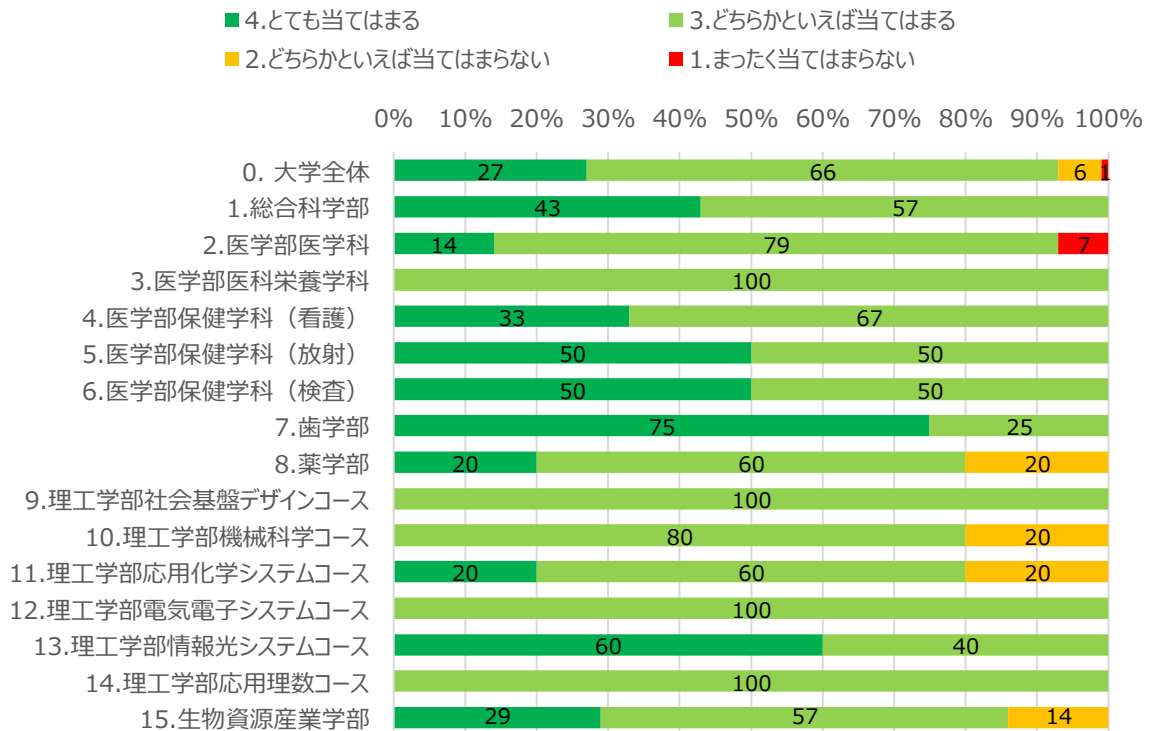
教員アンケートは、各学部・学科の SIH 道場終了後に実施している。教員は、到達目標に関連する、「1.SIH 道場の目標理解」「2～4.アクティブ・ラーニング型授業の意義理解・実施・導入」「5～7.反転授業の意義理解・実施・導入」「8～10.ルーブリックの意義理解・使用・導入」「11～13.学生の学修の振り返り」「14～16.自らの教育の振り返り」「17.SIH 道場の満足度」についての 17 設問に 4 件法（一部 5 件法）で回答した（回答率 41.0%）。

主だった項目について結果を確認すると、「1.SIH 道場の目標理解」については、「とても当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択した教員が、最も高いプログラムでは 100%、最も低いプログラムにおいて 80% 大学全体では 93% となっており、多くのプログラムで、SIH 道場の意義や目標についての理解が進んでいる結果になった。SIH 道場は 3 年目を迎え多くの教員に対して理解が進んだと考えられる。

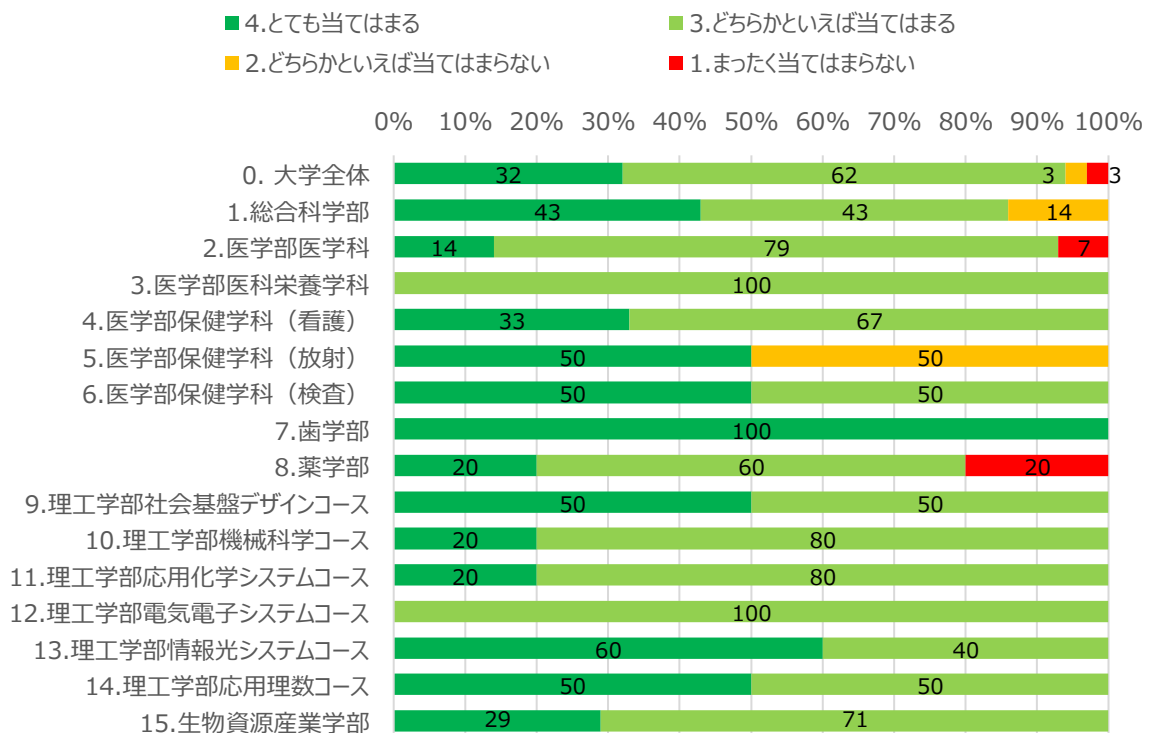
「2～4.アクティブ・ラーニング型授業の意義理解・実施・導入」に関する大学全体の割合を見ていくと、「2-2.アクティブ・ラーニング型授業の意義を理解した」「2-3.アクティブ・ラーニング型授業を実施することができる」「2-4.アクティブ・ラーニング型授業を担当する他の授業で導入したい」の 3 つを実施プログラム全体で見ると、「とても当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択したそれぞれ、94%、87%、76%の結果になっており、それぞれの割合はいずれも平成 28 年度よりも上昇又は同じ値を示している（平成 28 年度はそれぞれ 93%、81%、76%）。一方、反転授業やルーブリックについては、意義の理解を尋ねた項目での肯定的な回答はそれぞれ 58%、71%と比較的低い割合に留まっており、今後の改善が求められるところである。

「17.SIH 道場の満足度」に関する設問については、実施プログラム全体で見ると 85%が肯定的な回答をしており、平成 28 年度の結果（77%）から大きく改善する結果となった。概観すると、昨年度よりも肯定的な回答が増加しており、SIH 道場の取組やその意義についての理解が、徐々に教員間に浸透していることを示唆する結果であると考えられる。

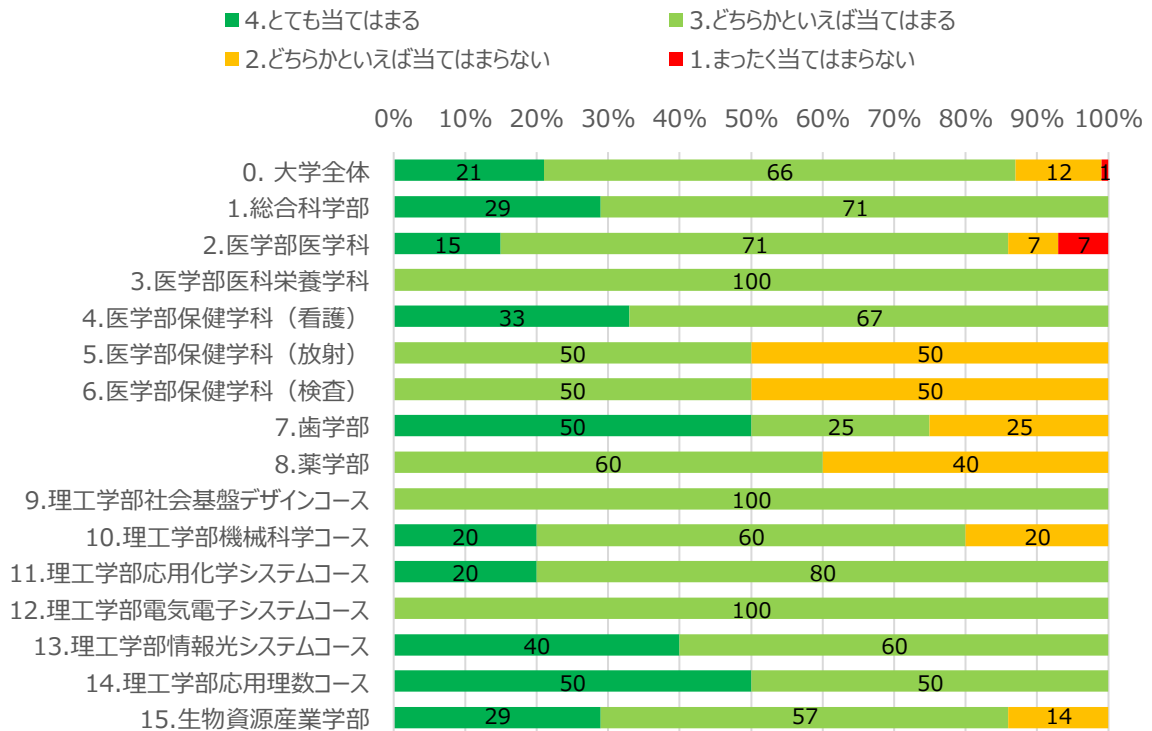
### 1. SIH道場の目標を理解して授業を行った



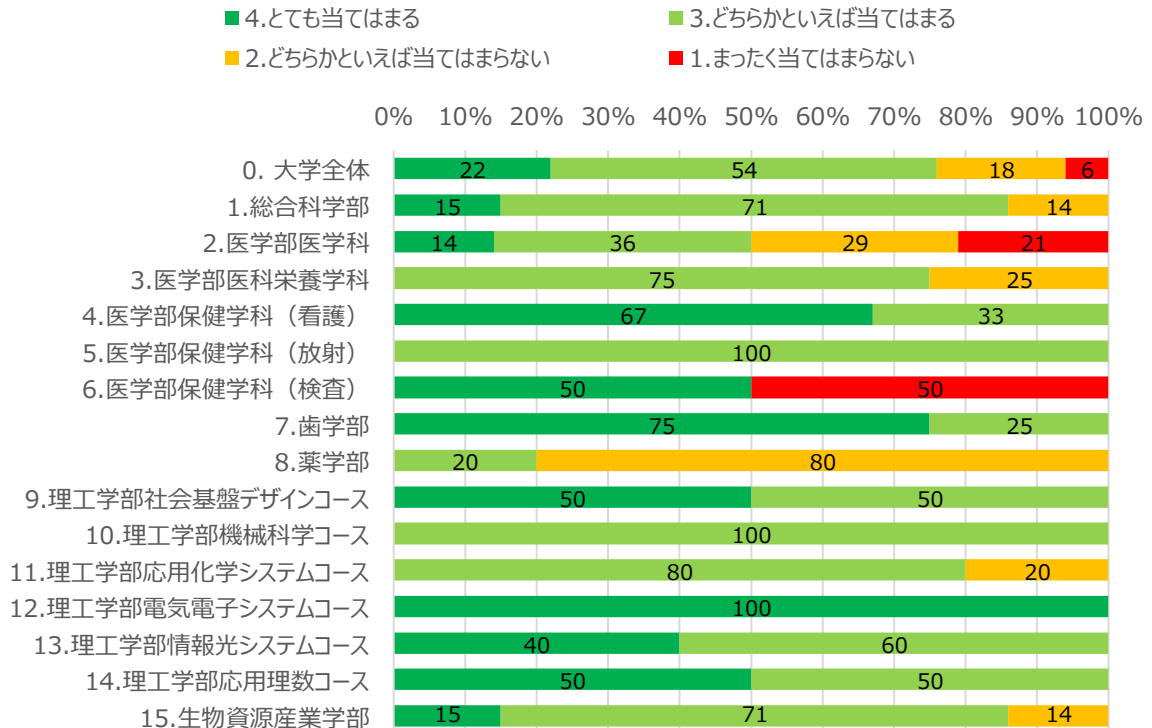
### 2. アクティブ・ラーニング型授業の意義を理解した



### 3. アクティブ・ラーニング型授業を実施することができる

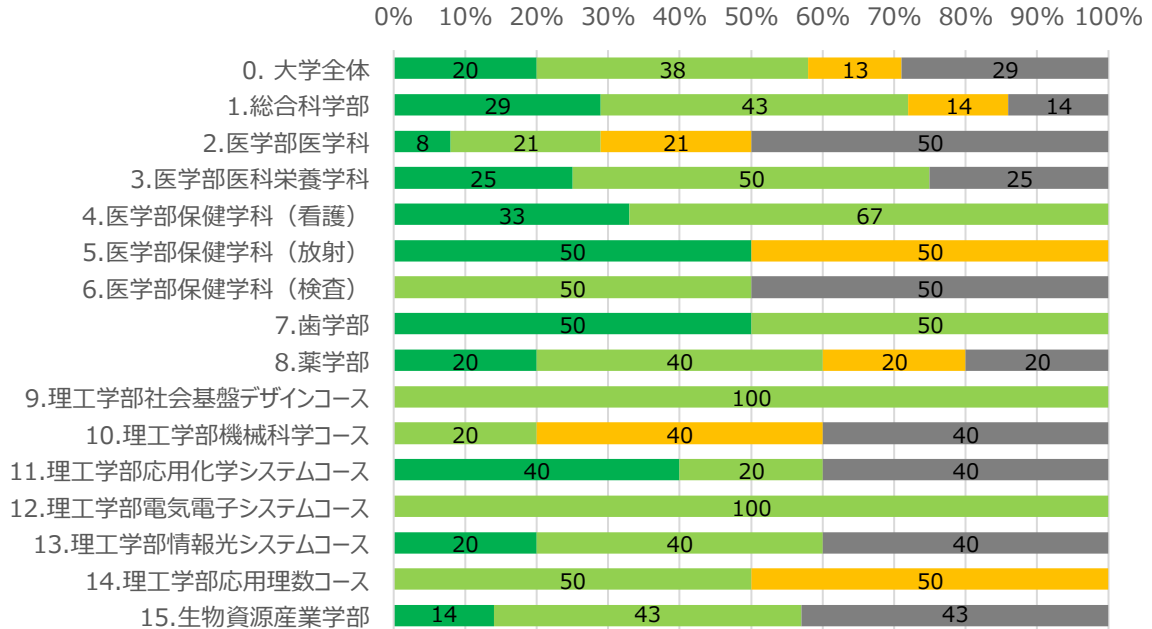


### 4. アクティブ・ラーニング型授業を担当する他の授業で導入したい



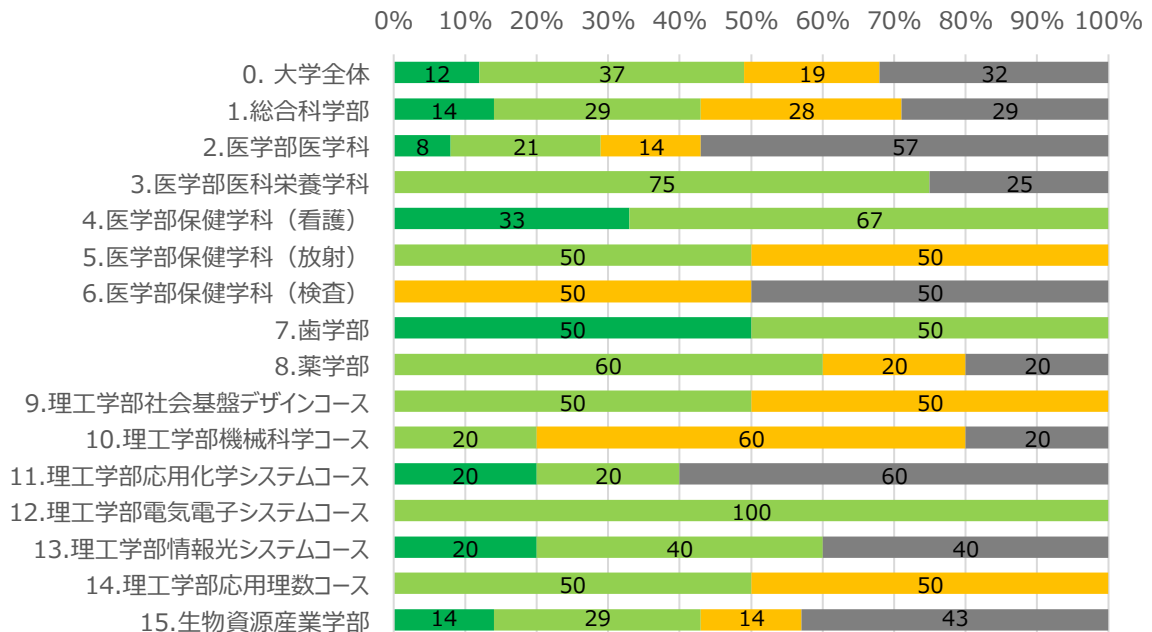
### 5. 反転授業の意義を理解した

- 4.とても当てはまる
- 3.どちらかといえば当てはまる
- 2.どちらかといえば当てはまらない
- 1.まったく当てはまらない
- 0.担当していない

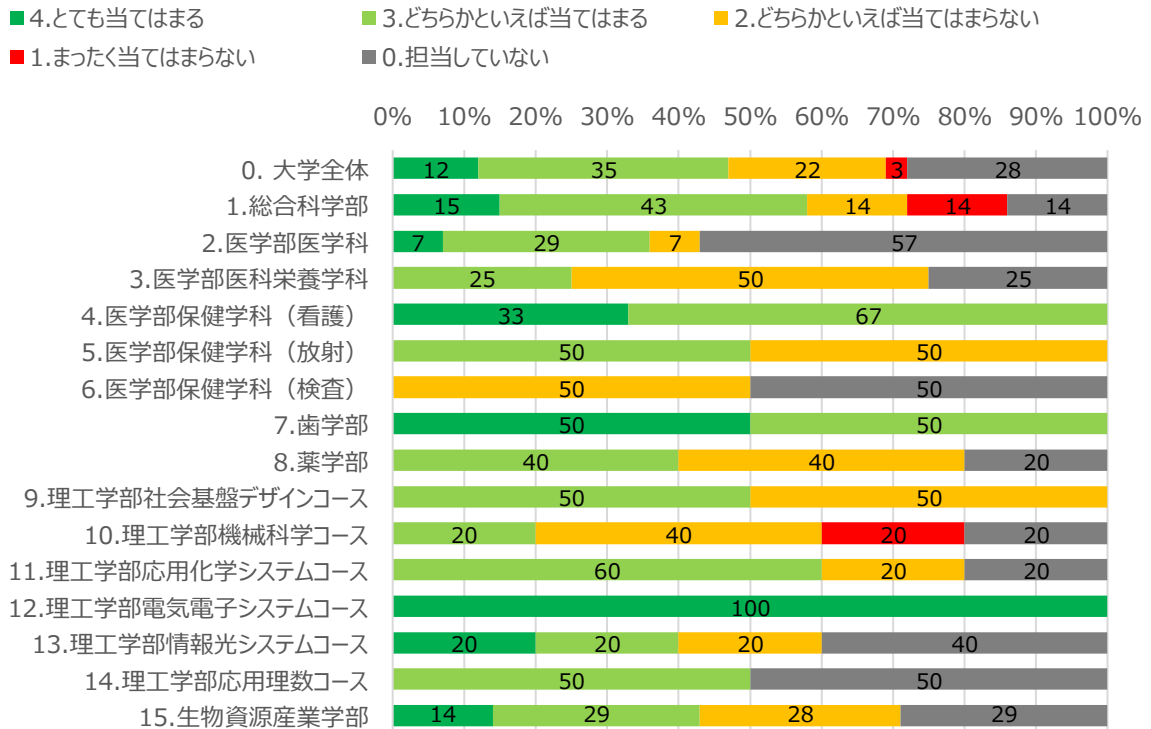


### 6. 反転授業を実施することができる

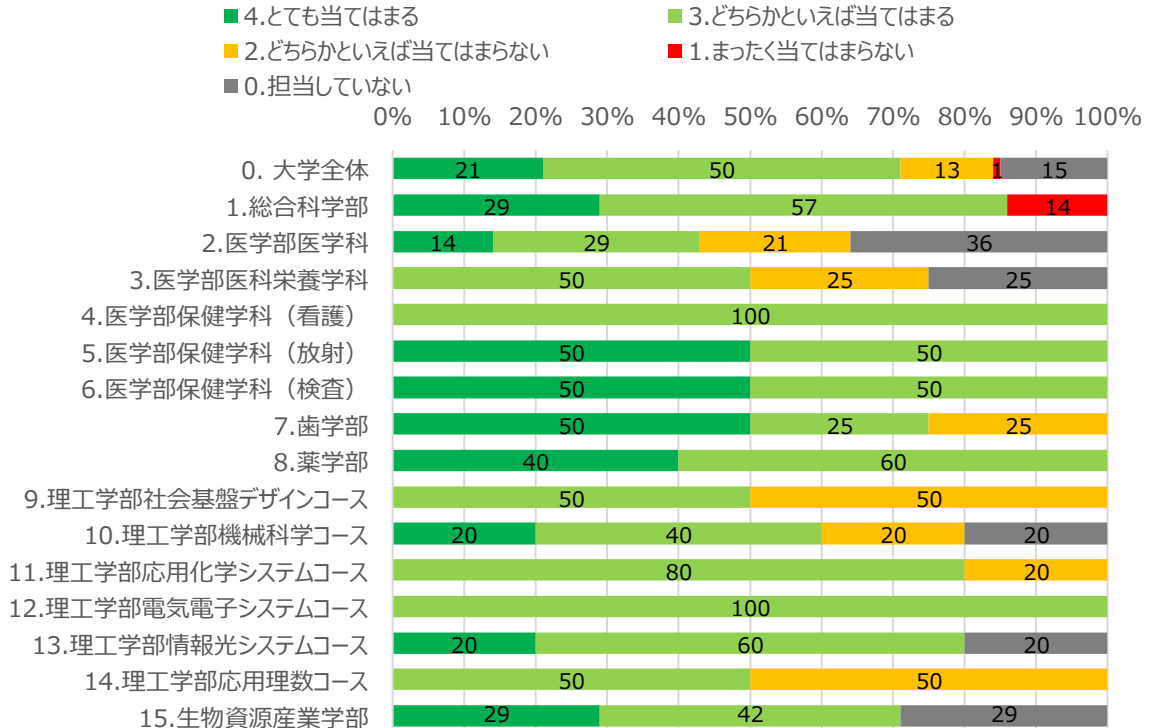
- 4.とても当てはまる
- 3.どちらかといえば当てはまる
- 2.どちらかといえば当てはまらない
- 1.まったく当てはまらない
- 0.担当していない



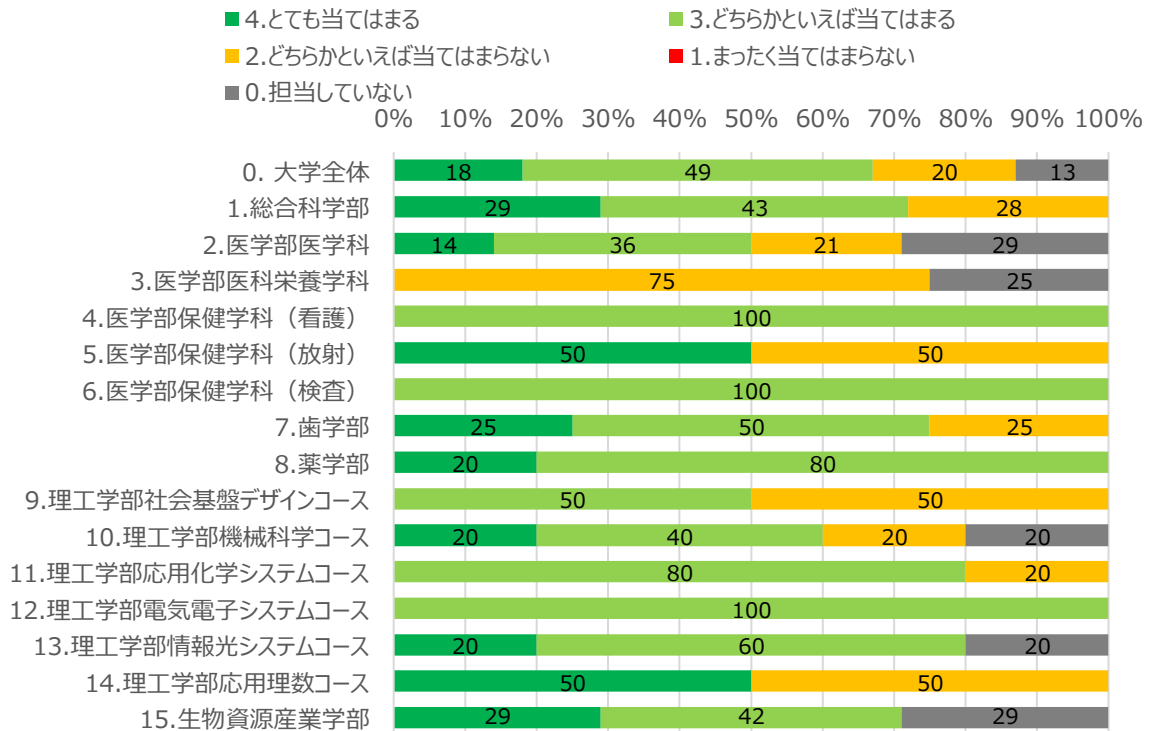
### 7. 反転授業を担当する他の授業で導入したい



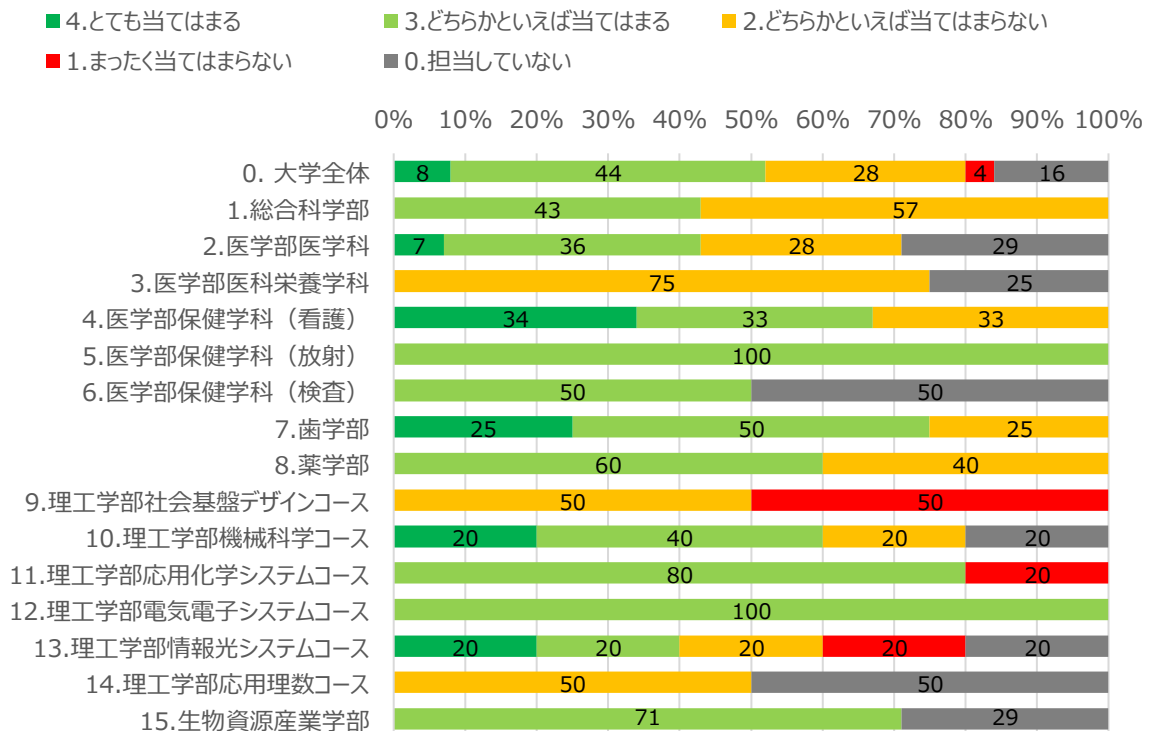
### 8. ルーブリックの意義を理解した



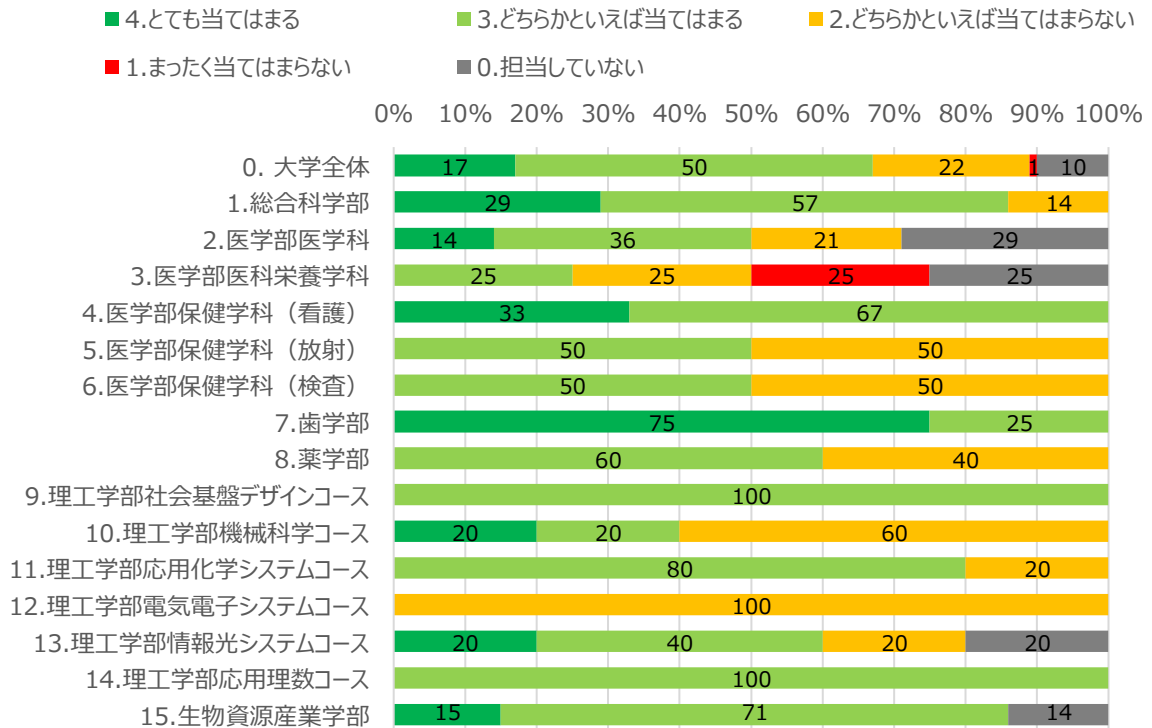
### 9. ルーブリックを用いて学生を評価することができる



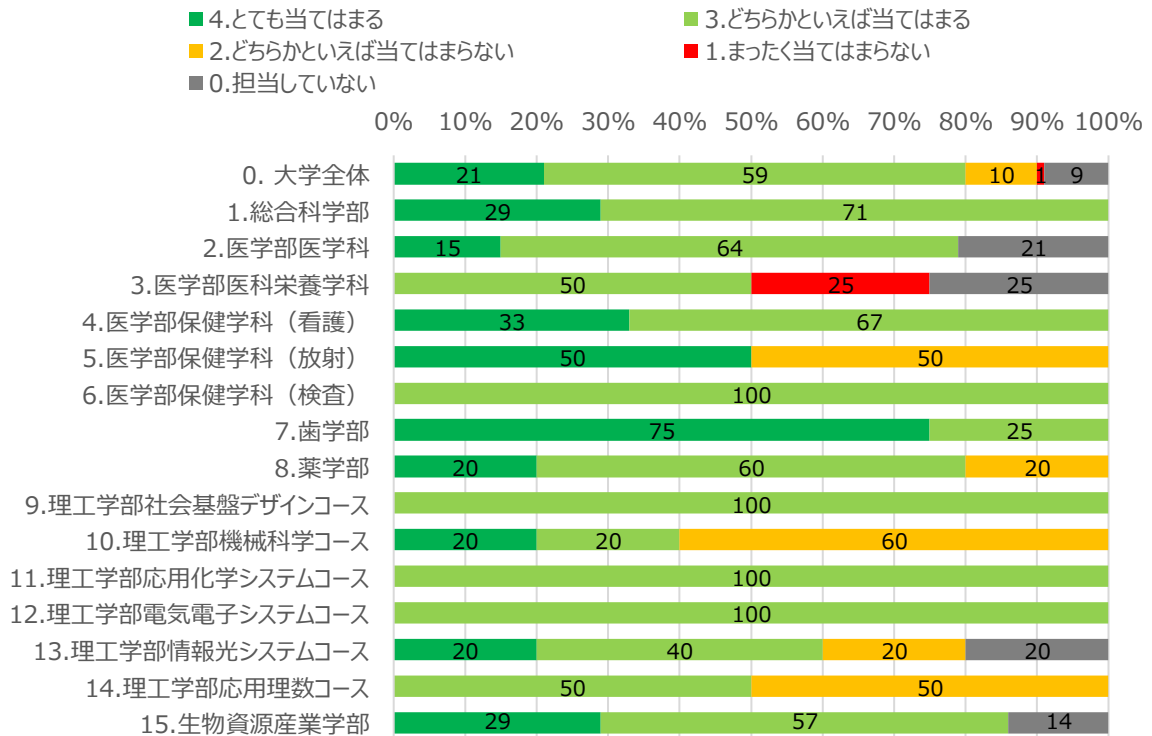
### 10. ルーブリックを担当する他の授業で導入したい



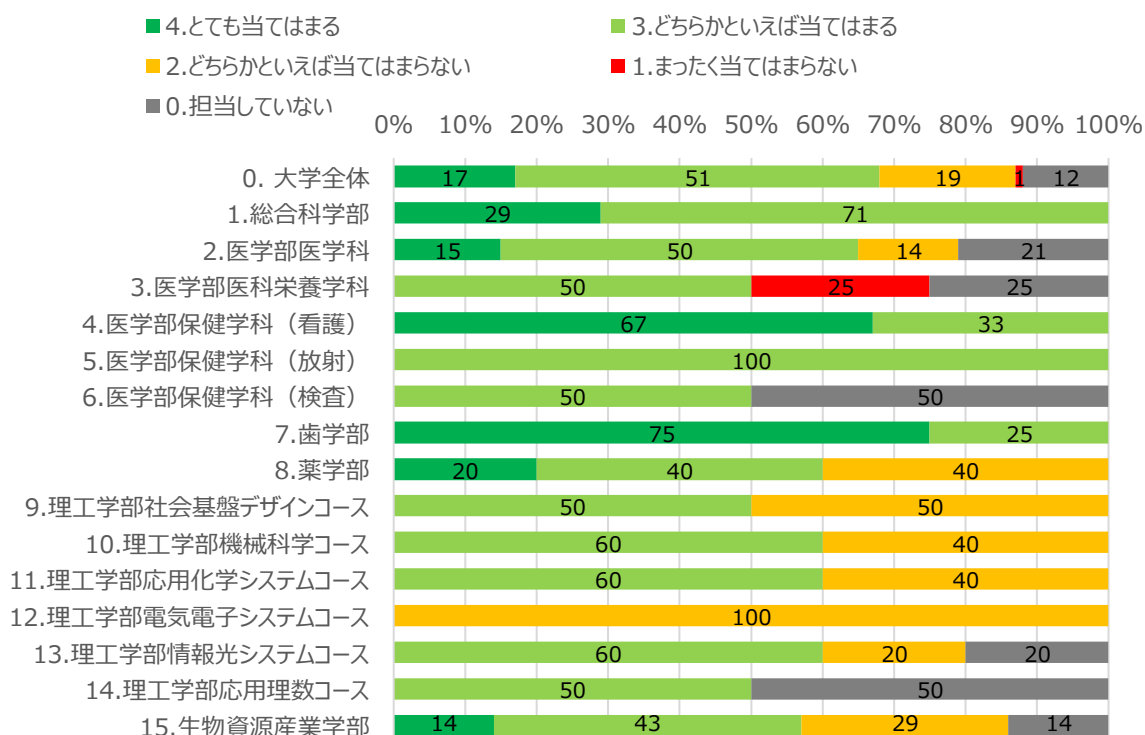
### 11. 学生の学修に振り返りをさせる(フィードバックを行う)ことができる



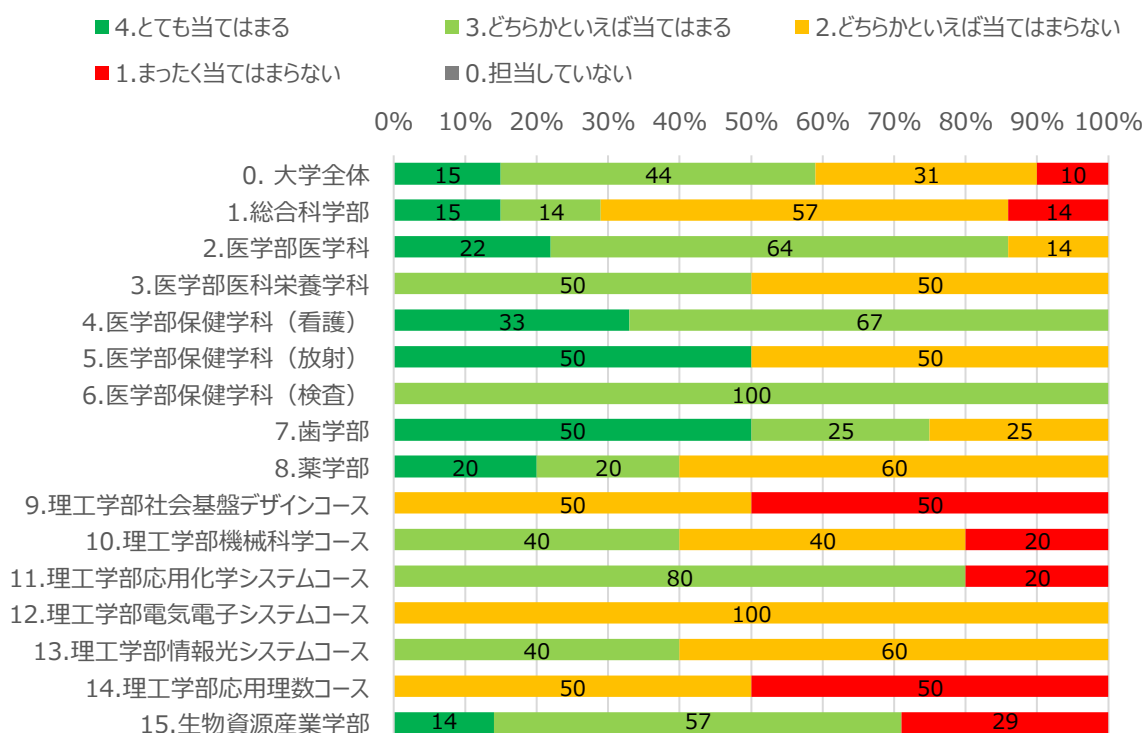
### 12. 学生に学修の振り返りをさせることの意義を理解した



### 13. 学生に学修の振り返りをさせることを他の授業で導入したい

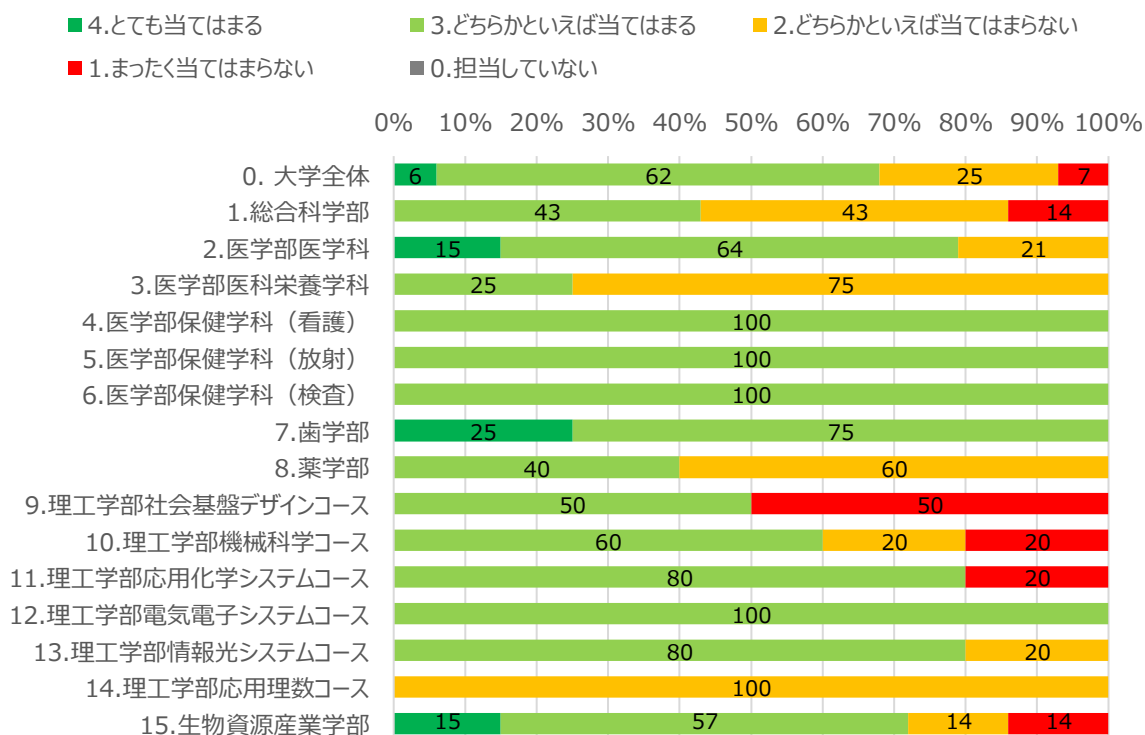


### 14. 自らの教育経験の振り返り(eポートフォリオ等)を行った

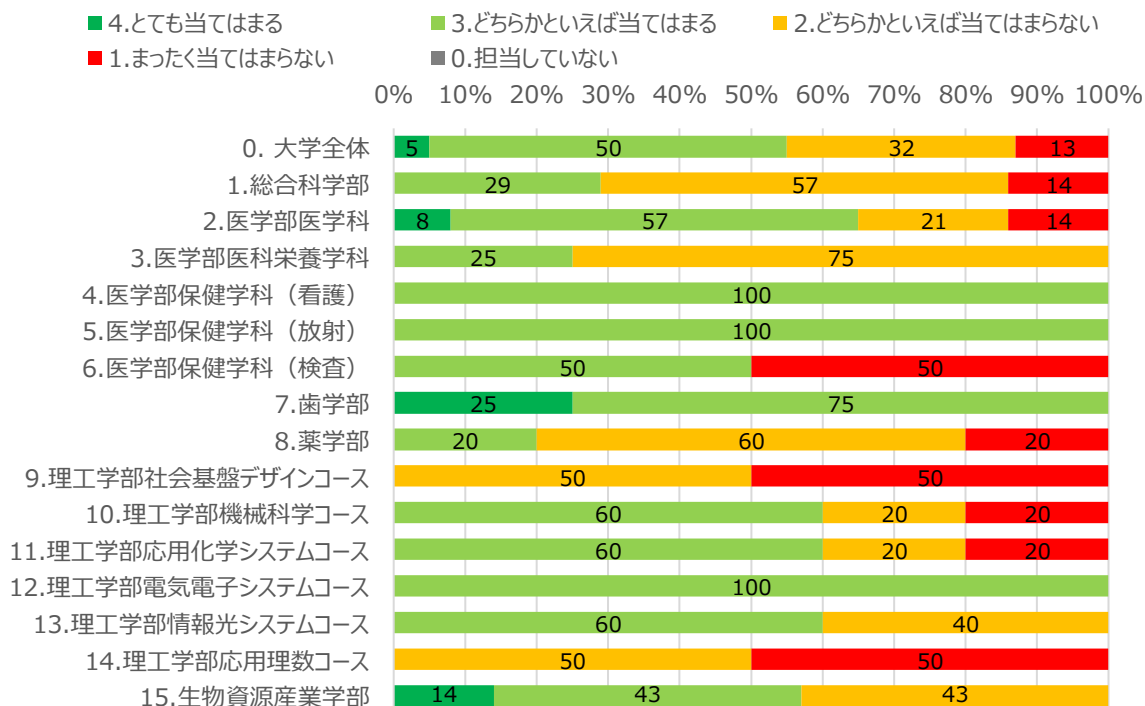




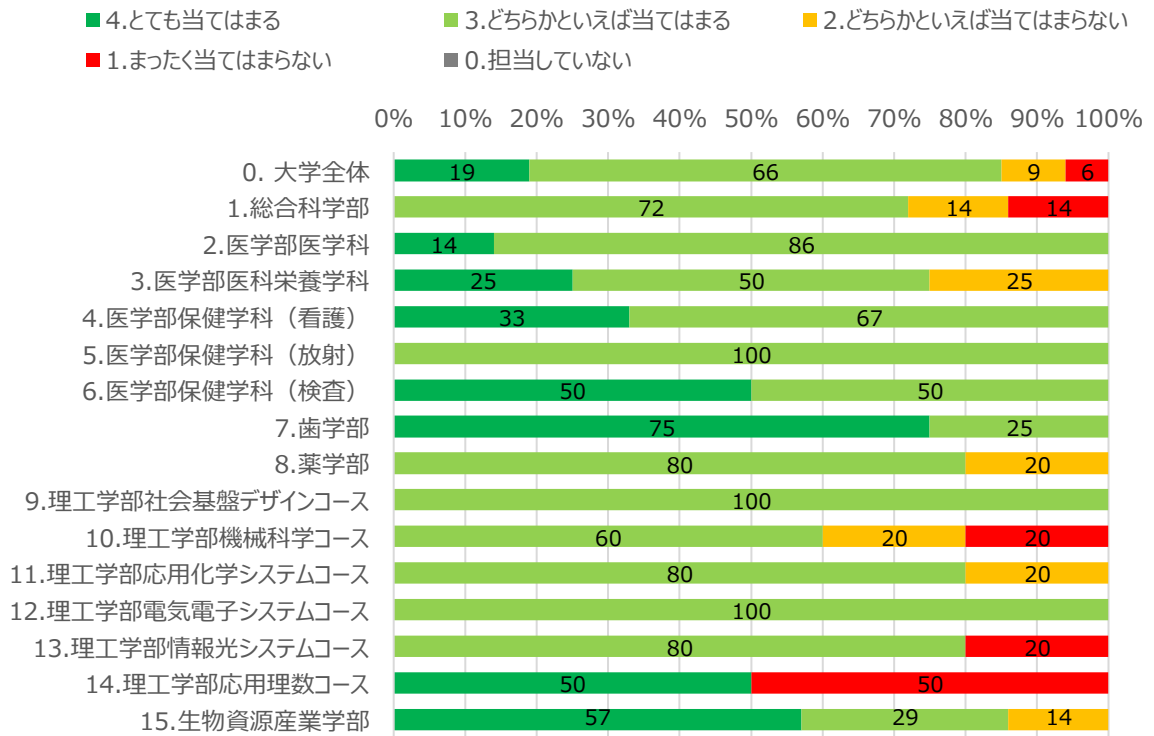
### 15. 自らの教育経験の振り返り(eポートフォリオ等)の意義を理解した



### 16. 自らの教育経験の振り返り(eポートフォリオ等)を担当する他の授業で行いたい



17. SIH道場の教育プログラムは全体的に満足できるものであった



## 3-2 教育について考え提案する学生・教職員専門委員会 「SIH 道場評価・改善ワーキンググループ」の活動

### 1) ワーキンググループ設置趣旨

SIH 道場は、本学の新生全員が受講する初年次教育プログラムで、アクティブ・ラーニングについて、学生、教員が共に基礎スキルを修得し、学士課程全般にわたり実践していくための基盤となる取り組みである。大学教育再生加速プログラム（以下、「AP 事業」という）を遂行する上でも SIH 道場ではさまざまな視点から評価・改善を行っていくことが重要である。その一つの取り組みとして、学生と教職員双方の視点からの評価・改善に関わる WG を設置し、SIH 道場の成果や課題等について意見交換や議論を行い改善に繋げる。

### 2) 設置する組織

AP 事業の支援部門である総合教育センターには、「教育について考え提案する学生・教職員専門委員会（以下、「専門委員会」という）」が設置されており、専門委員会の背景・趣旨は「学生の声を教育改革に取り入れるために、学生と教職員が、教育の現状・課題について意見交換を行い、具体的な提案等を行う組織」となっている。SIH 道場に関する評価・改善 WG 設置の趣旨と専門委員会の趣旨が似通っており、また、専門委員会との活動と連動するところもあるので、平成 27 年度、専門委員会の下に、SIH 道場に関する評価・改善 WG を設置し、SIH 道場の評価・改善に関する議論を行った。このワーキンググループを平成 29 年度も継続し、平成 29 年度入学生を学生委員として活動を行った。

### 3) ワーキンググループの活動

SIH 道場の各プログラム実施単位（※注）から平成 29 年度入学生 1 名以上を選出し、計 23 名の学生委員が活動を行った。なお、ワーキンググループは、専門委員会の教員委員が中心となり運営し、9 月～10 月の間に学生委員を対象に SIH 道場に関するインタビュー調査を行った。11 月 17 日の SIH 道場振り返りシンポジウムにおいては、SIH 道場評価・改善ワーキンググループの学生委員が意見を報告し、学生委員 2 名がディスカッションのパネリストの一人として壇上で質疑応答を行った（※詳細については本報告書「SIH 道場振り返りシンポジウムの概要」を参照）。次に、インタビューで学生委員から提案された意見の要点と今後のポイントを記載したまとめを示す。

※注 プログラム実施単位とは、次の学部・学科・専攻の単位である。

- ①総合科学部（4 コース合同）、②医学部医学科、③医学部医科栄養学科、
- ④医学部保健学科看護学専攻、⑤医学部保健学科放射線技術科学専攻、
- ⑥医学部保健学科検査技術科学専攻、⑦歯学部（2 学科合同）、⑧薬学部、
- ⑨理工学部社会基盤デザインコース、⑩理工学部機械科学コース、
- ⑪理工学部応用化学システムコース、⑫理工学部電気電子システムコース、
- ⑬理工学部情報光システムコース、⑭理工学部応用理数コース、
- ⑮生物資源産業学部（3 コース合同）

#### 4) 学生委員の意見と今後のポイント

項目	学生委員から見た現状と今後のポイント
SIH 道場の目的	<p><b>現状：</b>「出会ったことのない他学科の方々と知り合える機会になったのは、非常に良い点であると思う。教養科目の履修中はどうしても専門知識が少なくなるが、少ないからこそ見える新鮮なものがあつたように思われる。数年後に同じメンバーで同様の活動を行った場合、どのように変化しているのか知ってみたい。」</p> <p>「私たちがこれから学ぶであろうことを、一足先に学ぶことができ、これからの勉学への意識も高まり、目標を持って大学生活を送ることができるようになったと思います。良かったこととして、私たちが知らなかった医学的な知識を学べたことはもちろんですが、スライドの作り方や発表の仕方も学べて、自分が今できることが広がりました。</p>
	<p><b>今後のポイント：</b>他の授業に比べ様々な要素があり、インタビューにおいても様々な視点から授業内容について語られていた。特に学生同士の活動が豊富にあり、入学直後の学生同士のコミュニケーションを促進する機会として有意義である。今後の授業においてもこうした要素を継続していく必要がある。</p>
体験学習	<p><b>現状：</b>「SIH 道場がきっかけで仲良くなった学生はいます。グループ活動を通して、相談して答えを出すことで協力ができ、SIH 道場後も協力して大学生活を送ることができています。」一方で、「専門分野に関する体験をした覚えはあまり…」のような回答があつた。</p>
	<p><b>今後のポイント：</b>専門分野に関する体験学習の機会が設けられていないプログラムにおいては、コーディネーターを中心として取組の見直しを行う必要があるが、多様な学問分野で構成されている学部・学科については、体験学習を通じて学生自身が将来学びたいこととどのような関連があつたのか、或いは、今後どのような学修を進めていきたいか確認する機会を設けていく必要がある。</p>
ラーニングスキル (文章力)	<p><b>現状：</b>「大学ではレポート課題が頻繁に出されるため、文章の書き方等の基本となることを身につけられたのはその後の大学生活に十分役立ったように感じる。」</p> <p>「改善点があるとすれば、学んだことがどの程度身につけているのかが正確に測れる状況がもう少しあるほうが良いかもしれない」の回答があつた。</p>
	<p><b>今後のポイント：</b>インタビューを通じてレポートの書き方について学部・学科間で課題の有無に開きがあつた。文章の書き方に関する講義だけでなく、文章を書かせる機会を確実に設けていく必要がある。授業時間に制限がある場合は、図書館で行っている文章支援に関するセミナーや SSS (Study Support Space) などの取組を紹介していく必要がある。</p>

ラーニングスキル (プレゼンテーション力)	<p><b>現状：</b>「講義を通してプレゼンテーションについて理解しプレゼンテーション力も講義前よりは身についたように感じる。」などの意見の一方で、「プレゼンテーションについて、どういったことをすれば伝わるのかということは身についたつもりでも、そのような思考自体が日頃から出来ているわけではなかったのが難しかったです。プレゼンを日頃から行っている先生の資料を例にして、工夫やこだわりを教えてもらいたかったです。」「SIH 道場だけではあまり身につかなかったと思います。」などの指摘があった。</p> <p><b>今後のポイント：</b>プレゼンテーションについては、時間の制約もあり全ての学生がプレゼンテーションを実施することに制限があるように思われる。時間に制限がある場合は、グループ内で発表などを取り入れ、できるだけ多くの学生が発表の機会を経験する工夫が求められる。</p>
ラーニングスキル (協働力)	<p><b>現状：</b>「アイスブレイキングをもっと活発に出来るような時間が確保できればよかった。薬学部ではアイスブレイキングの時間が長く、打ち解けた状態で始めることができていたが、他学部との場合はまだ少しよそよそしい中でやっていた。」「身につかなかった。ほぼ初対面の他人に対し全てをさらけ出せる人は非常に少ないだろう。年月が経ってから行えれば良いが、そもいかないうちから意味がないのではないかと思う。」</p> <p><b>今後のポイント：</b>協同学習を通じて学生同士の交流が促されている一方で一部の学生においては、うまくグループでのなかで発言ができていないケースも見られる。院生コーディネーターなどを活用して、議論が活発になっているグループに対して介入するなどの工夫が必要である。</p>
振り返り	<p><b>現状：</b>振り返りについて教えてくださいと質問したところ「覚えていない」や「分からない」といった意見が多かった。「テキストとネットワークのコンテンツの両方から学べてよかったと思います。ただ、徳島大学の eラーニングのページから各サービスに分かれていて各々階層が深かったり、使い方が異なったりしているので、一本化してほしいと感じました。」</p> <p><b>今後のポイント：</b>学生にとって「振り返り」とは何なのか具体的な学習活動のイメージがないように思われる。体験学習や SIH 道場終了時に振り返りシートやポートフォリオを活用していると思うが、ただ書かせるだけでなく、「振り返り」の意義や意味について伝える時間をとる必要がある。システムの使いにくさについては、全学的な LMS の運用方針と合わせて引き続き検討する。</p>

<p>SIH 道場教材 (テキスト)</p>	<p><b>現状：</b>「SIH 道場のテキストは基本となることがわかりやすく書かれており、この一冊があれば入学時に必要な文章力等の基礎固めともなるので大変役に立った」との回答も一部あったものの、「SIH 道場でのみ使用」あるいは「使用していない」との回答があった。</p>
	<p><b>今後のポイント：</b>活用方法が SIH 道場の授業内に留まっていることから、大学生活初期に他の授業内においても活用してもらう工夫が必要である。</p>
<p>SIH 道場教材 (ビデオ)</p>	<p><b>現状：</b>「ビデオ教材はどのような学習が行われるのか事前に知り、ある程度予習することができたのでよかった。」</p>
	<p><b>今後のポイント：</b>ビデオ教材の利用については反転学修のなかで取り入れている学部・学科がある一方で、活用できていないケースもあった。どのようなビデオ教材が必要なのかニーズを調査し、導入できないか検討していく必要がある。</p>



### 3-3. 「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

#### —大学教育再生加速プログラム（AP）実施専門委員会委員による報告—

##### 1) AP 実施専門委員会委員による報告の趣旨

SIH 道場の終了後に、次年度のプログラム改善に向けて、SIH 道場授業設計コーディネーターは、「プログラム設計評価シート」のフォーマットに基づき、次年度の改善に向けた振り返りを行う。各学部の大学教育再生加速プログラム実施専門委員会委員は、各学科、専攻の SIH 道場プログラムについて、授業設計コーディネーターが作成した「SIH 道場授業設計表」「SIH 道場授業詳細」や「SIH 道場プログラム設計評価シート」の記述を参照しながら、取組概要、成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）、今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）を報告する。本報告は、次年度の SIH 道場授業設計コーディネーターがプログラム改善を行う際の資料となるだけでなく、大学教育再生加速プログラム事業全体の自己評価の資料の一つにもなる。

##### 2) 各学部・学科の取組と報告者

<SIH 道場実施報告者（授業設計コーディネーター）>

総合科学部	総合科学部	教授	三浦 哉
医学部	医学科	教授	赤池 雅史
医学部	医科栄養学科	教授	酒井 徹
医学部	保健学科看護学専攻	教授	森 健治
医学部	保健学科放射線技術科学専攻	教授	阪間 稔
医学部	保健学科検査技術科学専攻	教授	片岡 佳子
歯学部	歯学科	教授	山本 朗仁
歯学部	口腔保健学科	教授	白山 靖彦
薬学部		准教授	佐藤 陽一
理工学部	社会基盤デザインコース	教授	馬場 俊孝
理工学部	機械科学コース	教授	長谷崎和洋
理工学部	応用化学システムコース	教授	岡村 英一
理工学部	電気電子システムコース	講師	芥川 正武
理工学部	情報光システムコース	講師	水科 晴樹
理工学部	応用理数コース	教授	中村 浩一
生物資源産業学部		教授	櫻谷 英治
医療教育開発センター		准教授	吾妻 雅彦



### 1. 取組概要

- 1) 大塚美術館を訪問し、鑑賞した作品を「ディスクリプション」の方法でレポート作成.
- 2) 「総合科学入門講座」, 「読書レポート」を通じて, 論理的思考力・文章力の養成.
- 3) 「課題発見ゼミナール」で, 課題発見力, プレゼン力, 協働力の養成.
- 4) 飛ぶノート, e ラーニング, Moodle の積極的利用.

### 2. 成果 (受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと)

(学生)

- 1) 美術作品を題材に, 視覚的イメージを文章化するディスクリプションの技能の修得.
- 2) 合理的な結論を導く思考力の修得, 課題図書に対して要約, 考察を通じて読解力, 文書力の修得.
- 3) 小グループで, 共同で課題探求力, 解決力, 協働力, プレゼン力といった実践的学習スキルの修得.
- 4) 飛ぶノート, e ラーニング, Moodle の利用法の修得.

(教員)

- 1) 飛ぶノート, e ラーニング, Moodle の利用法の修得.
- 2) 一つの教育目標に複数教員で教育にあたる重要性の認識.

### 3. 今後の課題 (プログラム設計・授業運営, その他について)

- 1) 短期間の SIH 道場のみで, 「早期体験」, 「文章力」, 「プレゼン力」, 「協働力」, 「振り返り」の 5 要素を養成するのはかなり困難であるため, 今後はスケジュール, プログラムを検討する必要がある.
- 2) 飛ぶノート, e ラーニング, Moodle などの利便性を教員間で共有し, SIH 道場関連以外の授業でも活用する必要がある.

### 4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

- 1) 総合科学部では, 「早期体験」として芸術鑑賞・ディスクリプションを実施したが, 他学部で実施している研究室訪問なども, 今後はプログラムとして検討する必要がある.
- 2) 「協働力」, 「プレゼン力」の養成は, 後期の「課題発見ゼミナール」が担っているが, SIH 道場, 総合科学入門講座等においても, 関連プログラムを実施することを検討する必要がある.

## 医学部医学科「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

赤池 雅史

### 1. 取組概要

事前学習、診療現場見学およびワークショップ形式の振り返り学習によって、医師の役割・業務内容、必要とされる能力、それらと関連づけた大学における学習について学生が理解することを目指す。診療現場見学は体験学習として学修の動機付けをはかり、ワークショップでは協働力およびプレゼンテーション力、振り返りレポート作成では文章力の向上をはかる。さらにこれら一連の学習によって、学修振り返りの方法を学ぶ。

### 2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

- 1) 医師の役割・業務内容、必要とされる能力について説明できる。
- 2) 医学科における学修目標について説明できる。
- 3) 診療現場でのルールを理解し、それを遵守できる。
- 4) グループで協働して意見をまとめ、それをプレゼンテーションできる。
- 5) 自らの学修経験に基づいて、自分の考えを文章にまとめることができる。
- 6) 学修経験に基づいて振り返りを行い、今後の学修計画を立てることができる。

（教員）

- 1) 診療現場での体験学習を実施できる。
- 2) KJ 法を用いたグループワークを実施できる。
- 3) 協働力、文章力、プレゼンテーション力のルーブリック評価を行うことができる。
- 4) アクティブ・ラーニングの目的と方法について理解し、その実践ができる。
- 5) ティーチングポートフォリオの作成方法について理解し、それを作成できる。

### 3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

- 1) 診療現場体験を行う診療科について、事前に希望を聞いて欲しいという学生の意見があるため、2回のうち1回は希望の診療科の体験ができるように検討する。
- 2) 文章力やプレゼンテーション力の向上をはかるため、その授業の時間を増やし、SIH 道場テキストを十分に活用する。
- 3) 協働力やプレゼンテーション力についての学生の理解を深めるために、学生同士のピア評価の充実を検討する。
- 4) 学修振り返りについての理解が十分ではないため、省察をテーマとしたワークショップを新たに企画する。

#### 4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

SIH 道場で向上した学習意欲を失わず、また、学んだ学習スキルを活用する機会として、他の教養教育科目において、ワークショップ型の授業やフィールドワークを大幅に増やす必要がある。また、学修振り返りの意義や方法の理解が十分ではなく、これについては、グループワークの手法を取り入れて、もっと具体的に学ぶ工夫が必要である。

※ 写真（授業の風景や学生の成果等）

振り返りワークショップでのグループワークの風景と作成したプロダクトの一例



## 医学部医科栄養学科「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

酒井 徹

### 1. 取組概要

研究室早期体験により専門教育および研究活動への関心を高める。SIH 道場を通じて、基本的な文章力、プレゼンテーション能力および医療現場で必要とされる協働力を学修する。また、学修における振り返りの重要性を知る。

### 2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

SIH 道場の「体験学習」は専門科目の学習において役立っていると回答した者の割合は、[とても当てはまる]が 49%、「どちらかといえば当てはまる」が 42%であり、合計 91%と早期体験学習が効果的であった。レポート等の学術文章を書く際に必要な準備や基本的なルールを理解した割合は、「とても当てはまる」および「どちらかといえば当てはまる」者の割合は 78%、SIH 道場で学修した「レポートの書き方」は役に立っていると回答した割合は、「とても当てはまる」および「どちらかといえば当てはまる」合わせて 78%であり、学習効果があったと考えられる。プレゼンテーションを効果的に行うために必要な準備・姿勢・資料を理解した割合は、「とても当てはまる」および「どちらかといえば当てはまる」者の割合は 82%、SIH 道場で学修した「プレゼンテーション」は役に立っていると回答した割合は、「とても当てはまる」および「どちらかといえば当てはまる」合わせて 78%であり、学習効果があったと考えられる。

（教員）

アクティブ・ラーニング型授業の意義を理解し、アクティブ・ラーニング型授業を実施できると回答した教員は 100%であった。

### 3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

「学生の学修に振り返りをさせる（フィードバックを行う）ことができる」、「学生に学修の振り返りをさせることの意義を理解した」、「学生に学修の振り返りをさせることを他の授業で導入した」といったアンケート項目に関しては、25%の教員は、「まったく当てはまらない」と回答した。準備状況も含めて教員の負担を可能な限り減らす企画運営が必要と考える。

### 4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

学生の意見を考慮し改善ができる箇所は修正していく必要がある。特に大きな変更が必要でなければ現状維持でも良いのではないかと考える。

**医学部保健学科看護学専攻**  
**「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題**

森 健治

1. 取組概要

看護学専攻では、レポートの書き方について、講義（一部反転授業）後、「先輩からのメッセージ」で看護師、保健師、養護教員、大学院生から講義を受け、学生が将来像のイメージが持てるようにした。また図書館ツアーで文献の探し方を学んだ後に、平成29年度は、「看護に関連すること」について、学生が5から6名のグループで1つのテーマを抽出させた。その後、各自でテーマに関して調べたものを持ち寄り、グループで調べた内容をまとめ、資料を作成し、発表を行なった。発表時は学生間でルーブリック評価を用いて、発表ごとに学生間でクリッカーを用いて、「内容の構成」、「発表姿勢」、「視覚・資料」について評価を行なった。その評価をもとに学生各自の振り返りレポートの作成を行い、飛ぶノートにて評価をフィードバックした。

2. 成果（受講学生と担当教員がSIH道場を通し身につけたこと）

（学生）

学生は、SIH道場を通して、レポートの書き方（レポートの書き方の反転授業・講義）、将来像の設計（先輩からのメッセージ） ・グループワーク ・プレゼンテーション力

（教員）

- ・反転授業の方法 ・飛ぶノートの活用方法
- ・クリッカーを使用した学生による相互評価方法（ルーブリック評価）

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

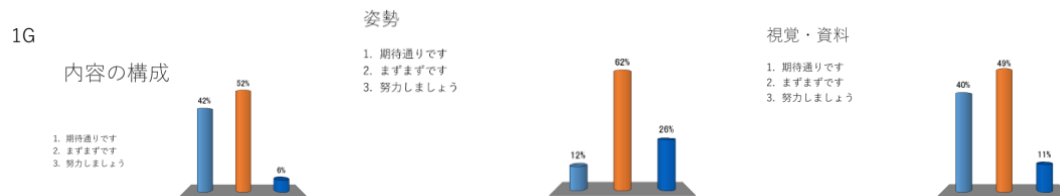
・今年度は、発表時間は1時間で学生全員の発表を行なったが、質問など時間が少なく、発表された内容には、訂正が必要な場合があったため、そのような事例に関してはどのように対応すべきかが課題である。

・レポートは「飛ぶノート」の形式で作成したが、返却が大幅に遅れてしまった。その理由としては、教員が作業になれていないということが大きいと考えられる。看護学専攻では、仕事を持ちながら学ぶ大学院生がほとんどであるために、TAの確保が難しい。例えば、飛ぶノートを使用したレポートの返却など、専門性が問われないところは、他の専攻のTAに手伝ってもらえるとありがたい。

#### 4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

・他の専攻の振り返りを聞くことで、新入生の「研究室への配属」なども考えていく必要があると気づいた。

下記はクリッカーを用いた学生による評価（プレゼンテーションの内容の構成、発表姿勢、視覚・資料のルーブリック評価の結果例）。



**医学部保健学科放射線技術科学専攻**  
**「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題**

阪間 稔

1. 取組概要

新入生が放射線科学分野への専門的な志向を、配属先の研究室での先端研究に触れることでより明確な将来への動機付けを育み、さらに医療現場の最前線に立つ専門技師の講演を聴講することで、自らの将来が、その専門性を活かし非常に幅広く活躍できることを認識する。また、短期研究室体験の総括を通じて、文章の書き方、文献調査と整理の仕方、プレゼンテーション能力の向上、グループで取りまとめる協働力などの能動的な学修の基本となる知識、技能、態度を身に付ける。

2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）放射線科学に対して新入生がこれまで抱くイメージをさらに広げることにより、診療放射線技師という職種にプラスαの意識や可能性を持たせることが有効である。その有効性を堅実なものにする機会に、各研究室では放射線科学への多種多様性を十分に兼ね備え、その実感を研究活動や研究室体験することで、新たな発見や放射線科学の新しい可能性として知ることができる。（学びのシーズとなる。）

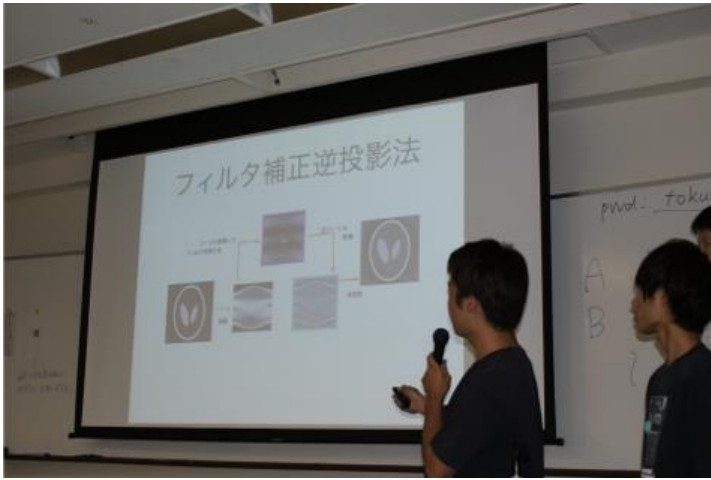
（教員）本年度の改善点であるオンライン化（スマホ利用）によるルーブリック評価に、教員指導への評価項目も加えたことで、全学生からの率直な意見や全体評価など知り得ることとなった。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

昨今、大学そのものに高い評価（特に、研究評価）が求められ、個々の教員における不断の努力がより一層である。本プログラムのような教育評価は、研究評価よりも必ずしも高く評価されているとはいえない。特に若手教員においては常に上位職への目指していることは当然であり、上述の評価志向となるとどうしても教育負担ととらえてしまうところがある。コーディネータの負担は、なお一層大きいこと、参加教員を取りまとめや新入生とのコンタクトなどそれに該当し、頭を悩ますことがある。本年度の院生コーディネータはたいへん役立ち、次年度においても継続的に行われることを期待する。

4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

本シンポジウムに参加して、他学部他専攻のそれぞれの専攻特性に合わせて特色あるアクティブラーニングプログラムを設計し、紆余曲折は多少ありながらも良い形で新入生への学びの意識を養っていることに感銘を受けた。新入生代表学生からの正直なコメントや今後の改善点など、積極的なコメントを受け、教員側として身を引き締める思いを再発見した。



(短期研究室体験報告会の様子)



**医学部保健学科検査技術科学専攻**  
**「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題**

片岡 佳子

1. 取組概要

専攻別新入生オリエンテーションにおいて、学修の基本となる文章の書き方、協働力、プレゼンテーションの仕方、学習の振り返りの仕方についてのSIH道場テキストを利用した説明、ビデオコンテンツの紹介（一部視聴と視聴継続の勧め）を行い、保健学科新入生研修ワークショップでは専攻の異なる学生によるチームで提示されたテーマについての討論とプレゼンを行った。幅広い視野で将来の進路を考えられるようにするため、また、学修効果が上がるように、昨年度までの早期体験学習のプログラム（大学院学生による4年間の学生生活の紹介、保健科学教育部医用検査学領域の全教員による大学院での研究を紹介する懇談会）に加えて、「大学病院検査部の見学」や胚培養士・治験コーディネーターとして活躍する卒業生等に仕事内容の紹介を依頼し、病院での臨床検査技師の役割や病院以外の多様な進路を知る機会を設けた。前年度の反省点を活かして時間配分に留意し、毎週木曜日に設けたSIH道場の時間を利用して、早期体験の事前学習やラーニングスキル学習用のウェブコンテンツを視聴する時間を十分に取、早期体験学習を実施する際には学習を促した。専攻で設計した早期体験が終了した時点で、SIH道場テキストのリフレクションシートを利用して振り返り（学べたこと、事前学習の有無、自分の将来像についてのレポート作成）をさせた。レポートには、授業担当教員からのコメントを付けて、リフレクションシートとともに”飛ぶノート”で学生へ送った。

2. 成果（受講学生と担当教員がSIH道場を通して身につけたこと）

（学生）

学生のアンケート結果をみると、ほぼすべての学生が、授業内容に満足しており、将来の仕事内容についてイメージを持つことができ、視野も広がったようであった。また、学生のほとんどが基本的なスキルについては理解したと答えていた。リフレクションシートの使用により、早期体験での学習内容を振り返ることができ、振り返りの重要性も認識してくれたのではないかと思う。今回のSIH道場での取り組みにより一定の学修効果は上がっていると考えられる。

（教員）

ラーニングスキルについては、ルーブリック評価表のような具体的な評価指標を学生に示すことによって、到達目標がわかりやすくなり、学生が学習に取り組みやすくなると感じました。

### 3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

大学病院検査部の見学については、全員が全部門を見学する日程にしたため、1部門あたりの滞在時間が短く、あまり質問等することができなかつたようである。見学の時期や日程・内容について再度、検査部と相談する。SIH 道場のテキストやウェブコンテンツの視聴には個人差があるようなので、適切なタイミングで自己学習を促す必要がある。9月下旬の医歯薬合同「チーム医療入門」とは別に、専攻内での早期体験学習についてのリフレクションは継続したら良いと考える。“飛ぶノート”で送った資料を当専攻の1年生はほとんど見ていない可能性があり、来年度は資料の利用の仕方について説明が必要かもしれない。

### 4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

他専攻の取り組みや1年生のSIH 道場についての意見を聞くことができてよかった。SIH 道場で学んだことは、上学年になったときにどれくらい役立つのでしょうか、できるだけ専門科目の学習意欲や進路の選択の際の動機につながるものにしたいと思いました。

## 歯学部「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

山本 朗仁

### 1. 取組概要

歯学部における大学入門講座のコンテンツである「気づきの体験実習」、「相互歯磨き学習」、「早期体験実習・シャドウイングと前後の感染対策・医療倫理・振り返り」に加え、本年からは歯学科第2年次「研究室体験プログラム」を実施した。これにより学生の SIH 道場参加機会が増えると共に、歯学部における SIH 道場担当教員を増やすことができ、学部内での SIH 道場の認知が高まった。

### 2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）**早期体験**：歯学科第2年次のシャドウイングでは、「病院での臨床の見学」「病院のシステム」、「基本的マナー」、「コミュニケーション力」、「ホスピタリティ・マインド」が養われた。「研究室体験プログラム」によって基礎科学的治験を基盤とした医療の重要性、研究によって得られた知見を臨床にフィードバックする流れを理解できたようである。**ラーニングスキル文章力**：「アカデミック・ライティング入門」の講義においては、論理的な文章の書き方や表記・表現・文章構成を学び、「読書レポート」に反映させようという努力が感じられた。しかし、歯学部の一部に課題への取り組み姿勢に問題がある学生が散見された。**ラーニング協働力**：今年度もワールドカフェ、PBL/LTB 入門、蔵本地区 IPE ワークショップにてグループ討議とプレゼンテーションを行った。きっかけをつかみながらコミュニケーションを取っていくことを実践できていた学生が多かった。

（教員）歯学部では、平成29年度には、教員48名が SIH 道場に参加しており、SIH 道場の説明を受けその趣旨を理解してくれたように感じられた。そして多くの講義で、振り返り時間と e-ポートフォリオ・レポート、もしくは独自のレポートを課し、さらにそれに対する教員からのフィードバックを行うことが、定着してきている。

### 3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

学習課題に対して自ら調べ、発表するスキルにはレベルの高さを感じている。SIH 道場でのラーニングスキルやプレゼンテーション力が効果を上げていると感じる。一方、「コミュニケーション力」が実際の学生生活の中で、どれほど実践されているのか疑問に感じる場面が多い。仲間との交わりが苦手だ、グループ間での情報共有ができない学生が多い。SIH 道場で学んだことをどれだけ実行できているかを評価するシステムが必要だと感じる。

**4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題**  
SIH 道場で学んだことの実践推進プログラムや評価プログラムの充実がないと、SIH 道場をやったきりで終わってしまう可能性型か。評価を元にした改善が組まれないとマンネリ化する点を危惧している。



蔵本地区 IPE ワークショップ



相互歯磨き実習



ワールドカフェ

## 薬学部「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

佐藤 陽一

### 1. 取組概要

早期体験学習として、「薬局で働く」、「薬害について、B型肝炎について」の講演を聴講させた。また、「薬学の祖を学ぶ～こころざし～」を視聴させた。医歯薬学部合同による「チーム医療入門」では班単位でテーマについてワークショップを行い、プロダクトを作成し、プレゼンテーション並びに討論を行わせた。また、学んだこと、今後の学習に関する目標についてレポートを作成させ、レポートに対する担当教員の評価およびコメントを学生にフィードバックさせた。

### 2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

早期体験学習では、薬剤師として働くこと具体的なイメージづくりや創薬研究者として働くことの意欲向上につながった。チーム医療入門では、文章力が向上し、またプレゼンテーションのためのスキルや他者と協力して取り組む際の留意点を理解することができ、概ね到達目標が達成できた。

（教員）

アクティブ・ラーニング型の授業、反転授業、ルーブリック評価、学習の振り返りの意義が理解できた。また、これらを他の授業に導入したいという意識改革にもつながった。

### 3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

医歯薬学部合同のチーム医療入門については、概ね到達目標が達成できた。早期体験学習においても働くことの意欲向上につながったが、今後はレポート課題を課すなどして、文章力を向上させ、また、教員によるフィードバックを行うような対応も必要である。

### 4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

他学部の取り組み概要を知ることができ、当学部の概要と比較することで、今後さらに充実させた体制を整える必要があると感じた。また、SIH 道場の目標を再確認することで、この授業の重要性をより一層理解でき、今後の授業の改善につなげたいと感じた。

**理工学部社会基盤デザインコース**  
**「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題**

馬場俊孝

1. 取組概要

大学での能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につけさせることを目的として、社会基盤の現場見学およびレポートを作成させた。さらに、8人程度のグループに分けて社会基盤に関する課題をグループ毎に独自に設定させ、それについての調査、議論を経て、学年全体の発表会でプレゼンさせた。文章力および協働力ではルーブリックを用いた評価、プレゼンでは教員に加えて学生の相互の評価も実施した。

2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

学生においては現場見学、グループ学習により社会基盤への関心をより深められた。また、グループ学習で調査研究の基本に触れられたことは今後の自主的な学習に繋がると期待される。

（教員）

SIH 道場の実施項目とマッチした予習教材としてビデオコンテンツが準備されており、それらが学生の学習の進展において効果的であるとわかった。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

社会基盤デザイン分野は広範囲にわたり、今年度の SIH 道場の現場見学はその一部にとどまった。参加学生から「現場研修は土木系によっていたと思うので建築系の内容も増やしてほしい」とのコメントもあり、今後の実施内容について検討したい。また、協働力の向上を目的とした宿泊ありの合宿研修も効果的かもしれない。

4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

振り返りシンポジウムにおいて、「現場研修の予習をさせそれをきちんと評価してはどうか」とのコメントをいただいた。現状、現場研修の事前説明は1コマ（90分）用いて行っている。それに加えて事前調査のレポートなどを課してはどうかということであったが、4月第一週のオリエンテーションの後にすぐに現場見学に行くカリキュラムになっており、入学直後で学生にとっては緊張もあり、不必要な課題は適さないと考えられる。それよりもむしろ、現状の振り返りに重点をおいたカリキュラムが良いと考えている。

## 1. 取組概要

大学入門講座における集中研修として、ディベートを行うことで論理的な思考能力とプレゼンテーション能力を養う。また、学科専門科目の機械科学実験（授業科目「**機械科学実験 1**」）を通して機械工学分野のエンジニアとして必要な技術を早期に修得することを目指す。また、学習の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方を学び、それらを実践することで、大学における能動的な学習の基本となる知識、技能、態度を身につける。

## 2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身に着けたこと）

（学生）論理的文章の作成・レポートの作成において、注意すべき点について 1 つ以上説明することができた。また、ディベートや実習において自らが果たした役割、反省点などを客観的に振り返る文章を書くことができるようになった。



（教員）ルーブリックを使った客観的な評価が可能になった。これにより、複数の教員の評価に対して、公平性を確保することができるようになった。

写真 ディベート研修中の学生同士の討論状況

## 3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

4 月に行う合宿研修では、振り返り学習やコミュニケーション力、論理的な記述力などの重要性を認識する入門的な内容であったが、これを浸透させるには継続的な指導が必要である。実験のレポート採点時などが継続的な指導の機会となるので上記のような能力を高めるよう折に触れ指導することが必要である。

## 4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

今回で 2 年目であるが、もう数年同じような取り組みを行い、学生の学習態度や学業成績に結び付いているのか等、経年的な変化を注意深く観察する必要がある。

理工学部応用化学システムコース  
「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

岡村 英一

### 1. 取組概要

当コースでは、SIH の取り組みとして、主に以下の 2 点を行った。

(1) 入学式のある 4 月に、導入教育として、教務委員および SIH 担当教員から、以下の項目に関するガイダンス、オリエンテーションを行った。

- ・大学での学修と心構えについて。(高校との違い)
- ・コースの教育理念、目標、教育課程、4 年間のカリキュラムの流れについて。
- ・SIH プログラムに関する説明。
- ・大学で何を学びたいかを作文させ、学生間で作文を交換して内容を読んだ上で、賛同できる点、できない点などを議論させた。
- ・2017 年 4 月 22 日 (土) に実施した日帰り校外学習において、会場の設営、片付けなどをクラス全員で行わせ、協働の訓練の一環とした。またこの校外学習を、入学直後のクラスメート達と慣れ親しむための手助けとした。校外学習に関する各学生の取り組みについて、ルーブリック表による自己評価を行わせた。

(2) 半年間の講義科目「STEM 演習」の時間を用いて、以下を行うことにより SIH 実践の場とした。

- ・学生 3 人または 4 人の小グループによる、グループ研究を行った。ここで各グループには 1 人の教員をアドバイザーとして配し、化学に関連するテーマを一つ自由に選定し、そのテーマに関する自由研究を行った。
- ・選んだテーマの内容に関して協働の訓練を行わせるため、各学生の分担、役割を明確にさせた。
- ・各自が本やインターネットを通じて分担する内容を調査した。各自が得た結果を持ち寄り、グループ全体として一つの結果にまとめた。
- ・各グループが研究した結果について、他の学生、教員の前で、パワーポイントのスライドを用いて、15 分間のプレゼンテーションを行った。プレゼンでは、グループの 1 人だけではなく、全員が必ず話をするようにした。
- ・各学生は、グループ全体としての結果と、各自が調べた内容に関する要旨を作成し、アドバイザー教員に提出した。また自分自身の研究活動、プレゼンについて、ルーブリック表を用いて自己評価を行った。
- ・教員は学生のプレゼン、学生が提出した要旨と自己評価表を用いて、各学生に対してルーブリック表による評価を行った。
- ・プレゼンが終了して要旨も提出した後、SIH 担当教員から、理科系の作文技術、実験レ



ポートなどのテクニカル文書の作成上の注意などに関する講義を行った。その内容を考慮して、再度自由研究の要旨を作成、提出させ、アドバイザー教員による採点、助言を行った。

- ・以上により、一方通行ではなく、教員から少人数の学生へのフィードバックを行いながら指導を行った。

## 2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

- ・入学式と同じ週という早い段階で、大学での学修と心構えに関して、高校とは全く異なるということに自覚できた。特に、高校の学習内容では既に答の分かっていることがほぼすべてを占めているのに対して、大学で扱う内容は答が分かっていることと分からないことの両方があり、前者は後者のための準備に過ぎないということに自覚できた。
- ・一つの研究テーマに、複数のクラスメートと役割分担を意識しながら取り組むことにより、組織的で計画性のある協働の訓練ができた。
- ・調べた内容を文章に表し、わかりやすい要旨を書く訓練を2度繰り返し、それに対するアドバイザー教員のコメントもフィードバックされることにより、より良いテクニカル文書を書く訓練ができた。
- ・調べた内容に関して、スライドを使ったプレゼンを行うことにより、自分の考えや調査した事項を他人に効果的に伝える訓練ができた。
- ・グループ研究において自分自身が行った内容と、それに基づき作成した要旨について、ルーブリック評価表を用いて客観的に自己評価する訓練ができた。

（教員）

- ・従来の、学生から教員に一方的に内容を教える、伝える教育ではなく、学生の自主性を引き出しつつ、またフィードバックをかけつつ、学生の理解を深めていくプロセスを経験することができた。

## 3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

特になし。来年度も同様の内容で行う予定である。

## 4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

シンポジウムでは、以上の内容を行ったことについてポスター発表を行った。ポスターへの来訪者による質問や議論があったが、新たに得られた気づきや今後の課題などは特になかった。

理工学部電気電子システムコース  
「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

芥川 正武

### 1. 取組概要

当コースではアクティブ・ラーニングの習得を目的として SIH 道場と同時期に並行して開講されている STEM 演習を連携した枠組みとして捉えてプログラムを設計・実施した。

SIH 道場は集中講義形式とし、ラーニングスキルに関する講義と、グループワークによるポスタープレゼンテーションの発表会を実施した。STEM 演習は専門分野習得のための基礎力を身につけることを目的としており、簡単だが深い考察に結びつく物理実験を毎週実施し、それに関して実験レポートの提出を課している。例えば SIH 道場で講義した、文章力に関するスキルを、STEM 演習でのレポート作成に生かすことができるよう企図された構成である。またポスタープレゼンテーションでは STEM 演習で実施した実験テーマを 1 つ選び、教職員が参加するとともに学生相互でも発表・質問を行なった。発表会の後、SIH 道場に関して最終レポートは LMS を用いて回収し、担当教員からフィードバックを返した。

### 2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）学生アンケートによると、専門分野に関する興味関心の高まりや、各ラーニングスキルに関する理解が深まったとしている。特に文章力に関しては STEM 演習でレポート提出と添削を毎週実施しているため、その効果も大きいと考えられる。またポスター発表会は協働力、プレゼンテーション力を実践する機会となっている。

（教員）アクティブ・ラーニングとは何かについて基礎知識、実践方法に関して理解が深まるとともに、学内で運用されている各種 e ラーニングシステムに触れる機会が増えた。

### 3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

業務自体はコーディネーターと授業担当教員に分けられているが、実質的にコーディネーターの負担は大きかった。また当コースのプログラムでは、SIH 道場について多数の教員で広く分担するような設計にはなっていない。このため SIH 道場に関する意識は全員が高いわけではない。SIH 道場に対する取り組み方を検討する必要がある。

### 4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

他のプログラムについてコーディネーター教員から直接話を聞くことができる貴重な機会だった。自分は前回参加できなかったが、次年度コーディネーターを担当する場合はぜひ参加していただきたい。

理工学部情報光システムコース  
「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

水科 晴樹

1. 取組概要

大学における学修において必須の協働力、文章力、プレゼン力を養成する目的で、ブレインストーミングと KJ 法を用いたグループワークを行い、与えられた課題に対する解決策をグループ毎に提案し、それを全履修者の前で発表した。また、本コースの各研究室で取り組んでいる最先端の研究に触れ、実際に手を動かすものづくり体験を行う体験学習を、情報光システムセミナーの授業の中で実施した。

2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

体験学習では、最先端の研究に触れることを通じて、多くの学生が専門科目の勉学に対するモチベーションが向上したと報告している。グループワークを通じて、役割分担の重要性に気付く学生も多かった。レポート課題やプレゼンテーションを通して、今後の大学での勉学の基礎となる文章力やプレゼン力が身に付いたと感じている学生が多かった。

（教員）

レポートの出題や課題の提出において、Mahara や Moodle を使用することで、LMS の活用方法を修得できた。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

本コースは学生数が多いため（140 名程度）、少数の授業担当教員だけでは大人数のレポートにフィードバックすることが困難なため、LMS を有効に活用する、授業担当教員を増員するなど、効果的な評価方法を模索する必要がある。また、協働力、文章力、プレゼン力に対する授業は入学直後の 2 ヶ月程度で集中的に実施したが、スケジュール的に余裕がなく、ディスカッションや発表練習などが十分にできないケースもあったため、余裕を持ったスケジュールの検討が望まれる。

4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

他のプログラムでは、既存の専門演習科目の授業と SIH 道場が効果的に組み合わせられていることを知り、情報光システムコースでも、既存のリソース（カリキュラムや教員）をうまく活用したプログラムの工夫が必要と思われる。

※ 写真（授業の風景や学生の成果等）を適宜、貼付頂いてもかまいません。

理工学部応用理数コース  
「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

中村 浩一

1. 取組概要

応用理数コースでは数理科学、自然科学、さらに自然科学には物理科学、化学、生物化学、地球科学の4つの分野あることから、学生が求める、またそれぞれの分野の考える教育・研究の方向性の幅が大きすぎるといった問題がある。学生自身の専門分野における先端研究の体験を通して興味関心を喚起し、学修・研究に対する動機づけを行うことが重要である。そのために、学生自身が興味のある研究を行っている教員を訪ね、その研究内容の聞き取りと内容のまとめ、発表という一連の流れを経験する中で、学修の基本となる文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、振り返りの仕方などの基礎的事項を学ぶ。

2. 成果（受講学生と担当教員が SIH 道場を通して身につけたこと）

（学生）

数理科学、自然科学系での研究内容について、これまでのイメージとの違い、新たな発見などがあったように思える。また、グループの他の学生と協同してKJ法などを用い意見集約し、聞き取りを行い、その報告にあたり多くの人 앞에서自身の意見を述べる準備を行い、また他の学生の発表を評価することで、協同力、プレゼンテーションや振り返りの基本的な事柄を学んだと思われる。



（教員）

振り返りやルーブリックを用いた評価についての基本を知ることができた。

3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

高校までとは異なり、大学での研究への学生の動機・興味付けを短期間にどのように行うかが重要である。また、基本的なビジネスライティング、文章力の養成とプレゼンテーション力の養成が引き続き必要である。今回初めてTAの配置を試みたが、準備が十分でなく、今後TAによる効果的な指導方法など考える必要がある。

4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題

SIH道場での取り組みを如何に実際の授業に取り入れていくことができるのか、実践例、成功例など周知して行くことも必要であろう。

## 生物資源産業学部「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組と課題

櫻谷 英治

### 1. 取組概要

SIH 道場は新入生オリエンテーション時に短期間集中の体験型授業として行われた。新入生を3班に班分けし、各班を学部内の各コース（応用生命、食料科学、生物生産システム）からそれぞれ選出された2名の教員とコーディネーターで引率・指導した。まず、学外研修として種苗企業（竹内園芸）、醸造会社（松浦酒造・福寿醤油）および製菓企業（株）ハレルヤを見学し、専門的な技術やマーケティング戦略を目の当たりにすることで、専門分野や社会進出における興味関心を喚起し、今後の学習・研究に対する動機付けを行った。研修の翌日に、個人プレゼンテーションおよび小グループ毎のKJ法とポスター発表を行い、さらに最終課題として総合レポート作成を課すことにより、個人および他者との協働作業による情報の整理や伝達など、能動的学習の基盤となる学習技術を習得させた。

### 2. 成果（受講学生と担当教員がSIH道場を通して身につけたこと）

（学生） 事後のアンケート結果より、学外研修を通して参加学生のほとんどが企業独自の専門分野への関心を高めることができたとの回答を得た。学習技術の修得について、個人プレゼンテーションでは自身の得た情報を整理して発表するだけでなく、他者の見解から自分の意見との類似点、相違点を考えることを学び、KJ法において自らの意見を主張することや他者と協働することの大切さ、またそれぞれの意見を組み合わせることで新たなアイデアが創造できることを実感することができた。総合レポート作成および「Mahara」を使用した振り返りにおいて、学外研修で体験した様々な内容について自身で事前、事後に調査した内容を加味して文章にまとめ、情報処理の基礎を学習した。

（教員） SIH 道場で実施された項目について、それぞれルーブリック評価表を用いた評価を行い、個人またはグループに対する評価方法を習得することができた。また、実施にあたり、学習支援システム「Mahara」を使用することで、今後の各教員の講義・演習へ反転授業、双方向フィードバックといったアクティブ・ラーニング導入の動機付けができた。

### 3. 今後の課題（プログラム設計・授業運営、その他について）

昨年度と同様に、課題として挙げた研修場所等の事前学習について、促したビデオコンテンツによる反転授業があまり達成されていなかったように思われる。また、「Mahara」による提出レポートにおいて、学生が教員からのコメントを読んでいるいないため、教員による一方的なコメントになっていることも留意すべきである。今後は、事前および事後の学習についても、実施確認や達成度の評価が必要であると考えている。



学外研修（麹室見学）



協働力の育成（KJ法）

### 4. 「SIH 道場振り返りシンポジウム」における議論を経た新たな気づきや今後の課題特になし。

## 4. SIH 道場の実施支援に関する取組

### 4-1. SIH 道場の授業設計および実施に係る支援

#### 1) 概要

開講3年目となる、平成29年度の「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の開始に向けて、各学部・学科・コース・専攻での授業（プログラム）設計および授業実施支援のため、総合教育センター教育改革推進部門を中心に、同センターのICT活用教育部門、これら部門のメンバーを含むSIH 道場コンテンツ作成ワーキンググループが活動を行った。支援内容は、大きく次の五つである。①SIH 道場授業設計に関する支援、②授業で使用可能な教材コンテンツの作成、③授業計画・実施中の随時個別相談対応、④授業担当者に対するFDの実施、⑤授業改善に向けた評価の支援。これらの詳細について以下に述べる。

#### 2) SIH 道場授業設計に関する支援

SIH 道場は、①専門分野の早期体験、②ラーニングスキル（文章力・プレゼンテーション力・協働力）の修得、③学修の振り返りの三つを必須要素とし、これらを組み込んだプログラム設計を各学部・学科・コース等の単位で行う（平成28年度は15プログラムが展開）。各学部・学科・コース等のSIH 道場の授業設計は、プログラム単位で1名以上選出された「授業設計コーディネーター」（以下、コーディネーター）が担っている。コーディネーターは、授業実施に向けて、アクティブ・ラーニング型授業の設計（目的・目標・スケジュール・教材・評価等、シラバスの作成）および授業担当者の選定などの準備を行い、実施後には次年度の改善に向けた振り返りとして、プログラム設計評価シートへの記入を行う。

コーディネーターは準備として、SIH 道場の三つの必須要素を組み込んだ授業の概要を「必須項目設計表」に記し、詳細な授業展開を「授業詳細」において明確にし、これらを担当する教員を記載した「担当者リスト」を提出する。教育改革推進部門は、これらの作成をスムーズに行えるよう、コーディネーターを参加対象とする「SIH 道場キックオフミーティング」を開催し、「必須項目設計表」と「授業詳細」のサンプルや実施方法のポイントを記した資料を配布し、SIH 道場の目的、三つの必須要素を説明した上で授業設計や授業方法のポイントを解説している。加えて、Moodle上に、「平成29年度SIH 道場コーディネーター準備コース」を作成し、「必須項目設計表」と「授業詳細」だけでなく、授業で使用可能な教材コンテンツ等も掲載している。さらに、昨年度の各プログラムの実施内容や実施後の振り返りを参照できるように、前年の平成28年度「SIH 道場」の16プログラムの「必須項目設計表」や「授業詳細」もMoodle上に掲載している。

#### 3) 授業で使用可能な教材コンテンツの作成

SIH 道場のプログラムをそれぞれの学部・学科・コースで実施するための支援として、学生用テキスト、反転授業用ビデオ教材、ループリック、eポートフォリオ等に関する各種教材コンテンツを作成し提供している。これらの作成は、総合教育センター教育改革推進部門、ICT活用教育部門の教員に加えて、SIH 道場コンテンツ作成ワーキンググループのメンバーが担当している。

これらの詳細について以下に述べる。

### 3.1 学生用テキスト教材

SIH 道場の学生用教材として、テキストを作成している。主な内容は、SIH 道場の概要と目的、大学での学修のポイント、体験学習、ラーニングスキル、学修の振り返りの要点と解説、ワークシートである。巻末に簡単なブックガイドを付すことで、学生が興味関心を広げられるようにしている。本テキストは、SIH 道場を受講する 1 年次生全員に配布すると共に、授業担当教員を含む全学の教員に配布している。

テキストの内容について見直しを行い、平成 28 年度の改訂版となる平成 29 年度版を作成した。さらに、平成 29 年度からは、スマートフォン用徳島大学アプリと連携し、アプリからスマートフォンを用いてテキスト及び後述のビデオ教材を閲覧・視聴できるよう設計を行った。

### 3.2 反転授業のビデオ教材の提供

反転授業用のビデオ教材として、SIH 道場の概要および三つのラーニングスキル（「文章力」「プレゼンテーション力」「協働力」）について、事前学修・事後学修で使用可能なビデオ教材を Moodle 上で提供している。ビデオ視聴後のクイズ（確認テスト）、参考文献リストも掲載しており、コーディネーター、授業担当教員は、これらのビデオ教材を用いた授業設計を行うことができる。学生は、Moodle 上の学生用コースから、テキスト、ループリック、反転授業用ビデオを観て、事前学習・事後学習に役立てられるようにしている。なお、Moodle の使用法等に関する相談については、e ラーニングサポート室が受け付けている。平成 29 年度は、これらの反転授業用ビデオ教材のうち、「協働力」のコンテンツの内容を更新した。

3-1. SIH道場<文章力> 反転授業コンテンツサンプル

※サンプルコンテンツは、自由にご使用ください。  
ループリックは適宜修正・加筆してください。ビデオコンテンツは観点ごとに使用できます。学生配布用のサンプル教材も作成を行います。

★ループリック評価表

 SIH道場<文章力>ループリックサンプル\_2015.2.11

★ビデオコンテンツ（事前学習） ビデオコンテンツはループリック表の観点と対応しています。

-  主張の根拠付け
-  構成の明快さ
-  文章表現の適切さ
-  出典表示など

★クイズ（ビデオ視聴後の確認テスト）

-  主張の根拠づけ
-  構成の明快さ
-  文章表現
-  出典表示など

★参考文献リスト（学生の学習を促進するために）

 文章力についてさらに学修するための参考文献リスト

### 3.3 ループリック評価表

ループリックは評価の観点と基準を示した表であり、SIH 道場においては、学生の学修成果を



評価する際に、ルーブリックを使用することを推奨している。ルーブリックは、教員が学生のラーニングスキルを評価したり、学生同士でピア評価をさせたり、学生が自己評価する際に用いることができる。現在は、サンプルルーブリックとして、ラーニングスキルの三つ（「文章力」「プレゼンテーション力」「協働力」）を作成し、SIH 道場テキストに収録し学生に示している他、反転授業のビデオ教材と共に Moodle 上に掲載している（三つのラーニングスキルに関する反転ビデオは、それぞれのスキルの観点に沿った内容となっている）。教員は、サンプルルーブリックの電子ファイルをダウンロードし、適宜修正や加筆の上使用することができる。サンプルルーブリックについては、SIH 道場コンテンツ作成ワーキンググループにおいて、年度ごとに内容を見直し修正を行っている。

### 3.4 eポートフォリオ上での教員の振り返り

SIH 道場は、アクティブ・ラーニングを用いた授業を実践しながら教員が手法を学ぶという OJT 型 FD の場でもある。授業を担当した教員は、SIH 道場終了後に eポートフォリオ(Mahara) 上で、授業で実践した方法を記述しながら、今後も継続したいこと、改善したいこと等を振り返ることで今後の目標につなげることができる。そのため、昨年度と同じ形式のテンプレートと記入例を提供した。

The screenshot shows the Mahara e-portfolio system interface for Takushima University. The page is titled "テンプレート" (Template) and contains several sections for course reflection:

- 0. 授業概要** (Course Overview): Includes fields for course name, instructor, subject, and course description. A "添付ファイル" (Attach File) button is present.
- 1. 授業の方法** (Teaching Methods): Includes a field for describing the teaching method and a "添付ファイル" button.
- 2. 授業の評価** (Course Evaluation): Includes a field for describing the evaluation and a "添付ファイル" button.
- 3. 授業の振り返り** (Course Reflection): Includes a field for describing the reflection and a "添付ファイル" button.
- 4. 今後のアクションプラン** (Future Action Plan): Includes a field for describing the action plan and a "添付ファイル" button.
- 5. その他の参考資料** (Other Reference Materials): Includes a field for describing other reference materials and a "添付ファイル" button.

### 4) 授業計画・実施中の随時個別相談対応

コーディネーターが、SIH 道場の三つの必須要素を組み込んだ「必須項目設計表」、「授業詳細」を作成する際には、教育改革推進部門が窓口となり相談を随時受け付けている。平成 29 年度は、SIH 道場の実施 3 年目ではあるが、コーディネーターは入れ替わっているため、SIH 道場の趣旨や学生の到達目標、目標に到達できるような授業設計をどのように行うか等について詳細な説明が必要となった。また、実施前の準備期間だけでなく、実施中においても、学生の学修の振り返



りに使用する e ポートフォリオの使用方法など、授業を行う上で寄せられた疑問点について回答を行った。なお、e ポートフォリオシステムの使用方法の詳細については、e ラーニングサポート室が個別の相談に応じる等の支援を行った。

## 5) 授業担当者に対する FD の実施

### 5.1 概要

目的：

平成 29 年度 SIH 道場授業担当者が大学教育再生加速プログラムの概要、当該学科の SIH 道場の詳細について理解し、SIH 道場の授業を担当するために必要な知識と技能を習得する。また、OJT 型の FD として、授業実施から振り返りまでのプロセスを理解し、実践できるようになる。

対象者：SIH 道場授業設計コーディネーター、SIH 道場授業担当者等

開催日時・場所：

※ 参加対象者は計 4 回のうちいずれか 1 回参加する

	常三島キャンパス 地域創生・国際交流会館共用室 301	蔵本キャンパス 藤井節郎記念医科学センター2階多目的室 1・2 室
第 1 回	3 月 2 日 (木) 17:00~18:40	3 月 1 日 (水) 17:00~18:40
第 2 回	3 月 7 日 (火) 15:00~16:40	3 月 6 日 (月) 15:00~16:40

プログラム：

時間	内 容	詳 細 項 目	担当者
20 分	SIH 道場の概要	①目的・概要 ②スケジュール (設計→実施→振り返り)	新原将義
25 分	eポートフォリオシステム	①システムの概要 ②学生の利用の仕方 ③教員の利用の仕方	金西計英 高橋暁子
55 分	アクティブ・ラーニングと学びを促す評価	①アクティブ・ラーニングとは ②アクティブ・ラーニングの実践 ③学びを促す評価方法	川野卓二 吉田博

主催：大学教育再生加速プログラム実施専門委員会

### 5.2 詳細

「SIH 道場の概要」では、SIH 道場の目標、内容、実施体制、授業設計の必須項目、教育改革推進部門および SIH 道場コンテンツ作成 WG の提供する教材について説明を行った。さらに、SIH 道場の改善に向けた評価として、学生および教員アンケートの実施やコーディネーターが行うプログラム設計評価シートによる振り返り等について説明を行った。

「eポートフォリオシステム」では、学生および教員が授業で学んだ内容や授業実践について振り返りを行うための学生のツールであるeポートフォリオの使用法について説明を行った。

「アクティブ・ラーニングと学びを促す評価」では、アクティブ・ラーニングの定義や学修効果、ルーブリックによる評価法について説明を行った。選択式ワークとして、参加者が日頃の授業実践を振り返りながら行うことのできるワーク（アクティブ・ラーニング事例カード作成あるいはルーブリック「改造」の検討）を実施した。

## 6) 授業改善に向けた評価の支援

SIH 道場の授業改善、プログラム改善に向けて、大学教育再生加速プログラム（AP）実施専門委員会で策定された評価指標に基づき、学生と教員の目標到達度を把握するためのアンケートを作成し、実施結果の集計およびとりまとめを行っている。平成 29 年度からは、手続きの簡便化と授業設計コーディネーターの負担軽減のため、学生アンケートを Web 上で実施するよう変更を行った。また、授業設計コーディネーターが、学生の学修成果やアンケートの集計結果を参照し、設計したプログラムが学生の学修や研究への意欲を高めるものだったか、ラーニングスキルが修得できるものであったか、学修の振り返りができるものであったかを振り返りための「プログラム設計評価シート」を作成している。さらに、AP 実施専門委員会主催の「SIH 道場振り返りシンポジウム」の企画および運営を行い、平成 29 年度の各学部・学科の SIH 道場の内容や課題を全学的に共有する機会を設定している。その他、SIH 道場に関する評価・改善ワーキンググループの学生委員へのインタビュー調査を行い、平成 29 年度の SIH 道場の良い点・改善点のとりまとめを行い、SIH 道場のプログラム改善や AP 事業の自己評価の資料として提供している。

## 4-2. eポートフォリオシステムの構築

### 1). 概要

#### 1.1 システム概要

2015年4月よりeポートフォリオシステム「Mahara (マハラ) <sup>(1)</sup>」の運用を開始した。図 1.1 にトップページを示す。Mahara は世界中で利用されているオープンソースのeポートフォリオシステムである。本学用のカスタマイズとして、後述する「飛ぶノート」システムとの連携機能、「テンプレート機能」を追加したが、この2点以外の仕様変更はなく、標準的な Mahara となっている。徳島大学の全学生および全教職員は、統合認証経由でいつでも Mahara にアクセス可能である。

Mahara は様々な使い方が出来る汎用的なeポートフォリオシステムであるが、成果物の蓄積、活動の振り返りレポートの作成、外部への自己PRページの作成を得意とする。2017年度は、前年度と同様に、学生は主にSIH道場のレポート等の成果物の蓄積、SIH道場担当教員は主に授業実践の振り返りレポートの作成を行うことを狙った。



図 1.1 Mahara トップページ (ログイン後)

#### 1.2 飛ぶノート

飛ぶノートは、スキャナなどでPDFファイルに変換した手書きファイルをMaharaサーバの各学生ページや教員が作成したグループページに転送するツールである。飛ぶノートとMaharaサーバの図 1.2.1 のような連携をする。教員は担当授業で学生に課したマークシート付き手書きレポートを集め、必要に応じてコメントを書いた後、紙ファイルをスキャナでPDFファイルに変換する。その後、PCのブラウザソフトを起動して「飛ぶノート」(図 1.2.2)へアクセスし、PDFファイルをアップロードする。あとは飛ぶノートシステムがレポート上部のマークシートから学籍番号を読み取り、Maharaサーバの学生ごとのファイル保存領域へファイルを自動保存す

る。学生は各自で Mahara へアクセスし、教員から返却されたレポートを確認する（図 1.2.3）。

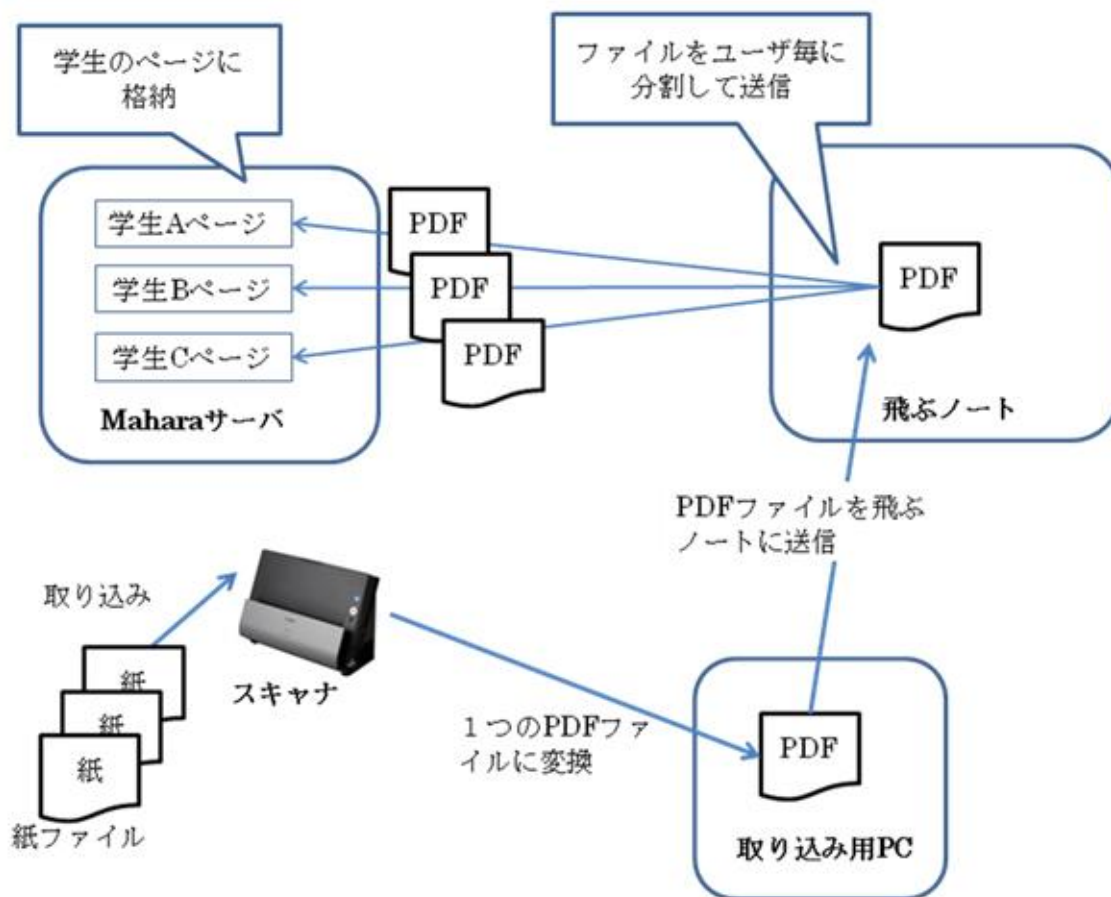


図 1.2.1 飛ぶノート-Mahara 連携図（飛ぶノート利用マニュアル<sup>(2)</sup> p.2）

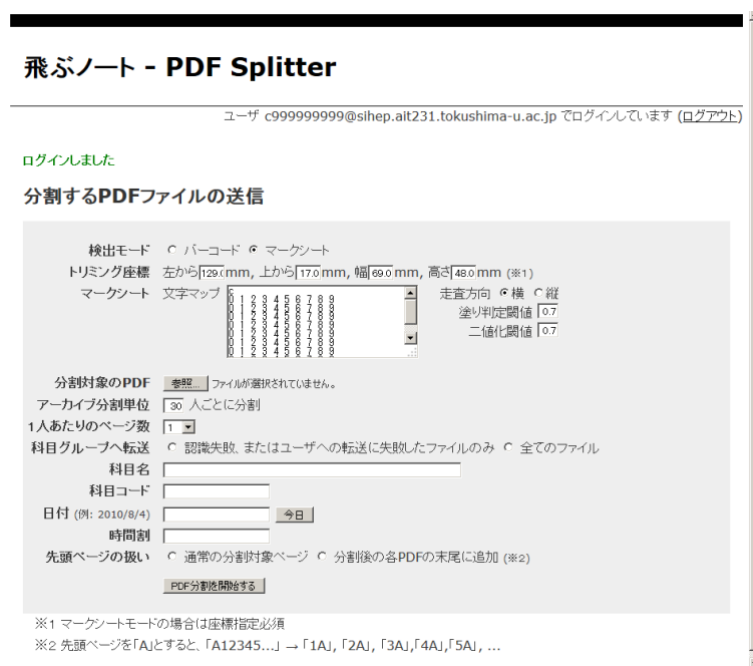


図 1.2.2 飛ぶノート PDF ファイルアップロード設定画面（飛ぶノート利用マニュアル<sup>(2)</sup> p.9）

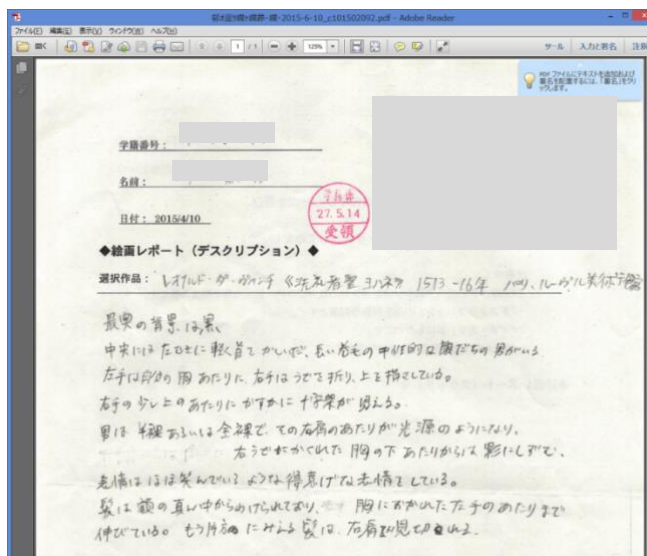


図 1.2.3 Mahara へアップロードされた手書きレポートの例

### 1.3 テンプレート

Mahara は、標準機能として蓄積した学習成果を整理し、振り返りや他者へ PR するページを作成することができる。しかし、振り返りの観点を指定したい場合などは、教員があらかじめ見本となるページを作成し、学生が見本をコピーして一部を書き換えるほうが効果的・効率的である。Mahara の標準機能でもページのコピーは可能であるが、その方法が複雑であるため、本学では「テンプレート機能」を追加した。テンプレート例を図 1.2.3 に示す。

一方で、これまでテンプレート機能は広く利用されてこなかった。これはテンプレート機能の仕様として、テンプレートを作成できるのは Mahara の管理者のみであったためだと推察される。そこで 2016 年度からは、Mahara の標準機能を用いて、簡便にコピー・共有する設定方法を推奨し、教員へ案内することとした。



The screenshot shows the Mahara user interface for a user named Akiko Takahashi. The page title is 'テンプレート' (Template). At the top, there is a navigation menu with 'ダッシュボード', 'コンテンツ', 'マイポートフォリオ', 'グループ', and '管理'. Below the menu, there are two columns of content. The left column is titled '本日の目標' (Today's Goals) and contains two items: '<授業で提示された目標>' and '<自分なりの目標>'. The right column is titled '本日の振り返り' (Today's Reflection) and contains three items: '<本日の達成度(何を学んだか、本日の目標と比較してどのぐらい出来たか)>', '<本日の努力度(どんな活動を行ったか、どのぐらい頑張ったか)>', and '<良かった点、改善点、次の目標など>'. At the top right of the page, there are buttons for 'テンプレートを編集する', 'テンプレートをコピーする', and '戻る'. The user's name and ID are displayed as '高橋 暁子 TAKAHASHI AKIKO | 102 | ログアウト'.

図 1.2.3 テンプレート例

## 2). 利用状況

### 2.1 全体

本稿執筆時点（2018年1月12日14:00）において、登録ユーザ数は4193人、グループ数は133である。表2.1.1および図2.1.1に示すとおり、毎年度、ユーザ数はほぼ倍増している。

表 2.1.1. 年度別ユーザ数

	2015年度 (2016年3月31日時点)	2016年度 (2017年3月31日時点)	2017年度 (2018年1月12日時点)
登録ユーザ数	2463人	4202人	8975人

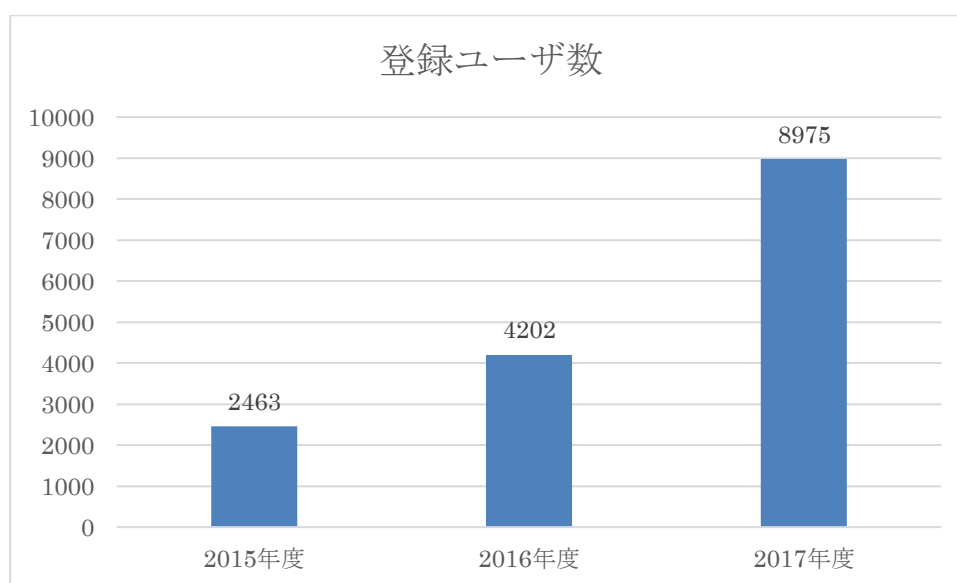


図 2.1.1. 年度別ユーザ数の推移

もっとも利用されているのはファイルのアップロード機能である。四半期ごとのファイル更新数を表2.1.2および図2.1.2に示す。2015年度の総計は3079、2016年度の総計が4942となり、前年を上回っている。また、2016年12月末時点の2017年度のファイル総数は5628となっており、前年度を上回ることが確定している。2015年度は後期の利用が落ち込んだが、2016年度および2017年度は後期になっても活発に利用されていることがわかった。

表 2.1.2. ファイル更新数

	2015年度	2016年度	2017年度
4-6月期	1019	1297	2423
7-9月期	1195	924	1707
10-12月期	709	1267	1498
1-3月期	156	1456	—
総計	3079	4942	5628

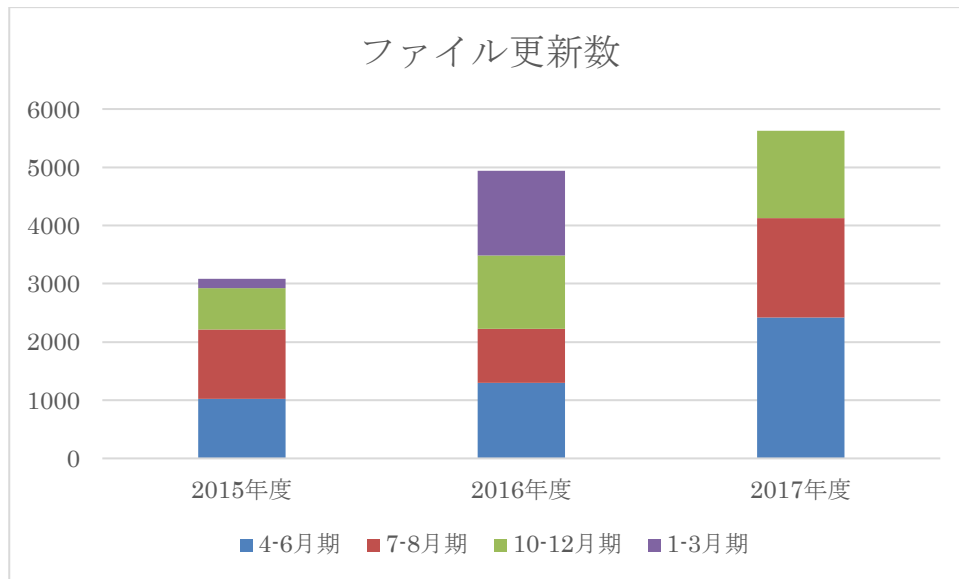


図 2.1.2. 年度別ファイル更新数

なお、アップロードされたファイルのうち、「飛ぶノート」を活用した手書きレポートについて、四半期ごとのファイル数を表 2.1.3.に示す。2015 年度は 2450 ファイル、2016 年度は 4224 ファイル、2017 年度は 3612 ファイルであった（管理者ユーザの利用を除く）。図 2.1.3 に示すようにアップロードされたファイルのうち、2015 年度は 80.0%、2016 年度は 85.3%、2017 年度は 64.2% が、飛ぶノートを利用してアップロードされた手書きレポートだと考えられる。2017 年度は飛ぶノートの割合が低下したことから、Mahara の標準機能を使った活動が増えていると推察される。

表 2.1.3. 飛ぶノートを利用したファイル更新数

	2015 年度	2016 年度	2017 年度
4-6 月期	902	1617	1420
7-9 月期	966	416	964
10-12 月期	517	943	1228
1-3 月期	65	1248	—
総計	2450	4224	3612



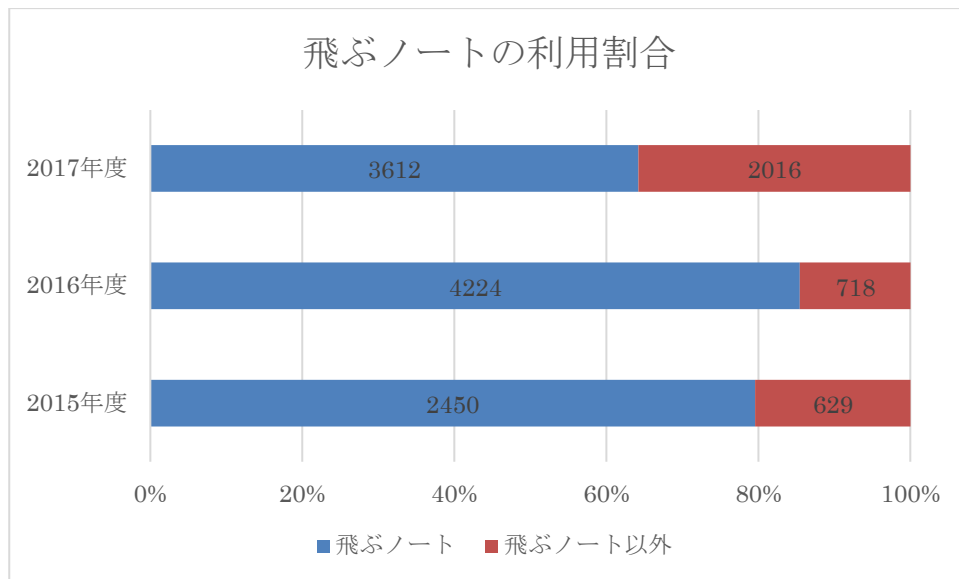


図 2.1.3.飛ぶノートと飛ぶノート以外のファイル更新割合

また、プロフィールページ（自己紹介ページ）やグループページ等を除いた、個人が独自に作成したページについて、四半期ごとのファイル更新数を表 2.1.4 および図 2.1.4 に示す。2016年度のページ更新数は総計 1195 であり、前年度の 3 倍に迫っている。一方で、2017 年度は 12 月末時点で比較しても 2016 年度よりやや少ない。

表 2.1.4. ページ更新数

	2015 年度	2016 年度	2017 年度
4-6 月期	130	827	725
7-9 月期	181	131	15
10-12 月期	112	178	100
1-3 月期	3	59	—
総計	426	1195	840

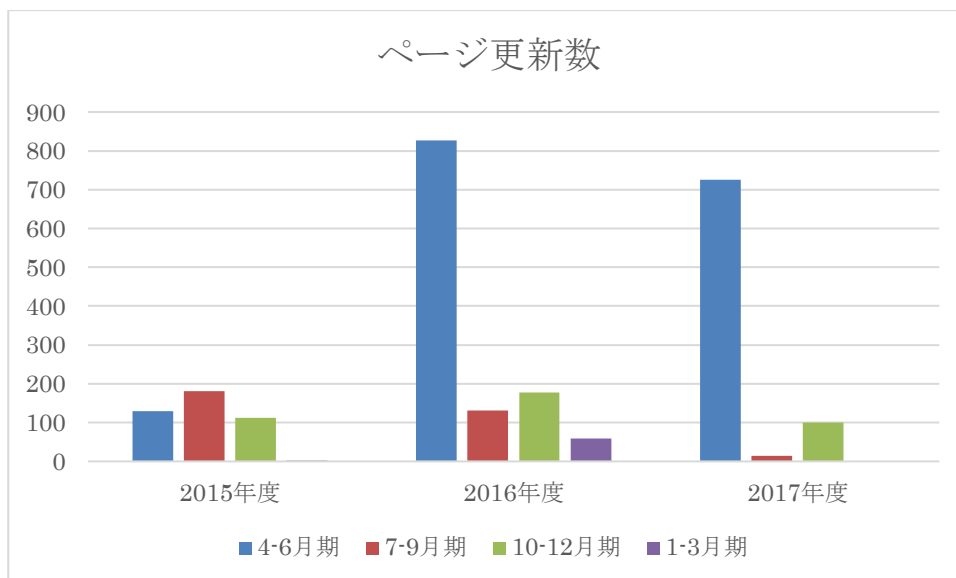


図 2.1.4. 年度別ページ更新数

さらに、Mahara では個人が作ったページなどを他者へ公開設定をすることで閲覧者からコメントをもらうことが可能となる。四半期ごとのコメント数を表 2.1.5 および図 2.1.5 に示す。2016 年度はコメント総数が 1635 であり、前年度より活発な意見交換がなされていた。2017 年度は 12 月末時点で 788 と、前年度より少ないことが伺える。とくに 7-9 月期は 0 件であった。

表 2.1.5. コメント数

	2015 年度	2016 年度	2017 年度
4-6 月期	16	446	422
7-9 月期	140	169	0
10-12 月期	242	531	366
1-3 月期	289	489	—
総計	687	1635	788

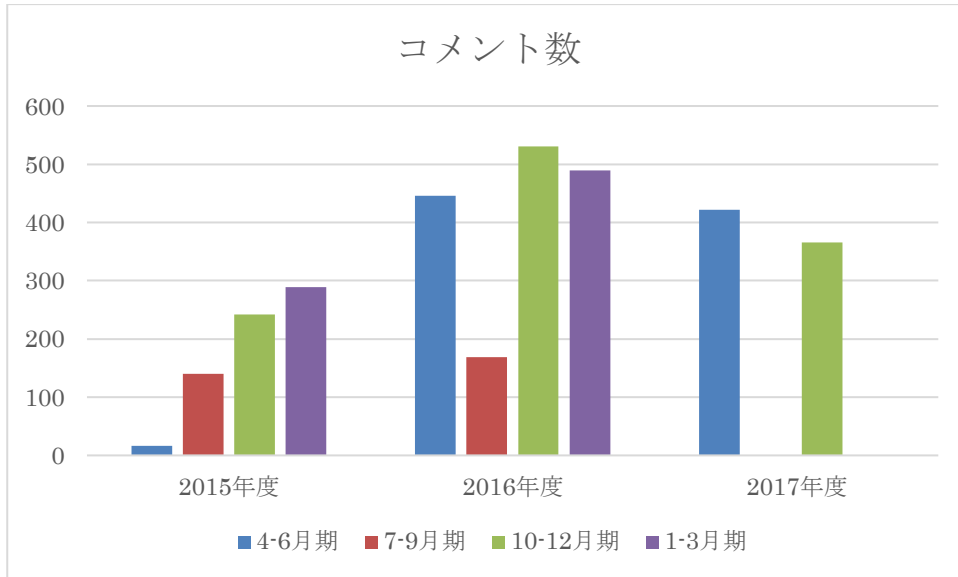


図 2.1.5. 年度別コメント更新数

## 2.2 学生による利用状況

学生による利用は、成果物のアップロードが主なものであった。Mahara とともに導入した「飛ぶノート」を用いた手書きレポート (図 1.2.3) や、PDF ファイル、PowerPoint ファイルなどが Mahara へアップロードされていた。

また、前年度に引き続き、SIH 道場の振り返りページを確認することができた。Mahara 上に教員が振り返りフォーマットを用意し (図 2.2.1)、学生が直接入力し、教員がコメントを返信する形での振り返り活動 (図 2.2.2) が行われたと思われる。

The screenshot shows a Mahara forum page for the group '2017生物資源産業学部SIH道場1班'. The main content is a forum post titled '1. 体験学習の振り返り' by 杉本 尚 (MATSUKI HITOSHI). The post includes a '本日の振り返り' (Today's Reflection) section with the following content:

**本日の振り返り**

<本日の達成度 (何を学んだか、本日の目標と比較してどのくらい出来たか) >

<本日の努力度 (どんな活動を行ったか、どのくらい頑張ったか) >

<良かった点、改善点、次の目標など>

Below the main post, there is a section titled 'このグループで共有されている他のメンバーのページ' (Other pages shared by members of this group). A red box highlights the link '体験学習の振り返り b', which is also pointed to by a red arrow from the main post's title.

図 2.2.1 振り返りレポートのフォーマット例



図 2.2.2 学生が作成した振り返りページの例

## 2.3 教員による利用状況

2017年度は、前年度に引き続き、SIH 道場担当教員を対象に、授業の振り返りを行うためのテンプレートを用意した（図 2.3.1）。教員は担当授業終了後、部局毎に用意したテンプレートをコピーして、記入のヒントなどを参考に授業を振り返るページを作成してもらうこととした。作成例を図 2.3.2 に示す。教員の振り返りレポートは、「2017SIH 道場担当教員」というグループ内で公開し、授業担当教員同士で閲覧可能とした。なお、2017年度は振り返りレポートの共有が自動的に行われるように設定した。

徳島大学 Tokushima University

高橋 暁子 TAKAHASHI AKIKO | 設定 | 102 | ログアウト

ユーザを検索する Go

ダッシュボード コンテンツ マイポートフォリオ グループ 管理

## テンプレート

テンプレートを編集する テンプレートをコピーする 戻る

★は必須、◆はオプションの入力項目です。赤字は補足説明ですので、適宜削除してください。

### 0. 授業概要

★授業名:  
◆担当教員数(複数で授業を担当している場合):  
★対象者(学部・学科・年次・人数):  
★授業概要:  
◆シラバス(PDFファイル等をアップロード):

### 1. 授業の方法

★授業の方法(毎回の授業で行ったこと、授業で特に工夫したこと、それ以外の等々を入力してください。添付のアクティブラーニングヒント集を参照し、アクティブラーニングを実践できた点も綴ってください。)

> 添付ファイル 1

### 2. 授業の評価

★授業の評価(どのような評価を行ったか、学生の学習成果の観点から効果があったと考えられることは何か、それ以外の等々を入力してください)

◆学生の成果物(エビデンスとして、代表的な学生の成果物などをアップロードしてください)

### 3. 授業の振り返り

★この授業を振り返って続けたいことと改善したいことを入力してください。  
※次年度担当しない場合は、担当する教員へのアドバイスを想定して記入して下さい。

続けたいこと:  
改善したいこと:

### 4. 今後のアクションプラン

★この授業の実践を踏まえた、自身の専門科目の授業や教育活動全体に関わるアクションプランを入力してください。

すぐに(1か月以内)に実施すること:  
今年度中(おおむね1年以内)に実施すること:  
3年以内に実施すること:

### 5. その他の参考資料

◆授業で使用した資料やワークシート等(何でもファイル等をアップロード)

図 2.3.1 教員用テンプレート

徳島大学 Tokushima University

高橋 暁子 TAKAHASHI AKIKO | 設定 | 109 | ログアウト

ユーザを検索する Go

ダッシュボード コンテンツ マイポートフォリオ グループ 管理

## 2001\_2017年度SIH道場振り返り (医学科)

by

### 0. 授業概要

★授業名: SIH道場~アクティブラーニング入門~  
◆担当教員数(複数で授業を担当している場合): 47名  
★対象者(学部・学科・年次・人数): 医学部・医学科・1年次・114名  
◆シラバス(PDFファイル等をアップロード): H29SIH道場 授業詳細 (医学科) 2017\_1004

> 添付ファイル 1

### 1. 授業の方法

導入授業では、SIH道場(シラバス)を用いて、協働力、プレゼン力、文章力、省察についてのガイダンスを行い、また、診療現場での態度・行動について説明し、その後の授業に活かせるように工夫した。

授業「医療プロフェッショナリズム」では、「プロフェッショナルと思う医師像」をテーマとしてグループワークを行い、各グループからの発表をもとに、ホワイトボードにまとめていくことにより、双方向性授業となるように努めた。

診療現場体験実習では、内科系と外科系で各1回づつ、診療現場を見学することで、医療の状況を実感できるように工夫し、見学後はリフレクションシートを記載することで、経験に対する省察を促すようにした。

「振り返りワークショップ」では、診療現場体験において学んだことや感じたことをもとに、「医師に必要な資質・能力」についてKJ法を用いてグループでまとめ、全員が3分間でプレゼンテーションを行うことで、全員参加の双方向性授業となるように工夫した。さらに、終了後に「早期臨床体験実習で学んだことや医学科における学習に関する目標」について、A4用紙1枚(約1000文字)にまとめて提出することで、文章力の向上と省察を促した。

「チーム医療入門」では、国際医療教育を推進している国際センターの内務教授のご講演後、「なぜ国際医療員を目指すのか」をテーマに、医療系の複数の学部学科混合グループでのグループワークと発表を行うことで、学習意欲の向上、協働力、プレゼン力の向上に努めた。さらに終了後にレポート提出を行うことで文章力の向上に努めた。

### 2. 授業の評価

【学生の評価・フィードバック方法】  
1) 診療現場体験における基本的ルールについてマークシート方式の試

### 3. 授業の振り返り

続けたいこと:  
診療現場体験実習の継続、医療プロフェッショナリズムやチーム医療をテーマとしたグループワーク

改善したいこと:  
診療現場体験を学外の地域医療機関においても実施したい。文章力や省察力についての教育の強化とその評価の改善をはかりたい。

### 4. 今後のアクションプラン

すぐに(1か月以内)に実施すること:  
KJ法を本来の方法にそって実施する準備を進める。

今年度中(おおむね1年以内)に実施すること:  
文章力や省察力の教育について、指導や評価方法の資料を集める

3年以内に実施すること:  
診療現場体験実習を学外の地域医療機関で実施する

### 5. その他の参考資料

> 添付ファイル 2

医学科1年次早期臨床体験実習準備学習「医療プロフェッショナリズム」2017\_0502.pptx (6.2M) - ダウンロード  
早期臨床体験実習振り返りWS2017\_0526.pptx (421.1K) - ダウンロード

図 2.3.2 教員の振り返りレポート例

## 2.4 その他の利用

Mahara には SIH 道場以外にも、授業のページがいくつか作成されていた (図 2.4.1)。2.1 で示したように、SIH 道場実施期間以外にも Mahara の利用が活発になっており、様々な教育場面で Mahara が活用されつつあると考えられる。



The screenshot shows a Mahara course page for '2017年度 情報メディアと教育'. The page is titled 'レジメー覧' (Lesson List) and includes a navigation menu with 'ダッシュボード', 'コンテンツ', 'マイポートフォリオ', 'グループ', and '管理'. Below the menu, there is a section for '2017年度 情報メディアと教育' with a 'このページを編集する' button. The main content area is divided into several sections: 'はじめに' (Introduction), '2017年度テーマ一覧' (2017 Academic Year Theme List), 'コメント' (Comments), and '注意事項' (Notes). The 'はじめに' section explains the purpose of the group and provides instructions for submitting assignments. The '2017年度テーマ一覧' section lists four themes with their respective submission deadlines and descriptions. The 'コメント' section allows users to leave comments on the assignments. The '注意事項' section provides additional instructions for users.

図 2.4.1 授業ページ例 (情報メディアと教育)

## 3). まとめと今後の課題

2017年度においては、Mahara 登録ユーザ数は8千名を超え、ファイル更新数が前年度を上回っていることが確認できた。また、前年度まではファイルの約8割が飛ぶノートを利用した手書きレポートだと推察されたが、2017年度は飛ぶノートの利用が6割程度に下がっていた。このことから、Mahara の標準機能を用いて電子ファイルをアップロードしている活動が増えていると考えられる。電子データの蓄積という面では、eポートフォリオシステム本来の使い方をするユーザが増えているのではないだろうか。

一方で、Mahara は蓄積したデータを整理し、自身の学びを振り返り、他者とコミュニケーションをとることでより効果的な学びにつながるシステムである。しかし2017年度の現時点のページ更新数やコメント数は、前年度を下回る数となっている。単にファイルを蓄積しておくストレージシステムにならないよう、Mahara を用いた振り返り活動の事例の紹介や、ICT が苦手な教職員に対する個別相談会の実施などによって、より効果的な利用を推進したい。

## 参考文献

- (1) Mahara, <https://mahara.org/>
- (2) 飛ぶノート利用マニュアル 3.0 版 (2015) ,  
<https://moo2.chi.tokushima-u.ac.jp/course/view.php?id=227> (教職員限定ページで公開)

